

都道府県の推薦について (全体版)

都道府県提出資料

北海道

北海道第二次医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
南渡島	2,670.63	381,620	7.1	142.90	36		2		2					0	
南檜山*	1,423.38	23,769	0.4	16.70	5		0		0					0	
北渡島檜山*	2,473.77	37,279	0.7	15.07	7		0		0					0	
札幌	3,540.15	2,375,449	44.1	671.00	235		8		8					0	
後志*	4,305.88	215,522	4.0	50.05	22		0		0					1	
南空知*	2,562.25	166,691	3.1	65.06	19		0		0					1	
中空知*	2,162.07	108,970	2.0	50.40	17		1		1					0	
北空知*	1,067.29	32,675	0.6	30.61	5		0		0					0	
西胆振	1,356.70	189,696	3.5	139.82	21		1		1					0	
東胆振*	2,340.34	212,059	3.9	90.61	16		1		1					0	
日高*	4,811.13	69,015	1.3	14.34	7		0		0					0	
上川中部	4,238.10	394,270	7.3	93.03	41		3		3					0	
上川北部*	4,197.18	66,591	1.2	15.87	8		0		0					0	
富良野*	2,183.41	42,597	0.8	19.51	5		0		0					0	
留萌*	3,445.88	47,912	0.9	13.90	7		0		0					0	
宗谷*	4,626.07	67,503	1.3	14.59	9		0		0					0	
北網*	5,542.27	222,696	4.1	40.18	26		1		1					0	
遠紋*	5,148.26	70,846	1.3	13.76	12		0		0					0	
十勝	10,831.62	343,436	6.4	31.71	34		1		1					0	
釧路*	5,997.07	236,516	4.4	39.44	22		2		2					0	
根室*	3,497.31	76,621	1.4	21.91	7		0		0					0	
計	78,420.76	5,381,733	100.0	68.63	561	0	20	0	20	0	0	0	0	2	0

医療圏名の*は「医師・歯科医師・薬剤師調査」に基づく当該2次医療圏の医師数(病院の従事者)の過去3回の平均値がおおむね300人を下回る2次医療圏

北海道 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料2

★:都道府県拠点

- ③北海道がんセンター★ (平成28年4月1日)
- ④札幌医科大学附属病院 (平成28年4月1日)
- ⑤北海道大学病院 (平成27年4月1日)
- ⑥市立札幌病院 (平成27年4月1日)
- ⑦手稲溪仁会病院 (平成27年4月1日)
- ⑧札幌厚生病院 (平成27年4月1日)
- ⑨KKR札幌医療センター (平成27年4月1日)
- ⑩恵佑会札幌病院 (平成27年4月1日)
- ⑪砂川市立病院 (平成27年4月1日)
- ⑫日鋼記念病院 (平成27年4月1日)
- ⑬王子総合病院 (平成27年4月1日)
- 以下、地域がん診療病院
- ③小樽市立病院 (平成29年4月1日)
- ③北海道中央労災病院 (平成29年4月1日)

道北

- ⑭旭川医科大学病院 (平成27年4月1日)
- ⑮旭川厚生病院 (平成27年4月1日)
- ⑯市立旭川病院 (平成27年4月1日)

上川北部、富良野、留萌、宗谷の各医療圏のがん患者は、⑭⑮⑯の3病院が連携してカバー。

遠紋医療圏のがん患者は、北網医療圏の⑰の病院でカバー。

オホーツク

- ⑰北見赤十字病院 (平成27年4月1日)

根室医療圏のがん患者は、釧路医療圏の⑲⑳の2病院が連携してカバー。

釧路・根室

- ⑲市立釧路総合病院 (平成27年4月1日)
- ⑳釧路労災病院 (平成27年4月1日)

十勝

- ⑱帯広厚生病院 (平成27年4月1日)

道央

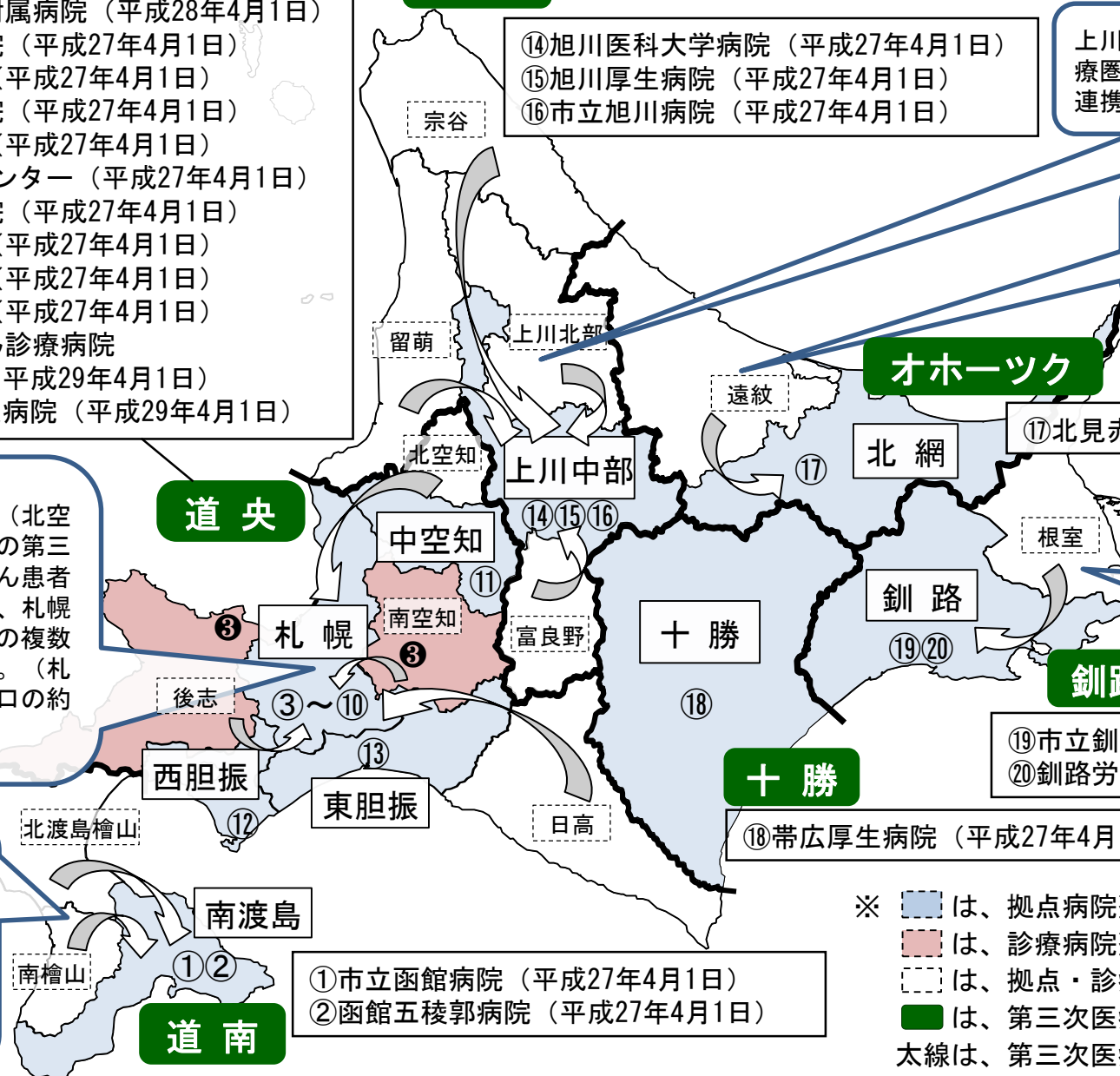
道央の空白医療圏（北空知、日高）及び他の第三次医療圏からのがん患者をカバーするため、札幌医療圏に、③～⑩の複数の拠点病院を整備。（札幌医療圏は道内人口の約45%を占める）

南檜山及び北渡島檜山医療圏のがん患者は、南渡島医療圏の①②の2病院が連携してカバー。

道南

- ①市立函館病院 (平成27年4月1日)
- ②函館五稜郭病院 (平成27年4月1日)

- ※ は、拠点病院整備医療圏
- は、診療病院整備医療圏
- は、拠点・診療病院空白の医療圏。
- は、第三次医療圏名。
- 太線は、第三次医療圏の境界。



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
①	南渡島		更新	市立函館病院	(3,316) 3,401	(29.1) 27.7	1,088	(560) 638	(1,392) 1,368	(407) 391	103	24	1,265
②	南渡島		更新	函館五稜郭病院	(4,762) 4,678	(35.9) 35.7	1,760	(1,582) 1,471	(4,075) 1,454	(394) 501	299	28	2,208
③	札幌	★	更新	北海道がんセンター	(5,414) 6,003	(82.4) 83.5	1,877	(1,549) 1,060	(7,391) 5,103	(1,151) 957	513	9	8,582
④	札幌		更新	札幌医科大学附属病院	(5,707) 6,267	(32.5) 34.3	2,509	(711) 1,055	(2,554) 3,738	(795) 839	365	8	1,345
⑤	札幌		更新	北海道大学病院	(5,907) 5,868	(34.6) 33.8	2,122	(1,341) 1,287	(1,199) 1,697	(1,258) 929	218	8	1,539
⑥	札幌		更新	市立札幌病院	(3,207) 3,036	(19.6) 18.2	1,440	(1,341) 1,226	(2,431) 1,931	(501) 542	287	5	550
⑦	札幌		更新	手稲溪仁会病院	(4,308) 4,676	(23.9) 24.0	2,130	(1,056) 1,450	(1,973) 2,040	(361) 372	168	6	834
⑧	札幌		更新	札幌厚生病院	(3,909) 4,031	(34.8) 35.0	1,372	(1,018) 2,184	(5,209) 4,584	(327) 240	202	6	1,365
⑨	札幌		更新	KKR札幌医療センター	(1,972) 1,953	(17.8) 17.1	1,017	(429) 657	(3,772) 3,484	(493) 444	333	3	1,001
⑩	札幌		更新	恵佑会札幌病院	(3,963) 4,148	(62.9) 64.1	1,804	(793) 1,574	(3,950) 4,098	(603) 631	142	2	1,370

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
⑪	中空知		更新	砂川市立病院	(1,477) 1,358	(15.9) 14.3	691	(331) 272	(1,819) 2,284	(159) 136	158	57	1,027
⑫	西胆振		更新	日鋼記念病院	(1,766) 1,700	(23.3) 23.3	464	(373) 364	(432) 368	(207) 108	114	28	1,270
⑬	東胆振		更新	王子総合病院	(2,867) 3,009	(28.3) 29.9	1,050	(919) 1,159	(5,817) 1,398	(311) 300	40	50	353
⑭	上川中部		更新	旭川医科大学病院	(3,731) 3,892	(26.8) 26.8	1,964	(1,860) 2,010	(7,596) 1,357	(436) 457	812	36	1,681
⑮	上川中部		更新	旭川厚生病院	(3,227) 3,238	(27.5) 27.4	1,457	(926) 749	(1,222) 1,575	(369) 396	333	30	3,134
⑯	上川中部		更新	市立旭川病院	(1,840) 1,838	(26.1) 24.7	872	(896) 1,511	(1,669) 2,800	(364) 251	72	28	1,063
⑰	北網		更新	北見赤十字病院	(3,006) 3,250	(24.4) 25.8	1,596	(615) 724	(3,575) 1,713	(558) 405	77	62	726
⑱	十勝		更新	帯広厚生病院	(2,241) 2,304	(14.8) 15.0	1,774	(1,035) 1,316	(1,607) 1,297	(397) 431	116	32	1,211
⑲	釧路		更新	市立釧路総合病院	(3,039) 2,786	(24.1) 21.9	1,315	(706) 751	(3,112) 3,516	(358) 340	52	41	543
⑳	釧路		更新	釧路労災病院	(3,492) 2,821	(41.0) 32.6	1,092	(608) 682	(7,971) 5,434	(291) 332	57	39	1,653 6

地域がん診療病院の診療実績等

・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間)	手術件数 悪性腫瘍手術 総数 (年間)	がんに係る 薬物療法 のべ患者数 (年間)	放射線治療 (実施していれば) のべ患者数 (年間)	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間)	がん相談支援 センター 相談件数 (年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
③	後志	更新	小樽市立病院	(1,277) 1,324	(18.4) 16.8	696	(392) 440	(220) 414	(186) 213	51	272
③	南空知	更新	北海道中央労災病院	(597) 449	(19.0) 15.2	126	(95) 90	(510) 428	実施なし	16	207

北海道 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4

★:都道府県拠点

- ③北海道がんセンター★ (平成28年4月1日)
- ④札幌医科大学附属病院 (平成28年4月1日)
- ⑤北海道大学病院 (平成27年4月1日)
- ⑥市立札幌病院 (平成27年4月1日)
- ⑦手稲溪仁会病院 (平成27年4月1日)
- ⑧札幌厚生病院 (平成27年4月1日)
- ⑨KKR札幌医療センター (平成27年4月1日)
- ⑩恵佑会札幌病院 (平成27年4月1日)
- ⑪砂川市立病院 (平成27年4月1日)
- ⑫日鋼記念病院 (平成27年4月1日)
- ⑬王子総合病院 (平成27年4月1日)
- 以下、地域がん診療病院
- ③小樽市立病院 (平成29年4月1日)
- ③北海道中央労災病院 (平成29年4月1日)

道北

- ⑭旭川医科大学病院 (平成27年4月1日)
- ⑮旭川厚生病院 (平成27年4月1日)
- ⑯市立旭川病院 (平成27年4月1日)

上川北部、富良野、留萌、宗谷の各医療圏のがん患者は、⑭⑮⑯の3病院が連携してカバー。

遠紋医療圏のがん患者は、北網医療圏の⑰の病院でカバー。

オホーツク

- ⑰北見赤十字病院 (平成27年4月1日)

根室医療圏のがん患者は、釧路医療圏の⑲⑳の2病院が連携してカバー。

釧路・根室

- ⑲市立釧路総合病院 (平成27年4月1日)
- ⑳釧路労災病院 (平成27年4月1日)

十勝

- ⑱帯広厚生病院 (平成27年4月1日)

道央

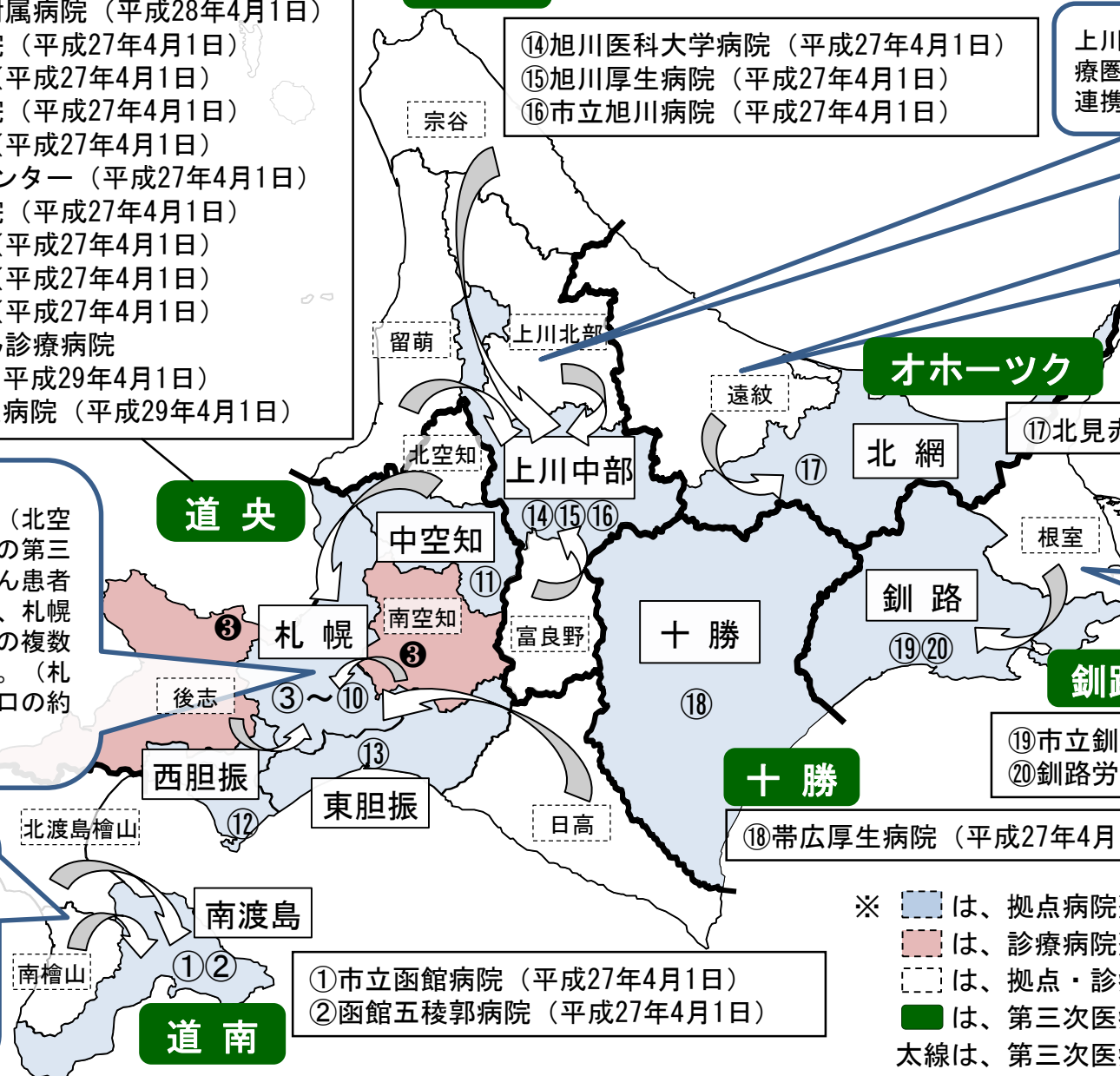
道央の空白医療圏（北空知、日高）及び他の第三次医療圏からのがん患者をカバーするため、札幌医療圏に、③～⑩の複数の拠点病院を整備。（札幌医療圏は道内人口の約45%を占める）

南檜山及び北渡島檜山医療圏のがん患者は、南渡島医療圏の①②の2病院が連携してカバー。

道南

- ①市立函館病院 (平成27年4月1日)
- ②函館五稜郭病院 (平成27年4月1日)

- ※ は、拠点病院整備医療圏
- は、診療病院整備医療圏
- は、拠点・診療病院空白の医療圏。
- は、第三次医療圏名。
- 太線は、第三次医療圏の境界。



北海道におけるがん診療連携拠点病院等の整備の考え方

1 基本的な考え方

区 分	内 容
北海道医療計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第二次医療圏ごとの整備を目指し、当面整備が困難な医療圏については、地域がん診療病院や道が独自の要件により指定する北海道がん診療連携指定病院の整備を進める。 ・ 未整備圏域については、がん診療連携拠点病院が地域の中核的な医療機関等と連携を図る。
北海道がん対策推進条例	<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的ながん医療を提供する医療機関を整備し、及び当該医療機関を中核とした地域における診療の連携協力体制を整備する。
北海道がん対策推進計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ がん診療連携拠点病院は、拠点病院等の未整備圏域の中核的な医療機関等と連携を図り、必要とされる医療機能をカバーし、道内のがん医療の連携体制の維持・向上に努める。

2 平成31年度に向けた推薦の考え方

- 道が策定した計画等の考え方に沿って、第二次医療圏21のうち14医療圏に所在する拠点病院等が、第三次医療圏を基本に未整備圏域をカバーする体制を維持・強化。
- 国の整備指針に定める指定要件を満たすことに加えて、拠点病院の未整備圏域への支援や連携による貢献度などのほか、第二次・第三次医療圏におけるがん医療の拠点として専門的な医療の提供や医療機関との連携状況などを評価。

青 森 県

青森県 がんの医療圏の概要

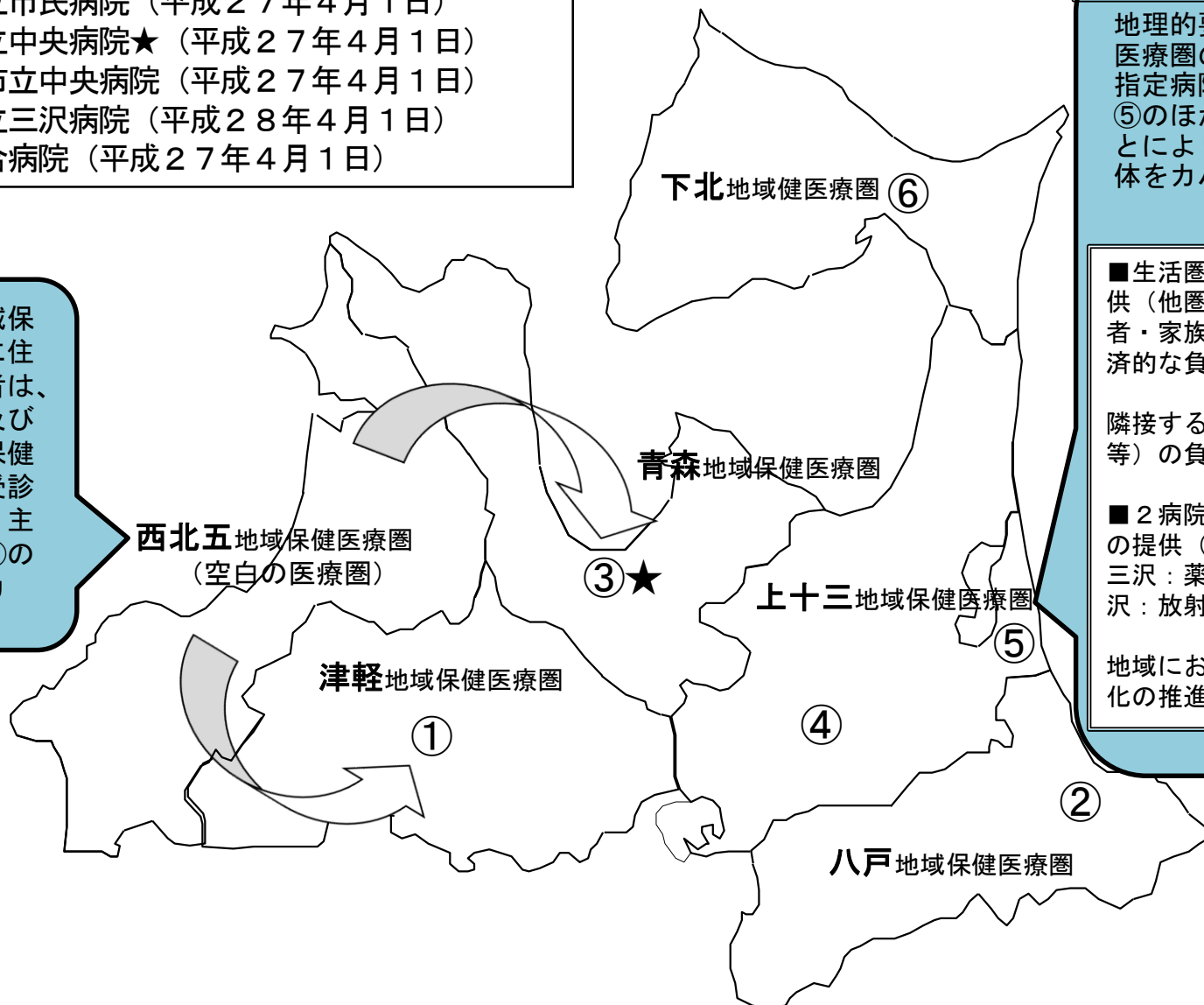
平成30年9月1日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
津軽 地域保健医療圏	1,597.73	269,126	21.3	168.4	22	0	1	1	0	0	0	0
八戸 地域保健医療圏	1,346.66	314,125	24.8	233.3	27	0	1	1	0	0	0	0
青森 地域保健医療圏	1,477.54	302,838	23.9	205.0	23	0	1	1	0	0	0	0
西北五 地域保健医療圏	1,753.00	137,877	10.9	78.7	8	0	0	0	0	0	0	0
上十三 地域保健医療圏	2,054.93	171,099	13.5	83.3	13	0	2	2	0	0	0	0
下北 地域保健医療圏	1,414.88	70,626	5.6	49.9	4	0	1	1	0	0	0	0
計	9,644.74	1,265,691	100	131.2	97	0	6	6	0	0	0	0

青森県 平成30年9月1日現在の指定状況と指定状況

- ①弘前大学医学部附属病院（平成27年4月1日）
 ②八戸市立市民病院（平成27年4月1日）
 ③青森県立中央病院★（平成27年4月1日）
 ④十和田市立中央病院（平成27年4月1日）
 ⑤三沢市立三沢病院（平成28年4月1日）
 ⑥むつ総合病院（平成27年4月1日）

西北五地域保健医療圏に住むがん患者は、津軽地域及び青森地域保健医療圏へ受診するため、主に①及び③の両病院でカバーする。



H22年度申請時の説明
【複数指定の理由】

地理的要因（面積※が二次医療圏の中で最大）及び既指定病院の規模等を考慮し、⑤のほか、④を指定することにより、2病院で圏域全体をカバーすることが適当

■生活圏域レベルでの医療の提供（他圏域で受診していた患者・家族の身体的・精神的・経済的な負担軽減）

隣接する二次医療圏（拠点病院等）の負担軽減

■2病院の特色を生かした医療の提供（例：十和田：緩和ケア、三沢：薬物療法、十和田・三沢：放射線治療など）

地域におけるがん医療の均てん化の推進

※参考(面積)

青森県	9,644.74km ²
上十三	2,054.93km ²
東京都	2,103.97km ²

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 津軽		更新	弘前大学附属病院	(3,555) 3,639	(30.3) 30.0	(2,290) 1,975	(1,254) 750	(5,330) 6,325	(550) 553	112	28	437
2 八戸		更新	八戸市立市民病院	(2,036) 2,129	(14.8) 15.8	(1,393) 1,337	(733) 791	(980) 1,509	(303) 315	7	30	1,059
3 青森	★	更新	青森県立中央病院	(5,090) 1,241	(33.5) 20.2	(2,551) 2,185	(1,500) 1,443	(2,830) 3,156	(649) 601	356	21	2,573
4 上十三		更新	十和田市立中央病院	(1,213) 1,180	(19.7) 17.8	(470) 502	(333) 332	(459) 485	(114) 151	121	33	732
5 上十三		更新	三沢市立三沢病院	(929) 908	(23.6) 22.9	(421) 419	(196) 305	(1,306) 350	(98) 101	47	25	98
6 下北		更新	むつ総合病院	(1,271) 1,351	(19.8) 20.7	(619) 584	(301) 359	(561) 1,598	(151) 211	61	80	188

青森県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

- ①弘前大学医学部附属病院（更新）
- ②八戸市立市民病院（更新）
- ③青森県立中央病院★（更新）
- ④十和田市立中央病院（更新）
- ⑤三沢市立三沢病院（更新）
- ⑥むつ総合病院（更新）

【複数推薦の理由】

地理的要因（面積※が二次医療圏の中で最大）及び既指定病院の規模等を考慮し、④及び⑤を指定することにより、2病院で圏域全体をカバーすることが適当

■生活圏域レベルでの医療の提供（自圏域で受診できることによる患者・家族の身体的・精神的・経済的な負担軽減）

患者の流出を抑えることによる隣接する二次医療圏（拠点病院等）の負担軽減

■2病院の特色を生かした医療の提供（例：十和田：緩和ケア、放射線治療（トモセラピー）、三沢：薬物療法、検査（PET-CT）など）

地域におけるがん医療の均てん化の推進

西北五地域保健医療圏に住むがん患者は、津軽地域及び青森地域保健医療圏へ受診するため、主に①及び③の両病院でカバーする。



西北五地域保健医療圏
(空白の医療圏)

津軽地域保健医療圏

青森地域保健医療圏

上十三地域保健医療圏

下北地域保健医療圏

八戸地域保健医療圏

※参考(面積)

青森県	9,644.74km ²
上十三	2,054.93km ²
東京都	2,103.97km ²

青森県 がん医療連携体制に関する考え方

青森県の現状

～平均寿命及びがんの年齢調整死亡率ともに全国最下位～

- 青森県の平均寿命
男女とも全国最下位となっている。（平成27年都道府県別生命表）
- がんによる死亡状況
がんは昭和57年以降、死因の第1位となり、死亡原因の約3割を占めている。
- がんの年齢調整死亡率
年齢調整死亡率が最も高く、男女とも全国最下位で推移している。

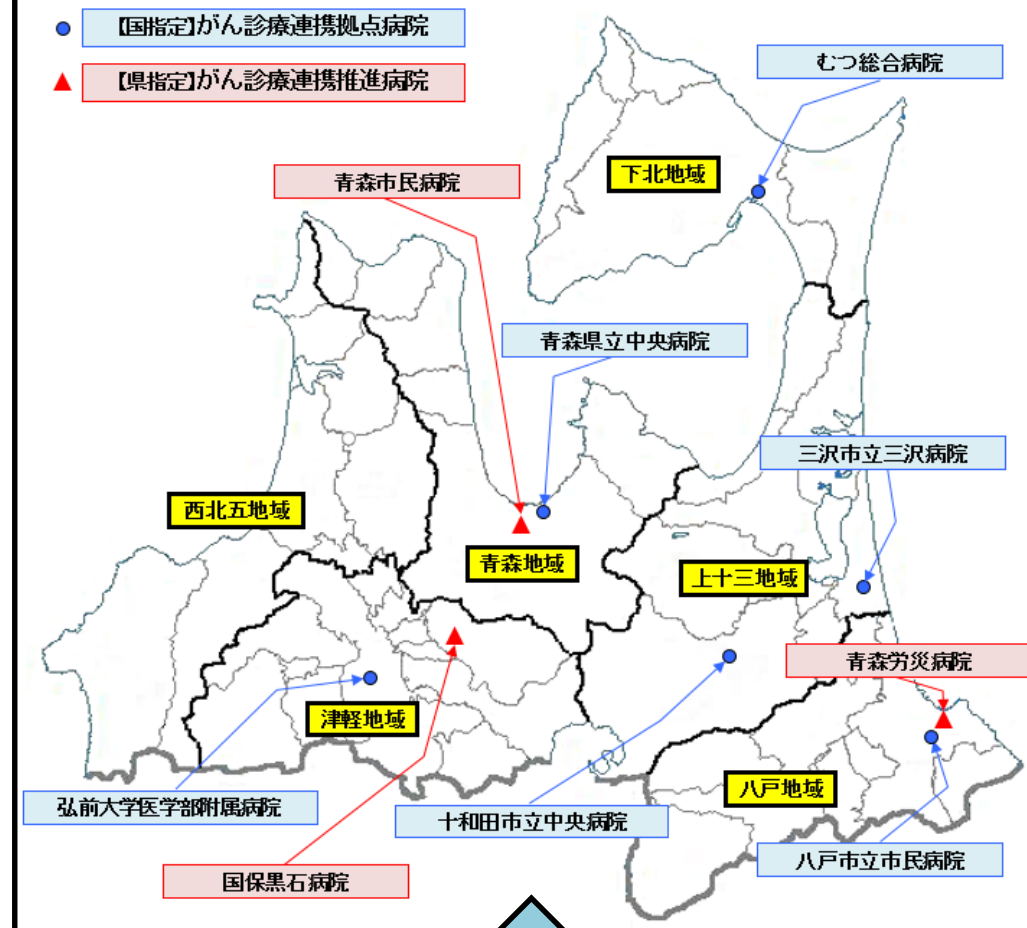
～健康で長生きな青森県の実現に向けて～

- ヘルスリテラシー（健やか力）の向上とライフステージに応じた生活習慣の改善
- 戦略的ながん対策の推進
- がん医療の充実とがんになっても安心して暮らせる環境づくり

■第三期青森県がん対策推進計画

- ・科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- ・患者本位のがん医療の実現
- ・尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築

青森県のがん医療連携体制



県がん対策推進計画では、本県のがん医療体制や地域連携については、都道府県がん診療連携拠点病院を中核として、地域がん診療連携拠点病院と、拠点病院に準じる機能を有する病院として県が指定するがん診療連携推進病院、その他の医療機関による機能分担と連携により構築されるものと位置付けられている。

青森県 指定更新に関する考え方

まとめ

青森県では、平成20年度から青森県がん診療連携協議会において、県内統一の地域連携クリティカルパスを整備・運用するとともに、院内がん登録データの分析・評価、集計結果の報告が行われるなど、限られた医療資源の中で、都道府県がん診療連携拠点病院を中心としたがん医療提供体制の構築や地域連携が着実に進んでいることから、現在の連携体制等の維持が強く望まれる。

補足事項

○上十三圏域のがん医療について

本県の他の圏域と異なり、2病院（三沢市立三沢病院、十和田市立中央病院）はどちらも規模的に小さくなく、単独では圏域全体をカバーしきれない規模であり、現実として2病院で当該圏域のがん診療をカバーしている。これによって、隣接する八戸圏域及び青森圏域の拠点病院の負担が軽減されている状況にある。

住民から見れば、集学的治療はどちらでも受けられるほか、十和田は在宅医療及び緩和ケア、三沢は薬物療法と特異な機能がすみ分けられており、がん治療のニーズに沿って選択が可能となっている。

県としても、当該圏域においては、2病院でのがん医療の提供が必要と考えていることから、2病院に対しては取組の強化を働きかけていく。

○空白の医療圏（西北五地域保健医療圏）について

当圏域では、6市町において自治体病院機能再編成マスタープランを策定し、自治体病院を再編した経緯があり、今般、当圏域の中核病院であった西北中央病院を母体とした「つがる総合病院」が開院（平成26年4月1日）したところである。

当病院においては、地域がん診療病院の指定要件を充足し、指定が受けられるよう取り組む意向を示している。

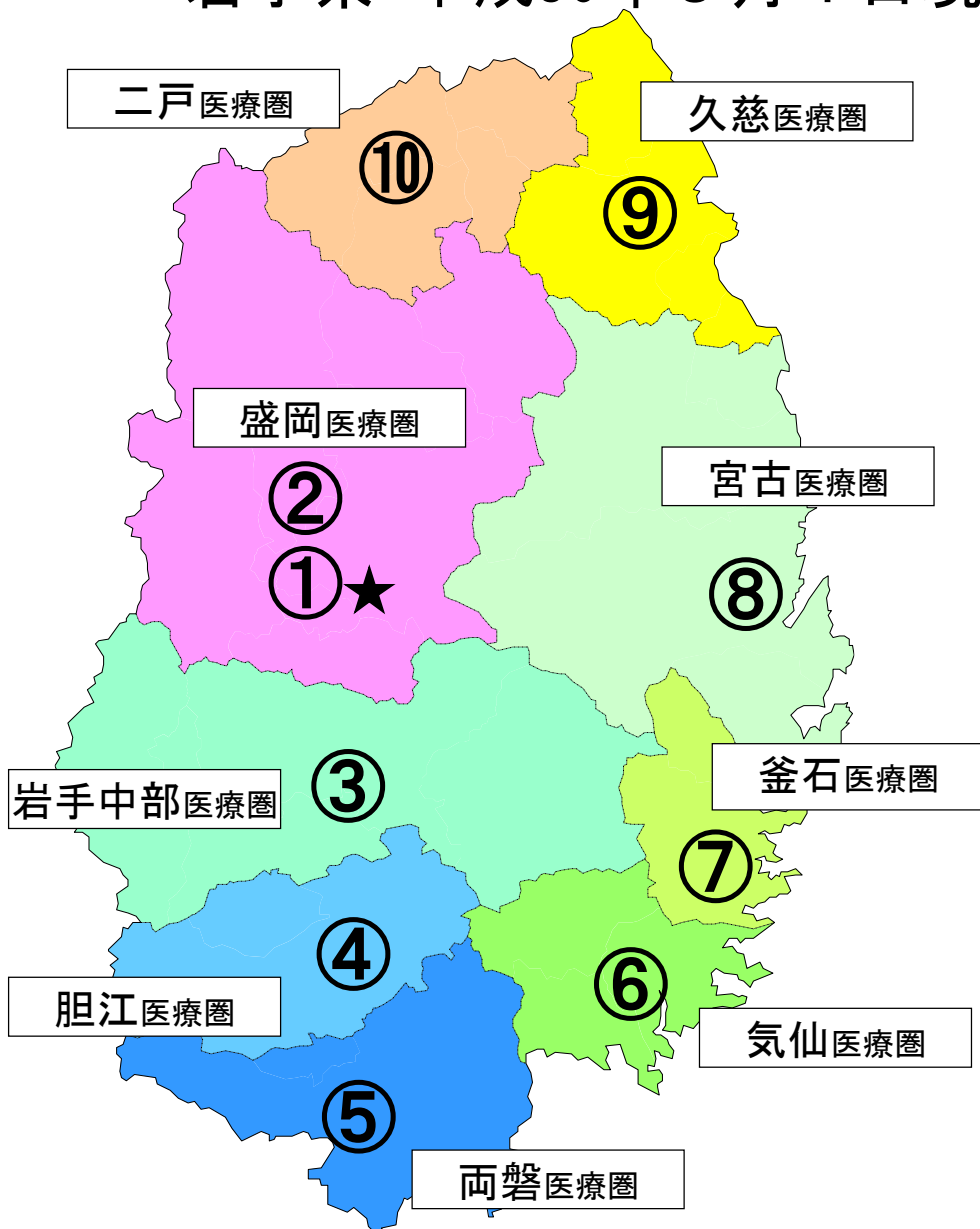
岩 手 県

岩手県がんの医療圏の概要

平成30年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密 度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
盛岡保健医療圏	3,641.90	469,767	37.8%	129.0	39		2		2						
岩手中部保健医療圏	2,762.27	219,330	17.7%	79.4	13		1		1						
胆江保健医療圏	1,173.12	131,088	10.6%	111.7	9		1		1						
両磐保健医療圏	1,319.64	124,125	10.0%	94.1	10		1		1						
気仙保健医療圏	890.35	60,444	4.9%	67.9	3		1		1						
釜石保健医療圏	641.89	46,314	3.7%	72.2	6		1		1						
宮古保健医療圏	2,672.42	81,307	6.5%	30.4	6		1		1						
久慈保健医療圏	1,076.83	56,399	4.5%	52.4	4		1		1						
二戸保健医療圏	1,100.21	52,592	4.2%	47.8	3		1		1						
計	15,278.63	1,241,366	100.0%	81.2	93	0	10	0	10	0	0	0	0	0	0

岩手県 平成30年 9月 1日現在の医療圏の状況と指定状況



★: 都道府県拠点

- ①岩手医科大学附属病院★（平成27年 4月 1日）
- ②岩手県立中央病院（平成27年 4月 1日）
- ③岩手県立中部病院（平成27年 4月 1日）
- ④岩手県立胆沢病院（平成27年 4月 1日）
- ⑤岩手県立磐井病院（平成27年 4月 1日）
- ⑥岩手県立大船渡病院（平成27年 4月 1日）
- ⑦岩手県立釜石病院（平成26年 8月 6日）
- ⑧岩手県立宮古病院（平成27年 4月 1日）
- ⑨岩手県立久慈病院（平成27年 4月 1日）
- ⑩岩手県立二戸病院（平成27年 4月 1日）

盛岡医療圏におけるがん診療連携拠点病院の役割

【岩手医科大学附属病院】

- 腫瘍センターを設置し、高度ながん医療を提供
- がん医療を担う専門的人材の養成
- 各地域拠点病院との緊密な連携

【県立中央病院】

- 盛岡医療圏のがん患者への標準的治療実施
- 県立病院（20病院・6診療所）のセンター病院

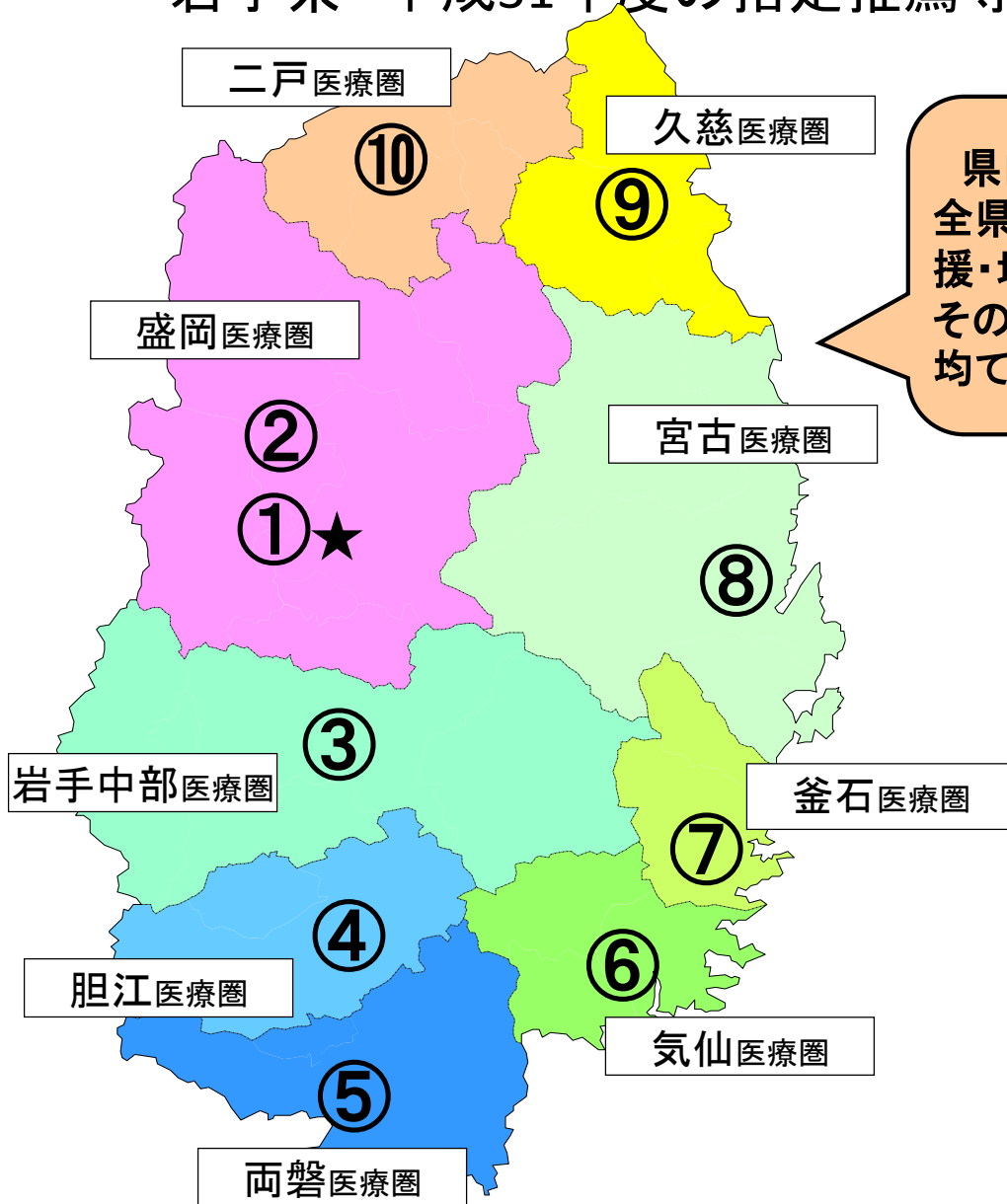
がん診療連携拠点病院

★: 都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新 入院がん 患者数	年間新入 院患者数に 占めるがん 患者の割 合(%)							
1 盛岡	★	更新	岩手医科大学 附属病院	(5,663) 5,655	(25.4) 24.8	3,208	(1,242) 1,894	(1,918) 2,797	(942) 767	351	20	904
2 盛岡		更新	県立中央病院	(3,954) 3,576	(24.1) 22.4	1,713	(1,311) 1,442	(1,864) 2,026	(633) 529	128	20	2,845
3 岩手中部		更新	県立中部病院	(2,552) 2,667	(22.9) 22.9	1,137	(632) 963	(1,714) 1,348	(335) 489	326	66	4,085
4 胆江		更新	県立胆沢病院	(1,963) 1,784	(24.8) 21.6	889	(531) 571	(510) 890	(218) 156	72	59	534
5 両磐		更新	県立磐井病院	(1,233) 1,432	(15.6) 18.4	588	(453) 530	(2,343) 534	(589) 201	64	54	769
6 気仙		更新	県立大船渡病院	(891) 817	(14.1) 13.7	523	(339) 316	(762) 650	(2,233) 98	119	64	1,254
7 釜石		更新	県立釜石病院	(578) 694	(14.4) 18.0	265	(133) 194	(601) 164	(2,344) 75	16	54	332
8 宮古		更新	県立宮古病院	(791) 725	(14.1) 13.3	510	(172) 194	(1,530) 990	(100) 109	68	59	116
9 久慈		更新	県立久慈病院	(560) 582	(11.7) 12.3	363	(164) 220	(1,365) 1,445	(476) 47	42	48	229
10 二戸		更新	県立二戸病院	(574) 536	(12.2) 12.2	333	(143) 168	(152) 350	(72) 65	56	40	229

岩手県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点



県内10箇所のがん診療連携拠点病院が、全県及び各圏域におけるがん診療・相談支援・地域連携の中心的役割を引き続き担い、その機能を強化しながら本県のがん医療の均てん化を図るもの。

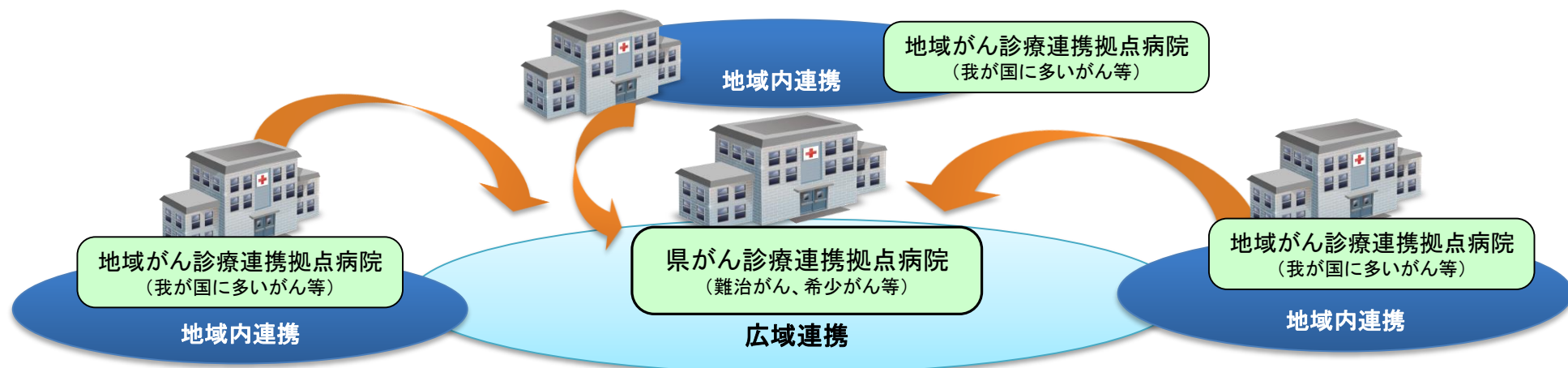
- ①岩手医科大学附属病院★（更新）
- ②県立中央病院（更新）
- ③県立中部病院（更新）
- ④県立胆沢病院（更新）
- ⑤県立磐井病院（更新）
- ⑥県立大船渡病院（更新）
- ⑦県立釜石病院（更新）
- ⑧県立宮古病院（更新）
- ⑨県立久慈病院（更新）
- ⑩県立二戸病院（更新）

指定推薦等に係る岩手県の考え方

■ 基本的考え方

- がん医療の水準を向上、標準的治療の普及によるがん医療の均てん化を図るため、「第3次岩手県がん対策推進計画」に基づき、引き続き、県拠点に加えて、県内全てのがん医療圏(9圏域)で、国が指定する「がん診療連携拠点病院」体制を確保

※ 各医療圏は、最小(釜石)でも東京23区、最大(盛岡)でも奈良県に匹敵する面積を有し、地勢的に峠や山地で隔てられた地域が多い。



- 医療従事者の確保・育成の有効活用を図りながら、チーム医療等による標準的な治療の提供、手術・薬物・放射線療法等を組み合わせた集学的治療の質の向上、盛岡圏域と県北・沿岸部等との医療機関のネットワーク連携による医療提供体制の確保、相談支援等の一層の機能強化による患者・家族の療養生活の質の向上を推進

宮城県

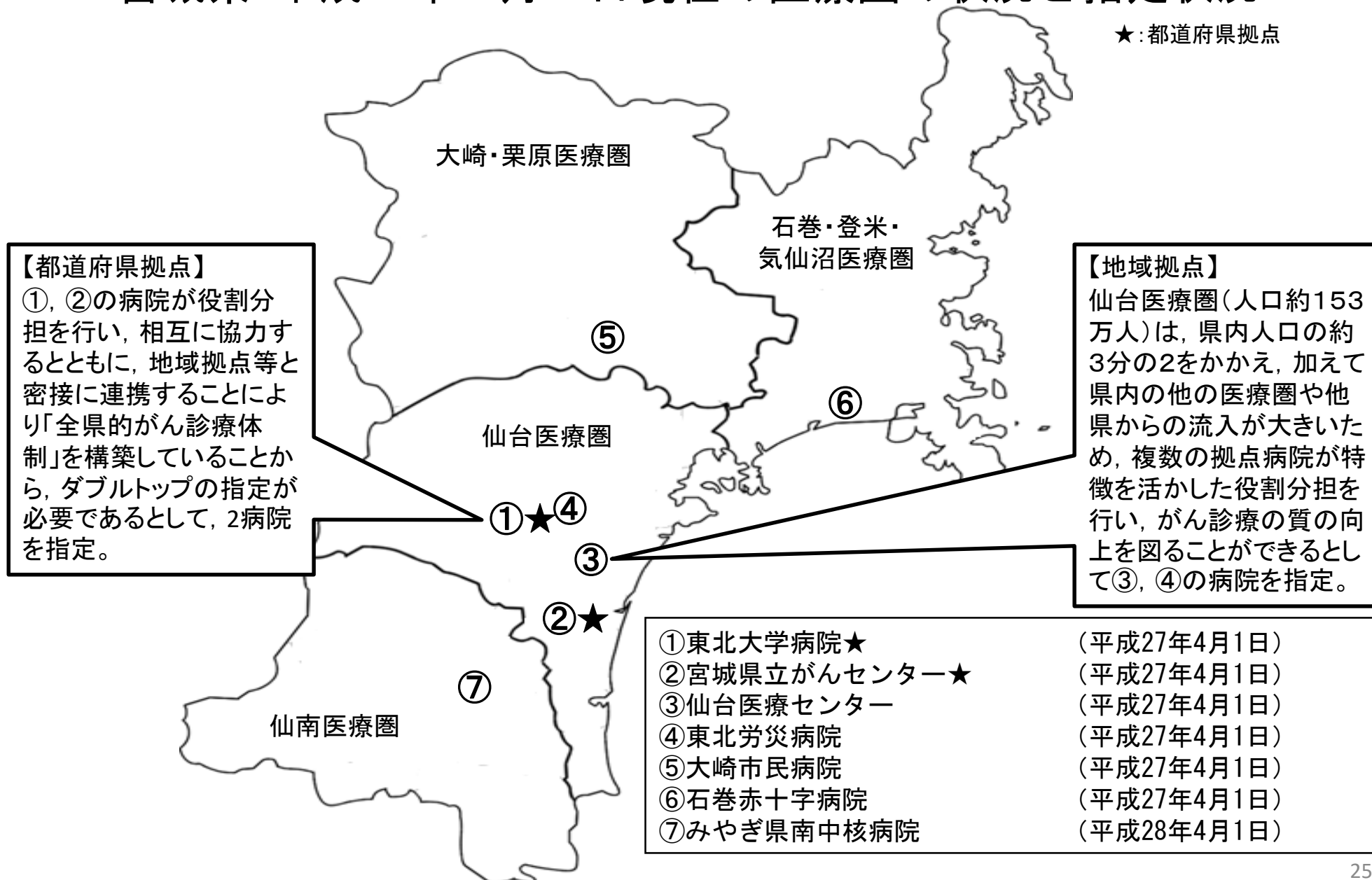
宮城県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口 (人)	人口 割合 (%)	人口 密度 (人/km ²)	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携 拠点病院			地域がん診療病院		
						現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数
仙南医療圏	1,551.40	171,957	7.4%	110.8	13	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
仙台医療圏	1,648.80	1,533,582	66.3%	930.1	78	0	4	0	4	0	0	0	0	0	0
大崎・栗原 医療圏	2,328.77	267,008	11.5%	114.7	26	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
石巻・登米・ 気仙沼医療圏	1,753.25	341,345	14.8%	194.7	22	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
計	7,282.22	2,313,892	100%	317.7	139	0	5	1	6	0	0	0	0	0	1

宮城県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

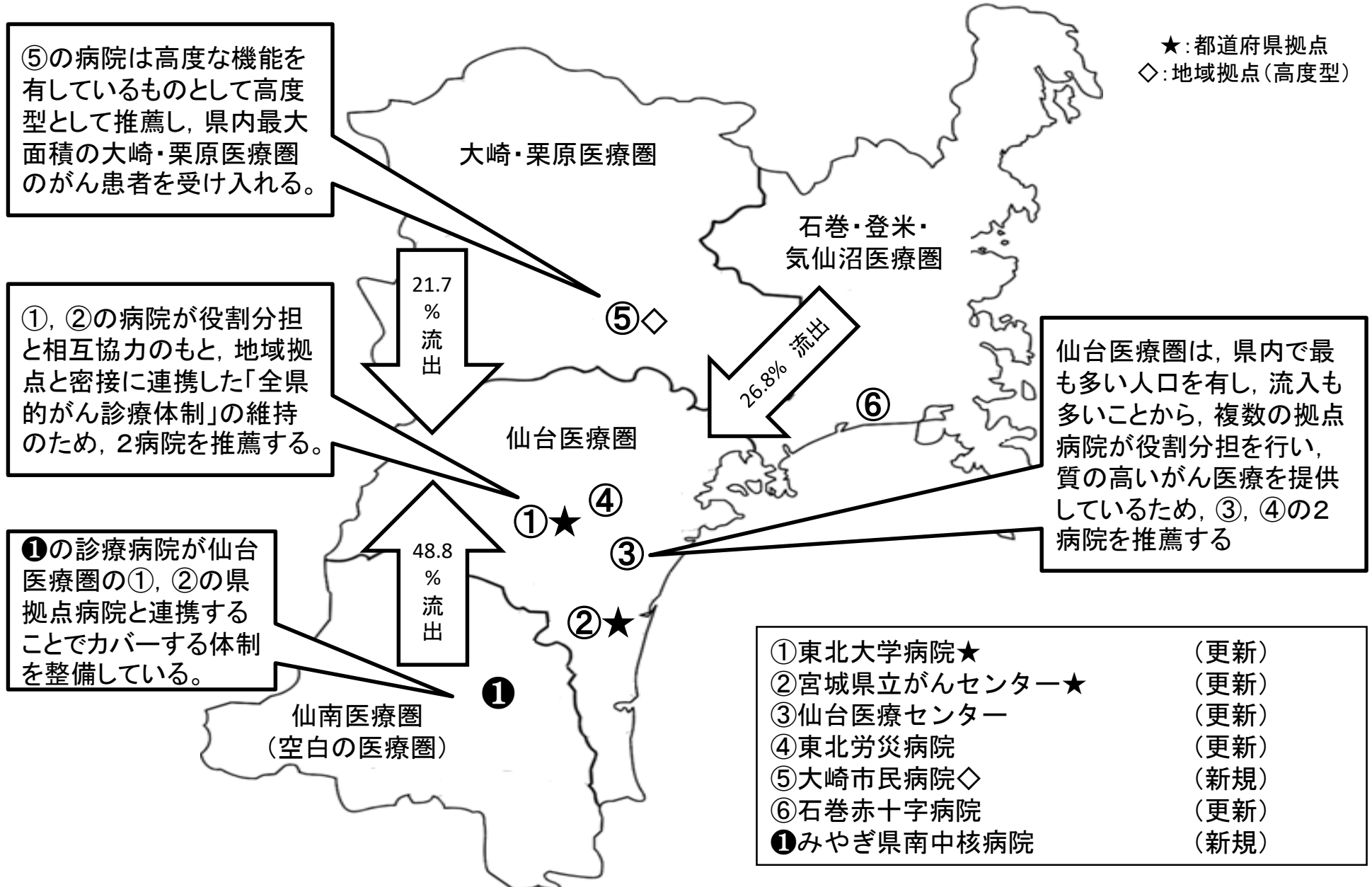
No.	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	仙台	★	更新	東北大学病院	(6,410) 6,919	(29.5) 30.9	3,533	(2,140) 2,279	(3,989) 4,273	(1,008) 1,044	241	17	2,341
2	仙台	★	更新	宮城県立がんセンター	(5,180) 5,291	(89.2) 90.0	1,907	(1,124) 1,230	(1,718) 1,842	(720) 693	213	11	2,226
3	仙台		更新	仙台医療センター	(3,182) 3,271	(22.1) 22.6	1,550	(1,010) 1,106	(1,766) 1,891	(671) 431	231	7	3,496
4	仙台		更新	東北労災病院	(2,395) 2,343	(21.2) 20.3	1,150	(797) 710	(706) 1,044	(112) 275	228	8	1,610
5	大崎栗原	◇	新規	大崎市民病院	(3,276) 3,881	(23.8) 27.7	1,630	(895) 1,185	(1,762) 2,368	(527) 556	61	65	497
6	石巻登米気仙沼		更新	石巻赤十字病院	(2,337) 2,459	(18.5) 18.7	1,553	(1,138) 1,132	(1,278) 1,868	(200) 351	71	32	342

地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合 (%)						
①	仙南	新規	みやぎ県南中核病院	(785) 767	(10.6) 10.7	798	463	(528) 726	(110) 113	133	1,637

宮城県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



宮城県の指定に係る考え方

(1) 都道府県がん診療連携拠点病院の整備方針について

東北大学病院及び宮城県立がんセンターがそれぞれの機能や特徴を活かした役割分担を行い、相互に協力するとともに、県内の地域がん診療連携拠点病院と密接に連携することにより、「全県のがん診療体制」を維持していく。

分野	東北大学病院	宮城県立がんセンター
放射線治療分野	◇県内及び東北地方における放射線治療の標準化と体制の整備, 治療医配置	
薬物療法分野	◇県内医療機関における薬物療法の標準化, 均てん化の主導 ◇県内及び東北地方における腫瘍内科医配置, ネットワーク化の主導	
緩和ケア分野	◇県内全域での緩和ケア医療レベルの均てん化, 協力体制の構築への取組 ◇緩和ケアに関する研修等の実施支援	
患者相談支援・情報提供	◇患者向けサイト「がん情報みやぎ」の運営(平成25年7月から)	◇県内のがん診療に関する情報収集 ◇県内及び東北地方における患者相談支援, 情報提供分野のネットワーク化
がん登録		◇地域がん登録の統括 ◇県内医療機関へのがん登録に関する指導, 普及啓発
口腔ケア	◇医科歯科連携ツールの整備への協力	◇医科歯科連携ツールの整備推進 ◇研修の実施及び実施支援
地域連携・ネットワーク	◇大学間ネットワークを利用した広域的な連携(東北がんネットワーク・化学療法専門委員会)	◇全がん協施設ネットワークを利用した広域的な連携
人材育成・教育	◇大学病院の教育機能を活かした人材育成・教育の実施	

宮城県の指定に係る考え方

(2) 地域がん診療連携拠点病院の整備方針について

【仙台医療圏】

県内人口の約3分の2をかかえる、最大の2次医療圏であり、県内の他の医療圏や他県からの流入が大きいことから、既指定の2病院を推薦し、がん診療の質の向上及び連携協力体制の整備を図る。

【石巻・登米・気仙沼医療圏】

既指定の病院が沿岸被災地における医療機関復興の要となっていることから、引き続き推薦し、がん診療機能をさらに強化する。

【大崎・栗原医療圏】

既指定の病院は、県北部のがん医療の中心的役割を担い、質の高いがん医療を提供しており、高度型に推薦し、県北部のがん診療機能を強化する。

(3) 地域がん診療病院の整備方針について

仙南医療圏は、他の医療圏に48.8%のがん入院患者が流出していることから、がん診療病院を整備し、県拠点病院との連携により、医療圏のがん診療機能の強化を図る。

秋 田 県

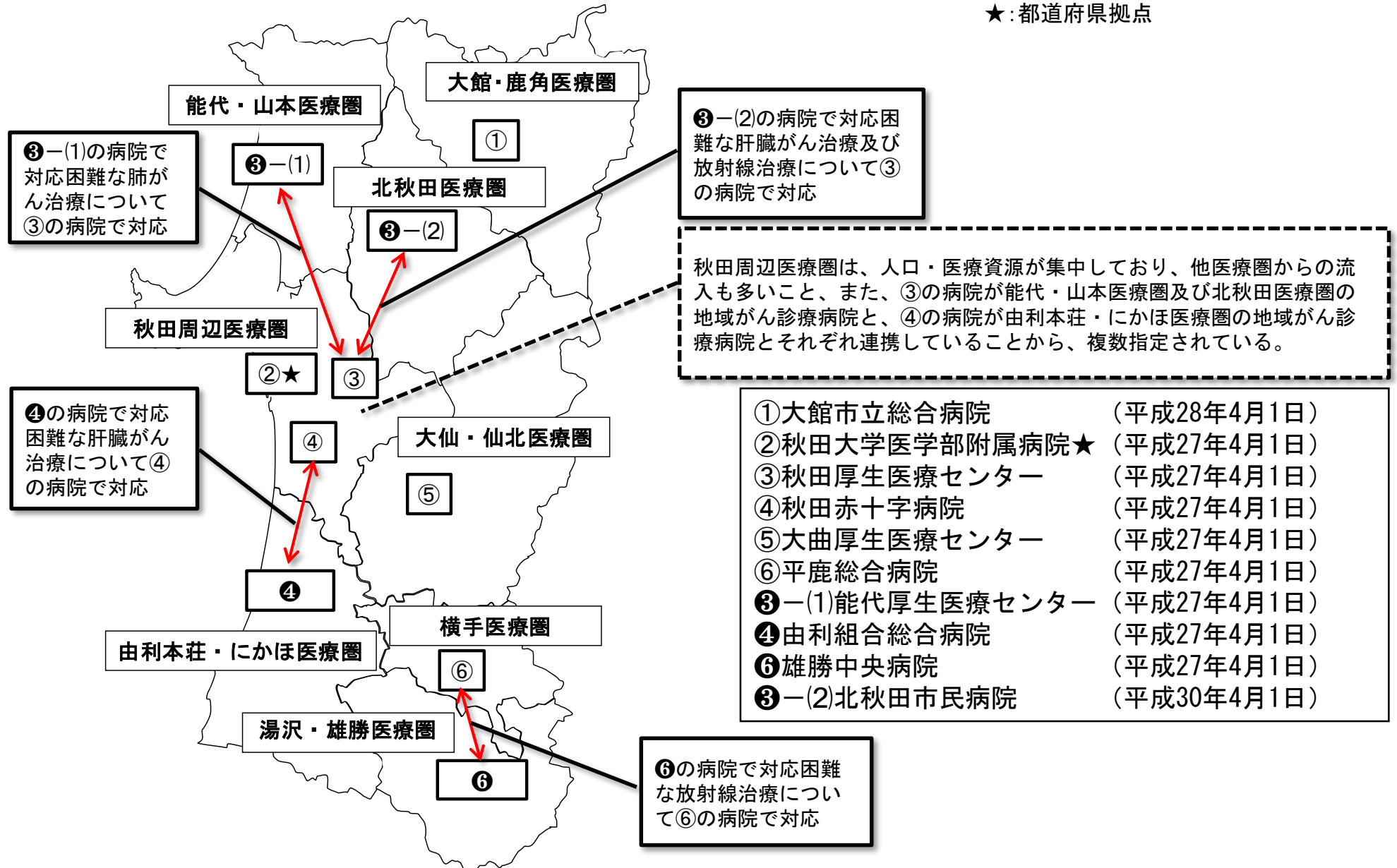
秋田県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
大館・鹿角	1845.96	106,539	10.9	57.7	10	0	1	0	1	0	0	0	0
北秋田	1409.39	33,497	3.4	23.8	2	0	0	0	0	0	1	0	1
能代・山本	1190.88	77,857	7.9	65.4	7	0	0	0	0	0	1	0	1
秋田周辺	1693.69	389,752	39.7	230.1	27	0	3	0	3	0	0	0	0
由利本荘・にかほ	1449.65	100,642	10.3	69.4	8	0	0	0	0	0	1	0	1
大仙・仙北	2128.12	124,559	12.7	58.5	8	0	1	0	1	0	0	0	0
横手	693.59	88,050	9.0	126.9	4	0	1	0	1	0	0	0	0
湯沢・雄勝	1225.04	60,823	6.2	49.6	3	0	0	0	0	0	1	0	1
計	11636.32	981,719	100.0	84.4	69	0	6	0	6	0	4	0	4

秋田県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...とってください)

No.	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	大館・鹿角		更新	大館市立総合病院	(1430) 1542	(21.1) 21.5	804	(440) 471	(1311) 4354	(160) 171	34	58	4520
2	秋田周辺	★	更新	秋田大学病院	(5404) 4232	(47.7) 36.3	1955	(1929) 1592	(1489) 3859	(653) 605	156	24	3633
3	秋田周辺		更新	秋田厚生医療センター	(2281) 2115	(23.7) 22.3	982	(508) 513	(723) 1277	(129) 173	120	19	710
4	秋田周辺		更新	秋田赤十字病院	(3767) 3625	(35.9) 34.7	1023	(888) 680	(1374) 1831	(333) 236	142	25	482
5	大仙・仙北		更新	大曲厚生医療センター	(2940) 2887	(34.7) 33.6	800	(548) 535	(1555) 1401	(160) 177	222	75	380
6	横手		更新	平鹿総合病院	(1556) 1332	(18.6) 15.6	846	(595) 560	(629) 1259	(192) 191	97	35	126

地域がん診療病院の診療実績等

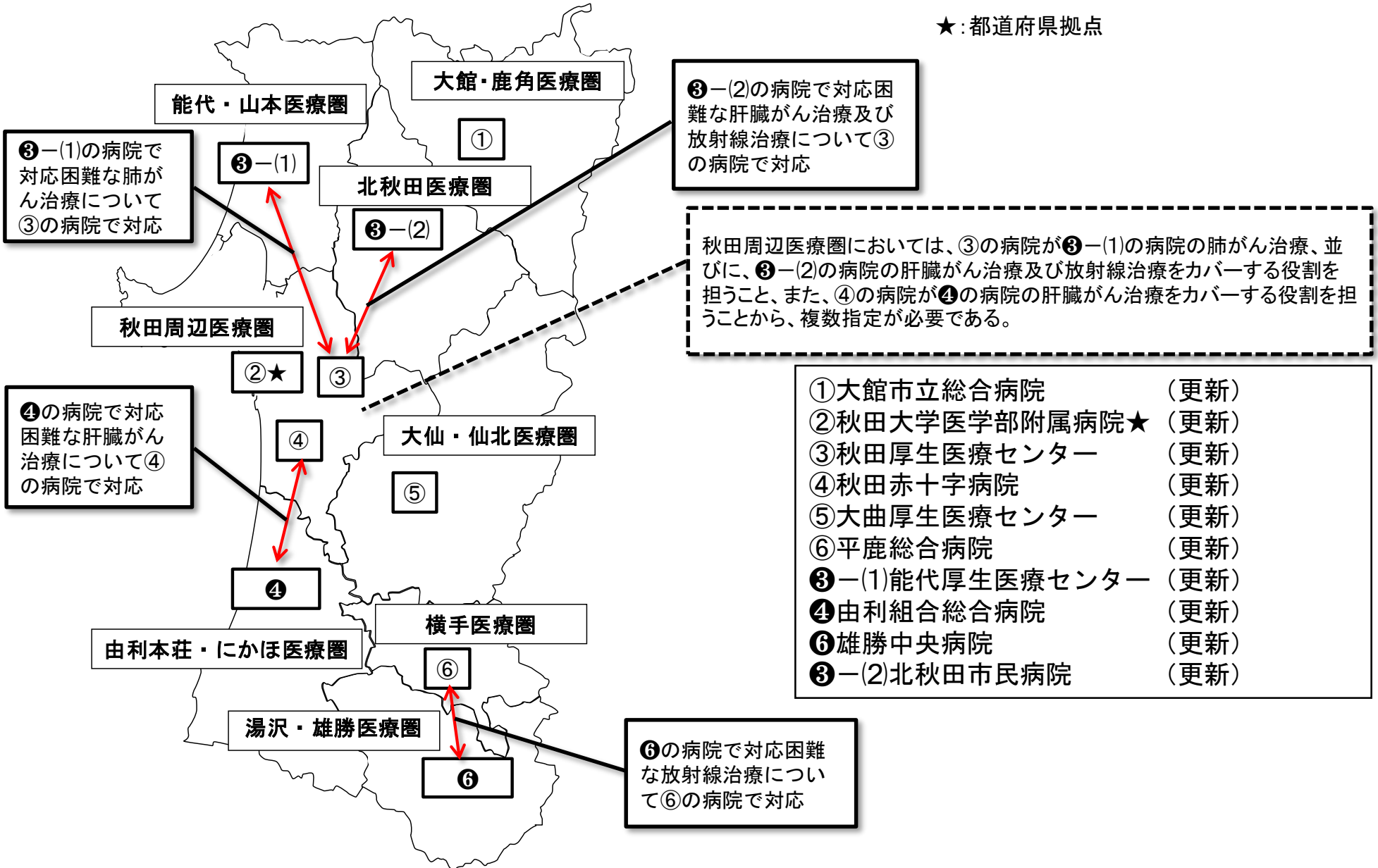
資料 3 - 2

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
③-1	能代・山本	更新	能代厚生医療センター	(1137) 1150	(16.8) 17.3	598	(298) 288	(412) 2528	(130) 141	83	158
④	由利本荘・にかほ	更新	由利組合総合病院	(1418) 1350	(16.2) 16.0	590	(348) 320	(320) 149	(149) 113	47	1867
⑥	湯沢・雄勝	更新	雄勝中央病院	(379) 396	(9.8) 9.6	334	(156) 158	(120) 192	実施なし	21	187
③-2	北秋田	更新	北秋田市民病院	(414) 420	(15.2) 15.3	147	(72) 81	(246) 257	実施なし	44	66

秋田県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点



秋田県のがん診療体制に関する考え方

【現状】

医療圏数：8

都道府県がん診療連携拠点病院：1 地域がん診療連携拠点病院：5 地域がん診療病院：4

1. 県内のがん診療連携体制について

- 秋田大学医学部附属病院を引き続き都道府県がん診療連携拠点病院として位置づけ、高度ながん医療を提供するとともに、県内のがん診療連携拠点病院等の連携の中心として均てん化を推進。
- 秋田周辺医療圏については、秋田厚生医療センターと秋田赤十字病院の2病院が、隣接する医療圏の地域がん診療病院と引き続きグループ指定による連携体制を構築するため、地域的に役割を分担。
- 地域がん診療病院については、引き続き同じ地域がん診療連携拠点病院とグループ指定を受けることにより、診療病院が提供できない部分について、連携して対応する体制を維持する。

2. 指定により期待される効果

- 拠点病院を中心とした集学的治療や標準的治療の提供体制の強化
- がんの種類や病態等に応じた適切な医療や緩和ケアの提供、相談支援の実施
- 各医療圏内の医療機関と連携したがんに係る地域医療の充実及び質の向上

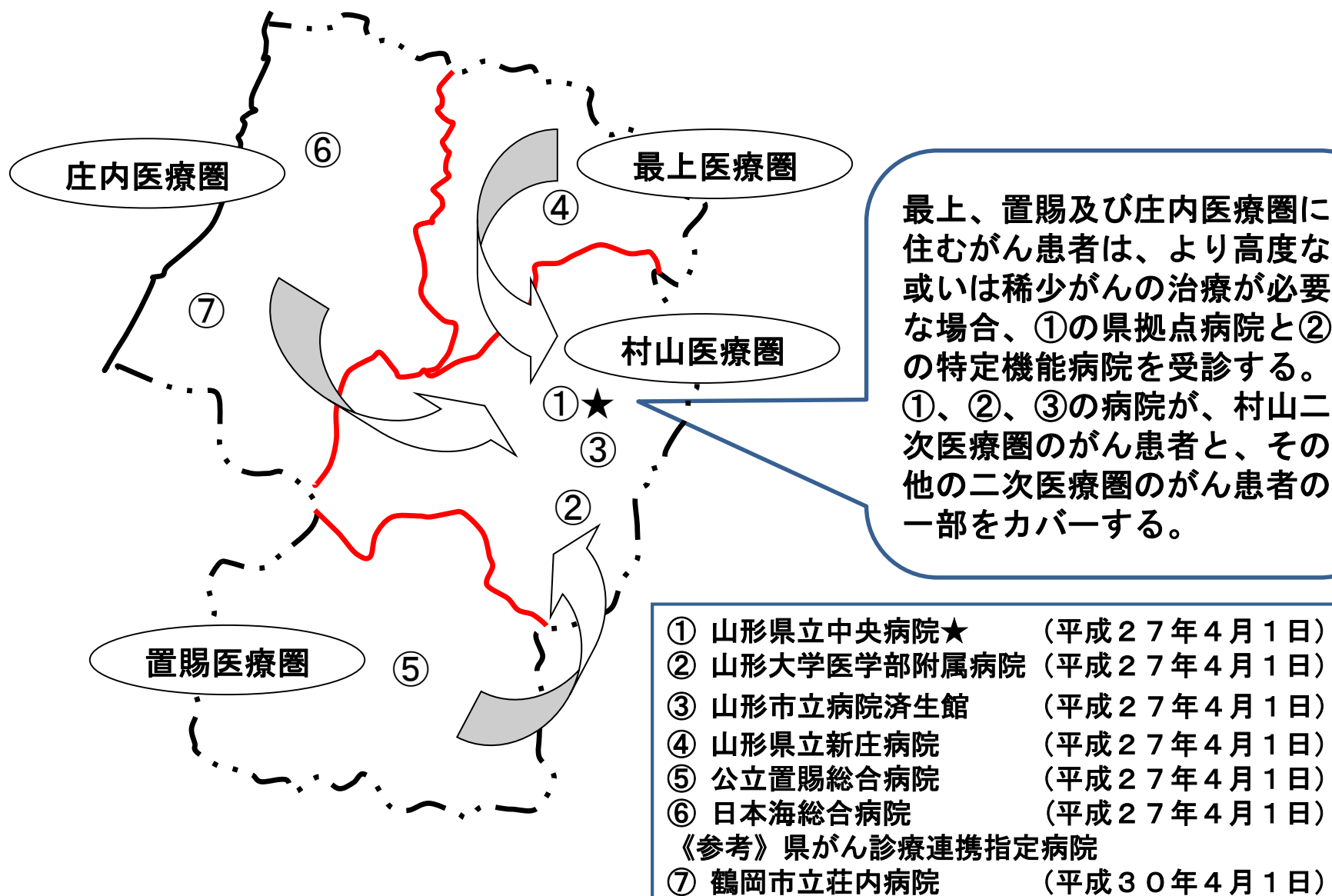
山形県

山形県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

2次医療圏名	面積 (km ²) 国土地理院 面積調	人口 (人) H29.10.1 山形県社会 的移動人口 調査	人口割 合(%)	人口密 度(人)	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん診 療連携拠点病院		地域がん診療 病院	
						既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
村山医療圏	2,619.39	544,440	49.4	207.8	33	3	3	3		0		0
最上医療圏	1,803.23	75,011	6.8	41.6	5	1	1	1		0		0
置賜医療圏	2,495.24	209,155	19.0	83.8	15	1	1	1		0		0
庄内医療圏	2,405.28	272,846	24.8	113.4	15	1	1	1		0		0
計	9,323.15	1,101,452	100.0	118.1	68	6	6	6		0	0	0

山形県平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

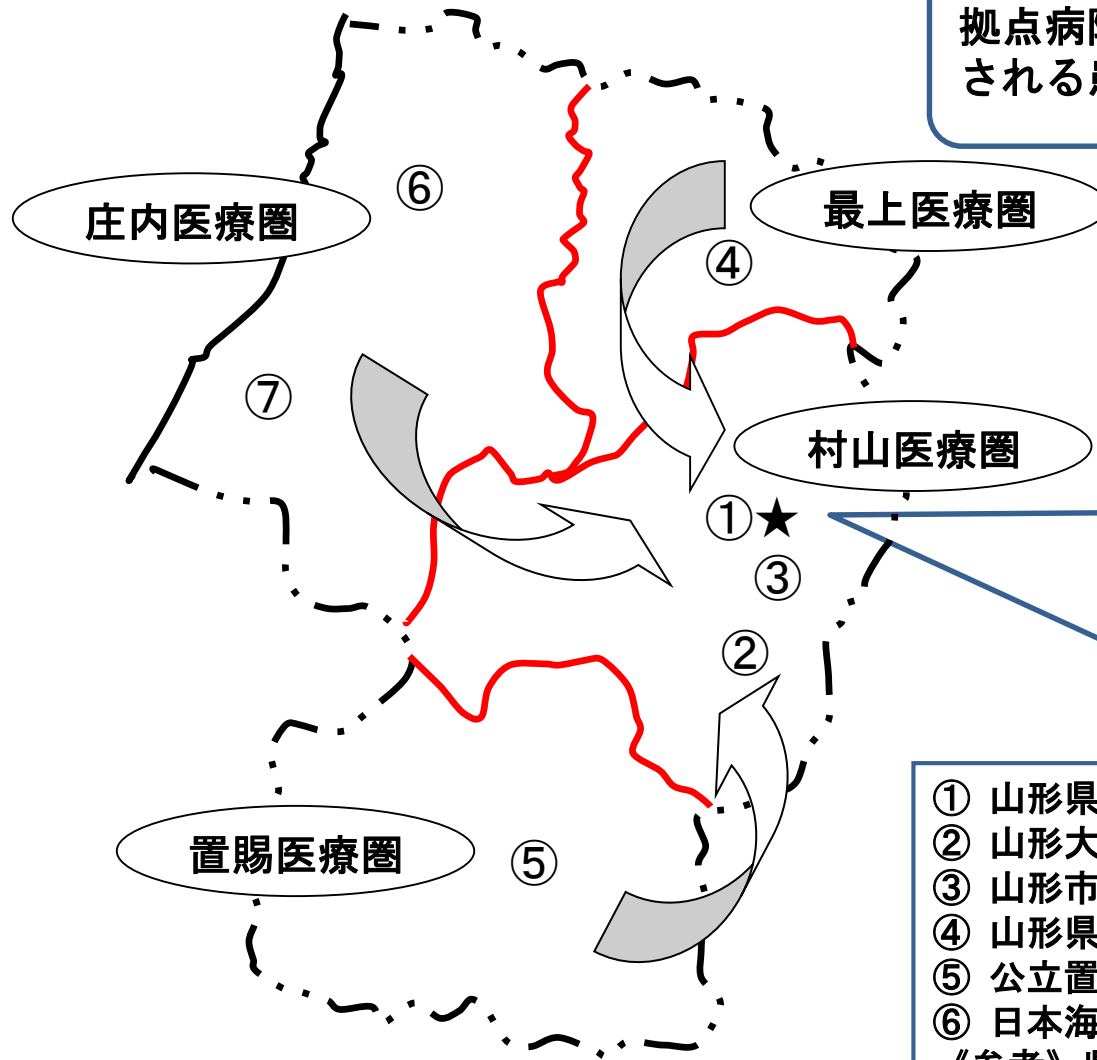
- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 村山医療圏	★	更新	山形県立中央病院	(4,564) 4,652	(29.1) 29.4	1,841	(1,498) 1,415	(1,316) 2,578	(459) 552	269	39	2,367
2 村山医療圏		更新	山形大学医学部附属病院	(4,856) 4,845	(38.5) 37.6	1,817	(2,154) 1,093	(2,358) 4,518	(686) 586	158	37	162
3 村山医療圏		更新	山形市立病院 済生館	(2,059) 1,787	(17.6) 16.0	990	(524) 512	(1,530) 1,605	(213) 177	206	15	360
4 最上医療圏		更新	山形県立新庄病院	(1,140) 1,305	(16.9) 19.5	612	(343) 294	(322) 506	(106) 115	228	108	498
5 置賜医療圏		更新	公立置賜総合病院	(2,195) 2,299	(21.4) 22.2	1,020	(601) 710	(764) 1,012	(215) 230	60	48	543
6 庄内医療圏		更新	日本海総合病院	(3,556) 6,017	(22.0) 36.2	1,978	(1,154) 866	(1,123) 1,279	(341) 357	44	72	1,210
7 庄内医療圏		参考	鶴岡市立荘内病院	(1,842) 1,890	(18.1) 18.0	786	(354) 436	(394) 400	(86) 141	110	26	198

山形県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

拠点病院数及び配置の変更はないため、想定される患者の受療動向にも変化はない。



最上、置賜及び庄内医療圏に住むがん患者は、より高度な或いは稀少がんの治療が必要な場合、①の県拠点病院と②の特定機能病院を受診する。①、②、③の病院が、村山二次医療圏のがん患者と、その他の二次医療圏のがん患者の一部をカバーする。

- | | |
|-----------------|------|
| ① 山形県立中央病院★ | (更新) |
| ② 山形大学医学部附属病院 | (更新) |
| ③ 山形市立病院済生館 | (更新) |
| ④ 山形県立新庄病院 | (更新) |
| ⑤ 公立置賜総合病院 | (更新) |
| ⑥ 日本海総合病院 | (更新) |
| 《参考》県がん診療連携指定病院 | |
| ⑦ 鶴岡市立荘内病院 | (更新) |

山形県のがん対策について

がん診療連携拠点病院の役割

基本的な方向

「がん患者を含めた県民が、がんを知り、がんの克服を目指す」

- がん予防、早期発見、医療の提供、がん患者とその家族への相談支援等を総合的に推進し、がんによる死亡者の減少を図るとともに、全てのがん患者とその家族の苦痛の軽減と療養生活の維持向上を図り、尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築を目指す。
- ・がん医療の推進
 - 1) 手術療法、放射線療法、薬物療法等について単独又はこれらを組み合わせた集学的治療を行う。
 - 2) がん患者とその家族が可能な限り質の高い療養生活を送れるようがんと診断された時からの緩和ケアの提供とともに診断から治療、在宅医療まで切れ目のないがん医療の提供を行う。
 - 3) 地域におけるがん医療の連携と質の高いがん医療の提供を行うため、がん診療連携拠点病院及び山形県がん診療連携拠点病院を配置する。

役割（主なもの）

- ・都道府県がん診療連携拠点病院は、「山形県がん診療連携協議会」を設置運営し、本県がん医療の向上と均てん化のため、がん医療に関する情報交換、がん登録の分析評価、専門がん研修、がん診療拠点病院の機能強化、機能分担、連携強化を行う。また、緩和ケアセンターを設置し、緩和ケア提供体制の構築を図る
- ・がん診療連携拠点病院及び県指定病院は、地域におけるがん医療の拠点としてがん患者及びその家族への相談支援、緩和ケア病棟、緩和ケア外来、緩和ケアチーム、在宅医療支援診療所訪問看護ステーション、保健薬局等の関係機関との地域連携の構築を行う。
- ・がん診療連携拠点病院等と地域の医療機関等との密接な連携により、切れ目のない医療を提供する。



がん診療連携拠点病院を核にがん対策を行う必要があり、現在の拠点病院の設置は不可欠である。

福島県

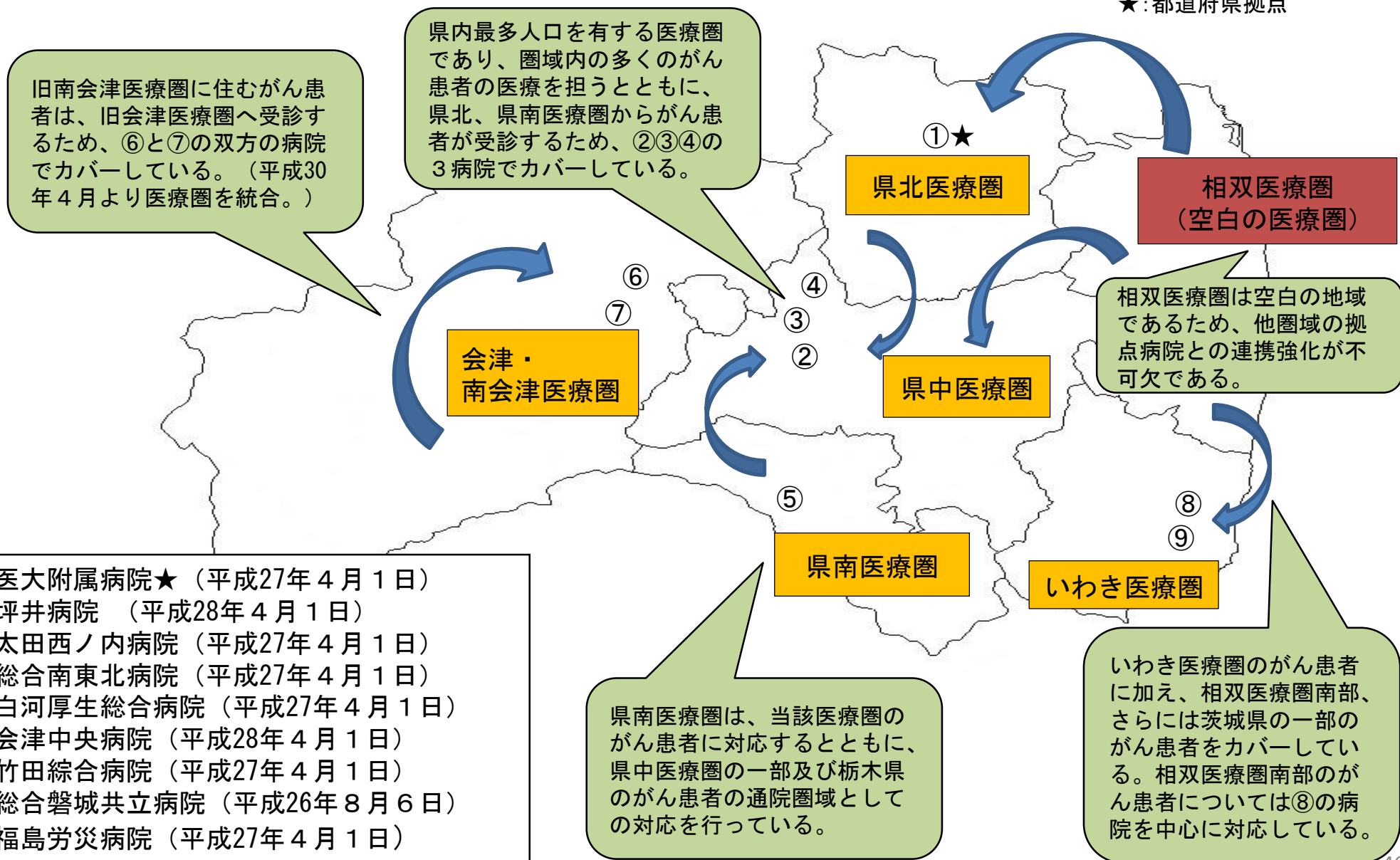
福島県 がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
県北医療圏	1,753.42	479,403	25.72%	273.4	31	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
県中医療圏	2,406.29	530,162	28.45%	220.3	33	0	3	0	3	0	0	1	0	0	0
県南医療圏	1,233.24	140,154	7.52%	113.6	8	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
会津・南会津医療圏	5,420.69	266,722	14.31%	49.2	19	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
相双医療圏	1,737.77	104,265	5.59%	60	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いわき医療圏	1,231.34	343,099	18.41%	278.6	27	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
計	13782.75	1,863,805	100%	135.2	135	0	9	0	9	0	0	1	0	0	0

福島県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	県北	★	更新	医大附属病院	(3279) 3376	(30.2) 29.6	1534	(1298) 1646	(12339) 12852	(643) 780	155	35	765
2	県中		更新	坪井病院	(2472) 2765	(64.8) 64.5	481	(216) 755	(2857) 2318	(116) 173	169	23	5443
3	県中		更新	太田西ノ内病院	(4291) 4030	(26.3) 25.6	1378	(1203) 1121	(3298) 3303	(318) 310	55	33	3303
4	県中		更新	総合南東北病院	(2990) 3014	(27.1) 25.7	1575	(1776) 1172	(2069) 1452	(796) 852	105	25	366
5	県中	◎	新規	星総合病院	1467	15.1	905	528	3467	0	7	12	296
6	県南		更新	白河厚生総合病院	(1616) 1619	(20.1) 19.2	606	(291) 337	(2742) 2196	(161) 158	92	67	256
7	会津・南会津		更新	会津中央病院	(2068) 2011	(21.7) 21.4	625	(335) 315	(391) 783	(201) 182	62	33	710
8	会津・南会津		更新	竹田総合病院	(2163) 2222	(15.2) 15.5	1584	(706) 747	(4202) 6214	(255) 244	256	37	549
9	いわき		更新	総合磐城共立病院	(1645) 1931	(11.3) 14.2	1265	(669) 730	(1998) 2292	(231) 266	15	32	1085
10	いわき		更新	福島労災病院	(2309) 2868	(40.3) 53.1	1073	(667) 536	(2774) 3171	(239) 201	180	47	653

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院(乳がんについて)

資料3-1-②

特定領域とするがん種の診療実績について、記載してください。

- ・診療実績は、H29年1月1日～12月31日の実績を記載のこと。 ★:都道府県拠点 ◎:特定領域拠点
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-②-1】、【資料3-1-②-2】...としてください)

	医療 圏名	類型	申請区分	病院名	新規がん患者数 (年間)	手術件数 (年間)	薬物療法のべ患者数 (年間)	放射線療法のべ患者数 (年間)
	県中	◎	新規	星総合病院	267	197	1291	0
1	県北	★	更新	医大附属病院	491	117	1401	151
2	県中		更新	坪井病院	29	25	216	31
3	県中		更新	太田西ノ内病院	220	68	300	90
4	県中		更新	総合南東北病院	80	71	368	49
5	県南		更新	白河厚生総合病院	68	26	197	17
6	会津・ 南会津		更新	会津中央病院	238	69	138	44
7	会津・ 南会津		更新	竹田総合病院	103	88	521	39
8	いわき		更新	総合磐城 共立病院	63	60	205	48
9	いわき		更新	福島労災 病院	133	53	541	48

福島県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

県北、県南医療圏をはじめ、各医療圏からがん患者が流入する状況にあり、②③④の病院が各々の機能的役割分担を担い、がん患者を受け入れる体制を継続して整備する必要がある。また、⑩の病院については乳がんの診療に優れているため、特定領域拠点病院として推薦する。

相双医療圏北部のがん患者が流入しており、都道府県がん拠点病院の役割を果たすことも考慮すると、①の病院の負担が大きい。

★：都道府県拠点 ◎：特定領域拠点

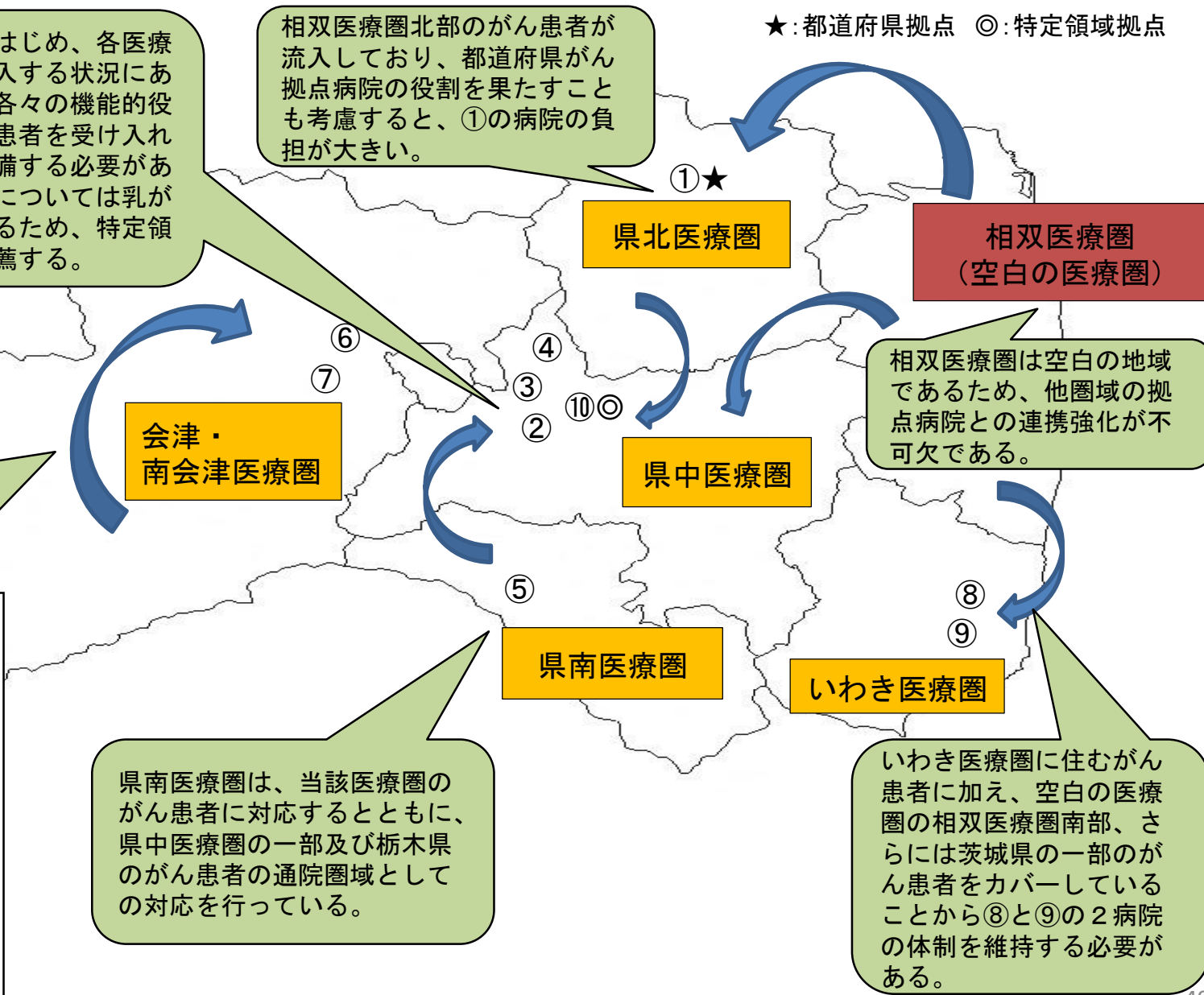
旧南会津医療圏については、病院が1箇所のみであり、がん患者については旧会津医療圏へ受診せざるを得ない。そのため、⑥と⑦の双方の病院で旧南会津医療圏のがん患者をカバーする体制を維持する必要がある。

相双医療圏は空白の地域であるため、他圏域の拠点病院との連携強化が不可欠である。

- ① 医大附属病院★（更新）
- ② 坪井病院（更新）
- ③ 太田西ノ内病院（更新）
- ④ 総合南東北病院（更新）
- ⑤ 白河厚生総合病院（更新）
- ⑥ 会津中央病院（更新）
- ⑦ 竹田総合病院（更新）
- ⑧ 総合磐城共立病院（いわき市医療センター）（更新）
- ⑨ 福島労災病院（更新）
- ⑩ 星総合病院（新規）

県南医療圏は、当該医療圏のがん患者に対応するとともに、県中医療圏の一部及び栃木県のがん患者の通院圏域としての対応を行っている。

いわき医療圏に住むがん患者に加え、空白の医療圏の相双医療圏南部、さらには茨城県の一部のがん患者をカバーしていることから⑧と⑨の2病院の体制を維持する必要がある。



福島県 がん診療連携拠点病院等の指定推薦について

1 東日本大震災・原子力災害の影響による必要性

(1) 現状

- ・ 現在4万5千人余りがいわき医療圏のみならず、県北医療圏、県中医療圏等県内全域に避難している状況。

【参考】双葉郡から各市町村への避難者（平成30年11月1日現在）

	人数(人)	割合(%)
県北	6,199	13.7
県中	8,783	19.5
県南	1,017	2.3
会津	1,701	3.8
南会津	26	0.1
相双	5,237	11.6
いわき	22,165	49.1
その他・不明	3	0.0
計	45,131	100.0

資料：各市町村のホームページ及び聞き取り調査（福島県地域医療課調べ）

(2) 診療体制の強化

- ・ 相双医療圏南部では、平成30年4月に地域の2次救急医療を担う県立ふたば医療センター附属病院が開院したが、いまだに多くの医療機関が休止している中で、この地域の復興を促進していくためには、継続した医療提供体制の整備が求められる。
- ・ がん診療体制については、既存のがん拠点病院と新規指定申請を行った星総合病院が中心となり、各拠点病院や地域の医療機関との連携を図りながらその役割を担う必要がある。

福島県 がん診療連携拠点病院等の指定推薦について

2 がん診療を現状を踏まえた必要性

(1) 1医療圏に複数拠点病院を整備する理由

ア 県中医療圏

- ・ 圏域内の多くのがん患者の医療を担うとともに、県北医療圏をはじめ各圏域からのがん患者の診療に対応している。
- ・ がん専門病院として開設した坪井病院、県内最大の病床を有する太田西ノ内病院、民間施設で陽子線治療施設を整備している総合南東北病院が地域拠点病院の指定を受けており、この3病院に加え、特定領域がん拠点病院の新規指定を目指す星総合病院が中心となりがん医療を提供する。

【参考】県中医療圏へのがん患者流入数（のべ外来患者数）

	県中地域	それ以外
坪井病院	16,157	3,698
太田西ノ内病院	53,442	9,331
総合南東北病院	18,643	13,257

- ・ それぞれの病院の特徴
 (坪井病院) 緩和ケア病棟、大腸がん手術件数(557件、県内最多)
 (太田西ノ内病院) のべ入院がん患者数(4,030人、県内最多)
 (総合南東北病院) 放射線治療のべ患者数(852人、県内最多)

イ 会津・南会津医療圏

- ・ 南会津地域(旧南会津医療圏)をカバーしていくために引き続き2病院体制を維持する必要がある。

※ 平成30年4月より医療圏統合。

【参考】旧南会津医療圏から旧会津医療圏へのがん患者流入数

竹田総合病院 のべ外来患者数 2,525人

会津中央病院 のべ外来患者数 2,524人

ウ いわき医療圏

- ・ 相双医療圏南部のがん患者をカバーするため、2病院体制を維持する必要がある。

【参考】相双医療圏からいわき医療圏へのがん患者流入数

福島労災病院 のべ外来患者数 986人

総合磐城共立病院(いわき市医療センター) のべ外来患者数 3,112人

(2) 特定領域がん診療連携拠点病院(乳がん)

- ・ 星総合病院については、乳がんの手術件数(197件)で各拠点病院を上回り県内最多。
- ・ 院内がん登録の実施や緩和ケア研修会の開催に加え、各拠点病院間との人材交流等も行っており、連携体制を整備している。
- ・ 1991年に「がん遺伝外来」を開設し、遺伝カウンセリングや遺伝学的検査を数多く実施。県内外の患者から相談が寄せられており、出張カウンセリングも実施している。

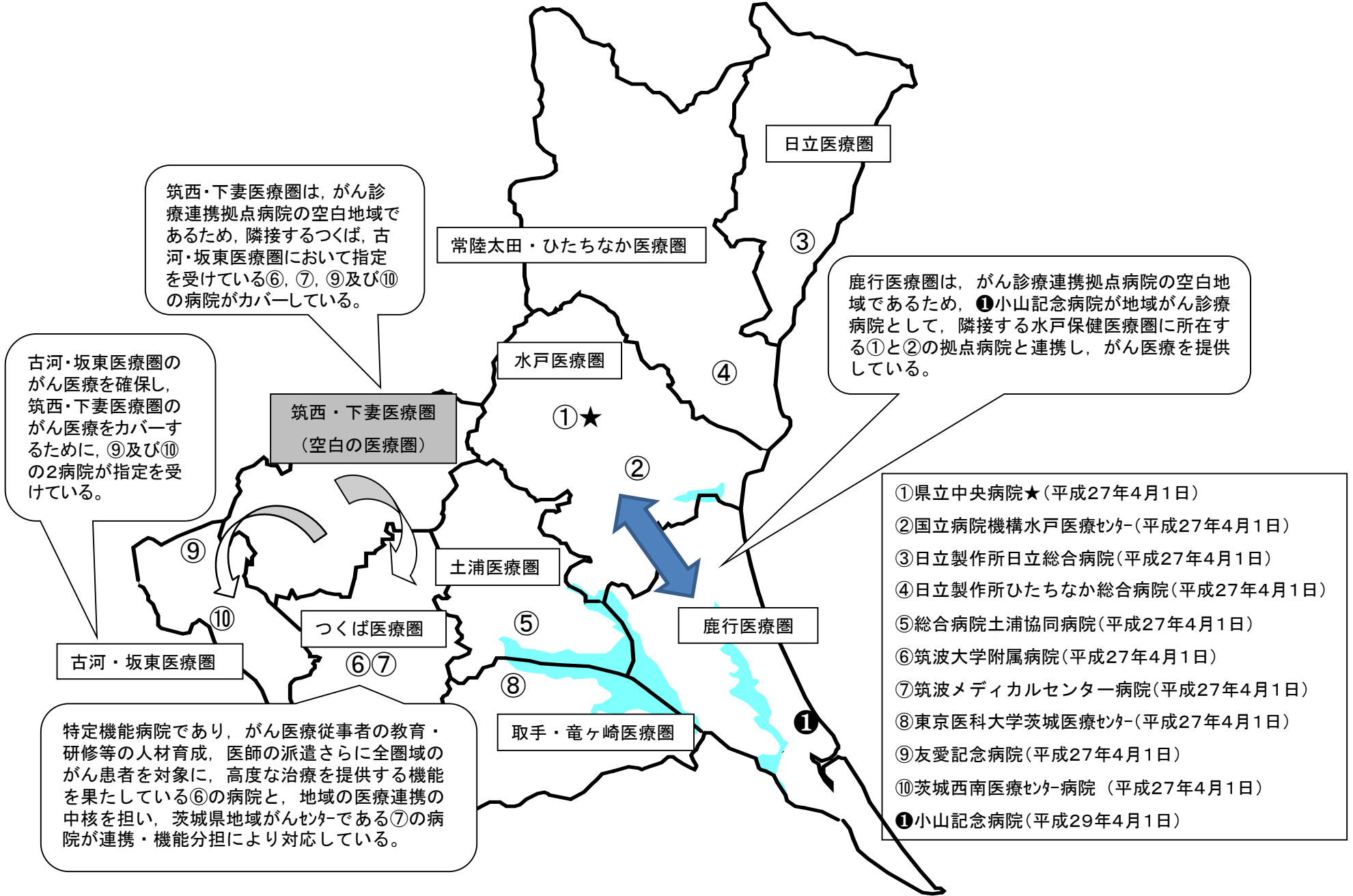
茨 城 県

茨城県 がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
水戸	904.47	462,225	16.0%	511.0	41		2		2						
日立	605.75	249,815	8.7%	412.4	22		1		1						
常陸太田・ひたちなか	1280.48	354,211	12.3%	276.6	22		1		1						
鹿行	673.1	271,120	9.4%	402.8	11				0					1	
土浦	445.97	254,517	8.8%	570.7	17		1		1						
つくば	486.73	347,608	12.1%	714.2	17		1	1	2						
取手・竜ヶ崎	589.01	461,332	16.0%	783.2	23		1		1						
筑西・下妻	590.95	257,411	8.9%	435.6	15				0						
古河・坂東	316.43	225,194	7.8%	711.7	11	1	1		2						
									0						
計	5892.89	2,883,433	1	4818.2	179	1	8	1	10	0	0	0	0	1	0

茨城県平成30年9月1日現在の指定状況と患者受療動向



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

No.	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	水戸	★	更新	茨城県立中央病院	(4242) 4498	(39.6) 40.0	1741	(1149) 1244	(1543) 2029	(545) 569	276	35	4673
2	水戸		更新	水戸医療センター	(3458) 3562	(36.9) 37.1	1280	(781) 787	(1435) 1313	(287) 261	57	31	1486
3	日立		更新	日立総合病院	(2442) 2500	(25.6) 25.2	1600	(874) 1011	(1596) 1670	(326) 323	218	89	4446
4	常陸太田・ひたちなか		更新	ひたちなか総合病院	(1717) 1654	(27.0) 26.0	712	(439) 439	(1303) 1215	(264) 235	18	69	980
5	土浦		更新	土浦協同病院	(3383) 3422	(19.3) 17.8	1616	(985) 751	(1420) 1571	(365) 425	274	76	233
6	つくば	◇	新規	筑波大学附属病院	(5650) 5417	(31.0) 27.8	3042	(1532) 1561	(3830) 4522	(1053) 779	580	57	271
7	つくば		更新	筑波メディカルセンター病院	(2293) 2283	(21.8) 20.7	1320	(653) 620	(873) 1008	(488) 487	223	41	1423
8	取手・竜ヶ崎		更新	東京医科大学茨城医療センター	(1749) 1932	(19.5) 21.6	956	(694) 484	(1754) 685	(283) 249	59	28	446
9	古河・坂東		更新	友愛記念病院	(1417) 1374	(21.2) 19.5	680	(550) 472	(795) 1019	(215) 210	132	41	905

地域がん診療病院の診療実績等

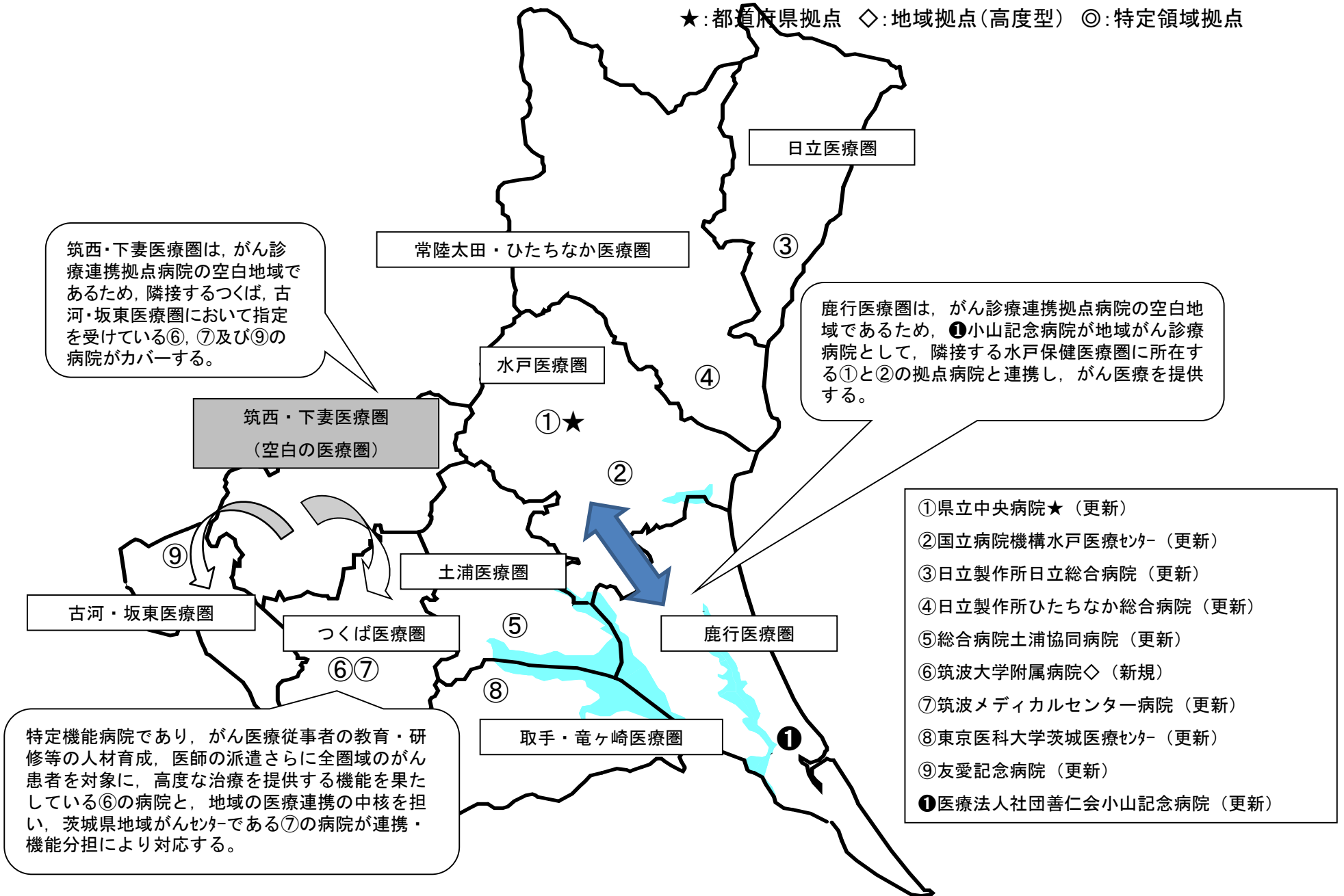
資料 3 - 2

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
①	鹿行	更新	小山記念病院	(506) 602	(8.0) 10.5	585	(281) 310	(815) 189	実施なし	92	408

茨城県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



茨城県 指定推薦に係る考え方

本県では、平成27年12月に「茨城県がん検診を推進し、がんと向き合うための県民参療条例」を策定し、がん対策を推進している。

これまで、がん医療の水準の向上及びがん医療の均てん化を図るため、9医療圏のうち8医療圏に、がん診療連携拠点病院を10か所、地域がん診療病院を1か所整備してきたところである。

今回、新たながん診療連携拠点病院の整備に関する指針に基づく指定要件の充足状況や、診療機能及び病院の意向等を踏まえ、次のとおり推薦する。

○新規推薦

本県唯一の大学病院（本院）かつ特定機能病院であり、人材育成やがん研究などで中心的な役割を担っている「筑波大学附属病院」については、高度な医療機能を有しているため、「地域がん診療連携拠点病院（高度型）」として推薦する。

○更新推薦

これまで、古河・坂東医療圏で指定されていた「茨城西南医療センター病院」については、指定要件を充足しなかったため、推薦しないこととする。

また、残りの9病院（がん診療連携拠点病院8か所、地域がん診療病院1か所）については、指定要件を充足しているため、引き続き推薦する。

茨城県のがん診療連携拠点病院の連携体制（平成31年4月1日以降）

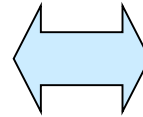
全県レベルの機能

多臓器にまたがる難治がん，進行・再発がん，我が国に多いがん（肺，胃，肝，大腸，乳）の治療に対応

特定機能病院

筑波大学附属病院

- ・がん診療連携拠点病院の医療従事者に対する高度ながん医療に関する研修を実施
- ・がん診療連携拠点病院への医師派遣
- ・全県の希少がん，小児がんに対応
- ・陽子線治療，がんゲノム医療，がん生殖医療の実施



都道府県がん診療連携拠点病院

県立中央病院・茨城県地域がんセンター

- ・茨城県がん診療連携協議会の運営（緩和ケア，各種研修に関する計画作成，PDCAサイクルの確保の中心的役割）
- ・緩和ケアセンター
- ・がんゲノム医療連携病院

連携支援

2次医療圏レベルの機能

我が国に多いがん（肺，胃，肝，大腸，乳）を中心に治療を提供，5大がん以外に各病院が専門とするがんに対応，地域の医療従事者の研修会開催，相談支援センターを設置し，ピアサポート相談・就労支援窓口，患者サロンを開設

水戸医療圏

県立中央病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・肺がん，肝がん，膵がん等の進行・再発がん
- ・緩和ケア病棟（23床）
- ・IMRTの実施

水戸医療センター

- ・乳がん，血液がん，肺がん
- ・緩和ケア病棟（28床）
- ・救命救急センター

鹿行医療圏

小山記念病院

- ・地域がん診療病院として，拠点病院と連携してがん医療を提供

日立医療圏

（株）日製日立総合病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・肝疾患診療連携拠点病院
- ・緩和ケア病棟（20床）

常陸太田・ひたちなか医療圏

（株）日製ひたちなか総合病院

- ・地域医療支援病院
- ・IMRTの実施

土浦医療圏

総合病院土浦協同病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・緩和ケア病棟（20床）
- ・IMRTの実施

取手・竜ヶ崎医療圏

東京医科大学茨城医療センター

- ・肝疾患診療連携拠点病院
- ・IMRTの実施

古河・坂東医療圏

友愛記念病院

- ・緩和ケア病棟（14床）
- ・がん患者家族デイケアサロンの実施

つくば医療圏

筑波大学附属病院

- ・県内の医療従事者の人材育成
- ・IMRTの実施

筑波メディカルセンター病院

- ・茨城県地域がんセンターとして高度ながん医療を提供
- ・県内の緩和ケア体制の整備，普及に対し指導的な役割
- ・緩和ケア病棟（20床）
- ・IMRTの実施

3病院でカバー

筑西・下妻医療圏

栃 木 県

栃木県 がんの医療圏の概要

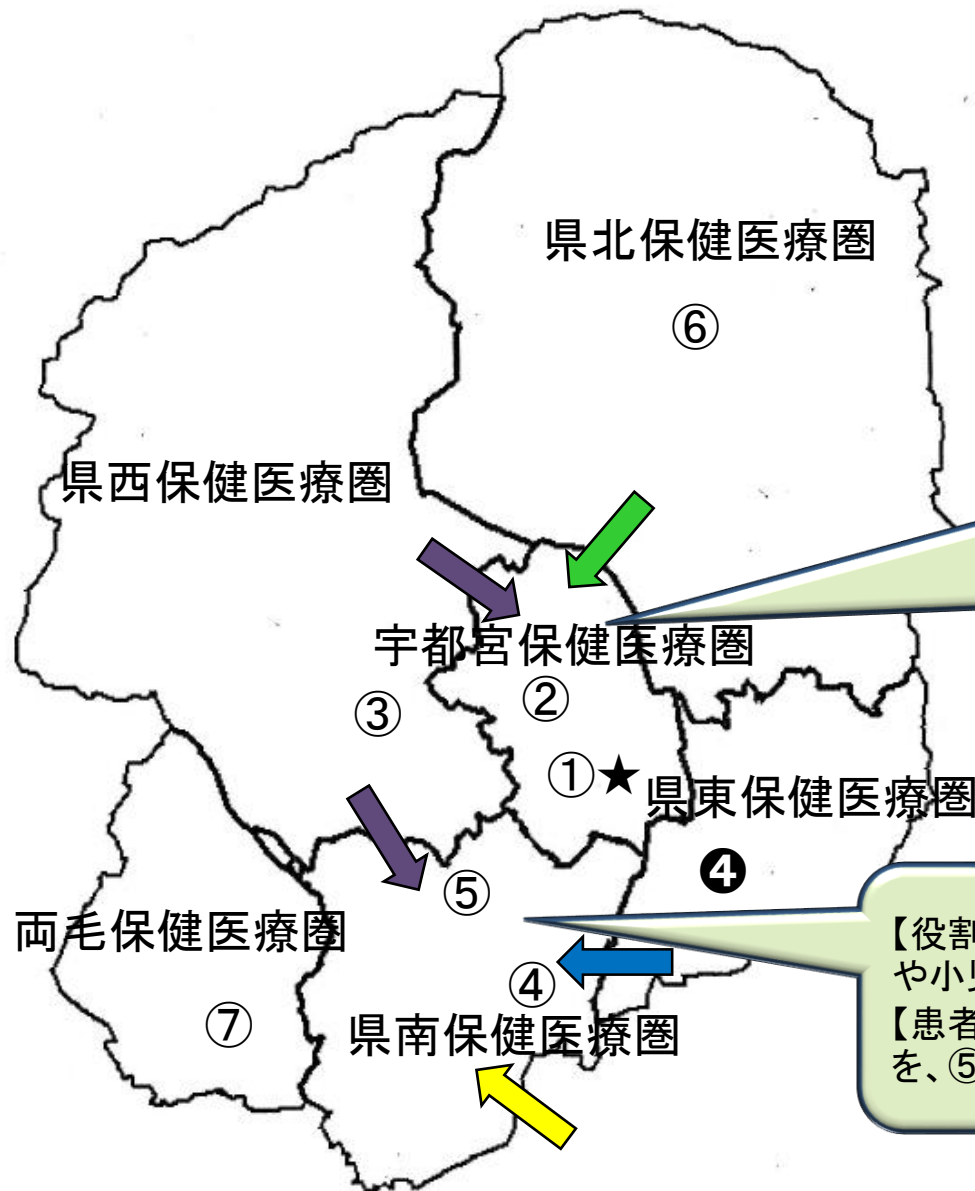
平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
県北保健医療圏	2,229.5	373,309	19.1	167.4	21	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
県西保健医療圏(※)	1,940.5	176,305	9.0	90.9	11	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
宇都宮保健医療圏	416.9	520,091	26.6	1,247.5	31	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
県東保健医療圏(※)	563.8	140,537	7.2	249.3	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
県南保健医療圏	723.6	479,907	24.6	663.2	22	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
両毛保健医療圏(※)	533.8	263,017	13.5	492.7	17	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0
計	6,408.1	1,953,166	100	304.8	107	0	6	1	7	0	0	0	0	1	0

※印は、医師数がおおむね300人を下回る医療圏

栃木県 平成30年 9月 1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- ① 栃木県立がんセンター★(平成27年4月1日)
- ② 栃木県済生会宇都宮病院(平成27年4月1日)
- ③ 上都賀総合病院(平成27年4月1日)
- ④ 自治医科大学附属病院(平成27年4月1日)
- ⑤ 獨協医科大学病院(平成27年4月1日)
- ⑥ 那須赤十字病院(平成26年8月6日)
- ⑦ 佐野厚生総合病院(平成27年4月1日)
- ④ 芳賀赤十字病院(平成26年8月6日)

【役割】①はがん専門病院として高度進行がんや再発がんの患者等の診療を行い、②はDPC特定病院群の総合病院として合併症を抱えるがん患者、救急対応を要するがん患者等の診療を行う。

【患者受療動向】①は県西・県北のがん患者を、②は県北のがん患者を多く診療している。

【役割】④及び⑤は特定機能病院として、高度ながん医療や小児がん医療を提供する。

【患者受療動向】④は茨城県・宇都宮・県東等のがん患者を、⑤は宇都宮・県西等のがん患者を多く診療している。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る 薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する 新規診療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に 居住する がん患者の 診療の割合(%) 2割程度	相談支援 センター 相談件数 (年間)
				年間新 入院が ん患者 数	年間新入院 患者数に 占めるがん 患者の割合 (%)							
1 宇都宮	★	更新	栃木県立 がんセンター	(4066) 3254	(89.9) 77.6	1658	(1179) 1088	(1330) 1617	(509) 489	148	20	3391
2 宇都宮		更新	栃木県済生会 宇都宮病院	(3361) 4089	(20.4) 23.7	1738	(1078) 1105	(1029) 1881	(378) 444	110	32	601
3 県西		更新	上都賀総合 病院	(1161) 928	(20.8) 18.6	538	(169) 141	(1489) 1690	(90) 76	52	25	612
4 県南		更新	自治医科大学 附属病院	(6082) 6226	(26.4) 26.6	3547	(2152) 2717	(1918) 5354	(1102) 784	249	28	7709
5 県南		更新	獨協医科大学 病院	(7642) 6802	(29.1) 28.0	2672	(2907) 2826	(2298) 2202	(576) 567	242	23	4332
6 県北		更新	那須赤十字 病院	(2100) 1826	(19.8) 17.1	784	(437) 428	(1132) 1108	(206) 204	53	49	608
8 両毛		新規	足利赤十字 病院	1870	14.6	1356	842	1544	305	272	41	641

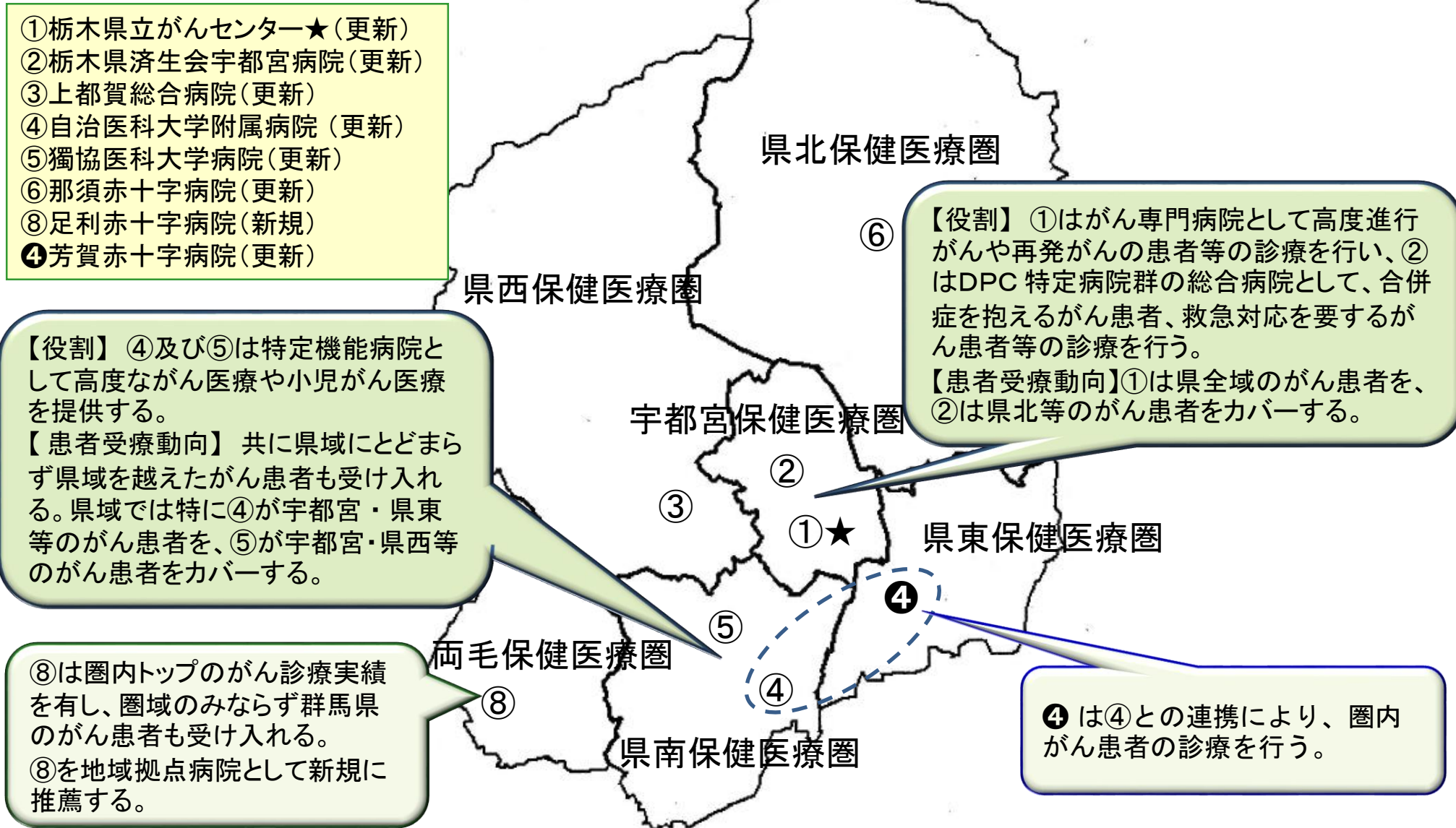
地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
④	県東	更新	芳賀赤十字病院	(1209) 1195	(16.4) 15.7	439	(242) 265	(99) 1825	実施なし	53	383

栃木県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



栃木県 今回の新規指定推薦について

⑧ 足利赤十字病院 (地域拠点病院・両毛医療圏)

《概要》

- ・当該医療圏におけるがん診療実績はトップ
- ・圏域のみならず群馬県のがん患者も受け入れ
- ・これまで県指定拠点病院として、地域拠点病院と同等の機能を発揮
- ・充実した緩和ケアを提供し、年間新規介入患者数は県内トップ
- ・地域医療関係者との会議や研修会の開催等により、地域連携を推進
- ・JCI(Joint Commission International)の認証を国内9番目に取得
- ・病棟全室を個室化し、患者等の様々な状況に対応できる療養環境を整備

- ▶ 地域拠点病院の指定要件をすべて満たし、十分な実績と機能を有する病院であることから、足利赤十字病院を新規に地域拠点病院として推薦する。

栃木県 今回の指定更新推薦について

病 院 名	医療圏	特 徴 ・ 役 割 分 担 等
① 栃木県立がんセンター (都道府県拠点)	宇都宮	・県内唯一のがん専門病院として、高度進行がん・再発がんに対応 ・人材育成、がん研究、がん診療連携協議会の運営、がん登録事業の実施等の役割を担う
② 栃木県済生会宇都宮病院 (地域拠点)		・DPC 特定病院群の総合病院として、合併症を抱えるがん患者、救急対応を要するがん患者等に対応
④ 自治医科大学附属病院 (地域拠点、グループ指定)	県 南	・特定機能病院、難治・希少・小児がん等に対応 ・広域的ながん診療圏を有する ・人材育成、がん研究等の役割を担う
⑤ 獨協医科大学病院 (地域拠点)		
③ 上都賀総合病院 (地域拠点)	県 西	・地域の中核病院 ・5大がんを中心としたがん医療を提供
⑥ 那須赤十字病院 (地域拠点)	県 北	
④ 芳賀赤十字病院 (地域がん診療)	県 東	・④との連携により、圏内のがん患者に対応

- ▶ いずれの病院も地域のがん医療の中核的な役割を果たしており、今後も県民が求める質の高いがん医療を適切に提供していくため、引き続き指定を得られるよう推薦する。

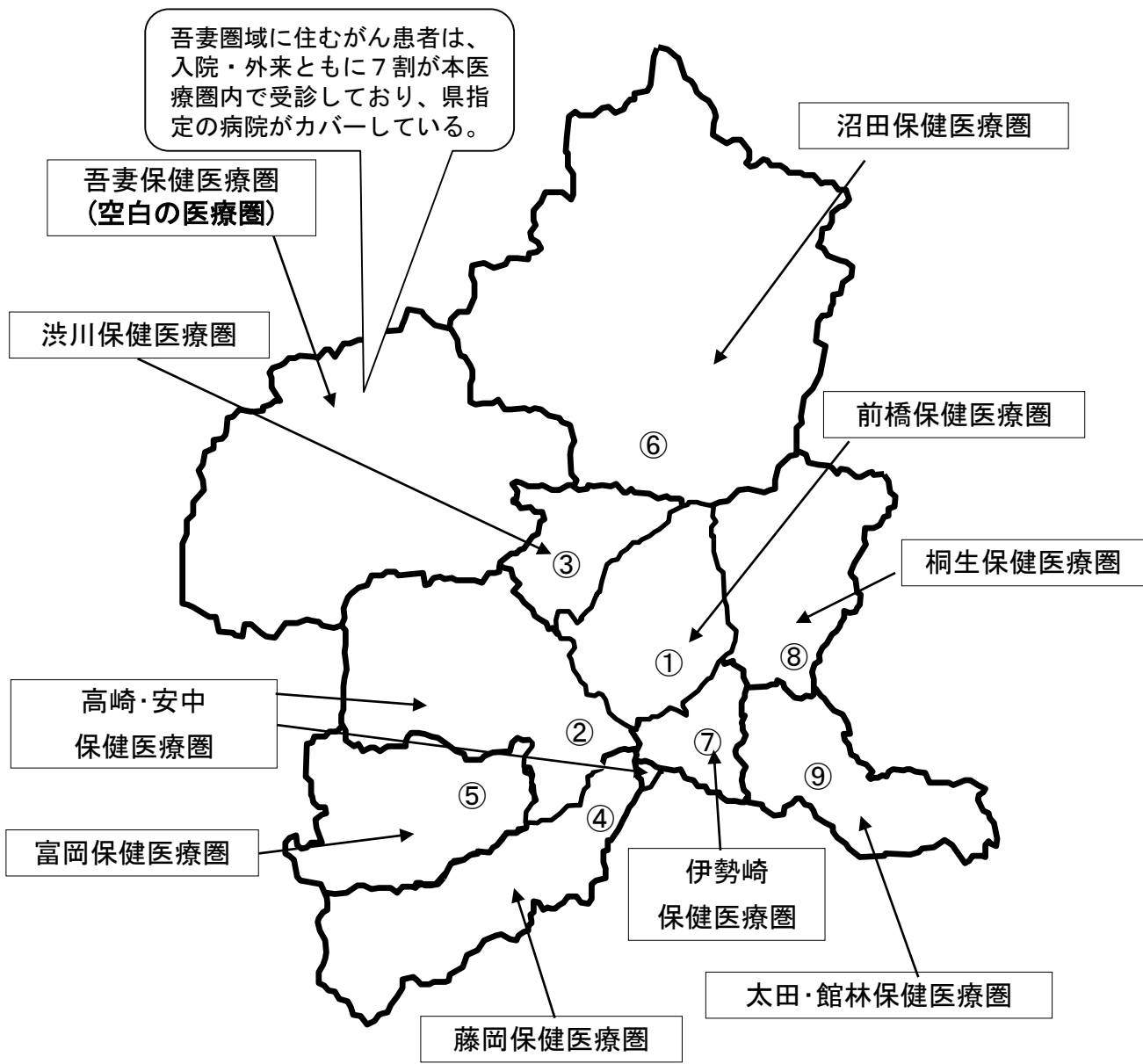
群馬県

群馬県 がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院	
						今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	今回更新 病院数	新規申請 病院数
前橋保健医療圏	311.6	334,510	17.2%	1073.4	21	1	1	2		
高崎・安中保健医療圏	735.8	426,153	21.9%	579.2	31	1		1		
渋川保健医療圏	288.9	111,602	5.7%	386.4	11	1		1		
藤岡保健医療圏	476.6	67,113	3.4%	140.8	5	1		1		
富岡保健医療圏	488.5	69,750	3.6%	142.8	4	1		1		
吾妻保健医療圏	1,278.3	53,731	2.8%	42.0	9			0		
沼田保健医療圏	1,765.8	79,589	4.1%	45.1	7			0		1
伊勢崎保健医療圏	165.1	246,835	12.7%	1494.7	11	1		1		
桐生保健医療圏	482.8	159,975	8.2%	331.3	12	1		1		
太田・館林保健医療圏	369.0	400,872	20.6%	1086.5	19	1		1		
計	6,362.3	1,950,130	100%	306.5	130	8	1	9	0	1

群馬県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況



①	前橋赤十字病院	H27. 4. 1
②	高崎総合医療センター	H27. 4. 1
③	渋川医療センター	H27. 4. 1
④	公立藤岡総合病院	H27. 4. 1
⑤	公立富岡総合病院	H27. 4. 1
⑥	沼田病院	H27. 4. 1
⑦	伊勢崎市民病院	H28. 4. 1
⑧	桐生厚生総合病院	H27. 4. 1
⑨	群馬県立がんセンター	H27. 4. 1

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 (年間) 500件以上	手術件数 (年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 (年間) 1000人以上	放射線治療 (年間) 200人以上	緩和ケア に対する新規診療 依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1	前橋	更新	前橋赤十字病院	(2,793) 2,836	(18.8) 18.9	1,599	(1,001) 762	(3,009) 3009	(323) 306	108	33	1,245
2	高崎・安中	更新	高崎総合医療センター	(3,039) 3,348	(25.0) 26.6	1,667	(924) 986	(3,057) 6,624	(445) 367	117	34	2,959
3	渋川	更新	渋川医療センター	(2,848) 3,072	(62.5) 50.0	1,156	(279) 622	(760) 1,713	(299) 331	105	67	847
4	藤岡	更新	公立藤岡総合病院	(1,861) 1,941	(21.6) 24.1	949	(393) 416	(1,021) 1,746	(293) 289	256	69	530
5	富岡	更新	公立富岡総合病院	(1,298) 1,339	(15.3) 15.6	749	(447) 488	(261) 338	(129) 118	279	64	1,457
6	伊勢崎	更新	伊勢崎市民病院	(2,914) 2,880	(21.3) 21.9	1,261	(1,075) 1,251	(781) 619	(260) 229	447	51	2,521
7	桐生	更新	桐生厚生総合病院	(2,188) 1,732	(24.4) 20.5	894	(402) 472	(389) 538	(105) 119	42	48	346
8	太田・館林	更新	県立がんセンター	(6,097) 5,459	(94.8) 90.7	3,174	(1,567) 1,875	(2,859) 4,981	(754) 877	89	39	10,903
9	前橋	新規	群馬大学医学部付属病院	5,432	39.3	2,366	1,760	2,706	1,060	97	26	1,872

地域がん診療病院の診療実績等

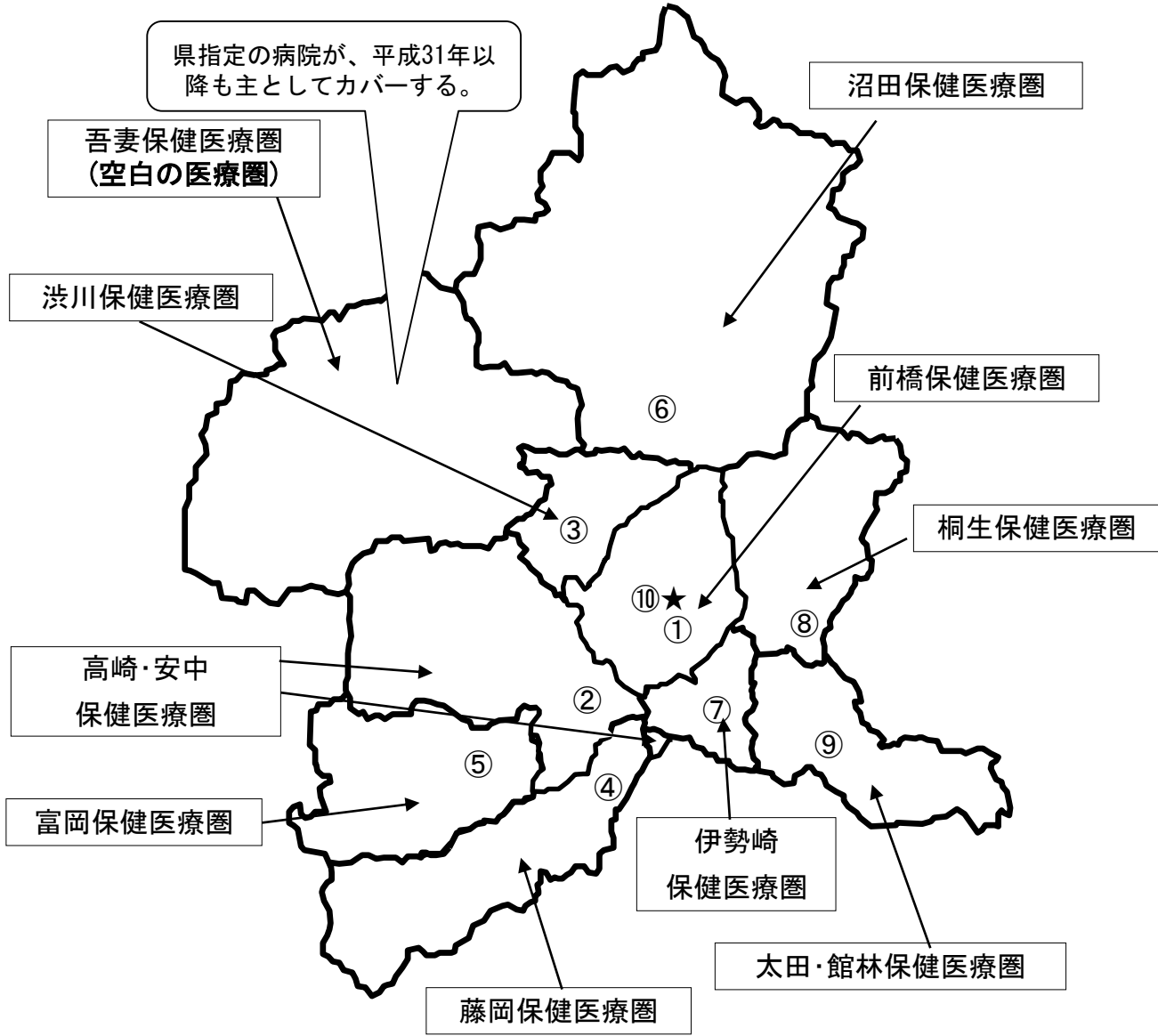
資料 3 - 2

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
			年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
③	新規	沼田病院	(535) 654	(21.9) 26.8	206	(125) 127	(776) 738	(113) 104	37	851

群馬県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点



①	前橋赤十字病院	更新
②	高崎総合医療センター	更新
③	渋川医療センター	更新
④	公立藤岡総合病院	更新
⑤	公立富岡総合病院	更新
⑥	沼田病院	新規
⑦	伊勢崎市民病院	更新
⑧	桐生厚生総合病院	更新
⑨	群馬県立がんセンター	更新
⑩	群馬大学医学部附属病院★	新規

今回の指定推薦に関する本県の考え方①

本県における拠点病院整備に関する基本方針

群馬県がん対策推進計画(平成30年度～35年度)

- ① 県民がどこに住んでいても質の高いがん医療が受けられる体制の維持に努める。
- ② がん医療圏(2次保健医療圏)ごとに、がん診療連携拠点病院を整備し、がん診療連携拠点病院間の相互連携により、その機能を維持・強化していく。

検討にあたっての着眼点

- ① 都道府県がん診療連携拠点病院が不在であることを踏まえ、平成27年4月以降不更新となっている群馬大学医学部附属病院の指定要件の充足状況を確認
- ② 現在指定を受けている9のがん診療連携拠点病院について、ア)指定要件の充足状況、イ)各地域でのがん医療を支える中核病院としての機能を検討

検討結果

- ① 都道府県がん診療連携拠点病院の不在
 - ・不在の状態の速やかな改善が必要
- ② 指定要件の充足状況
 - ・すべての病院について、指定要件を充足しているか、又は平成31年4月1日までに充足の見込みを確認
- ③ がん医療を支える中核病院としての機能
 - ・すべての病院で、がん医療圏に居住するがん患者の2割以上を診療



都道府県がん診療連携拠点病院及び地域がん診療連携拠点病院等の整備により、がん医療の均てん化体制を維持

- ・都道府県がん診療連携拠点病院
 - 群馬大学医学部附属病院
- ・地域がん診療連携拠点病院
 - 8病院
- ・地域がん診療病院
 - 沼田病院

今回の指定推薦に関する本県の考え方②

群馬大学医学部附属病院(都道府県がん診療連携拠点病院)推薦

【県としての推薦理由】

- ・指定要件はH31年4月1日までに充足見込
- ・本県がん医療中核的役割を果たす

・放射線療法のべ患者数県内第1位
 ・国内唯一の重粒子線がん治療施設を併設。大学病院として診療機能を発揮し延3000名を治療。隣接県のがん診療連携拠点病院との連携を促進し、難治がん等への効果的活用にも取り組んでいる。

- ・がん医療のみならず、本県医療提供体制の中心
- ・臨床研究や医師の養成でも中心的役割
- ・医療安全管理体制、ガバナンスの強化
- ・都道府県拠点病院指定不更新後も、都道府県がん診療連携協議会を運営



- ・都道府県拠点病院の役割を担うことができる県内唯一の病院

【群馬大学医学部附属病院における改革の重要な取組】

① 医療の質向上のための取組

- ・外科・内科の再編成
- ・カンファレンスエビデンスに基づいた治療方針の決定
- ・チーム医療の強化
- ・診療記録の質の改善
- ・インフォームドコンセントのプロセスの改善
- ・倫理審査体制の強化

② 死亡例の組織的把握と検証、医療安全管理体制の強化

- ・医療安全管理体制の強化
- ・全死亡症例の組織的把握と検証・合併症症例の検討
- ・インシデント報告と分析の強化

③ 意識・風土改革、医療安全分科醸成の取組

- ・患者参加の促進(患者のカルテ閲覧、患者参加型医療推進委員会設置等)
- ・職員の医療安全文化醸成(職員への情報提供、意見交換、各種調査)
- ・医療の質・安全学講座の設置

がん診療連携拠点病院が不在の医療圏について

【吾妻保健医療圏】

- ・地域拠点病院に準ずる病院として県が指定している原町赤十字病院に対して、「地域がん診療病院」指定要件の充足状況を確認。充足されていない項目が一部に認められたことから推薦を見送った。

【利根沼田保健医療圏】

- ・沼田病院は、放射線治療装置不更新により、地域拠点病院の指定要件を充足できなくなるため、「地域がん診療病院」として推薦した。
- ・保健医療圏が隣接している「渋川医療センター」(地域拠点病院として推薦)と連携する。

埼玉県

埼玉県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
南部医療圏	85.25	804,623	11.0%	9438.4	29	0	3	0	3
南西部医療圏	110.95	722,708	9.9%	6513.8	29	0	1	0	1
東部医療圏	249.71	1,156,533	15.8%	4631.5	50	0	2	0	2
さいたま医療圏	217.43	1,295,090	17.7%	5956.4	39	0	2	1	3
県央医療圏	172.91	528,662	7.2%	3057.4	18	0	1	0	1
川越比企医療圏	626.53	798,520	10.9%	1274.5	50	0	0	1	1
西部医療圏	406.32	774,808	10.6%	1906.9	55	0	0	1	1
利根医療圏	473.95	641,067	8.8%	1352.6	32	0	0	0	0
北部医療圏	562.12	503,340	6.9%	895.4	34	0	1	0	1
秩父医療圏	892.62	97,345	1.3%	109.1	9	0	0	0	0
計	3797.79	7,322,696	100.0%	1928.1	345	0	10	3	13

埼玉県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

- ①川口市立医療センター（平成27年4月1日）
- ②済生会川口総合病院（平成27年4月1日）
- ③戸田中央総合病院（平成27年4月1日）
- ④国立病院機構埼玉病院（平成27年4月1日）
- ⑤春日部市立医療センター（平成27年4月1日）
- ⑥獨協医科大学埼玉医療センター（平成27年4月1日）
- ⑦さいたま市立病院（平成28年4月1日）
- ⑧さいたま赤十字病院（平成27年4月1日）
- ⑨自治医科大学さいたま医療センター（平成26年8月6日）
- ⑩埼玉県立がんセンター★（平成27年4月1日）
- ⑪埼玉医科大学総合医療センター（平成27年4月1日）
- ⑫埼玉医科大学国際医療センター（平成27年4月1日）
- ⑬深谷赤十字病院（平成27年4月1日）

★：都道府県拠点

利根医療圏に住むがん患者は、県央医療圏、さいたま医療圏、又は東部医療圏へ受診するため、主に⑩、⑨、⑤でカバーしている。

秩父医療圏
(空白の医療圏)

秩父医療圏に住むがん患者は、西部医療圏又は北部医療圏へ受診するため、⑫、⑬でカバーしている。

⑬
北部医療圏

利根医療圏
(空白の医療圏)

川越比企
医療圏

県央
医療圏

⑤
東部医療圏

⑫
西部医療圏

⑧
さいたま
医療圏

⑦
⑥

⑪
南西部
医療圏

④
③
②
南部医療圏

※同一医療圏に複数の拠点病院が指定されている場合の過去の申請理由等

○さいたま医療圏

当該医療圏は、非常に多くの人口を抱えていることから、質の高いがん医療の提供のためには、複数の配置が適当。

⑦⑧⑨の病院は市内にバランスよく位置し、⑦の病院はさいたま医療圏内の患者を主体に、⑧⑨の病院は近隣医療圏からも多くの患者を受け入れている。

○東部医療圏

⑤の病院は圏域において北に偏っており、利根医療圏のがん医療提供機能を補填するものの、人口集中地域の圏域南部の県民の拠点機能として不十分。

⑥の病院の指定で圏域南部のがん医療の提供がなされ、圏域全体におけるがん医療提供の均てん化が図られる。

○南部医療圏

当該医療圏に加え、人口増加傾向にある隣接医療圏の東部、南西部の患者も受け入れている。3病院はバランスよく位置し、日頃から連携をとっている。

①の病院は、乳がん、肺がんの手術を多く実施。②の病院は、県内有数のPET-CTを導入。③の病院は、唯一緩和ケア病棟を有し、地域の医療機関からの新規紹介緩和ケア外来患者数も多い。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 南部		更新	川口市立医療センター	(2435) 2349	(20.2) 19.0	1232	(513) 542	(1112) 1018	(326) 375	123	24	1501
2 南部		更新	済生会川口総合病院	(1894) 1820	(15.9) 15.5	983	(523) 637	(1802) 1853	(130) 104	34	20	420
3 南部		更新	戸田中央総合病院	(1989) 1718	(17.2) 14.5	854	(491) 439	(1050) 1036	(226) 228	184	15	3974
4 南西部		更新	国立病院機構埼玉病院	(2098) 475	(17.9) 4.0	1390	(775) 782	(1085) 3564	(358) 362	230	10	696
5 東部		更新	春日部市立医療センター	(1846) 2306	(27.7) 26.5	936	(435) 672	(964) 1052	(228) 267	80	19	1843
6 東部		更新	獨協医科大学埼玉医療センター	(4915) 4740	(24.8) 23.6	2373	(1312) 680	(1550) 2253	(327) 278	278	31	1184

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

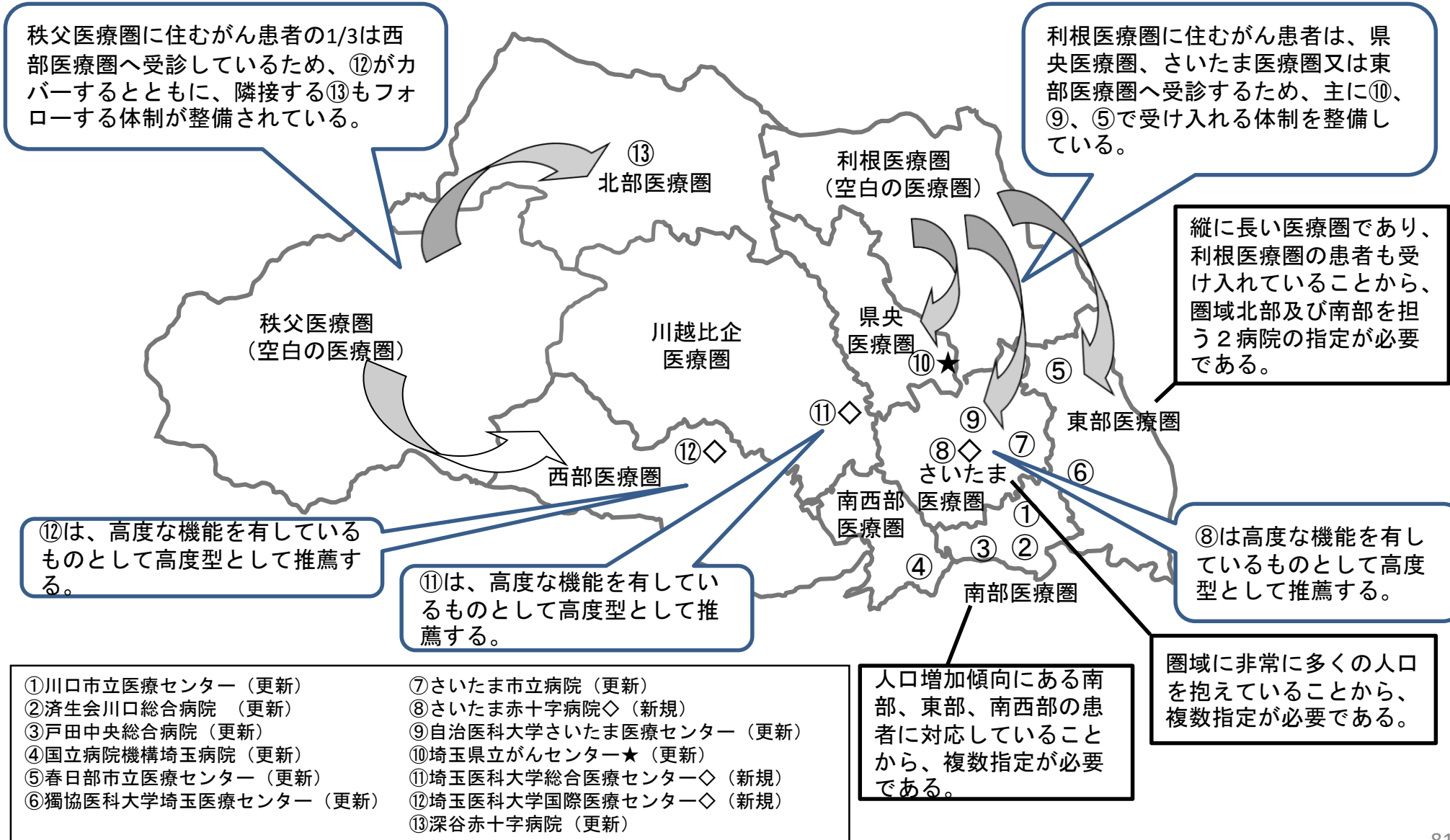
・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター	
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)	
7	さいたま	更新	さいたま市立病院	(2037) 2033	(14.9) 14.4	1185	(514) 641	(1022) 1359	(201) 204	202	11	128	
8	さいたま	◇	新規	さいたま赤十字病院	(3085) 3374	(19.1) 19.2	1700	(2327) 1936	(1355) 1705	(5155) 625	201	17	404
9	さいたま	更新	自治医科大学さいたま医療センター	(4159) 3920	(25.6) 23.8	1864	(1013) 1528	(1214) 5773	(437) 312	115	16	5690	
10	県央	★	更新	埼玉県立がんセンター	(9261) 9216	(95.8) 95.0	3742	(3237) 1822	(26886) 1432	(1486) 1432	545	37	28711
11	川越比企	◇	新規	埼玉医科大学総合医療センター	(4660) 5165	(23.9) 25.1	2366	(961) 927	(1349) 2739	(823) 608	183	18	5290
12	西部	◇	新規	埼玉医科大学国際医療センター	(3452) 3522	(42.9) 43.2	3818	(2322) 2620	(2632) 2845	(2013) 1349	159	8	2257
13	北部	更新	深谷赤十字病院	(1984) 1993	(20.2) 20.3	659	(439) 452	(2511) 1139	(186) 150	23	30	353	

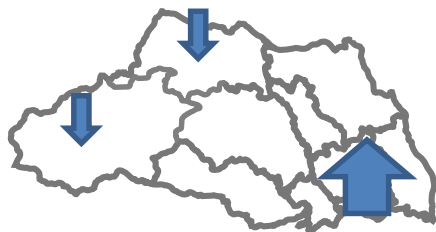
埼玉県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型)



1 埼玉県の地域特性と現状

- 人口は約727万人。（全国第5位）
- 平成22～27年の人口増加率は1.0%
緩やかな増加傾向。（全国第3位）
- 県内でも北部・秩父地域は人口が減少。
県南東部は人口が増加し、患者が集中。



- がんの医療圏の平均人口は、約73万人。
- 人口100万人を超える医療圏は2カ所。
（さいたま、東部）
- 今後は急速な高齢化に直面。
（全国トップクラスのスピード）
- 人口10万人当たりの医師数は160.1人。
（全国最下位）
- 県内の拠点病院数は13カ所。
- 10医療圏うち8医療圏で拠点病院を指定。

2 がん診療連携体制の整備方針

- (1) 都道府県拠点病院は、引き続き埼玉県立がんセンターとし、連携体制を維持。
- (2) がんの医療圏は2次保健医療圏の圏域と同一とする。
 - ①原則、各医療圏1カ所に拠点病院を整備。
 - ②複数の拠点病院が必要な3つの医療圏は引き続き、特性や役割を活かし、質の高いがん医療の提供を維持。
 - ③空白医療圏(利根・秩父)は、隣接医療圏の拠点病院や、県が拠点病院に準じて医療を提供できるとして指定した「埼玉県がん診療指定病院」で補填する。
 - ④地域拠点病院のうち、特に機能が高いものとして、3病院を推薦する。

3 同一医療圏に複数配置する拠点病院の役割分担

〈さいたま〉

さいたま市立病院は、当該医療圏の患者を中心に地域医療に貢献。

さいたま赤十字病院は、幅広いがん種と合併症に対応可能であり、IMRT等機器を導入し、高度な医療を提供。

自治医科大学さいたま医療センターは、利根医療圏の患者も多く受け入れ、希少がんや他の拠点病院で治療ができないがんに対応。

〈南部〉

川口市立医療センターは、公立病院として地域医療を支えながら、特に乳がんや肺がんの手術を多く実施。

済生会川口総合病院は、人材育成や、地域の医療機関との積極的な医療連携に貢献。

戸田中央総合病院は、医療圏唯一の緩和ケア病棟を有し、多くの緩和ケア外来患者に対応。

〈東部〉

春日部市立医療センターは、初診から末期がん在宅医療まで切れ目のない医療を提供し、利根医療圏のがん医療も補填。

獨協医科大学埼玉医療センターは、人口が増加する圏域南部を支えるとともに、腫瘍センターを立ち上げて組織的にがん診療を推進。

4 埼玉県の推薦への考え方

(1) 指定更新病院

ア 都道府県がん診療連携拠点病院

埼玉県立がんセンターは、がんに関する503床を有する県の中核的がん専門医療機関として、高度がん医療とがん研究を担当し、県のがん医療水準の向上に貢献してきた。

隣接医療圏からの患者も多く受け入れており、特に空白医療圏の利根医療圏からの患者を多く受け入れている。また、多くの診療科を有し、次世代ゲノムシーケンサーの導入や、希少がん等への対応など、特殊ながん医療や不採算ながん医療も行っている。

イ 地域がん診療連携拠点病院

5医療圏から9病院が今回更新を行う。通常の診療に加え、埼玉県がん診療連携協議会やがん診療連携拠点病院機能強化事業等を通して、埼玉県のがん医療提供体制の構築に貢献してきた。今後も人口が増え続け、かつ急速に高齢化が進んでいく埼玉県のがん医療提供体制の充実強化を担い、埼玉県民が等しく質の高いがん医療を受けられる体制の構築に当たり、欠かせない存在である。

同一医療圏から複数病院が指定されている医療圏は、さいたま、東部、南部医療圏である。いずれも人口が80万人を超え、人口増加傾向にある医療圏であるため、医療圏内での役割分担をした上で今後も複数指定を希望する。

(2) 新規推薦病院（高度型）

埼玉県のがん診療の更なる向上に貢献していくこととし、3医療圏から3病院を高度型で推薦する。さいたま医療圏のさいたま赤十字病院は、治療や診断体制、患者の精神的身体的ケアにバランスよく対応し、当該医療圏をけん引している。

川越比企医療圏の埼玉医科大学総合医療センターは、県内拠点病院の中で最大病床数を有し、様々な合併症のある患者に対応している。高度な医療を提供する一方、がんゲノム医療やAYA世代の妊孕性温存治療、がん教育にも力を入れている。

西部医療圏の埼玉医科大学国際医療センターは、高度ながん診療体制と国内でもトップクラスの症例数や診療実績を有する。

千葉県

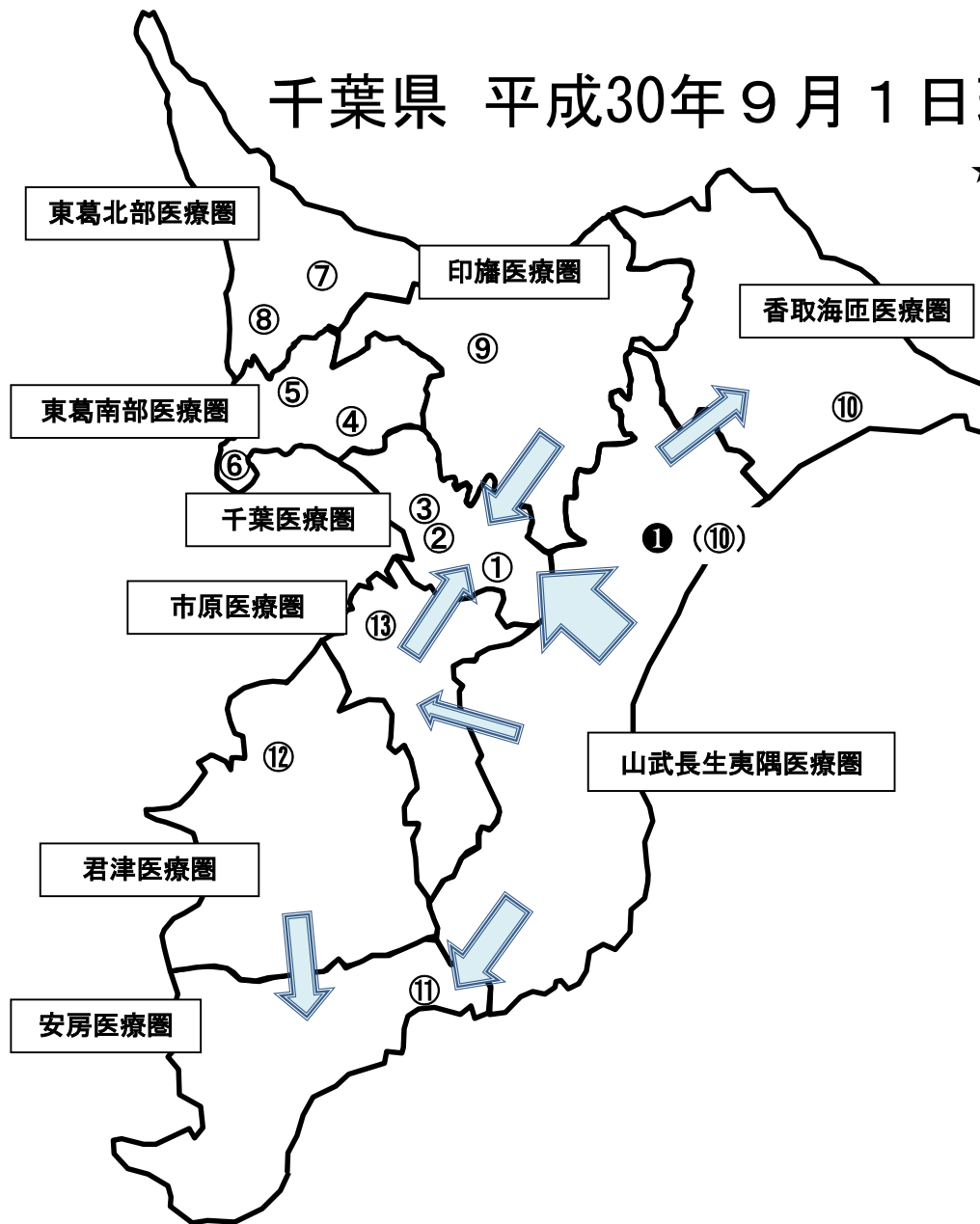
千葉県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
千葉	271.77	977,247	15.6%	3595.9	47	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0
東葛南部	253.91	1,777,383	28.4%	7000.1	61	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0
東葛北部	358.14	1,388,064	22.1%	3875.8	57	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
印旛	691.66	716,195	11.4%	1035.5	30	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
香取海匝	717.47	269,088	4.3%	375.1	21	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
山武長生夷隅	1,161.75	420,642	6.7%	362.1	23	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
安房	576.53	123,153	2.0%	213.6	16	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
君津	758.22	325,360	5.2%	429.1	19	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
市原	368.17	271,453	4.3%	737.3	13	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
									0						
計	5157.62	6268585	100.0%	17624.294	287	0	13	0	13	0	0	0	0	1	0

千葉県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点



- ① 千葉県がんセンター★ (平成30年4月1日)
- ② 千葉大学医学部附属病院 (平成27年4月1日)
- ③ (独) 国立病院機構 千葉医療センター (平成27年4月1日)
- ④ 船橋市立医療センター (平成27年4月1日)
- ⑤ 東京歯科大学市川総合病院 (平成27年4月1日)
- ⑥ (学) 順天堂 順天堂大学医学部附属浦安病院 (平成28年4月1日)
- ⑦ 東京慈恵会医科大学附属柏病院 (平成27年4月1日)
- ⑧ 松戸市立総合医療センター (平成27年4月1日)
- ⑨ (学) 日本医科大学 日本医科大学千葉北総病院 (平成27年4月1日)
- ⑩ 総合病院国保旭中央病院 (平成27年4月1日)
- ⑪ 亀田総合病院 (平成27年4月1日)
- ⑫ 国保直営総合病院 君津中央病院 (平成27年4月1日)
- ⑬ (独) 労働者健康安全機構 千葉労災病院 (平成28年4月1日)
- ①さんむ医療センター (平成28年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 千葉	★	更新	千葉県がんセンター	(6,223) 6,146	(91.6) 91.8	2,484	(1,928) 1,942	(3,180) 3,104	(634) 683	521	17	2,606
2 千葉		更新	千葉大学病院	(7,517) 5,741	(40.1) 29.5	3,924	(1,760) 2,138	(3,207) 4,292	(706) 745	211	23	11,339
3 千葉		更新	千葉医療センター	(2,721) 2,629	(29.0) 28.3	1,019	(925) 881	(2,083) 2,172	(229) 204	227	15	927
4 東葛南部		更新	船橋医療センター	(3,110) 4,049	(26.2) 33.0	1,832	(997) 1,088	(1,024) 1,149	(302) 329	117	13	1,513
5 東葛南部		更新	市川総合病院	(2,747) 2,609	(20.8) 20.2	1,172	(1,006) 809	(1,642) 1,017	(287) 286	144	10	1,212
6 東葛南部		更新	順天堂浦安病院	(3,678) 4,085	(19.8) 21.1	1,731	(937) 1,001	(1,230) 1,384	(457) 480	803	14	546
7 東葛北部		更新	慈恵大柏病院	(3,926) 4,152	(26.6) 26.8	2,094	(455) 486	(1,763) 2,497	(413) 411	173	15	1,122
8 東葛北部		更新	松戸総合医セ	(1,789) 1,435	(15.1) 12.3	818	(456) 472	(1,067) 1,582	(352) 273	65	5	653
9 印旛		更新	日医北総	(2,353) 2,634	(16.7) 17.8	1,291	(938) 1,113	(1,084) 1,481	(212) 243	248	24	1,834

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
 ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
 ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
10	香取海匝		更新	旭中央病院	(4,473) 4,466	(21.1) 21.2	2,445	(1,531) 1,631	(2,027) 1,791	(558) 613	133	52	3,919
11	安房		更新	亀田総合病院	(5,540) 5,381	(26.2) 25.3	2,504	(2,292) 2,194	(6,111) 4,369	(787) 581	190	84	1,202
12	君津		更新	君津中央病院	(2,875) 3,337	(18.9) 21.7	1,411	(936) 904	(685) 1,161	(246) 299	130	53	1,439
13	市原		更新	千葉労災病院	(1,203) 3,047	(10.8) 27.6	1,429	(788) 828	(2,857) 1,493	(147) 5,130	117	35	2,006

地域がん診療病院の診療実績等

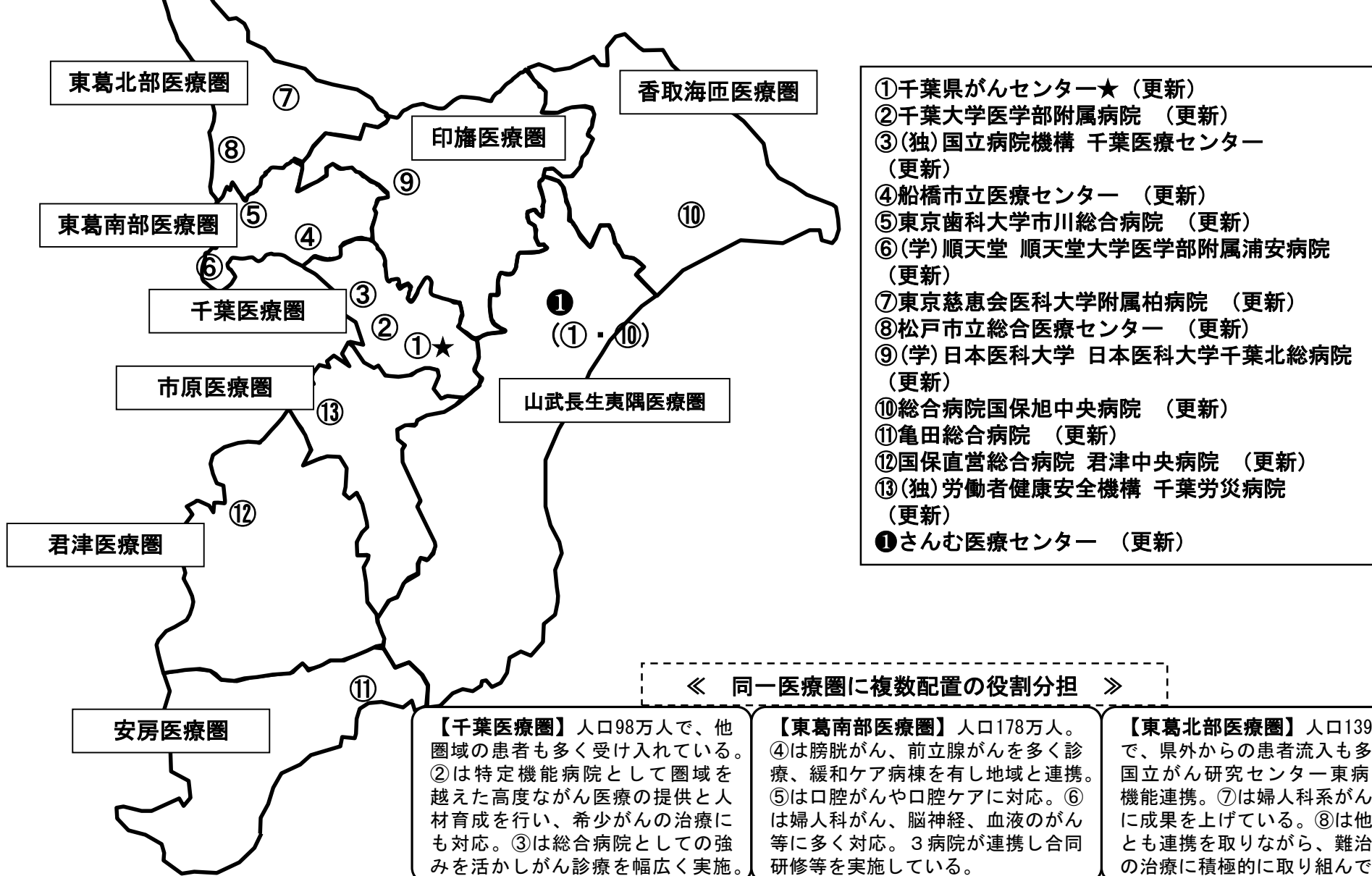
資料 3 - 2

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
①	山武長生夷隅	更新	さんむ医療センター	(607) 603	(19.3) 25.5	181	(59) 89	(370) 616	実施なし	6	261

千葉県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



今回の指定推薦等に係る千葉県の考え方

1 千葉県のがんの状況

- 昭和57年以来がんは死亡順位の第1位
- 急速に進む人口の高齢化
 - ー平成22年から15年間で
 - 全国第3位のスピードで高齢化ー

今後さらになん患者が増加
↓
がん対策への取組は重要課題

2 がん診療連携拠点病院等の整備

【基本方針】

県民の誰もが、自らが選択し、安心して納得した質の高いがん医療を、身近な地域で受けられるように整備を進める。

二次医療圏に1か所を基本に、一定人口規模（概ね人口50万人程度）単位に地域がん診療連携拠点病院を整備し機能的役割分担

【現状】・県内9つの二次医療圏のうち、8医療圏に12の地域がん診療連携拠点病院が、1医療圏に地域がん診療病院がある。

【今回】・今後の人口の高齢化予測を踏まえると、現状のがん診療連携拠点病院の確保は必須
・さんむ医療センターは、千葉県がんセンターともグループ指定を受けることにより、連携が一層進むとともに、地域のがん患者により質の高い医療が提供できる

東 京 都

東京都がんの医療圏の概要

平成30年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
区中央部	63.64	914,981	6.6%	14377.5	50	0	5	3	8	0	0	0	0	0	0
区南部	83.67	1,137,184	8.2%	13591.3	44	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0
区西南部	87.83	1,445,524	10.4%	16458.2	52	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0
区西部	67.87	1,264,421	9.1%	18630	44	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0
区西北部	113.92	1,964,481	14.2%	17244.4	96	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0
区東北部	98.21	1,350,826	9.8%	13754.5	90	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
区東部	103.83	1,475,311	10.7%	14208.9	53	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
西多摩	572.70	385,698	2.8%	673.5	30	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
南多摩	324.46	1,439,042	10.4%	4435.2	77	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
北多摩西部	90.05	649,738	4.7%	7215.3	25	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
北多摩南部	96.10	1,047,634	7.6%	10901.5	47	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0
北多摩北部	76.51	739,632	5.3%	9667.1	42	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
島しょ	406.58	25,438	0.2%	62.6	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
									0						
									0						
									0						
									0						
									0						
									0						
									0						
									0						
									0						
計	2,185.37	13,839,910	100.0%	141220	651	0	20	7	27	0	0	0	0	1	0

東京都 平成30年9月1日現在の指定状況と患者受療動向

資料2

北多摩南部

患者との連携に特色がある⑭、大学病院として人材育成の実績がある⑮、多摩地域唯一の都立総合病院である⑯が連携し、多摩地域のがん医療の充実を図る。

区西北部

圏域内人口（約192万人）、医療機関数（約1,760施設）ともに多く、⑰と⑱が連携してカバーする。

区東北部

①と都道府県拠点病院の①をグループ指定し、連携して体制を整備するとともに、患者の利便性を考慮して①と⑧が引き続きがん診療をフォローする。

区東部

圏域内の患者を多く受け入れている⑩と都道府県拠点病院の②とともに、隣接する⑨が引き続き診療をフォローする。

島しょ
(空白の医療圏)

西多摩

- ① 東京都立駒込病院★ (平成27年4月1日)
- ② 公益財団法人がん研究会有明病院★ (平成27年4月1日)
- ③ 東京慈恵会医科大学附属病院 (平成27年4月1日)
- ④ 虎の門病院 (平成27年4月1日)
- ⑤ 順天堂大学医学部附属順天堂医院 (平成27年4月1日)
- ⑥ 東京大学医学部附属病院 (平成27年4月1日)
- ⑦ 東京医科歯科大学医学部附属病院 (平成26年8月6日)
- ⑧ 日本医科大学付属病院 (平成27年4月1日)
- ⑨ 聖路加国際病院 (平成27年4月1日)
- ⑩ 東京都立墨東病院 (平成29年4月1日)
- ⑪ NTT東日本関東病院 (平成27年4月1日)
- ⑫ 昭和大学病院 (平成27年4月1日)
- ⑬ 東邦大学医療センター大森病院 (平成27年4月1日)
- ⑭ 国立病院機構東京医療センター (平成27年4月1日)
- ⑮ 日本赤十字社医療センター (平成27年4月1日)
- ⑯ 慶應義塾大学病院 (平成27年4月1日)
- ⑰ 国立国際医療研究センター病院 (平成29年4月1日)
- ⑱ 東京医科大学病院 (平成27年4月1日)
- ⑲ 帝京大学医学部附属病院 (平成27年4月1日)
- ⑳ 日本大学医学部附属板橋病院 (平成27年4月1日)
- ㉑ 青梅市立総合病院 (平成28年4月1日)
- ㉒ 東京医科大学八王子医療センター (平成27年4月1日)
- ㉓ 国立病院機構災害医療センター (平成26年8月6日)
- ㉔ 武蔵野赤十字病院 (平成27年4月1日)
- ㉕ 杏林大学医学部付属病院 (平成27年4月1日)
- ㉖ 東京都立多摩総合医療センター (平成27年4月1日)
- ㉗ 公立昭和病院 (平成28年4月1日)
- ① 東京女子医科大学東医療センター (平成27年4月1日)

区西部

緩和ケア推進に積極的な⑯感染症や合併症にも対応した特別な診療機能がある⑰先進医療の積極的な取組がある⑱が連携し、緩和ケアの普及促進、がん医療の充実、高度ながん医療の提供を図る。

区西南部

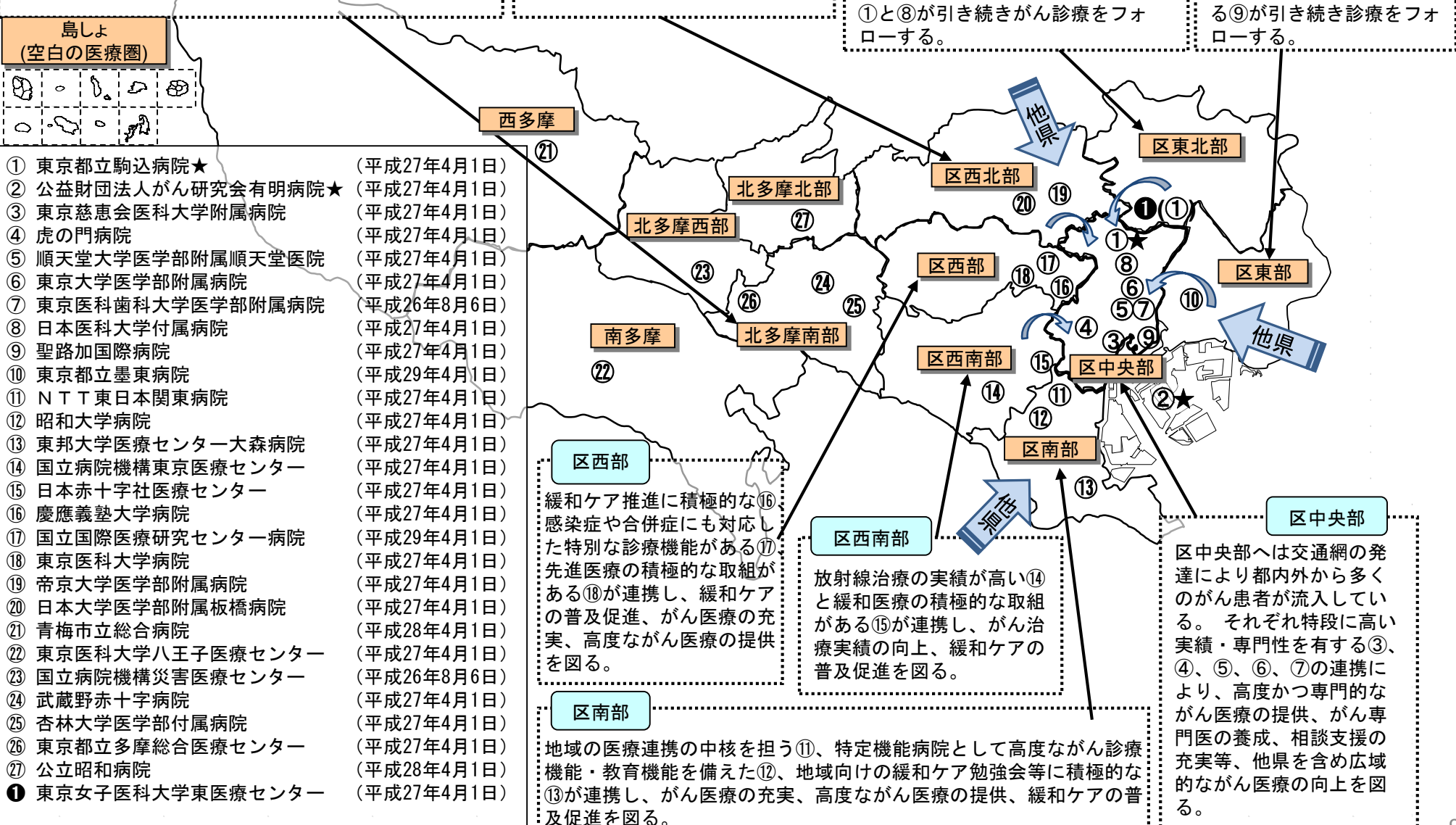
放射線治療の実績が高い⑭と緩和医療の積極的な取組がある⑮が連携し、がん治療実績の向上、緩和ケアの普及促進を図る。

区南部

地域の医療連携の中核を担う⑪、特定機能病院として高度ながん診療機能・教育機能を備えた⑫、地域向けの緩和ケア勉強会等に積極的な⑬が連携し、がん医療の充実、高度ながん医療の提供、緩和ケアの普及促進を図る。

区中央部

区中央部へは交通網の発達により都内外から多くのがん患者が流入している。それぞれ特段に高い実績・専門性を有する③、④、⑤、⑥、⑦の連携により、高度かつ専門的ながん医療の提供、がん専門医の養成、相談支援の充実等、他県を含め広域的ながん医療の向上を図る。



がん診療連携拠点病院の診療実績等について

資料3-1-①-1

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点(高度型) ◎：特定領域拠点

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍の手術件数 (年間) 400件以上	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1	区中央部	★	更新	都立駒込病院	(14762) 15324	(65.%) 64.1%	4602	(2678) 2665	(3677) 4903	(1916) 1977	315	5	13667
2	区東部	★	更新	がん研有明病院	(18059) 18825	(89.7%) 100.0%	8575	(5756) 6612	(8056) 8292	(1852) 1557	1292	1	5251
3	区中央部		更新	慈恵医大病院	(25005) 25637	(24.7%) 23.0%	2724	(1957) 1812	(2215) 2119	(982) 1051	500	19	895
4	区中央部		更新	虎の門病院	(17992) 18037	(34.2%) 32.9%	2801	(1885) 1586	(4144) 3334	(489) 567	191	3	4112
5	区中央部		更新	順天堂医院	(27234) 28674	(24.7%) 26.7%	4587	(3042) 3368	(15137) 4357	(766) 883	491	1	1305
6	区中央部		更新	東大病院	(27492) 27167	(38.%) 38.1%	2929	(2590) 2619	(8178) 8145	(1052) 1180	950	13	1044
7	区中央部	◇	新規	東京医科歯科大学病院	(18684) 20692	(28.2%) 23.9%	2308	(2940) 1517	(9680) 8071	(899) 801	322	3	1814
8	区中央部 (区東北部)	◇	新規	日本医科大学病院	(20177) 20489	(32.3%) 34.0%	2788	(2954) 1941	(1153) 2679	(499) 604	235	20	6786
9	区中央部 (区東部)	◇	新規	聖路加国際病院	(19496) 19082	(16.7%) 16.7%	2384	(1801) 1499	(1749) 1894	(750) 783	316	13	7776
10	区東部		更新	都立墨東病院	(16809) 16638	(16.3%) 19.4%	1715	(943) 834	(1242) 1222	(276) 350	261	10	742

8 日本医科大学病院は、区中央部に所在するが、区東北部を担当する。

9 聖路加国際病院は、区中央部に所在するが、区東部を担当する。

がん診療連携拠点病院の診療実績等について

資料3-1-①-2

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数 (年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
11	区南部	◇	新規	NTT関東病院	(14788) 14800	(32.6%) 32.5%	2001	(1465) 1491	(3108) 3314	(488) 525	329	9	4221
12	区南部		更新	昭和大学病院	(19658) 20417	(24.3%) 24.1%	2480	(1690) 1657	(2513) 2488	(702) 784	521	15	11658
13	区南部		更新	東邦大森病院	(21892) 22037	(23.7%) 20.5%	1984	(2482) 1953	(5393) 5905	(501) 476	304	21	345
14	区西南部	◇	新規	東京医療センター	(18030) 18161	(22.9%) 21.4%	1702	(1175) 1168	(1912) 2990	(892) 912	246	16	2227
15	区西南部		更新	日赤医療センター	(19226) 19094	(21.6%) 21.9%	1239	(1447) 1310	(2942) 2750	(973) 892	285	7	2274
16	区西部	◇	新規	慶応義塾大学病院	(24147) 24462	(23.2%) 23.6%	2800	(2394) 2744	(4041) 4663	(881) 791	488	5	6377
17	区西部		更新	国立国際医療研究センター病院	(17411) 17164	(23.4%) 4.7%	1148	(628) 850	(1802) 1871	(374) 481	359	15	1100
18	区西部		更新	東京医科大学病院	(24977) 25956	(28.5%) 28.9%	3333	(2262) 2061	(5809) 5995	(917) 998	384	14	3956
19	区西北部	◇	新規	帝京大学病院	(21156) 21559	(20.7%) 20.3%	1701	(1224) 1353	(2466) 2482	(512) 548	248	10	3207
20	区西北部		更新	日大板橋病院	(21775) 22032	(22.4%) 23.7%	2103	(1298) 1626	(3424) 2695	(569) 529	201	9	1504

がん診療連携拠点病院の診療実績等について

資料3-1-①-3

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍の手術件数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%)	相談件数 (年間)
21	西多摩	更新	青梅市立総合病院	(11148) 11256	(20.9%) 21.4%	965 500件以上	(574) 599	(860) 1194	(198) 163	80	38	1095
22	南多摩	更新	東医大八王子医療センター	(15253) 15520	(25.5%) 25.2%	1431	(1937) 1103	(1093) 1444	(329) 356	216	17	3282
23	北多摩西部	更新	災害医療センター	(10195) 11053	(19.5%) 15.9%	877	(640) 696	(1545) 1160	(210) 203	139	14	3344
24	北多摩南部	更新	武蔵野赤十字病院	(10534) 19264	(22.5%) 21.5%	2066	(1330) 1314	(2638) 3064	(416) 545	408	15	1577
25	北多摩南部	更新	杏林大学病院	(24455) 25053	(15.7%) 28.1%	2452	(1913) 1889	(6333) 2562	(1429) 1778	188	39	685
26	北多摩南部	更新	都立多摩総合医療センター	(19642) 20037	(25.8%) 22.2%	2495	(1344) 1194	(9070) 2991	(821) 741	255	13	1172
27	北多摩北部	更新	公立昭和病院	(12245) 12471	(18.4%) 18.5%	1356	(936) 945	(1135) 1106	(306) 277	139	18	2152

地域がん診療病院の診療実績について

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合 (%)	院内がん登録数 (年間)	悪性腫瘍手術総数 (年間)	のべ患者数 (年間)	のべ患者数 (年間)	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	相談件数 (年間)
①	区東北部	更新	東京女子医科大学東医療センター	(11245)	(11.7%)	877	(887)	(537)	0	103	174
				12461	18.0%		986	909	0		

東京都 平成31年度の指定推薦等と想定される患者受療動向

北多摩南部

患者との連携に特色がある⑭、大学病院として人材育成の実績がある⑮、多摩地域唯一の都立総合病院である⑯が連携し、多摩地域のがん医療の充実を図る。

区西北部

圏域内人口（約192万人）、医療機関数（約1,760施設）ともに多く、緩和ケア推進に積極的な高度型の⑰と⑱が連携してカバーする。

区東北部

①と都道府県拠点病院①をグループ指定し、連携して体制を整備するとともに、相談支援センターの取組に積極的な高度型の⑧が引き続きがん診療をフォローする。

区東部

圏域内の患者を多く受け入れている⑩と都道府県拠点病院の②とともに、隣接し緩和ケアセンターを持つ高度型の⑨が引き続き診療をフォローする。

島しょ

(空白の医療圏)



西多摩

⑲

北多摩北部

⑲

北多摩西部

⑲

南多摩

⑲

北多摩南部

⑲

区西部

緩和ケア推進に積極的な高度型の⑰、感染症や合併症にも対応した特別な診療機能がある⑰、先進医療の積極的な取組がある⑱が連携し、緩和ケアの普及促進、がん医療の充実、高度ながん医療の提供を図る。

区西南部

放射線治療の実績が高い高度型の⑱と緩和医療の積極的な取組がある⑱が連携し、がん治療実績の向上、緩和ケアの普及促進を図る。

区南部

地域の医療連携の中核を担う高度型の⑪、特定機能病院として高度ながん診療機能・教育機能を備えた⑫、地域向けの緩和ケア勉強会等に積極的な⑬が連携し、がん医療の充実、高度ながん医療の提供、緩和ケアの普及促進を図る。

他県

区東北部

区東部

区中央部

区中央部へは交通網の発達により都内外から多くのがん患者が流入している。それぞれ特段に高い実績・専門性を有する③、④、⑤、⑥、緩和ケアセンターを持つ高度型の⑦の連携により、高度かつ専門的ながん医療の提供、がん専門医の養成、相談支援の充実等、他県を含め広域的ながん医療の向上を図る。

- | | |
|--------------------|------|
| ① 東京都立駒込病院★ | (更新) |
| ② 公益財団法人がん研究会有明病院★ | (更新) |
| ③ 東京慈恵会医科大学附属病院 | (更新) |
| ④ 虎の門病院 | (更新) |
| ⑤ 順天堂大学医学部附属順天堂医院 | (更新) |
| ⑥ 東京大学医学部附属病院 | (更新) |
| ⑦ 東京医科歯科大学医学部附属病院◇ | (新規) |
| ⑧ 日本医科大学付属病院◇ | (新規) |
| ⑨ 聖路加国際病院◇ | (新規) |
| ⑩ 東京都立墨東病院 | (更新) |
| ⑪ NTT東日本関東病院◇ | (新規) |
| ⑫ 昭和大学病院 | (更新) |
| ⑬ 東邦大学医療センター大森病院 | (更新) |
| ⑭ 国立病院機構東京医療センター◇ | (新規) |
| ⑮ 日本赤十字社医療センター | (更新) |
| ⑯ 慶應義塾大学病院◇ | (新規) |
| ⑰ 国立国際医療研究センター病院 | (更新) |
| ⑱ 東京医科大学病院 | (更新) |
| ⑲ 帝京大学医学部附属病院◇ | (新規) |
| ⑲ 日本大学医学部附属板橋病院 | (更新) |
| ⑲ 青梅市立総合病院 | (更新) |
| ⑲ 東京医科大学八王子医療センター | (更新) |
| ⑲ 国立病院機構災害医療センター | (更新) |
| ⑲ 武蔵野赤十字病院 | (更新) |
| ⑲ 杏林大学医学部付属病院 | (更新) |
| ⑲ 東京都立多摩総合医療センター | (更新) |
| ⑲ 公立昭和病院 | (更新) |
| ⑲ 東京女子医科大学東医療センター | (更新) |

高度型の推薦基準

都では、外部の有識者や患者代表等で構成される選考委員会を開催し、以下の基準で高度型に推薦する病院を選定した。

- 1 平成30年9月1日時点で、「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」（以下「指針」という。）に定められた「指定要件」（必須要件）を満たしていること（指針Ⅷ2）。
- 2 指針に定められた「指定要件」（原則要件）を満たしていること。
- 3 高度型の推薦にあたっては、以下について確認の上、選考する（指針Ⅱ8）。
 - （1）指針Ⅱ1～7において「望ましい」とされる要件を複数満たしている
 - （2）診療実績が当該医療圏において最も優れている
 - （3）高度な放射線治療を提供できる
 - （4）緩和ケアセンターに準じた緩和ケアの提供体制を整備している
 - （5）相談支援センターに看護師等の医療従事者を配置し、相談支援業務の強化が行われている
 - （6）医療に係る安全管理体制について第三者による評価を受けているか、外部委員を含めた構成員からなる医療安全に関する監査を目的とした監査委員会を整備している
- 4 高度型の選定に当たり、以下の順番で要件の充足状況を確認した。
 - （1）「望ましい」とされる要件の数を比較（特定機能病院分を除く）
 - （2）診療実績の数を比較（4（1）で決まらない場合）

神奈川県

神奈川県県がんの医療圏の概要

平成30年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
横浜	437.56	3,740,367	40.7%	8548.24	134		8		8						
川崎北部	64.28	656,757	7.2%	10217.13	19		1		1						
川崎南部	78.72	859,583	9.4%	10919.50	20		2		2						
相模原	328.91	722,879	7.9%	2197.80	37		2		2						
横須賀・三浦	206.86	702,533	7.7%	3396.18	29		1		1						
湘南東部	118.6	721,100	7.9%	6080.10	24		1		1						
湘南西部	253.4	585,264	6.4%	2309.64	22		1		1						
県 央	292.75	850,162	9.3%	2904.05	32		1		1						
県 西	635.09	341,021	3.7%	536.96	23		1		1						
計	2416.17	9,179,666	100.0%	47109.61	340	0	18	0	18	0	0	0	0	0	0

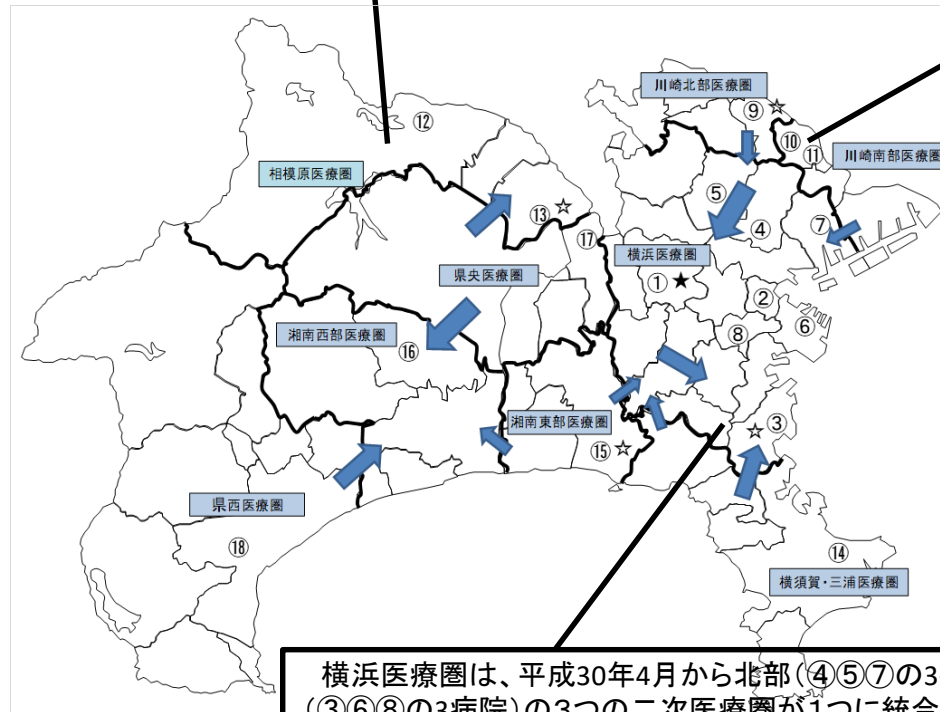
神奈川県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ☆:特定機能病院

- ①★神奈川県立がんセンター
(平成27年4月1日)
- ②横浜市立市民病院 (平成27年4月1日)
- ③☆横浜市立大学附属病院
(平成27年4月1日)
- ④横浜労災病院 (平成27年4月1日)
- ⑤昭和大学横浜市北部病院
(平成27年4月1日)
- ⑥横浜市立みなと赤十字病院
(平成27年4月1日)
- ⑦済生会横浜市東部病院
(平成26年8月6日)
- ⑧横浜市立大学附属市民総合医療センター
(平成26年8月6日)
- ⑨☆聖マリアンナ医科大学病院
(平成27年4月1日)
- ⑩川崎市立井田病院 (平成28年4月1日)
- ⑪関東労災病院 (平成28年4月1日)
- ⑫相模原協同病院 (平成27年4月1日)
- ⑬☆北里大学病院 (平成27年4月1日)
- ⑭横須賀共済病院 (平成27年4月1日)
- ⑮藤沢市民病院 (平成27年4月1日)
- ⑯☆東海大学医学部附属病院
(平成27年4月1日)
- ⑰大和市立病院 (平成27年4月1日)
- ⑱小田原市立病院 (平成28年4月1日)

相模原医療圏は、特定機能病院である⑬☆が、圏域を越えた患者を対象とした高度ながん医療の提供や診療支援、研修会等を実施し、⑫が、地域の患者へのがん医療の提供や地域の医療従事者への研修会等を実施する。

川崎南部医療圏は、⑩が「緩和ケア」を軸とした「在宅ケア」「地域連携」に力を注ぎ、⑪が多くの入院患者の受入れ、地域のニーズに合わせた幅広い取り組みを行うことで、圏域内のがん診療が量・質ともに向上する。



横浜医療圏は、平成30年4月から北部(④⑤⑦の3病院)・西部(②)・南部(③⑥⑧の3病院)の3つの二次医療圏が1つに統合された。

申請当時、北部及び南部に各3病院が必要であったとした理由は次のとおりである。

北部二次医療圏は 労災病院である④、大学の附属病院である⑤、総合病院で高度ながん医療に力を注いでいる⑦が機能的に役割分担をすることで、圏域内のがん診療が、量・質ともに向上するため。

南部二次医療圏は、特定機能病院である③☆が、圏域を越えた高度ながん医療を提供し、圏域唯一の緩和ケア病棟を有する⑥と当該医療圏の診療実績が最も多い⑧が連携することで、圏域内の患者が身近な地域でがん診療を受けられるため。

がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター	
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)	
1	横浜	★	更新	県立がんセンター	(10735) 10515	(91.5) 96.9	3555	(4172) 3566	(4954) 5096	(1221) 1172	80	21	9157
2			更新	横浜市立市民病院	(3322) 4152	(19.0) 23.4	2039	(1063) 1072	(1164) 1081	(408) 439	63	10	1240
3			更新	横浜市大附属病院	(4009) 4815	(28.3) 32.5	2525	(2032) 1899	(2048) 2903	(714) 641	196	11	7458
4			新規	横浜労災病院	(3160) 3802	(16.8) 20.3	2450	(804) 2134	(1125) 1979	(1050) 973	164	16	904
5			更新	横浜市北部病院	(4759) 5688	(25.8) 30.6	1705	(1123) 1088	(1952) 1310	(355) 319	90	22	514
6			更新	みなと赤十字病院	(2197) 2030	(13.8) 12.6	1289	(848) 868	(1264) 1371	(312) 352	176	7	7474
7			更新	横浜市東部病院	(3059) 3101	(16.6) 17.1	1627	(1176) 1114	(970) 1281	(767) 453	58	14	1631
8			更新	市大附属市民総合医療センター	(4754) 4918	(25.9) 26.0	2345	(2493) 2846	(2733) 1721	(522) 405	213	12	580
9	川崎北部		更新	聖マリアンナ病院	(4635) 4564	(20.6) 20.0	1654	(1920) 1808	(4968) 4530	(863) 785	272	23	1895

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

★：都道府県拠点

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

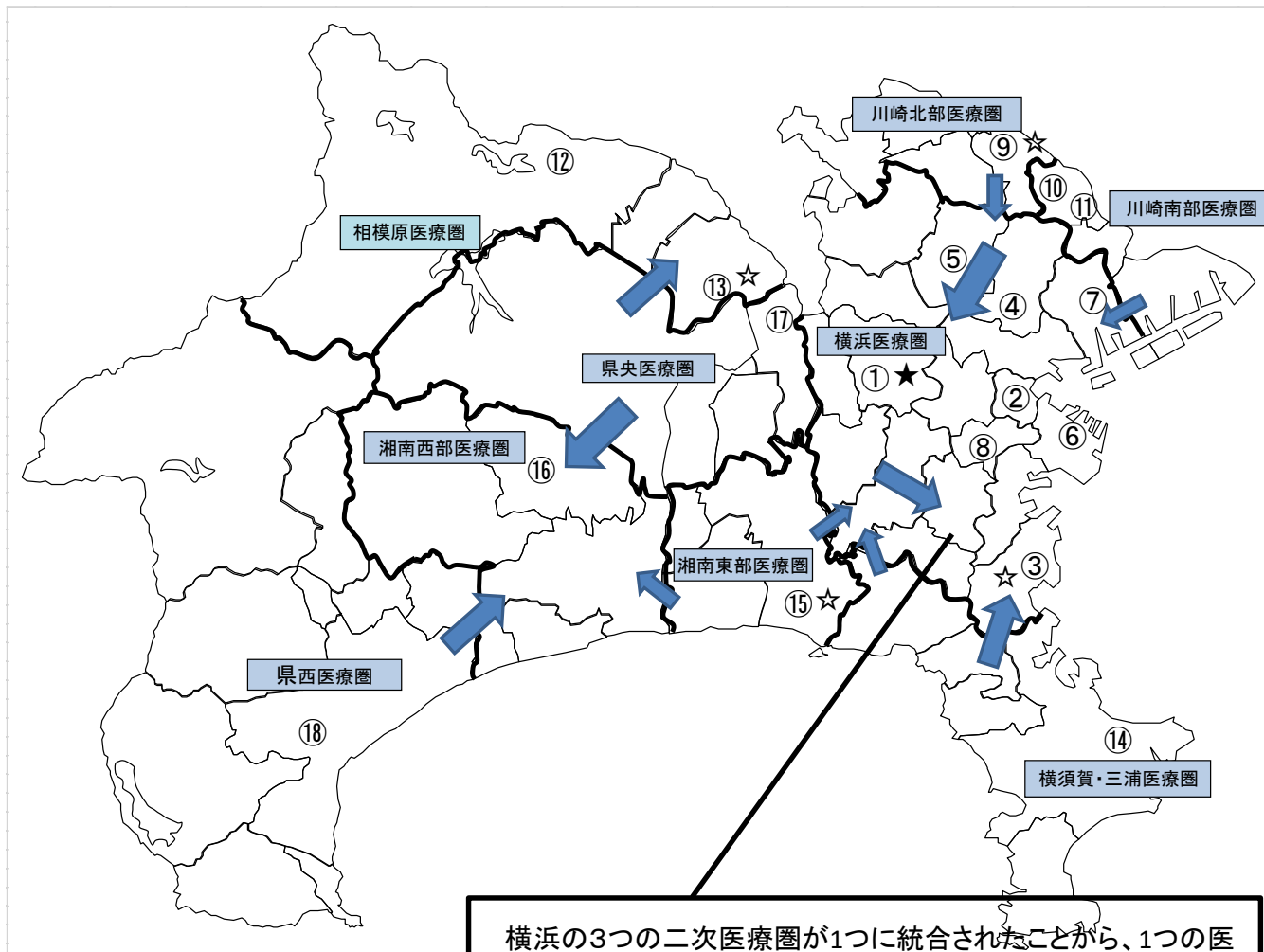
	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
					年間新 入院がん 患者数	年間新入 院患者数 に占める がん患者 の割合 (%)							
10	川崎南部		更新	川崎市立井田病院	(1684) 1587	(26.6) 22.4	805	(455) 502	(1695) 1481	(252) 250	353	5	4242
11			更新	関東労災病院	(2456) 2506	(15.3) 16.1	1213	(613) 613	(1515) 1219	(224) 236	60	11	884
12	相模原		更新	相模原協同病院	(2388) 2441	(20.8) 21.4	1111	(694) 639	(1043) 1018	(587) 234	200	16	3706
13			更新	北里大学病院	(7924) 7739	(30.2) 28.8	3246	(2718) 2945	(2227) 5121	(1383) 1299	237	30	5975
14	横須賀・三浦		更新	横須賀共済病院	(4258) 4198	(20.9) 20.2	2191	(1242) 1460	(2543) 2887	(253) 222	140	34	785
15	湘南東部		更新	藤沢市民病院	(3263) 2008	(22.1) 22.2	1612	(936) 1367	(630) 719	(156) 258	138	18	1118
16	湘南西部		更新	東海大学医学部付属病院	(7431) 6720	(33.4) 30.8	3482	(1882) 1913	(3990) 8155	(1031) 1109	194	25	5874
17	県央		更新	大和市立病院	(2015) 2066	(20.2) 20.3	963	(513) 524	(1201) 1228	(211) 195	77	22	2959
18	県西		更新	小田原市立病院	(1509) 2666	(14.1) 24.2	848	(774) 697	(4968) 1346	(863) 224	135	50	379

神奈川県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4

★: 都道府県拠点 ☆: 特定機能病院

- ①★神奈川県立がんセンター（更新）
- ②横浜市立市民病院（更新）
- ③☆横浜市立大学附属病院（更新）
- ④横浜労災病院（更新）
- ⑤昭和大学横浜市北部病院（更新）
- ⑥横浜市立みなと赤十字病院（更新）
- ⑦済生会横浜市東部病院（更新）
- ⑧横浜市立大学附属市民総合医療センター（更新）
- ⑨☆聖マリアンナ医科大学病院（更新）
- ⑩川崎市立井田病院（更新）
- ⑪関東労災病院（更新）
- ⑫相模原協同病院（更新）
- ⑬☆北里大学病院（更新）
- ⑭横須賀共済病院（更新）
- ⑮藤沢市民病院（更新）
- ⑯☆東海大学医学部附属病院（更新）
- ⑰大和市立病院（更新）
- ⑱小田原市立病院（更新）



横浜の3つの二次医療圏が1つに統合されたことから、1つの医療圏に7つ（都道府県拠点病院を除く）の拠点病院が存在することになった。しかし、約374万人の人口を有する横浜市内において、がん患者が身近な地域で高度ながん治療を受けられる体制を整備するためには、少なくとも7つの拠点病院は必要である。今後は、がん医療圏のあり方について検討していきたい。

神奈川県のがん診療連携拠点病院整備の考え方

1 現在のがん診療連携拠点病院の整備状況

【都道府県がん診療連携拠点病院】 県立がんセンター

【地域がん診療連携拠点病院】

県内9の二次医療圏に17病院整備(空白医療圏なし)

※ 横浜の二次医療圏が3つから1つに変更したことから、1つの医療圏に地域がん診療連携拠点病院が7病院存在することになった。

2 神奈川県状況を踏まえた整備方針

- (1) 県立がんセンターを中心に、拠点病院が連携・協力し、本県のがん医療の充実を推進する。
- (2) 特定機能病院である地域がん診療連携拠点病院4カ所を分散配置し、がん診療に携わる人材の育成や先端的治療を推進する。
- (3) 本県の中でも人口が集中する大都市部では、二次医療圏の人口が多いことから、がん患者が身近な地域で高度ながん医療を受けられるよう、複数の拠点病院を整備する必要がある。

そのため、今回、横浜市内の二次医療圏は、3つから1つになったが、既存の7つの病院を継続して拠点病院として推薦する。

新潟県

新潟県 がんの医療圏※1 の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
下越(※2)	2,319.7	204,534	9.0%	88.17	17		1		1		0		0
新潟	2,223.6	902,426	40.2%	405.85	50		3		3		0		0
県央(※2)	733.6	220,519	9.7%	300.60	10		0		0		0		0
中越	1,637.4	437,295	19.5%	267.07	19		2		2		0		0
魚沼(※2)	2,649.0	161,469	7.2%	60.95	12		0		0		0		0
上越(※2)	2,165.4	265,816	11.8%	122.76	14		2		2		0		0
佐渡(※2)	855.3	54,227	2.4%	63.40	6		0		0		1		1
計	12,584.0	2,246,286	100.0%	178.50	128	0	8	0	8	0	1	0	1

※1 新潟県のがんの医療圏は2次医療圏と一致している。

※2 「医師・歯科医師・薬剤師調査に基づく当該2次医療圏の医師数(病院の従事者)の過去3回の平均値が概ね300人を下回る二次医療圏。

新潟県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

佐渡医療圏に住むがん患者を新潟医療圏の2病院（①★、③）と連携して対応している。

佐渡医療圏

①(①★③)

下越医療圏

①★の病院は、5大がん以外のがんについて、③の病院は、希少がん等高度専門的医療について全県的に対応しており、また、新潟医療圏は人口が集中し、空白の県央医療圏からも患者が流入しているため、④の病院を含む3病院で対応している。

空白の県央・魚沼医療圏に住むがん患者にも対応するため、中越医療圏の2病院で対応している。

中越医療圏

新潟医療圏

県央医療圏
(空白の医療圏)

★: 都道府県拠点

- ① 県立がんセンター新潟病院★（平成27年4月1日）
- ② 県立新発田病院（平成28年4月1日）
- ③ 新潟大学医歯学総合病院（平成27年4月1日）
- ④ 新潟市民病院（平成28年4月1日）
- ⑤ 長岡赤十字病院（平成27年4月1日）
- ⑥ 長岡中央総合病院（平成27年4月1日）
- ⑦ 県立中央病院（平成27年4月1日）
- ⑧ 新潟労災病院（平成28年4月1日）
- ① 佐渡総合病院（平成29年4月1日）

上越医療圏

魚沼医療圏
(空白の医療圏)

上越医療圏に住むがん患者は2病院で対応するとともに、⑧の病院は、県内唯一のアスベストセンターとして全県的に対応している。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数(年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
					年間 新入院がん 患者数	年間 新入院患者数 に占めるがん 患者の割合(%)							
1	新潟	★	更新	県立がんセンター 新潟病院	(9,023) 8,996	(85.2) 84.8	3,494	(2,548) 4,338	(9,441) 1,189※1	(18,242) 994※1	242	37	18,290
2	下越		更新	県立新発田病院	(2,457) 2,359	(23.2) 22.0	1,425	(697) 777	(4,358) 4,765	(236) 229	48	55	846
3	新潟		更新	新潟大学医歯学 総合病院	(2,879) 2,994	(18.6) 19.2	2,564	(2,253) 2,928	(1,408) 1,695	(663) 637	152	9	1,899
4	新潟		更新	新潟市民病院	(4,397) 4,303	(25.9) 25.8	1,696	(1,577) 1,503	(1,357) 1,412	(311) 334	66	19	702
5	中越		更新	長岡赤十字病院	(3,791) 3,782	(26.6) 26.1	1,698	(1,032) 1,318	(1,640) 1,873	(415) 378	79	28	739
6	中越		更新	長岡中央総合病 院	(3,720) 4,075	(28.8) 31.4	1,845	(1,407) 1,296	(4,481) 6,700	(258) 271	29※2	31	359
7	上越		更新	県立中央病院	(2,792) 2,923	(24.3) 24.9	1,420	(690) 882	(8,933) 1,135※1	(399) 431	27※3	48	418
8	上越		更新	新潟労災病院※4	(891) 58	(23.1) 2.6	57	(215) 20	(404) 6	(41) 0	0	1	7

※1:患者数について、平成30年度からカウント方法が具体的に示されたため、これに基づき計上しました。

※2:平成31年度、緩和ケアの精神症状を診療する医師の招聘、放射線治療棟の増築による放射線治療の強化等により、緩和ケアチームに対する新規診療依頼数を増加させることで、要件を充足する予定です。

※3:平成31年度、院内における緩和ケアチームの周知や、スクリーニングの評価による緩和ケアの質を向上させることで、新規介入患者数を増加させ、要件を充足する予定です。

※4:新潟労災病院は、県内唯一のアスベストセンターとして、全県的に対応しています。

地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
①	佐渡	更新	佐渡総合病院	(1,040) 1,129	(17.5) 19.4	464	(197) 216	(1,065) 1,405	(1,473) 106※	29	103

※:患者数について、平成30年度からカウント方法が具体的に示されたため、これに基づき計上しました。

新潟県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

新潟医療圏の2病院（①★、③）と連携して佐渡医療圏に住むがん患者に対応するため、①の病院を推薦する。

佐渡医療圏

①(①★③)

下越医療圏

①★の病院は、5大がん以外のがんについて、③の病院は、希少がん等高度専門的医療について全県的に対応しており、また、新潟医療圏は人口が集中し、空白の県央医療圏からも患者が流入しているため、④の病院を含む3病院を推薦する。

空白の県央・魚沼医療圏に住むがん患者にも対応するため、中越医療圏の2病院を推薦する。

中越医療圏

⑤

⑥

新潟医療圏

県央医療圏
(空白の医療圏)

★：都道府県拠点

魚沼医療圏
(空白の医療圏)

上越医療圏

⑧

⑦

上越医療圏に住むがん患者は2病院で対応するとともに、⑧の病院は、県内唯一のアスベストセンターとして全県的に対応するため、2病院を推薦する。

- ① 県立がんセンター新潟病院★（更新）
- ② 県立新発田病院（更新）
- ③ 新潟大学医歯学総合病院（更新）
- ④ 新潟市民病院（更新）
- ⑤ 長岡赤十字病院（更新）
- ⑥ 長岡中央総合病院（更新）
- ⑦ 県立中央病院（更新）
- ⑧ 新潟労災病院（更新）
- ① 佐渡総合病院（更新）

1. 今回推薦に係る新潟県の考え方

- 本県におけるがん患者の受療動向及びがん医療提供体制等を踏まえ、現在指定を受けている全病院を引き続き推薦したい。
※本県におけるがん患者の受療動向については【参考1】を、がん医療提供体制については、次ページ【参考2】を参照
- 空白となっている以下の2医療圏については、引き続き、がん診療連携拠点病院等の指定を検討していく。
 - ・魚沼医療圏…県立魚沼基幹病院(H27年度開院)における受療動向や体制整備を踏まえ、指定推薦を検討。
 - ・県央医療圏…H35年度開院予定の「県立県央基幹病院」の動向を踏まえ、指定推薦を検討。

2. 同一医療圏における複数の拠点病院の指定について

(1)新潟医療圏

- 県立がんセンター新潟病院は、5大がん以外のがんについて全県的に対応しており、特に血液がん等では全国有数の診療実績
- 新潟大学医歯学総合病院は、希少がん等高度専門的医療について全県的に対応
- 政令指定都市である新潟市を含む新潟医療圏は人口が集中(90万人強・県人口の40%)し、空白の県央医療圏からも患者が流入しているため、新潟市民病院を含む3病院で対応する必要有

(2)中越医療圏

- 隣接する空白の県央・魚沼医療圏に住むがん患者にも対応するため、長岡赤十字病院及び長岡中央総合病院の2病院が必要

(3)上越医療圏

- 上越医療圏に住むがん患者は県立中央病院及び新潟労災病院の2病院で対応
- 新潟労災病院は、県内唯一のアスベストセンターとして、全県的に対応

⇒以上は、本県における患者の受療動向とも一致しており、推薦する全病院は本県のがん医療提供体制の充実・向上に必要である。

【参考1】新潟県におけるがん患者の受療動向

- 新潟医療圏は、県内で唯一全県から患者が流入している。
- 新潟医療圏では、人口が集中し、患者も多い中、同圏域内での受療率は9割を超えている。
- 空白の県央医療圏に住む患者の4割は、隣接する新潟・中越医療圏で受療している。
- 空白の魚沼医療圏に住む患者の2割は、隣接する中越医療圏で受療している。

		受療先医療機関								
		下越	新潟	県央	中越	魚沼	上越	佐渡	合計	
患者 居住 地	下越	患者数(人)	5,393	1,205						6,598
		自足率(%)	81.7%	18.3%						100.0%
	新潟	患者数	571	27,383	371	59		33		28,417
		自足率	2.0%	96.4%	1.3%	0.2%		0.1%		100.0%
	県央	患者数	14	1,967	4,583	823				7,387
		自足率	0.2%	26.6%	62.0%	11.1%				100.0%
	中越	患者数	10	408	232	12,820	36	21		13,527
		自足率	0.1%	3.0%	1.7%	94.8%	0.3%	0.2%		100.0%
	魚沼	患者数		141		1,020	3,919	35		5,115
		自足率		2.8%		19.9%	76.6%	0.7%		100.0%
	上越	患者数		114		54		8,091		8,259
		自足率		1.4%		0.7%		98.0%		100.0%
	佐渡	患者数		475					1,938	2,413
		自足率		19.7%					80.3%	100.0%

※集計対象となっているレセプトは国民健康保険、退職国保、後期高齢者医療制度の平成28年度の診療分

※二次医療圏単位で10未満の数は集計対象外となっている

【参考2】新潟県におけるがん医療提供体制

【全県レベルの機能】

- ・日本に多いがん(肺、胃、肝、大腸、乳がん)以外のがんに対応
- ・高度な診断・診療機能
- ・地域がん診療連携拠点病院等との連携による県全体のがん医療提供体制の充実・向上(県立がんセンター新潟病院)

県立がんセンター新潟病院 (県がん診療連携拠点病院)

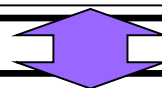
- ・5大がん以外のがんについて、全県的に対応(特に、血液がん等では全国有数の診療実績)
- ・地域がん診療連携拠点病院等との連携

新潟大学医歯学総合病院

- ・県内唯一の特定機能病院、大学病院として、5大がんを含むすべてのがんに対する治療と研究を実施

新潟労災病院

- ・県内唯一のアスベスト疾患センターとして全県の患者に対応



連携によるがん医療提供体制の充実・向上

【2次医療圏レベルの機能】

- ・日本に多いがん(肺、胃、肝、大腸、乳がん)に対応。その他、各病院が得意とするがんに対応
- ・地域のがん診療を担う病院やかかりつけ医と連携し、地域のがん医療提供体制を充実・向上

下越医療圏

【下越医療圏を1病院で対応】

県立新発田病院

- ・圏域の基幹的な医療機関
- ・圏域内の医療従事者の研修の実施等、地域のがん診療の質の向上に寄与

佐渡医療圏

【新潟医療圏と連携して対応】

佐渡総合病院

- ・佐渡島内唯一の総合病院として、がん患者の大半を診療しているがん医療の中心的病院

新潟医療圏

【新潟医療圏、県央医療圏の一部を3病院で対応】

県立がんセンター新潟病院

- ・定位照射装置、PET等で高度な医療を提供
- ・がん登録の向上に重要な役割

新潟市民病院

- ・消化器がんへの鏡視下手術は県内最多の手術数、手術の後進育成に中心的役割
- ・県内病院の緩和ケア体制整備・普及に指導的役割

新潟大学医歯学総合病院

- ・希少ながん全県的対応
- ・放射線療法・薬物療法・手術の全てで高度な治療
- ・肝疾患診療連携拠点病院

中越医療圏

【中越医療圏、県央医療圏の一部、魚沼医療圏の一部を2病院で対応】

長岡赤十字病院

- ・肺がん等で高い実績
- ・患者支援チームによる質の高いがん医療の提供

長岡中央総合病院

- ・がん予防に尽力
- ・外来薬物療法の充実

上越医療圏

【上越医療圏を2病院で対応】

県立中央病院

- ・上部消化器腫瘍に重点
- ・隣接圏域も対象に高度な放射線治療の提供

新潟労災病院

- ・県内唯一のアスベスト疾患センター
- ・わが国に多いがん全ての連携パスを整備

富山県

富山県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
新川	924	118,372	11.3%	128.11	14	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
富山	1,844	498,871	47.5%	270.54	51	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
高岡	549	306,338	29.2%	557.99	26	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
砺波	930	127,024	12.1%	136.58	16	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
計	4,247	1,050,605	100.0%	1,093.22	107	0	7	0	7	0	0	0	0	0	0

プレゼンテーション対象病院：黒部市民病院、富山労災病院



① 県立中央病院★	(平成18年8月24日)
② 黒部市民病院	(平成19年1月31日)
③ 富山労災病院	(//)
④ 富山大学附属病院	(//)
⑤ 厚生連高岡病院	(//)
⑥ 高岡市民病院	(//)
⑦ 市立砺波総合病院	(//)

★：都道府県拠点

がん診療連携拠点病院の診療実績等（新川医療圏）

（プレゼンテーション対象病院：黒部市民病院、富山労災病院）

- ・（ ）内は平成29年11月提出の数値（院内がん登録は平成27年1月～12月末の実績、手術件数、薬物療法、放射線治療は平成28年1月～12月末までの実績）
- ・下段は平成30年12月提出の数値（院内がん登録、手術件数、薬物療法、放射線治療、緩和ケアは平成29年1月～12月末までの実績）

医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
			年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 新川	更新	黒部市民病院	(1233)	(14.7)	(580)	(376)	(891)	(221)		(51)	(207)
			1235	14.5	667	433	1142	161	96	52	310
黒部市民病院の放射線治療に関する現在の状況については、資料5に記載											
2 新川	更新	富山労災病院	(738)	(20.2)	(291)	(173)	(732)	(32)		(28)	(147)
			914	23.7	384	289	938	60	61	34	171

⑤厚生連高岡病院は、高岡医療圏内のがん患者の3割強を診療する地域がん診療連携拠点病院であるとともに、県西部の中核病院として地域医療に貢献する。

⑥高岡市民病院は、同医療圏内のがん患者の2割強を診療する地域がん診療連携拠点病院であり、特有の強みである女性がんや認知症・精神疾患を有するがん患者への診療にきめ細かく対応する。

高岡医療圏

②黒部市民病院は、新川医療圏内の5割強のがん患者を診療し、当該医療圏における中核病院として地域医療に貢献する。

③富山労災病院は、同医療圏内の3割強のがん患者を診療し、北陸唯一のアスベスト疾患センターとして、悪性中皮腫の診断、治療を行う。

新川医療圏における両病院のがんの診療割合は9割近くとなっており、多くのがん患者が住み慣れた地域でがん診療を受けることができる体制となっている。

新川医療圏

⑦市立砺波総合病院は、砺波医療圏では唯一の地域がん診療連携拠点病院であり、同医療圏内のがん診療における中心的な役割を担う。

砺波医療圏

①県立中央病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として拠点病院間連携の中心的な役割を担う。

④富山大学附属病院は、特定機能病院として高度先端医療の提供やがん診療人材育成の拠点としての役割を担う。また、富山医療圏における高度な機能を有する地域がん診療連携拠点病院であることから、高度型として推薦する。

富山医療圏

- ①県立中央病院★（更新）
- ②黒部市民病院（更新）
- ③富山労災病院（更新）
- ④富山大学附属病院◇（新規）
- ⑤厚生連高岡病院（更新）
- ⑥高岡市民病院（更新）
- ⑦市立砺波総合病院（更新）

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型）

新川医療圏に

黒部市民病院は、新
富山労災病院は、北
である。

黒部市民病院

＜放射線治療に関する

H29年3月末に於

H30年1月～12月

拠点病院について

内のがん患者の半数以上を診療している地域がん診療連携拠点病院である。
アスベスト疾患センターとして、悪性中皮腫等の診断、治療を行っているがん診療連携拠点病院

状況＞

中心的役割を担ってきたがん治療認定医が退職したことに伴い、放射線実績が減少した。
放射線実績は181人であり、医療圏1つの拠点病院であるとみた場合は概ね（9割）満たしている。
では要件の200人以上となっている。さらに、直近3ヶ月間（H30.11月～H31.1月）の実績
っていることから、年間200以上を見込む。

①1月:24人、②12月:18人、③H31.1月:15人

H30年7月から、休止していた呼吸器外科入院業務を再開し※、肺がんに関しては、手術のみならず放射線科等と連携した最適な治療を実施していることから、放射線治療の実績増加へつなげる。
※常勤医師2名を確保したことにより入院業務を再開

＜特 徴＞

新川医療圏内では対応困難な血液

常勤の血液専門医を配置し、血液がんへの診療に強みを有しており、圏域内の他病院での対応が可能である。

富山労災病院

＜特 徴＞

国は、石綿による労災病院の診療体

富山労災病院は対するアスベスト

害の迅速な救済を図ることとしており、アスベスト関連疾患の中核となる医療機関として、

アスベスト疾患センターとして、一般住民からのアスベスト医療相談への対応、他の医療機関に関する指導・助言を行うことができる北陸唯一のがん診療連携拠点病院である。

アスベスト疾患センターとしての実績(H29年度)

①アスベスト/じん肺関連疾患に係る講演会等:33件、②石綿健診:477件
③じん肺健診:51件、④相談件数:66件

石川 県

石川県 がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

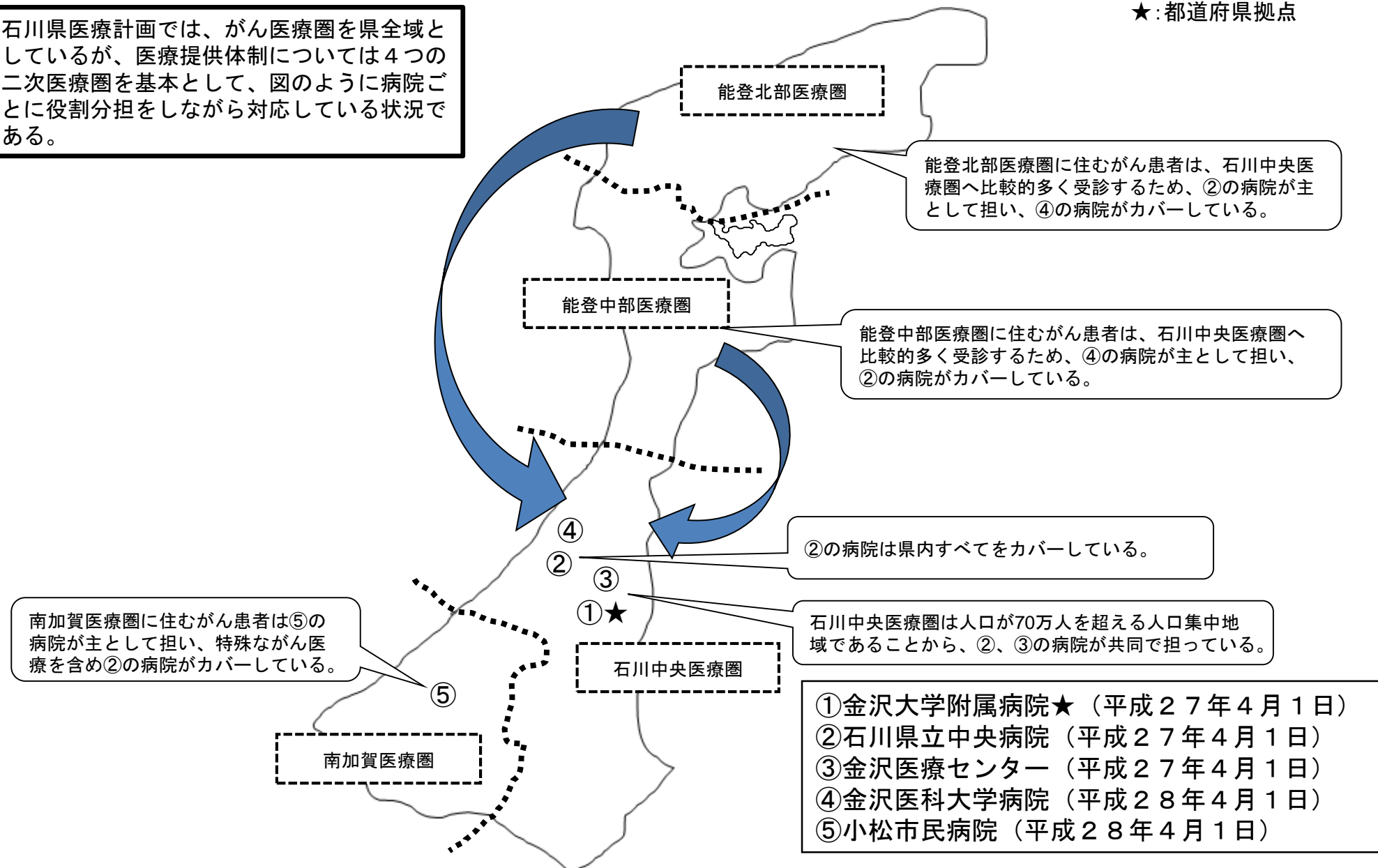
医療圏名		面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
							現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計
二次 医療圏	能登北部医療圏	1,129.99	63,483	5.6	56.2	5	0	0	0	0
	能登中部医療圏	847.91	122,518	10.7	144.5	11	0	0	0	0
	石川中央医療圏	1,432.49	729,547	63.8	509.3	58	0	4	0	4
	南加賀医療圏	775.7	227,419	19.9	293.2	21	0	1	0	1
石川県		4,186.09	1,142,967	100.0	1,003.1	95	0	5	0	5

※ 特定領域がん診療連携拠点病院及び地域がん診療病院は該当なし

石川県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点

石川県医療計画では、がん医療圏を県全域としているが、医療提供体制については4つの二次医療圏を基本として、図のように病院ごとに役割分担をしながら対応している状況である。



- ①金沢大学附属病院★（平成27年4月1日）
- ②石川県立中央病院（平成27年4月1日）
- ③金沢医療センター（平成27年4月1日）
- ④金沢医科大学病院（平成28年4月1日）
- ⑤小松市民病院（平成28年4月1日）

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・ () 内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・ 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

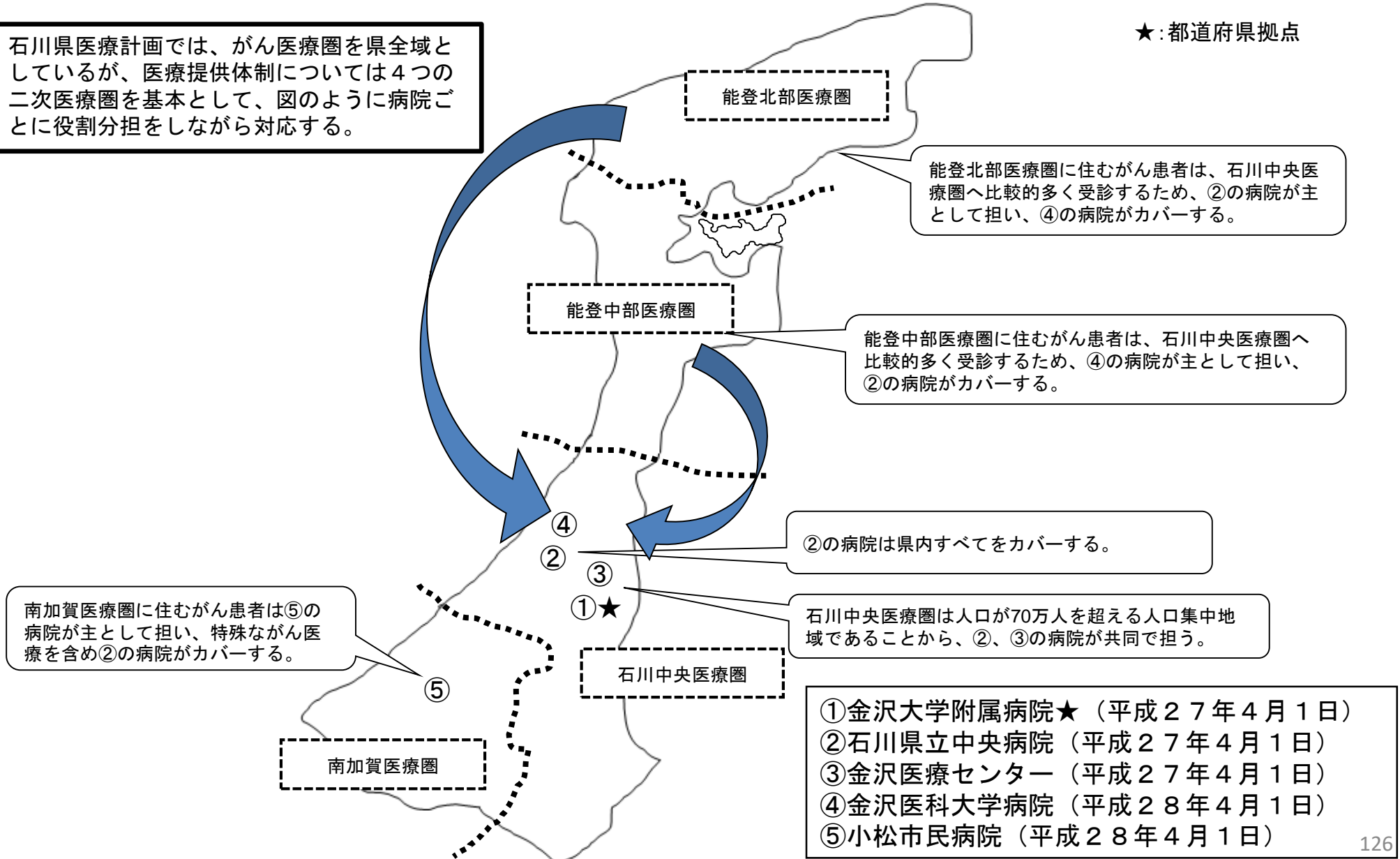
★：都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1	★	更新	金沢大学附属病院	(5,302) 5,766	(38.3) 39.4	2,381	(1,642) 1,732	(1,562) 2,751	(671) 570	136	40	3,733
2		更新	石川県立中央病院	(4,138) 4,222	(26.0) 26.4	1,909	(1,314) 1,289	(1,870) 2,240	(397) 374	302	29	1,215
3		更新	金沢医療センター	(1,860) 1,630	(15.8) 15.2	827	(462) 504	(1,659) 1,535	(219) 222	136	12	2,325
4		更新	金沢医科大学病院	(2,849) 3,088	(18.9) 20.6	1,293	(742) 780	(1,182) 1,572	(317) 368	160	21	1,960
5		更新	小松市民病院	(1,368) 1,325	(20.3) 19.4	722	(483) 462	(899) 916	(186) 168	100	37	1,410

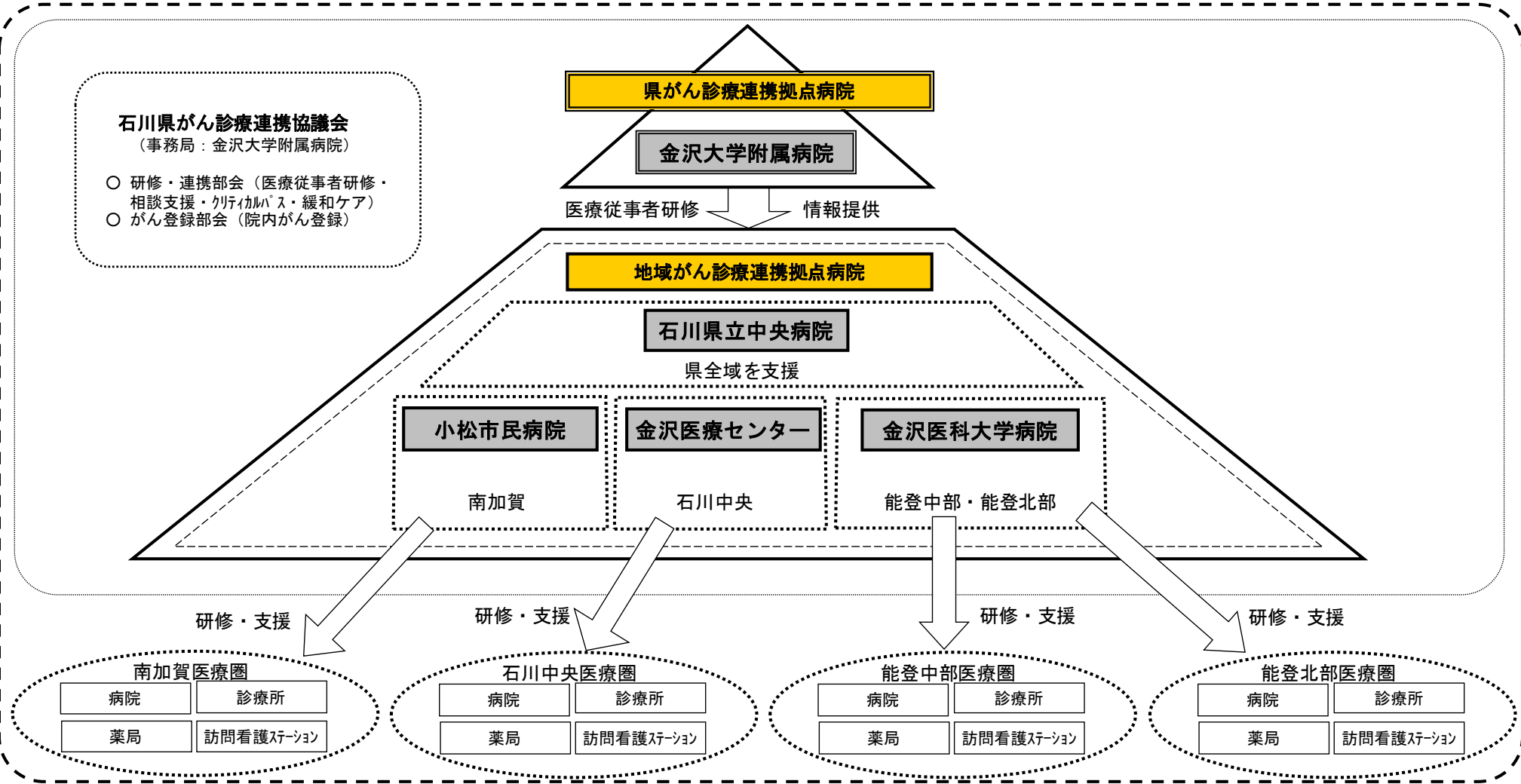
石川県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

石川県医療計画では、がん医療圏を県全域としているが、医療提供体制については4つの二次医療圏を基本として、図のように病院ごとに役割分担をしながら対応する。

★: 都道府県拠点



石川県のがん医療対策



1 本県の地域特性と整備にあたっての方針

がん診療については基本的に二次医療圏内で対応しているが、専門的で高度ながん診療については二次医療圏の枠を超えて県全域で対応している。

このため、地域がん診療連携拠点病院については4つの二次医療圏を基本として整備しているところであるが、人口も医療資源も金沢市を中心とする石川中央医療圏に集中しており、国が定める指定要件を満たす医療機関が、能登北部・能登中部医療圏には存在せず、南加賀医療圏には存在するものの、その診療レベル等は単独でがん診療の核となるには十分とは言えない状況にある。

地域がん診療連携拠点病院の整備にあたっては、各医療機関の診療レベル、スタッフを含めた体制整備の状況及び患者の受療動向等を総合的に勘案して、医療圏内に所在する医療機関に拘らず、がん診療の核となりうる複数の医療機関が役割分担をしながらがん診療を担う体制の構築を目指す。

2 県立中央病院と金沢大学附属病院の役割分担

金沢大学附属病院は、特定機能病院として、薬物療法や放射線治療などの専門部署であるがんセンターを置き、がんの集学的治療を行うとともに、地域がん診療連携拠点病院等のがん医療の中心となる医師を対象とした薬物療法、放射線治療、緩和ケア等に関する研修を行うなど、地域がん診療連携拠点病院のがん診療レベルの向上を図り、本県におけるがん診療の均てん化を進めていく役割を担う。

一方、県立中央病院は、唯一の県立総合病院であり、県内すべての地域の医療機関との間で患者の受入や紹介といった地域連携を進めているほか、積極的な診療支援を行うなど、県全域を支援する。

福井県

福井県 がんの医療圏の概要

平成30年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積(km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院		
						既指定病院 数	今回更新病院 数	計
福井・坂井	957.49	404,796	51.5%	422.8	34	2	2	2
奥越	1126.31	57,234	7.3%	50.8	6	1	1	1
丹南	1006.78	184,783	23.5%	183.5	18	1	1	1
嶺南	1099.91	139,927	17.8%	127.2	10	1	1	1
計	4190.49	786,740		187.7	68	5	5	5

福井県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

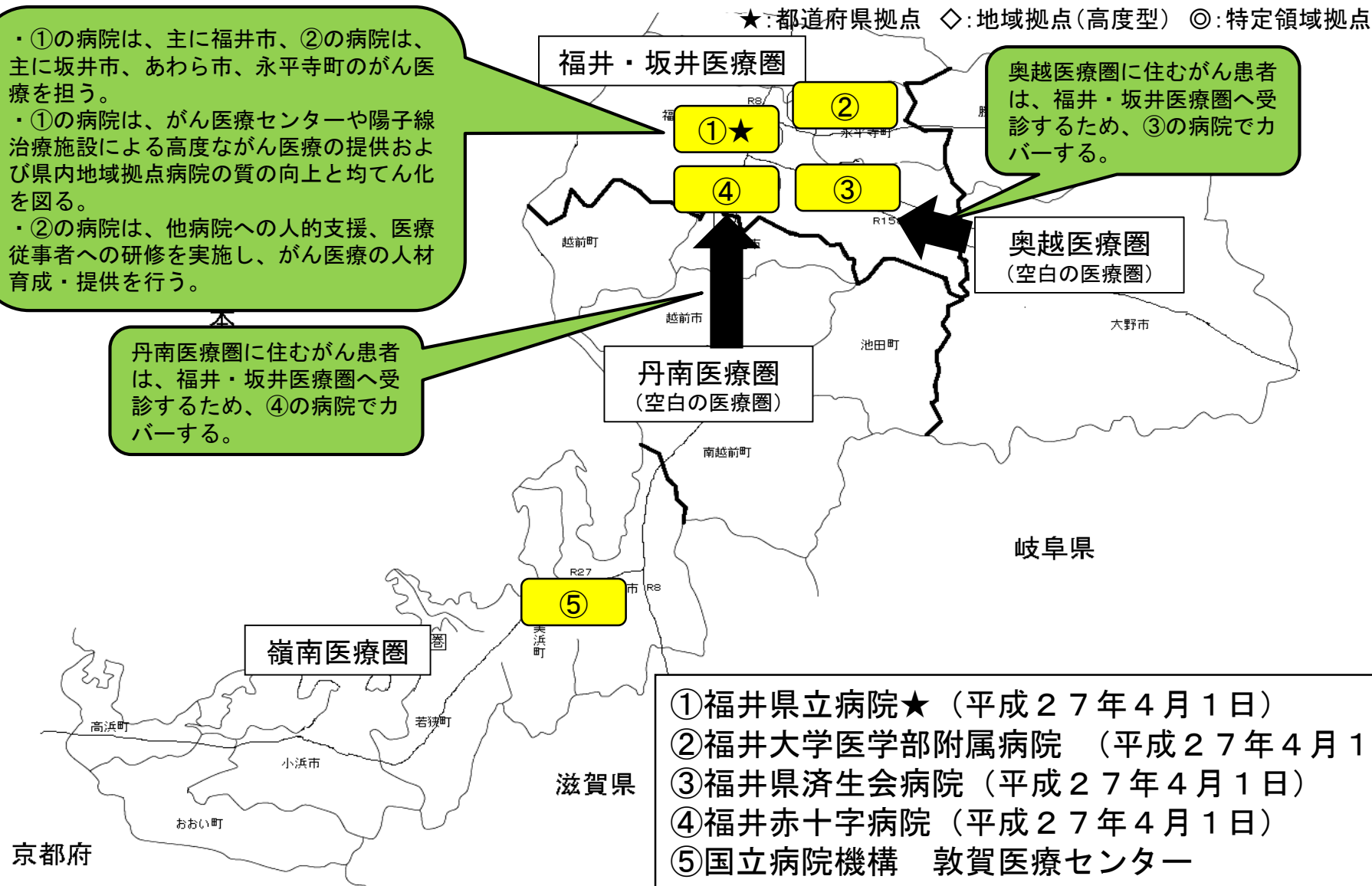
・①の病院は、主に福井市、②の病院は、主に坂井市、あわら市、永平寺町のがん医療を担う。

・①の病院は、がん医療センターや陽子線治療施設による高度ながん医療の提供および県内地域拠点病院の質の向上と均てん化を図る。

・②の病院は、他病院への人的支援、医療従事者への研修を実施し、がん医療の人材育成・提供を行う。

奥越医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、③の病院でカバーする。

丹南医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、④の病院でカバーする。



- ①福井県立病院★ (平成27年4月1日)
 ②福井大学医学部附属病院 (平成27年4月1日)
 ③福井県済生会病院 (平成27年4月1日)
 ④福井赤十字病院 (平成27年4月1日)
 ⑤国立病院機構 敦賀医療センター (平成27年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物 療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新 入院が ん患者 数	年間新入 院患者数 に占めるが ん患者の 割合(%)							
1 福井・坂井医療圏	★	更新	福井県立病院	(2,766) 2,697	(20.0) 23.5	1,346	(714) 839	(1,279) 1,308	(272) 262	283	25	682
2 福井・坂井医療圏		更新	福井大学医学部附属病院	(3,311) 3,606	(26.3) 26.3	1,458	(1,085) 1,189	(1,439) 1,625	(327) 308	408	23	1,124
3 奥越医療圏		更新	福井県済生会病院	(2,972) 3,007	(25.0) 25.6	1,331	(876) 796	(1,412) 2,017	(334) 335	283	37	1,428
4 丹南医療圏		更新	福井赤十字病院	(3,379) 3,170	(24.2) 22.8	1,193	(762) 938	(1,069) 1,320	(287) 257	65	26	2,194
5 嶺南医療圏		更新	国立病院機構敦賀医療センター	(834) 451	(35.7) 20.4	200	(85) 220	(976) 438	(341) 11	29	38	717 132

福井県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

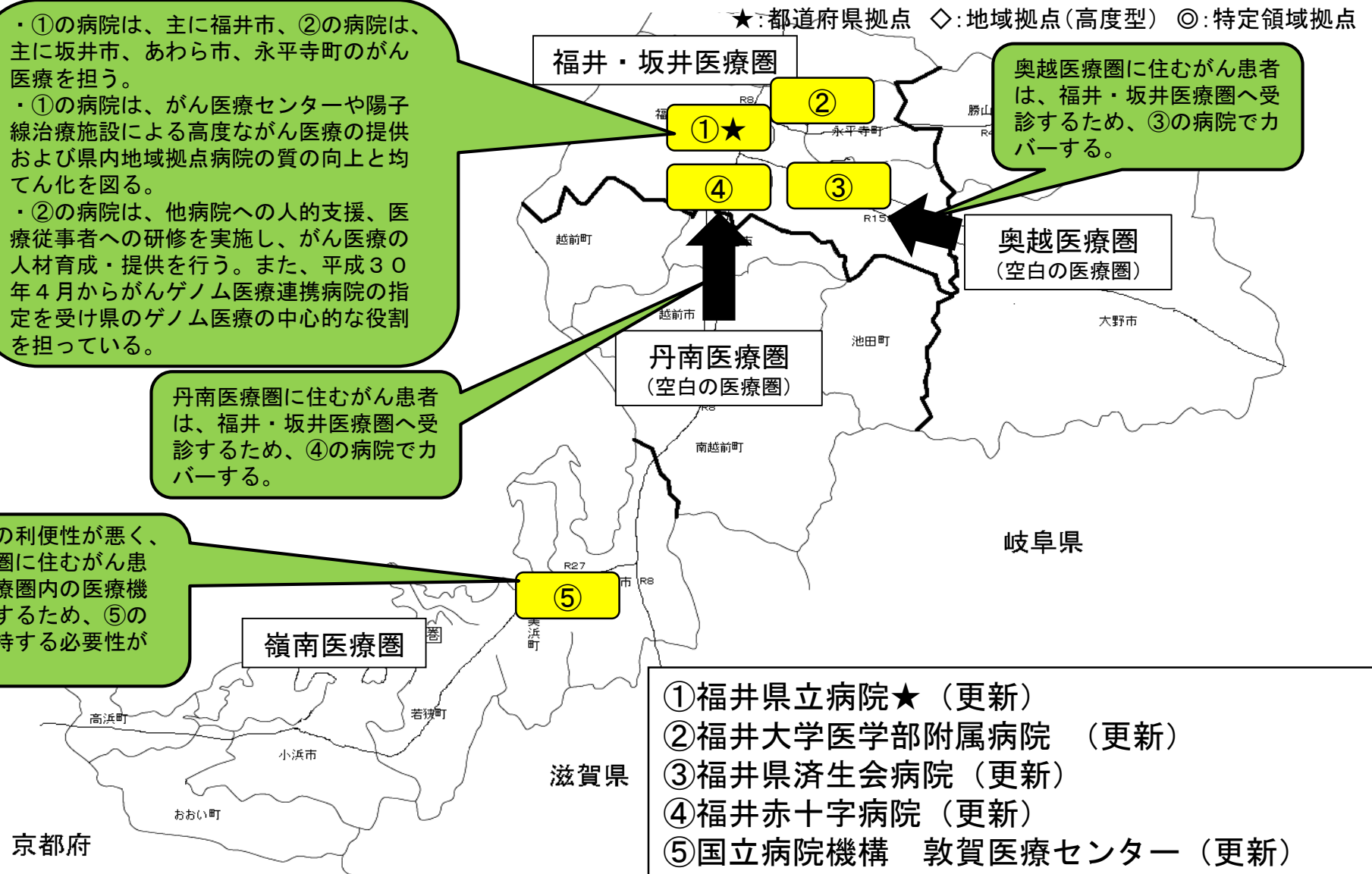
★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・①の病院は、主に福井市、②の病院は、主に坂井市、あわら市、永平寺町のがん医療を担う。
- ・①の病院は、がん医療センターや陽子線治療施設による高度ながん医療の提供および県内地域拠点病院の質の向上と均てん化を図る。
- ・②の病院は、他病院への人的支援、医療従事者への研修を実施し、がん医療の人材育成・提供を行う。また、平成30年4月からがんゲノム医療連携病院の指定を受け県のゲノム医療の中心的な役割を担っている。

奥越医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、③の病院でカバーする。

丹南医療圏に住むがん患者は、福井・坂井医療圏へ受診するため、④の病院でカバーする。

道路交通の利便性が悪く、嶺南医療圏に住むがん患者は自医療圏内の医療機関に受診するため、⑤の病院を維持する必要性が高い。



(1) がん診療連携拠点病院の整備に関する本県の基本的考え方

- ・全国でもトップクラスの健康長寿県
- ・昭和55年以降、死因の第1位ががんであり、死因の約3割を占めている。
- ・がん医療提供体制の一層の充実を図り、県内どこでも質の高いがん医療を受けることができるよう、地域のがん医療の中核を担う地域がん診療連携拠点病院を県内4つのがんの医療圏に1か所ずつ、都道府県がん診療連携拠点病院をそれとは別に1か所整備する。
- ・今回、既指定の病院が引き続き指定を受けることにより、それぞれが担当するがんの医療圏で構築された病診連携体制をさらに発展させることができる。

(2) 福井・坂井医療圏 県がん診療連携拠点病院1か所指定（福井県立病院）、地域がん診療連携拠点病院1か所指定（福井大学医学部附属病院）

●担当地域と医療機能の分担による、限られた医療資源の効果的な発展

- ・福井県立病院は主に福井市、福井大学医学部附属病院は主に坂井市、あわら市、永平寺町のがん医療を担当している。
- ・福井県立病院はがん医療センターや陽子線施設による高度ながん医療の提供やがん登録の推進および各地域がん診療連携拠点病院間の連携および地域のがん診療を行う医療機関との連携体制の構築等において中核的役割を果たしている。
- ・福井大学医学部附属病院は専門医の育成や他病院への医師派遣など県内全域におけるがん医療の人材育成・提供機能を有している。また、がんゲノム医療連携病院の指定を受け、県内で唯一がんゲノム医療の提供を行っている。

(3) 奥越医療圏、丹南医療圏 地域がん診療連携拠点病院 各1か所指定（奥越：福井県済生会病院、丹南：福井赤十字病院）

●空白の医療圏からのがん患者流入の実態を考慮した指定による受療機会の均てん化

- ・両医療圏は、地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院の指定要件を満たす病院がなく、将来的にも整備される見込みがない。
- ・各医療圏から地理的に近く、各医療圏のがん患者を多く受け入れている病院を地域がん診療連携拠点病院として指定している。

福井県済生会病院	奥越医療圏に居住するがん患者の診療実績の割合	37%
福井赤十字病院	丹南医療圏に居住するがん患者の診療実績の割合	26%

- ・福井県済生会病院は、最新の放射線治療機器であるトモセラピーを導入し高度な医療を行うとともに、ハローワークと連携したがん患者の就労支援を行うなどがん患者の支援に力を入れている。
- ・福井赤十字病院は、最新の放射線治療機器であるVero4DRTの導入し、高度な医療を行うとともに、県の地域連携クリティカルパスの整備、地域の医療機関との病診連携体制の構築において中心的な役割を担っている。

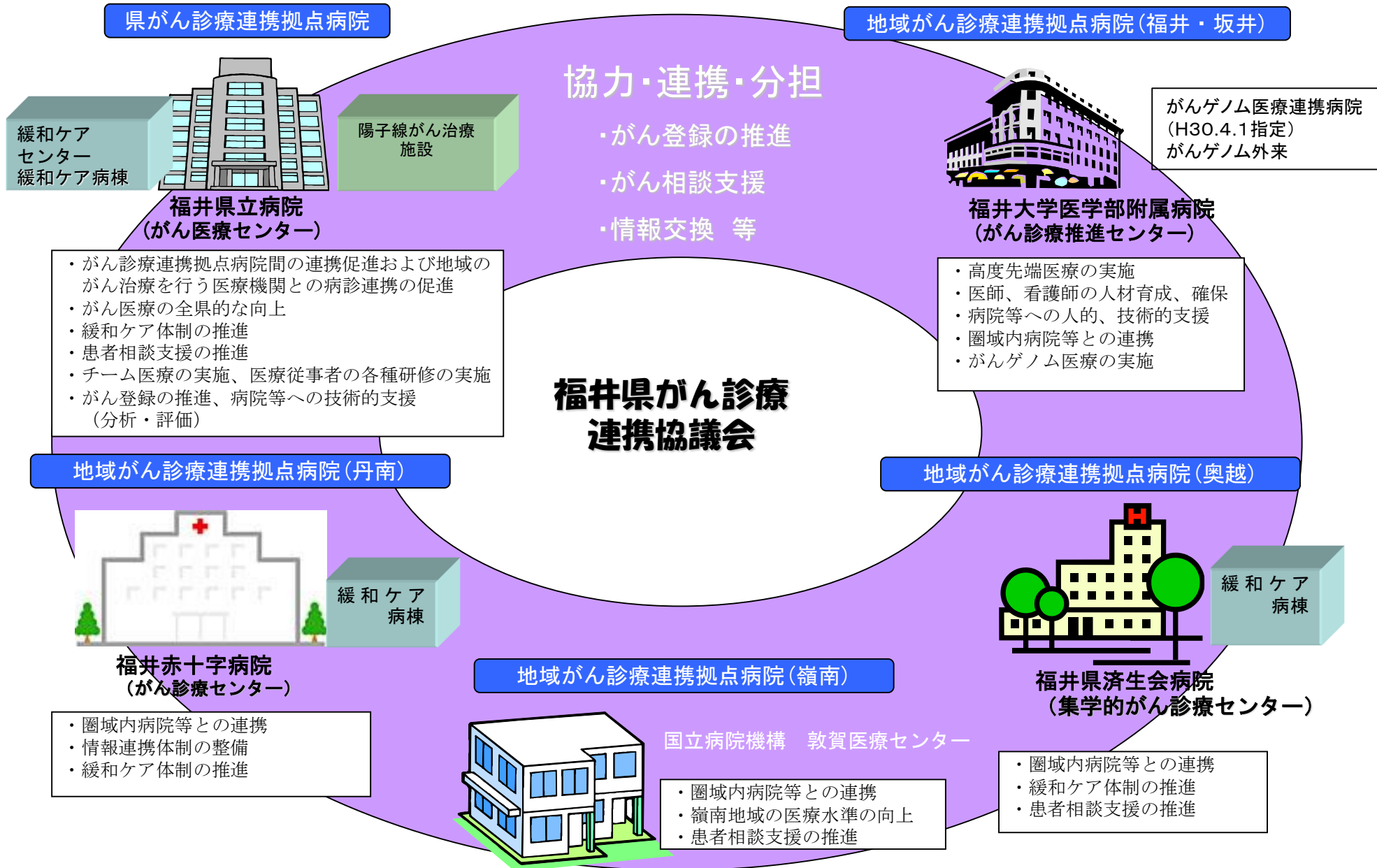
(4) 嶺南医療圏 地域がん診療連携拠点病院 1か所指定（国立病院機構敦賀医療センター）

●地元医師会や医療機関との連携による医療体制の充実

- ・東西に長い地形に加え、交通の便が悪く、他医療圏への患者の流出が少ないため、当医療圏内での拠点整備の必要性が高い。
- ・敦賀医療センターは、地元医療機関や訪問看護ステーション等と連携し、在宅緩和ケアを推進するなど、医療圏内におけるがん診療の中心的役割を担うとともに、ハローワークと連携したがん患者の就労支援にも力を入れている。
- ・福井大学医学部附属病院との連携を強化し、がん医療従事者の充実強化が見込まれる。

福井県のがん医療連携体制

資料 5-2



山 梨 県

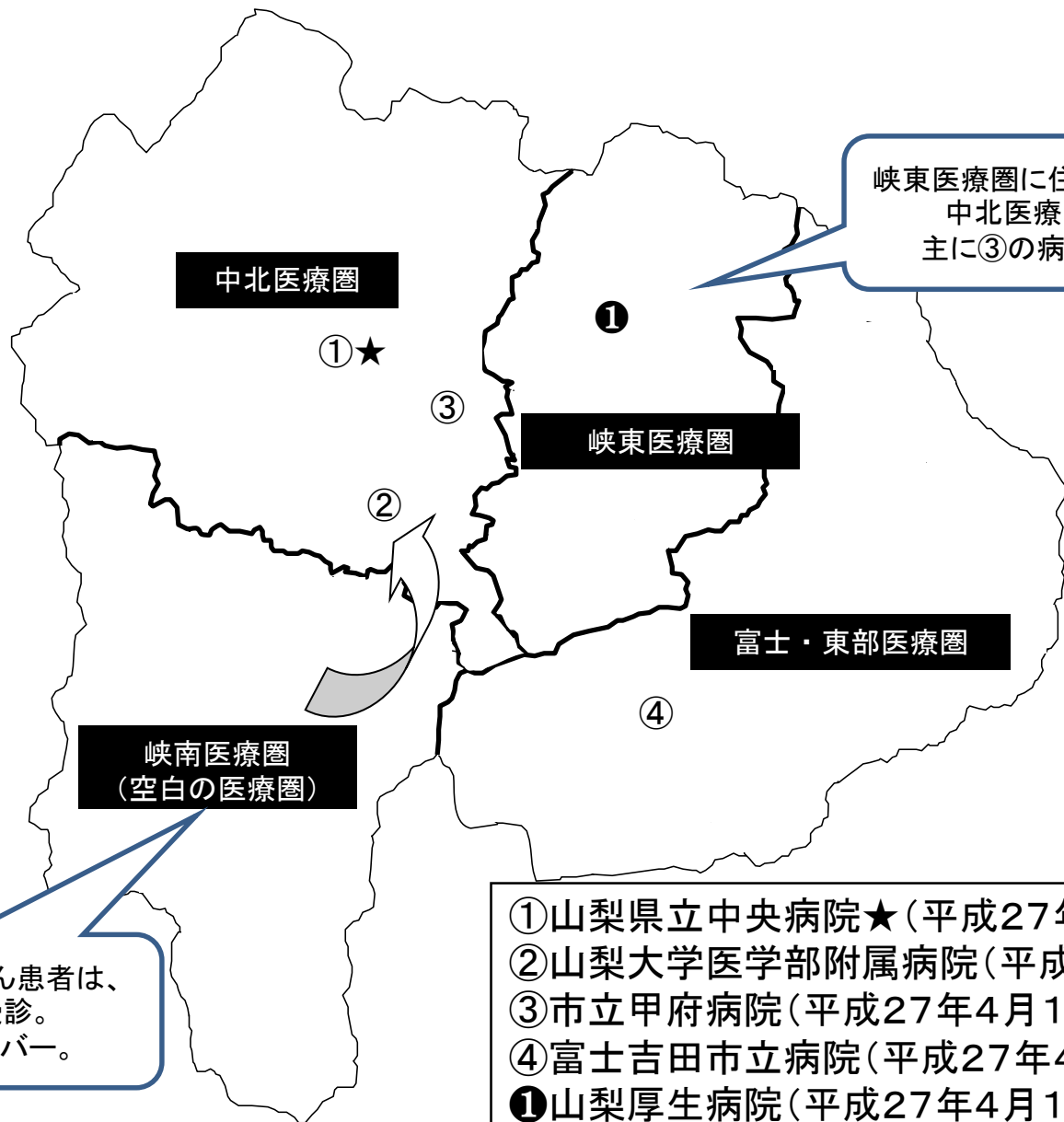
山梨県がんの医療圏の概要

平成30年10月1日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん 診療連携拠点 病院		地域がん 診療病院	
						既指定 病院数	今回更 新 病院数	計	既指 定 病院 数	計	既指 定 病院 数	計
中北医療圏	1,335.99	460,335	56.25	344.6	32	3	3	3	0	0	0	0
峡東医療圏	755.80	132,680	16.21	175.5	14	0	0	0	0	0	1	1
峡南医療圏	1,059.54	49,609	6.06	46.8	6	0	0	0	0	0	0	0
富士・東部医療圏	1,309.34	175,767	21.48	134.2	8	1	1	1	0	0	0	0
計	4,460.67	818,391	100.0	183.5	60	4	4	4	0	0	1	1

山梨県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



峡東医療圏に住むがん患者は、
中北医療圏へ受診。
主に③の病院でカバー。

峡南医療圏に住むがん患者は、
中北医療圏へ受診。
主に②の病院でカバー。

- ①山梨県立中央病院★(平成27年4月1日)
- ②山梨大学医学部附属病院(平成27年4月1日)
- ③市立甲府病院(平成27年4月1日)
- ④富士吉田市立病院(平成27年4月1日)
- ①山梨厚生病院(平成27年4月1日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

★:都道府県拠点

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数(年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数(年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住するがん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数(年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 中北	★	更新	山梨県立中央病院	(3346) 3170	(22.0) 21.5	1697	(714) 644	(5176) 8654	(438) 349	288	22	4134
2 中北		更新	市立甲府病院	(1111) 1029	(14.6) 13.6	638	(341) 370	(242) 981	(200) 219	207	10	1011
3 中北		更新	山梨大学医学部附属病院	(1988) 2187	(20.7) 21.6	2058	(1429) 1298	(1731) 2115	(596) 752	393	23	5640
4 富士・東部		更新	富士吉田市立病院	(698) 645	(10.6) 10.1	448	(207) 198	(850) 1040	(209) 140	40	28	1351

地域がん診療病院の診療実績等

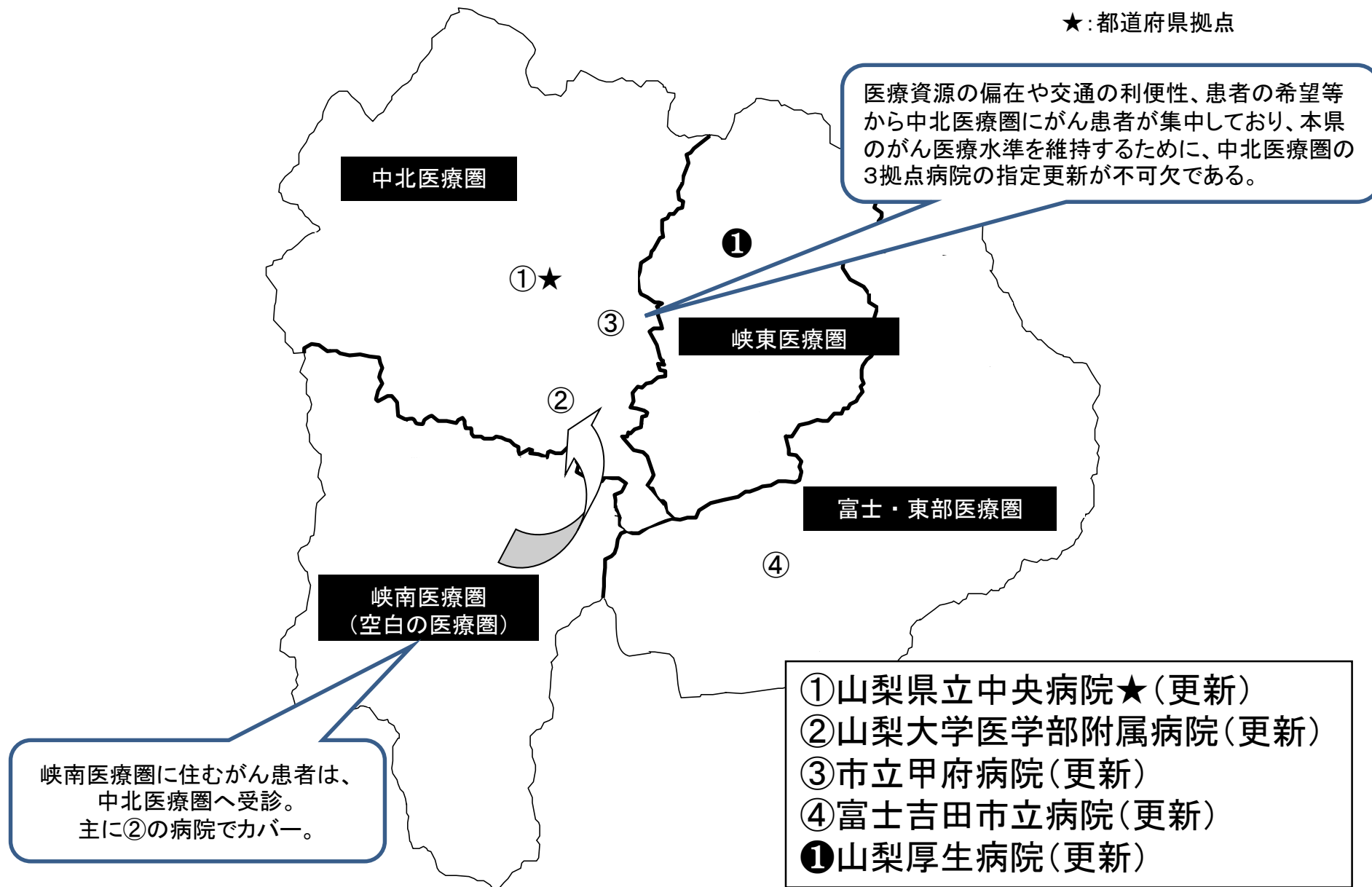
資料 3 - 2

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
			年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
① 峡東	更新	山梨厚生病院	(1006) 1051	(16.8) 17.3	485	(386) 316	(1152) 1359	実施なし	113	1110

山梨県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点

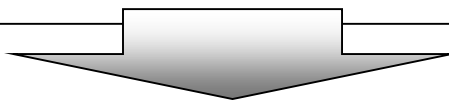


今回の指定推薦に係る山梨県の考え方

がん医療の質の向上、それぞれのがんの特性に応じたがん医療の均てん化と集約化及び効率的かつ持続可能ながん医療を実現することを目標とする。

現 状

- 高度で専門的な医療機関が、中北医療圏に集中しており、全ての医療圏において、質の高いがん医療を提供できるよう、がん医療の均てん化を図ってきた。
- 空白の医療圏となっている峡南医療圏については、中北医療圏内の拠点病院がカバーしている。



今後の方針

- **これまでどおり、4拠点病院＋1診療病院体制を維持**
- **各拠点病院等が連携・協力することにより、県全体のがん医療の充実を図っていく。**
- 今後も各拠点病院が行う診療体制の強化・充実に対して、積極的に支援し、中北医療圏と富士・東部医療圏については、自圏域内のがん医療を完結する体制を維持。
- 峡東医療圏については、地域がん診療病院である山梨厚生病院が県立中央病院と連携することで、診療機能の充実を図り、基本的是がん診療の体制を継続する。
- 峡南医療圏については、立地状況や患者の受療動向等から、今後も中北医療圏内の拠点病院でカバーする体制を継続する。

長野県

長野県 がんの医療圏の概要

平成30年 9月 1日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			計
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
佐久医療圏	1,571.62	207,001	10.0%	131.7	14		1								1
上小医療圏	905.34	194,942	9.4%	215.3	16								1		1
諏訪医療圏	715.40	195,032	9.4%	272.6	11		1								1
上伊那医療圏	1,348.28	181,731	8.8%	134.8	10		1								1
飯伊医療圏	1,929.19	157,755	7.6%	81.8	10		1								1
木曾医療圏	1,546.26	26,645	1.3%	17.2	1								1		1
松本医療圏	1,869.14	424,448	20.6%	227.1	28		2								2
大北医療圏	1,109.53	57,590	2.8%	51.9	2									1	1
長野医療圏	1,558.39	534,791	25.9%	343.2	35		2								2
北信医療圏	1,009.08	84,403	4.1%	83.6	3								1		1
計	13,562.23	2,064,338	100%	1559.2	130	0	8	0	0	0	0	0	3	1	12

長野県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

大北医療圏に住むがん患者は松本医療圏でも受診するため、主に⑤の病院でカバーしている。

患者動向について、圏域中央部から南が長野赤十字病院へ、北が長野市民病院へと、圏域内における分担がされている。



- ① 佐久総合病院佐久医療センター (平成18年8月24日)
- ② 諏訪赤十字病院 (平成18年8月24日)
- ③ 伊那中央病院 (平成21年2月23日)
- ④ 飯田市立病院 (平成19年1月31日)
- ⑤ 信州大学医学部附属病院★ (平成18年8月24日)
- ⑥ 相澤病院 (平成20年2月8日)
- ⑦ 長野赤十字病院 (平成19年1月31日)
- ⑧ 長野市民病院 (平成19年1月31日)
- ⑤-1 信州上田医療センター (平成28年4月1日)
- ⑤-2 県立木曾病院 (平成28年4月1日)
- ⑦ 北信総合病院 (平成27年4月1日)

がん診療連携拠点病院の診療実績等

資料3-1-①

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数 (年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1	佐久	更新	佐久総合病院佐久医療センター	(2,605) 2,380	(19.2) 17.9	1,669	(925) 1,168	(1,658) 1,713	(455) 484	186	66	742
2	諏訪	更新	諏訪赤十字病院	(2,531) 2,439	(22.3) 21.8	1,227	(809) 750	(1,015) 1,223	(416) 382	237	43	1,213
3	伊那	更新	伊那中央病院	(1,558) 1,425	(16.2) 15.1	752	(515) 568	(770) 658	(212) 215	136	59	791
4	飯伊	更新	飯田市立病院	(1,485) 1,952	(14.0) 18.0	1,103	(607) 603	(555) 597	(325) 320	90	36	1,546
5	松本	★更新	信州大学医学部附属病院	(4,097) 4,174	(26.1) 26.7	1,788	(1,504) 1,174	(1,769) 1,630	(744) 524	186	26	736
6	松本	更新	相澤病院	(1,868) 1,807	(15.2) 14.4	1,405	(559) 727	(1,105) 1,027	(435) 516	65	19	472
7	長野	更新	長野赤十字病院	(3,610) 3,640	(22.6) 22.5	1,500	(764) 972	(2,009) 2,119	(640) 628	280	28	2,236
8	長野	更新	長野市民病院	(3,247) 3,072	(30.3) 27.9	1,792	(1,252) 1,401	(1,210) 1,125	(610) 574	388	21	1,742

地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

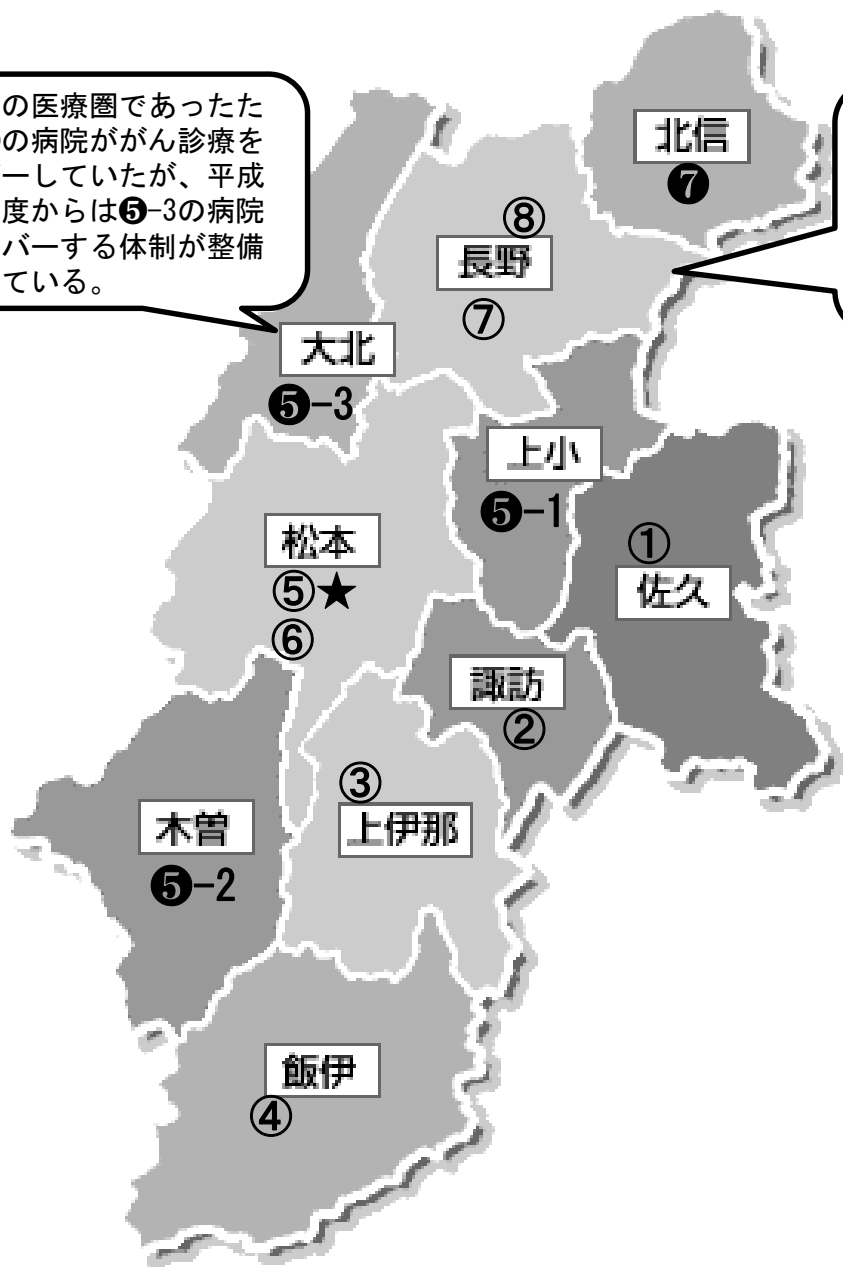
医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間)	手術件数 悪性腫瘍手術 総数 (年間)	がんに係る 薬物療法 のべ患者数 (年間)	放射線治療 (実施してい れば) のべ患者数 (年間)	緩和ケア 緩和ケアチー ムに対する新 規診療依頼数 (年間)	がん相談支援 センター 相談件数 (年間)
			年間新入院 がん患者数	年間新入院患 者数に占める がん患者の割 合 (%)						
⑤ 上田	更新	信州上田医療センター	(1,254) 1,290	(17.0) 17.7	670	(348) 378	(1,056) 641	(157) 164	54	1,456
⑤ 木曾	更新	県立木曾病院	(437) 375	(15.7) 15.1	216	(150) 99	(388) 436	(27) 29	34	858
⑤ 大北	新規	北アルプス医療センター あづみ病院	(-) 414	(-) 7.8	375	(-) 148	(-) 163	(-) -	80	195
⑦ 北信	更新	北信総合病院	(844) 871	(11.9) 11.7	555	(257) 325	(411) 393	(100) 87	26	780

長野県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

空白の医療圏であったため⑤の病院ががん診療をカバーしていたが、平成31年度からは⑤-3の病院でカバーする体制が整備されている。

患者動向について、圏域中央部から南が長野赤十字病院へ、北が長野市民病院へと、圏域内における分担がされている。



- | | | |
|-----|------------------|------|
| ① | 佐久総合病院佐久医療センター | (更新) |
| ② | 諏訪赤十字病院 | (更新) |
| ③ | 伊那中央病院 | (更新) |
| ④ | 飯田市立病院 | (更新) |
| ⑤ | 信州大学医学部附属病院★ | (更新) |
| ⑥ | 相澤病院 | (更新) |
| ⑦ | 長野赤十字病院 | (更新) |
| ⑧ | 長野市民病院 | (更新) |
| ⑤-1 | 信州上田医療センター | (更新) |
| ⑤-2 | 県立木曾病院 | (更新) |
| ⑤-3 | 北アルプス医療センターあづみ病院 | (新規) |
| ⑦ | 北信総合病院 | (更新) |

今回の指定推薦等に係る長野県の考え方

1 基本的な考え方

平成30年3月に策定した「長野県がん対策推進計画」を包括する「第2期信州保健医療総合計画」では、「第3期がん対策推進基本計画」を踏まえ、「科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」、「患者本位のがん医療の実現」、「がんになっても尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築」の実現を目指し、県民及び関係機関・団体と連携したがん対策に取り組むこととしています。

がんの医療提供体制については、本県におけるがん医療水準の均てん化を図るとともに、がん患者の居住する地域で最適ながん医療が受けられるよう、全ての2次医療圏にがん診療連携拠点病院等を整備することを目指しています。

2 推薦までの経過

本県では、「長野県がん診療連携拠点病院整備検討委員会」を設置し、がん診療連携拠点病院等の推薦の可否に関しての検討・協議を行っています。

今回、指定推薦する病院については、同委員会による書面審査及び現地調査を実施した結果、がん診療連携拠点病院の整備に関する指針による指定要件を全て満たしており、推薦が可能であるとの意見に至りました。

3 長野医療圏に2病院を推薦する理由

長野医療圏の2病院については、以下の理由により引き続き2病院の指定をお願いいたします。

- 長野医療圏は、約55万人の人口を有し長野県の人口の4分の1以上を占める。更に隣接医療圏からの流入も多い。
また、地理的な要因として、圏域の面積が広く、その多くは山間地であり、公共交通網も脆弱であるため他の医療圏での受診が困難である。
なお、隣接する上小、大北医療圏においては、がん診療連携拠点病院等が未整備となっている。
- 長野赤十字病院は血液・リンパ系、長野市民病院は泌尿器系のがんに関して県内有数の診療実績を有している。
- 2病院におけるがん患者の居住地は、圏域中央部から南が長野赤十字病院へ、北が長野市民病院へと、圏域内における分担がされている。

岐 阜 県

岐阜県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療拠点病院			特定領域がん診療 連携拠点病院		地域がん診療病院	
						既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
岐阜医療圏	992.52	794,757	39.7	800.7	42	3	3	3				
西濃医療圏	1433.37	364,223	18.2	254.1	16	1	1	1				
中濃医療圏	2454.87	368,559	18.4	150.1	18	1	1	1				
東濃医療圏	1562.82	328,126	16.4	210.0	15	1	1	1				
飛騨医療圏	4177.59	143,741	7.2	34.4	10	1	1	1				
計	10621.17	1,999,406	100.0	188.2	101	7	7	7				

岐阜県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- | | |
|------------------------------|-----------------------------|
| ①岐阜大学医学部附属病院★
(平成27年4月1日) | ②岐阜県総合医療センター
(平成27年4月1日) |
| ③岐阜市民病院 (平成27年4月1日) | ④大垣市民病院 (平成27年4月1日) |
| ⑤木沢記念病院 (平成27年4月1日) | ⑥岐阜県立多治見病院 (平成27年4月1日) |
| ⑦高山赤十字病院 (平成27年4月1日) | |

【中濃】

可茂地域（南部）と武儀・郡上地域（北部）があるが、両地域は山林で隔たれ、交通事情が悪い。武儀・郡上地域については拠点病院が遠方のため、高速道路を利用して岐阜医療圏（①～③）に受診する。

【飛騨】

面積が広大で山間僻地であり高齢化率も高い。⑦は飛騨圏域の中で高度ながん医療を提供できる唯一の医療機関であり、圏域内から多くの患者が受診する。

【岐阜】

都道府県拠点病院の①と、地域がん診療連携拠点病院の②③でがん治療をカバーしている。

（複数設置の理由）

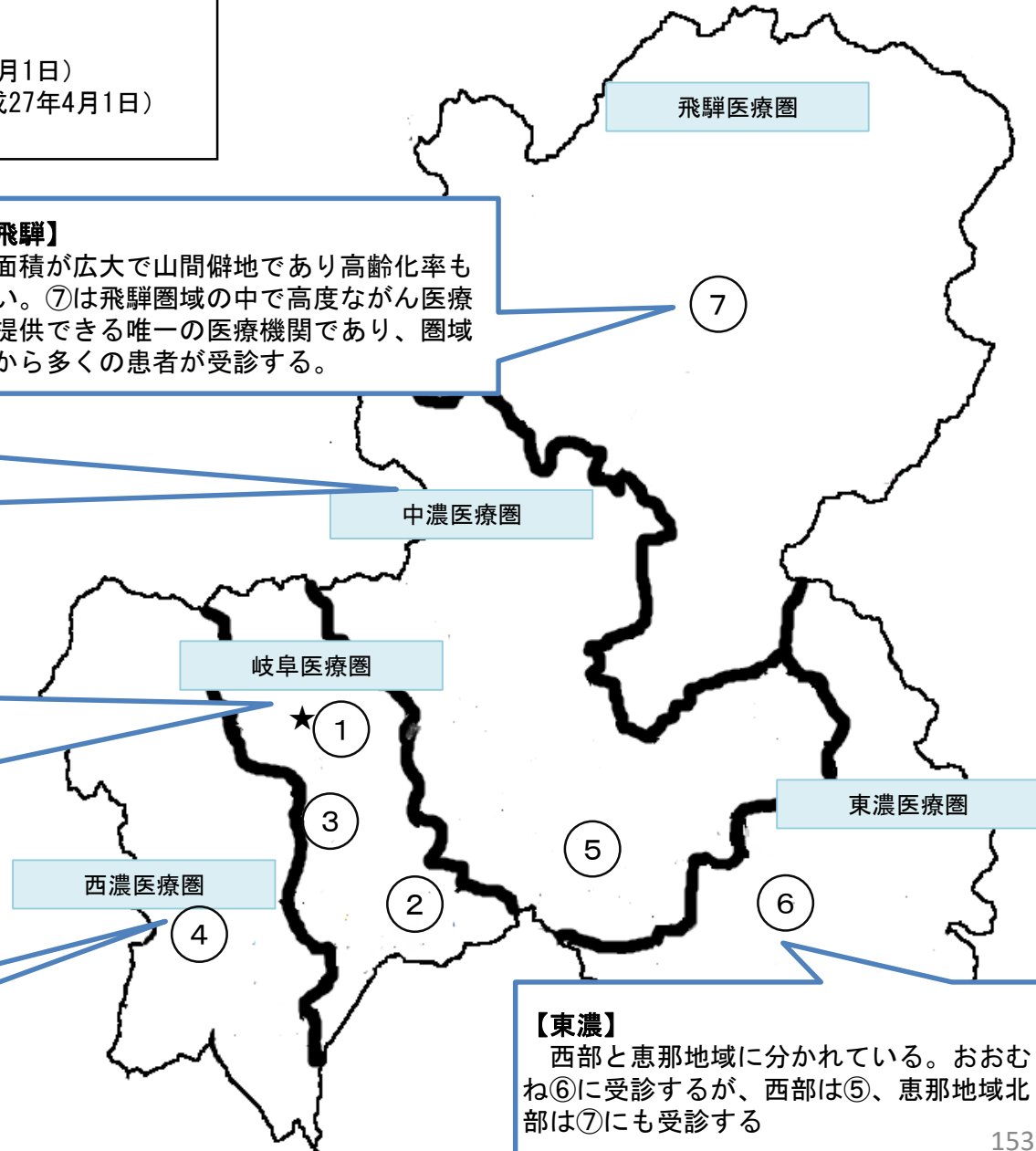
- ・ 県民の約40%が在住している人口密集地域である
- ・ ②は岐阜医療圏東部、③は西部のがん医療をカバー
- ・ 高度医療を求め他圏域からもがん患者が流入
- ・ 医療機関数も多く、医療連携体制整備・推進の観点からも複数設置が必要

【西濃】

④の所在地に向かう交通の便がよく、ほとんどが④に受診する。

【東濃】

西部と恵那地域に分かれている。おおむね⑥に受診するが、西部は⑤、恵那地域北部は⑦にも受診する



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数(年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数(年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数(年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 岐阜	★	更新	岐阜大学医学部附属病院	(6,394) 6,258	(44.0) 41.6	2,393	(1,536) 1,533	(6,166) 2,443	(633) 611	113	28	1,586
2 岐阜		更新	岐阜県総合医療センター	(2,704) 2,789	(18.2) 18.8	1,980	(1,031) 1,390	(1,215) 1,444	(328) 510	245	15	1,559
3 岐阜		更新	岐阜市民病院	(3,166) 3,758	(23.8) 29.1	1,514	(685) 832	(1,658) 1,510	(450) 428	231	26	1,634
4 西濃		更新	大垣市民病院	(3,761) 3,317	(18.5) 16.8	2,417	(1,170) 1,315	(1,599) 1,814	(482) 471	95	55	818
5 中濃		更新	木沢記念病院	(1,579) 1,702	(17.9) 17.6	848	(465) 492	(1,701) 1,613	(421) 347	68	19	355
6 東濃		更新	岐阜県立多治見病院	(2,900) 2,893	(20.8) 20.0	1,715	(702) 783	(2,935) 1,145	(398) 542	119	40	538
7 飛騨		更新	高山赤十字病院	(1,326) 1,346	(15.8) 16.2	594	(337) 416	(1,877) 1,667	(191) 246	53	37	1,013

岐阜県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

- ①岐阜大学医学部附属病院★（更新）
- ②岐阜県総合医療センター（更新）
- ③岐阜市民病院（更新）
- ④大垣市民病院（更新）
- ⑤木沢記念病院（更新）
- ⑥岐阜県立多治見病院（更新）
- ⑦高山赤十字病院（更新）

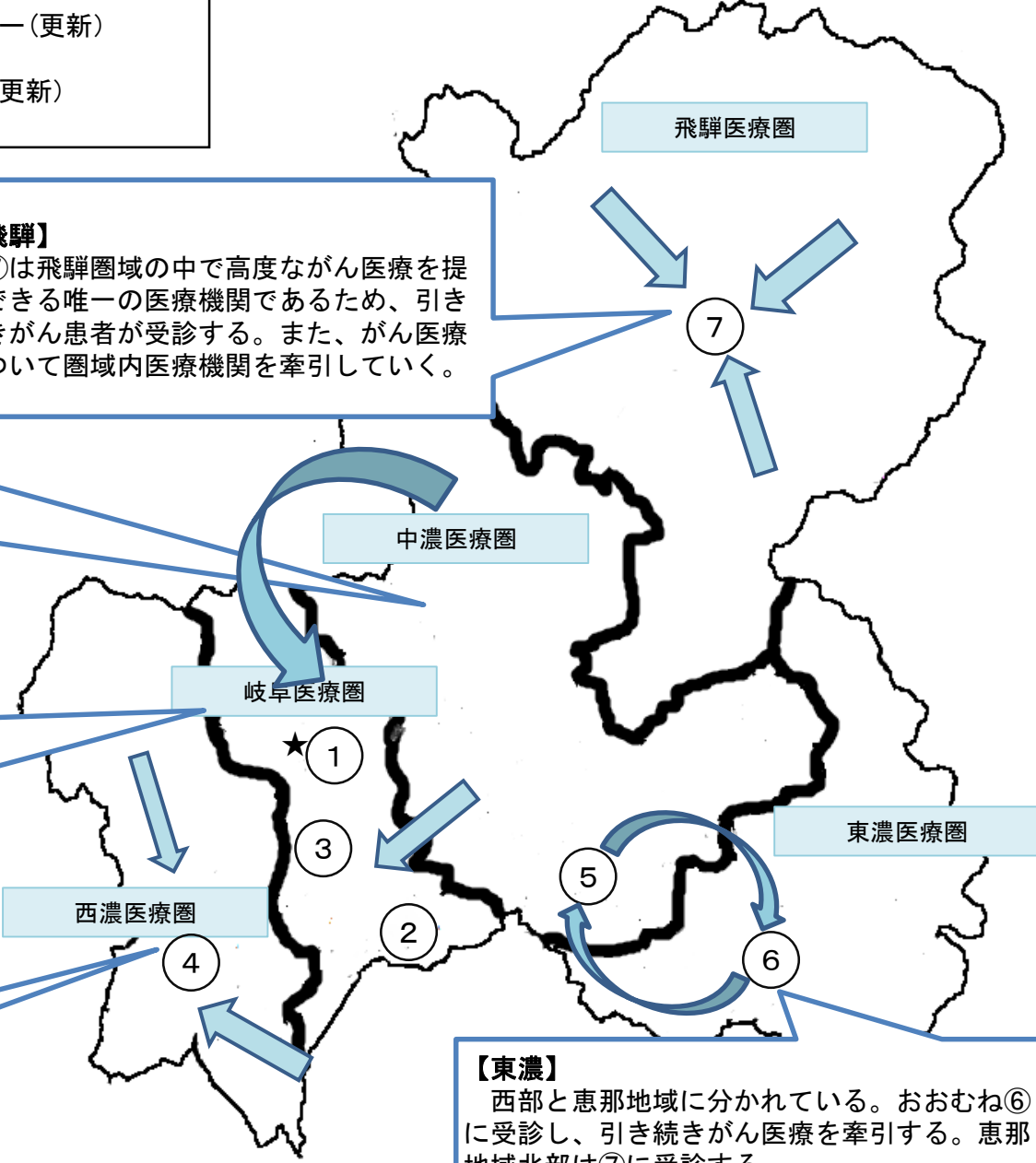
【中濃】
 可茂地域（南部）と武儀・郡上地域（北部）があるが、両地域は山林で隔たれ、交通事情が悪い。⑤は中濃圏域南部を中心にがん患者が受診する。武儀・郡上地域については、拠点病院が遠方のため、高速道路を利用して岐阜医療圏（①～③）に受診する。

【飛騨】
 ⑦は飛騨圏域の中で高度ながん医療を提供できる唯一の医療機関であるため、引き続きがん患者が受診する。また、がん医療について圏域内医療機関を牽引していく。

【岐阜】
 都道府県拠点病院の①と、地域がん診療連携拠点病院の②③でがん治療をカバーしている。
 ①は都道府県拠点病院及び大学病院として、岐阜県全体のがん医療を牽引する。
 ②③は、地域がん診療連携拠点病院として、岐阜圏域及び隣接圏域のがん患者の受入や、①と協力のうえ、圏域内医療機関等を牽引する。

【西濃】
 ④の所在地に向かう交通の便がよく、ほとんどが④に受診する。

【東濃】
 西部と恵那地域に分かれている。おおむね⑥に受診し、引き続きがん医療を牽引する。恵那地域北部は⑦に受診する



がん診療連携拠点病院指定推薦(更新)にかかる岐阜県の考え方

推薦の考え方

岐阜県がん診療連携拠点病院支援協議会において、以下の体制整備をめざし現行の7病院(都道府県拠点病院1カ所及び地域がん拠点病院6カ所)の推薦を決定

- がんの集学的治療、多職種によるチーム医療、医療従事者の確保等を更に推進し、質の高い治療がいずれの地域でも受けられるよう体制を整備
- がんと診断された時から緩和ケアが受けられるよう、専門知識を有する医療従事者を養成し、患者や家族が迅速に緩和ケアチームにつながる実効性のある体制を整備
- 医療及び介護サービスが相互に連携し、がん患者や家族の意向に沿った在宅療養が可能となる体制を構築
- 小児・AYA世代や就労世代のがん患者の療養生活を支援する体制を強化

7病院の指定更新

指定の効果 ⇒ 均てん化と集約化の促進

1 身近な地域における必要な医療及び相談支援等の確保

- 入院医療を主体とした医療活動が概ね完結する二次医療圏ごとに拠点病院を設置
- がん医療を受けるために圏域を超えて移動する患者に配慮し、岐阜圏域は2カ所の地域拠点病院を整備
- 高度先進医療や専門的な相談支援が必要な場合は都道府県病院との連携や集約化により確保

2 各拠点病院を中心とした圏域ごとの医療連携による患者中心のがん診療連携の整備

- 地域の実状に応じた病病連携・病診連携の強化・拡充により、緩和ケア、相談支援、在宅医療の確保が可能
- 身近な地域で切れ目のない医療及び相談支援体制の実現

がん診療連携拠点病院指定推薦(更新)にかかる岐阜県の考え方

課題及び方向性

- がん診療連携拠点病院であっても医師確保が難しい状況。質の高いがん医療の提供体制整備のため、関係機関が一体となり医師確保の課題に対応していく。
- 中濃圏域北部の武儀・郡上地域は、地域特性から圏域内のがん診療連携拠点病院への受診が難しい状況。
がん患者の多くは隣接する岐阜圏域に流出しているが、身近な地域で等しくがん医療を受けられる体制を整備するため、武儀・郡上地域に地域がん診療連携拠点病院を設置することの可否についてなど、今後検討を行う必要がある。

静岡県

静岡県 2 次医療圏の概要

平成 3 0 年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院 数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院 数	今回 更新 病院 数	新規 申請 病院 数	現況 報告 病院 数	今回 更新 病院 数	新規 申請 病院 数
賀 茂	583.55	65,332	1.8	112	8				0						
熱海伊東	185.88	104,919	2.8	564.4	8				0					1	
駿東田方	1,276.93	654,830	17.8	512.8	47		2		2						
富 士	634.03	377,885	10.2	596	18				0					1	
静 岡	1,411.90	702,258	19	497.4	29		2		2						
志太榛原	1,209.37	461,284	12.5	381.4	13		1		1						
中東遠	831.13	465,495	12.6	560.1	21		1		1						
西 部	1,644.62	856,431	23.2	520.7	35		4		4						
計	7,777.41	3,688,434	100	3744.8	179	0	10	0	10	0	0	0	0	2	0

静岡県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

- ①静岡県立静岡がんセンター★（平成27年4月1日）
- ②順天堂大学医学部附属静岡病院（平成27年4月1日）
- ③静岡県立総合病院（平成27年4月1日）
- ④静岡市立静岡病院（平成27年4月1日）
- ⑤藤枝市立総合病院（平成27年4月1日）
- ⑥磐田市立総合病院（平成27年4月1日）
- ⑦聖隷三方原病院（平成27年4月1日）
- ⑧聖隷浜松病院（平成27年4月1日）
- ⑨浜松医科大学医学部附属病院（平成27年4月1日）
- ⑩浜松医療センター（平成27年4月1日）
- ①国際医療福祉大学熱海病院（平成28年4月1日）
- ②富士市立中央病院（平成28年4月1日）

病院名	複数必要である理由	機能分担
①静岡県立静岡がんセンター★	①が県全域をカバーするほか、2病院で駿東田方、賀茂、熱海伊東及び富士医療圏のがん医療を担っているため。	県拠点病院機能全般 県全体の医療連携
②順天堂大学医学部附属静岡病院		主に伊豆地域の医療連携

志太榛原医療圏

地域医療の中核を担う公立病院の医師不足に伴い、一部が隣接する医療圏等を受診

中東遠医療圏

中東遠医療圏のがん患者の一部は隣接医療圏を受診するが、診療連携体制の充実・強化により、医療圏内の受診患者数が増加している。

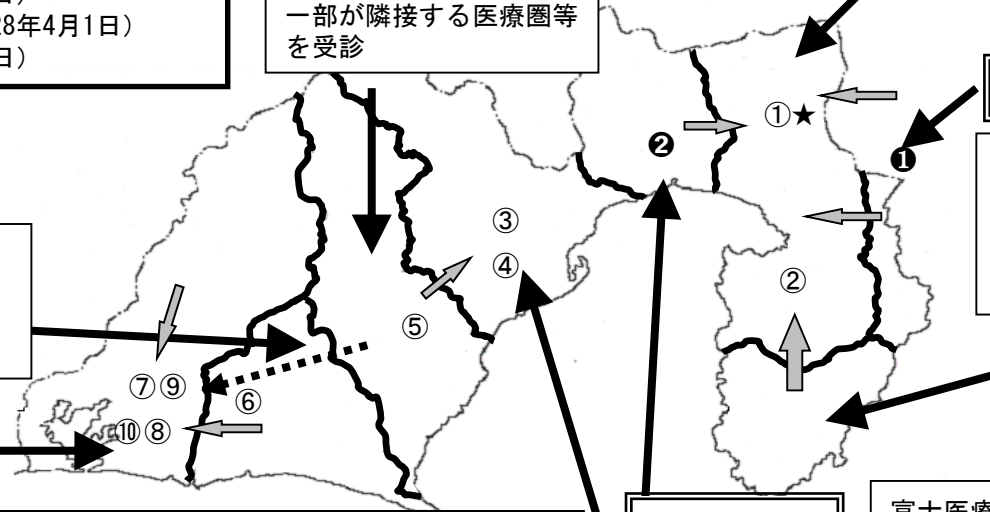
熱海伊東医療圏

賀茂医療圏及び熱海伊東医療圏のがん患者は駿東田方医療圏へ受診するため、①、②及び①の病院が駿東田方医療圏、賀茂医療圏及び熱海伊東医療圏をカバーする。

賀茂医療圏
(空白の医療圏)

富士医療圏

富士医療圏のがん患者の一部は隣接医療圏の拠点病院を受診するが、②の病院を中心にがん医療の診療連携体制の一層の充実・強化を図る。



西部医療圏

病院名	複数必要である理由	機能分担
⑦聖隷三方原病院	人口約85万人、県内で最も多く、また、地形も南北に広く、既指定の4つの拠点病院が連携して、それぞれの特長を活かしながら、機能等を分担し、がん医療体制を維持しているため。	地域における緩和ケアネットワークの構築(在宅緩和ケア)
⑧聖隷浜松病院		多職種チーム医療による集学的治療の実践(手術療法、放射線療法等)
⑨浜松医科大学医学部附属病院		がん専門医の育成と医師派遣(がんプロ、医師派遣、臨床試験)
⑩浜松医療センター		地域連携(在宅医療)体制の構築(共同診療、病診連携、就労支援)

病院名	複数必要である理由	機能分担
③静岡県立総合病院	人口約70万人、県内で西部医療圏に次いで2番目に多い医療圏であり、既指定の2病院だけで約5割のがん患者を受け入れているため。	集学的治療
④静岡市立静岡病院		地域連携 共同診療

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料 3 - 1

()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値 ★: 都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の 手術件数(年間) 400件以上	がんに係る 薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア に対する新規 診療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援 センター 相談件数 (年間)
				年間新入院 がん患者数	年間新入院患者 数に占めるがん 患者の割合(%)							
1 駿東田方	★更新		県立静岡がんセンター	(14844) 14467	(95.6) 95.1	5508	(3942) 4520	(24830) 9988	(1869) 1983	894	63	13138
2 駿東田方	更新		順天堂大学医学部附属静岡病院	(2476) 2530	(16.3) 15.9	1343	(724) 892	(1073) 1216	(231) 249	90	15	2214
3 静岡	更新		静岡県立総合病院	(5326) 5744	(31.1) 32.4	2945	(2136) 1445	(2609) 3478	(749) 760	384	36	902
4 静岡	更新		静岡市立静岡病院	(2342) 2319	(18.3) 18.3	1532	(822) 748	(1428) 1575	(306) 285	191	17	2847
5 志太榛原	更新		藤枝市立総合病院	(1997) 2051	(15.8) 15.8	1303	(770) 816	(1150) 1313	(320) 340	127	23	2716
6 中東遠	更新		磐田市立総合病院	(2110) 2158	(18.3) 18.6	1085	(711) 710	(1291) 1142	(372) 383	169	29	1663
7 西部	更新		聖隷三方原病院	(3328) 3104	(20.8) 18.9	1363	(779) 808	(1376) 1233	(424) 435	201	19	3561
8 西部	更新		聖隷浜松病院	(3625) 3740	(17.4) 17.8	1766	(1172) 1385	(2288) 1639	(714) 756	304	22	4224
9 西部	更新		浜松医科大学医学部附属病院	(3065) 3522	(23.3) 24.9	1558	(1156) 1091	(2035) 1996	(523) 468	121	17	2171
10 西部	更新		浜松医療センター	(2543) 2328	(18.5) 17.4	900	(589) 538	(1038) 1502	(249) 253	145	17	4672

地域がん診療病院の診療実績等

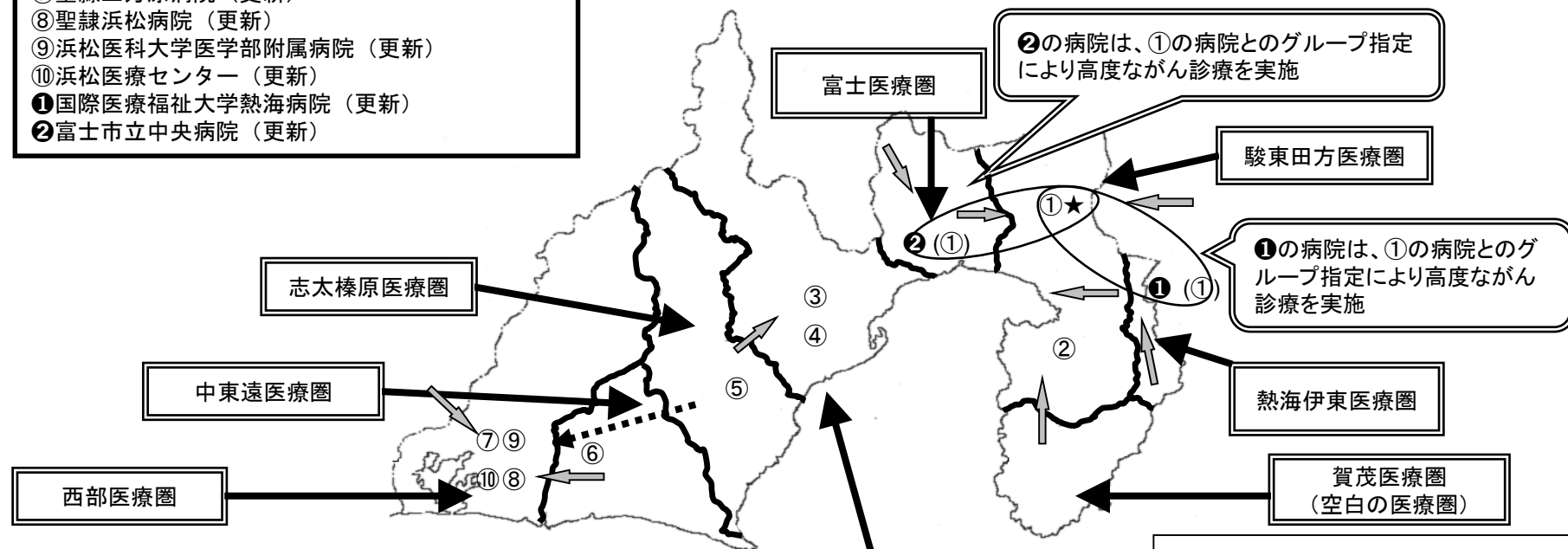
- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
①	熱海伊東	更新	国際医療福祉大学 熱海病院	(577) 591	(10.3) 10.9	323	(249) 291	(145) 160	実施なし	72	947
②	富士	更新	富士市立中央病院	(1857) 2008	(15.8) 17.0	790	(521) 647	(2089) 1018	(195) 203	159	712

静岡県 平成31年度の指定推薦状況と想定される患者受療動向

- ①静岡県立静岡がんセンター★（更新）
- ②順天堂大学医学部附属静岡病院（更新）
- ③静岡県立総合病院（更新）
- ④静岡市立静岡病院（更新）
- ⑤藤枝市立総合病院（更新）
- ⑥磐田市立総合病院（更新）
- ⑦聖隷三方原病院（更新）
- ⑧聖隷浜松病院（更新）
- ⑨浜松医科大学医学部附属病院（更新）
- ⑩浜松医療センター（更新）
- ①国際医療福祉大学熱海病院（更新）
- ②富士市立中央病院（更新）

病院名	地域分担	機能分担
①静岡県立静岡がんセンター★	①が県全域をカバーするほか、2病院で駿東田方、賀茂及び熱海伊東医療圏における連携体制の充実・強化を図る。	県拠点病院機能全般 県全体の医療連携 ①及び②のグループ指定先病院
②順天堂大学医学部附属静岡病院		主に伊豆地域の医療連携



病院名	地域分担	機能分担
⑦聖隷三方原病院	北部～北西部	地域における緩和ケアネットワークの構築 (在宅緩和ケア、緩和ケア病棟)
⑧聖隷浜松病院	中部～南東部	多職種チーム医療による集学的治療の実践 (手術療法、放射線療法、化学療法)
⑨浜松医科大学医学部附属病院	西部～南西部	がん専門医の育成と医師派遣 (がんプロフェッショナル養成、医師派遣、臨床試験)
⑩浜松医療センター	東部～北東部	地域連携（在宅医療）体制の構築 (共同診療、病診連携)

病院名	地域分担	機能分担
③静岡県立総合病院	中心部～北部 隣接医療圏の一部	集学的治療
④静岡市立静岡病院	中心部～南部	地域連携 共同診療

静岡県 平成31年度指定推薦の考え方

第3次静岡県がん対策推進計画に基き、既指定の12病院を推薦します。

第3次静岡県がん対策推進計画におけるがん診療連携拠点病院等の位置付け

県民がどこに住んでいても質の高いがん医療が受けられるように保健医療圏ごとにごがん診療連携拠点病院等を整備することを目標とし、医療体制の整備を進めるとともに、施設及び設備整備の助成を行った結果、がん医療の均てん化の推進が図られてきています。

第3次計画では、「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」に対応した、がん診療連携拠点病院及び地域がん診療病院12病院が県指定のがん診療連携推進病院等と連携することにより、地域差のないがん対策を更に進めます。

計画を踏まえ以下の推薦方針並びに考え方といたします。

県の推薦方針並びに考え方



- ①県内の現行のがん診療連携拠点病院(以下拠点病院)10施設及び地域がん診療病院2施設を指定推薦します。
- ②拠点病院が複数ある駿東田方、静岡、西部の3医療圏域については、広域で人口が多く、隣接医療圏から患者の流入が生じていることから、連携を図る必要があります。特に、西部医療圏においては4病院が連携を図り、緩和ケア、多職種チーム医療、がん専門医の育成、地域連携体制などの機能を分担し、がん医療の均てん化の推進が図られており、引き続き、複数の既指定病院を推薦します。
- ③地域がん診療病院2施設については、将来的に拠点病院の指定を目指します。
- ④「空白の医療圏」である賀茂医療圏については、隣接の医療圏の拠点病院ががん医療を担っていますが、「地域がん診療病院」の指定推薦を目指して支援していきます。
- ⑤高度型の新規推薦については2医療圏のがん拠点病院から申請がありましたが、いずれの拠点病院も現時点では高度型の指定要件を満たしていないと判断し、今回は、指定推薦を見送ることとします。

愛 知 県

愛知県がんの医療圏の概要

平成30年 9月 1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
名古屋・尾張中部	368.35	2,490,874	33.0	6762.2	132	0	7	1	8	0	0	0	0	0	0
海部	208.38	327,941	4.3	1573.8	11	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
尾張東部	230.14	473,525	6.3	2057.6	19	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0
尾張西部	193.17	516,051	6.8	2671.5	20	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
尾張北部	295.96	733,794	9.7	2479.4	25	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
知多半島	392.20	625,414	8.3	1594.6	19	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
西三河北部	950.51	488,879	6.5	514.3	18	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
西三河南部東	443.92	428,332	5.7	964.9	15	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0
西三河南部西	363.76	702,072	9.3	1930.0	23	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
東三河北部	1,052.43	54,119	0.7	51.4	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東三河南部	671.04	698,211	9.3	1040.5	37	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
計	5172.90	7,539,212	100	1457.4	324	1	16	3	20	0	0	0	0	0	0

※面積：所属未定地は各医療圏値に含んでいないため、各医療圏値の合計と一致しない。

愛知県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

①は都道府県拠点病院として、県のがん医療を牽引し、②、④の大学病院は、豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。
概ね医療圏の東西南北を⑥③⑦⑤が担当する。
更に、知多半島医療圏から流入する患者を主に⑦が担当する。
また、それぞれの得意な分野で、地域にとどまらず県全体のがん医療の中核的な役割を担う。

名古屋・尾張中部医療圏

⑨の大学病院は、豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。
⑩は、地域医療支援病院、地域密着型病院として当該医療圏の患者を主に診療し、地域医療機関の相談室への支援を始めとした、医療連携を推進する。

- ①愛知県がんセンター中央病院★（平成27年4月1日）
- ②名古屋大学医学部附属病院（平成27年4月1日）
- ③名古屋第一赤十字病院（平成27年4月1日）
- ④名古屋市立大学病院（平成27年4月1日）
- ⑤名古屋医療センター（平成27年4月1日）
- ⑥名古屋第二赤十字病院（平成27年4月1日）
- ⑦地域医療推進機構中京病院（平成27年4月1日）
- ⑧厚生連 海南病院（平成27年4月1日）
- ⑨藤田医科大学病院（平成27年4月1日）
- ⑩公立陶生病院（平成27年4月1日）
- ⑪一宮市立市民病院（平成27年4月1日）
- ⑫小牧市民病院（平成27年4月1日）
- ⑬半田市立半田病院（平成27年4月1日）
- ⑭厚生連 豊田厚生病院（平成27年4月1日）
- ⑮愛知県がんセンター愛知病院（平成27年4月1日）
- ⑯厚生連 安城更生病院（平成27年4月1日）
- ⑰豊橋市民病院（平成27年4月1日）



東三河北部医療圏に住むがん患者は主に東三河南部医療圏へ受診するため、⑰の病院でカバーする。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 名古屋・尾張中部	★	更新	がんセンター中央病院	(8,892) 9,807	(86.3) 92.3	2,972	(2,178) 2,232	(4,652) 5,197	(1,091) 856	479	8	6,861
2 名古屋・尾張中部		更新	名古屋大学医学部附属病院	(9,054) 9,011	(37.1) 37.0	3,222	(3,655) 3,092	(3,085) 3,076	(925) 946	132	8	2,425
3 名古屋・尾張中部		更新	名古屋第一赤十字病院	(5,643) 5,557	(26.0) 26.2	2,295	(1,361) 1,767	(2,353) 3,168	(621) 663	100	5	1,930
4 名古屋・尾張中部		更新	名古屋市立大学病院	(8,163) 8,325	(44.7) 43.7	2,084	(1,430) 1,375	(2,448) 2,522	(936) 677	392	15	1,145
5 名古屋・尾張中部		更新	名古屋医療センター	(3,701) 3,690	(25.6) 25.1	1,607	(1,112) 1,058	(1,814) 2,381	(322) 343	351	5	3,083
6 名古屋・尾張中部		更新	名古屋第二赤十字病院	(3,848) 4,009	(16.1) 16.7	1,911	(1,139) 1,110	(1,454) 1,465	(414) 406	133	4	3,254
7 名古屋・尾張中部		新規	名古屋市立西部医療センター	3,675	28.3	1,512	836	1,565	951	58	7	357
8 名古屋・尾張中部		更新	中京病院	(2,809) 2,763	(17.7) 17.5	1,164	(678) 739	(1,040) 1,300	(398) 333	93	6	1,015
9 海部		更新	海南病院	(2,420) 2,455	(16.8) 19.3	1,037	(718) 905	(1,142) 1,193	(99※) 356	258	43	2,004
10 尾張東部	◇	新規	藤田医科大学病院	(6,906) 6,580	(24.1) 22.8	3,026	(2,001) 1,825	(1,119) 3,894	(829) 945	514	16	4,448

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	尾張東部	新規	愛知医科大学病院	3,551	15.1	1,775	1,163	1,737	532	276	18	4,291
2	尾張東部	更新	公立陶生病院	(3,016) 3,283	(19.6) 21.0	1,281	(502) 596	(1,031) 1,208	(170※) 204	378	31	3,014
3	尾張西部	更新	一宮市民病院	(2,415) 2,453	(18.4) 17.5	1,187	(603) 618	(1,028) 1,093	(669) 513	67	26	1,224
4	尾張北部	更新	小牧市民病院	(4,887) 4,993	(33.2) 34.3	1,544	(1,096) 989	(1,159) 1,240	(640) 497	330	35	293
5	知多半島	更新	半田市立半田病院	(1,210) 1,451	(10.1) 12.6	955	(632) 633	(479※) 891	(261) 258	60	30	180
6	西三河北部	更新	豊田厚生病院	(2,872) 3,140	(17.1) 18.7	1,507	(1,155) 1,090	(1,010) 1,251	(249) 265	106	49	1,982
7	西三河南部東	新規	岡崎市民病院	1,893	11.8	1,188	556	976	238	191	30	982
8	西三河南部西	更新	安城更生病院	(6,139) 7,009	(29.3) 32.8	2,192	(1,337) 1,567	(2,455) 2,973	(430) 479	325	45	2,441
9	東三河南部	更新	豊橋市民病院	(4,412) 6,282	(23.2) 31.7	2,454	(1,334) 1,329	(2,142) 2,068	(539) 524	55	55	647
								※前年度は経口の※機器の故障、更新 みは計上していない期間あり				

愛知県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型)

①は都道府県拠点病院として、県のがん医療を牽引し、②、④の大学病院は、豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。
人口が集中した都市部の医療圏の概ね東西南北を③⑥⑧⑤⑦が担当し、更に、近隣医療圏から流入する患者を受け入れる。
⑦は陽子線治療の拠点として県全体をカバーする。
また、それぞれの得意な分野で、地域にとどまらず県全体のがん医療の中核的な役割を担う。

名古屋・尾張中部医療圏

- ①愛知県がんセンター中央病院★(更新)
- ②名古屋大学医学部附属病院(更新)
- ③名古屋第一赤十字病院(更新)
- ④名古屋市立大学病院(更新)
- ⑤名古屋医療センター(更新)
- ⑥名古屋第二赤十字病院(更新)
- ⑦名古屋市立西部医療センター(新規)
- ⑧地域医療推進機構中京病院(更新)
- ⑨厚生連 海南病院(更新)
- ⑩藤田医科大学病院◇(高度型新規)
- ⑪愛知医科大学病院(新規)
- ⑫公立陶生病院(更新)
- ⑬一宮市立市民病院(更新)
- ⑭小牧市民病院(更新)
- ⑮半田市立半田病院(更新)
- ⑯厚生連 豊田厚生病院(更新)
- ⑰岡崎市民病院(新規)
- ⑱厚生連 安城更生病院(更新)
- ⑲豊橋市民病院(更新)



⑩、⑪の大学病院はその豊富な人材と高度な診療能力を活かし、全県的に患者を受け入れ、人材育成、診療支援など、①を補佐する役割を担う。
⑪は県内トップクラスの診療実績を誇り、高度型として役割を果たす。
⑫は、地域医療支援病院、地域密着型病院として当該医療圏の患者を主に診療し、地域医療機関の相談室への支援を始めとした、医療連携を推進する。

東三河北部医療圏に住むがん患者は主に東三河南部医療圏へ受診するため、⑰の病院でカバーする。

⑰ 平成31年4月にがんセンター愛知病院が、岡崎市に移管されることにより、がん拠点機能を岡崎市民病院に集約。

愛知県の拠点病院推薦にあたっての考え方

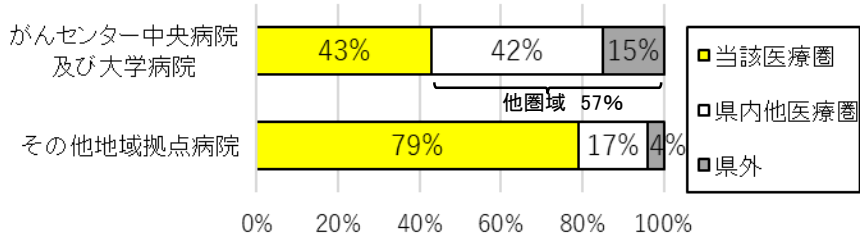
愛知県の地域特性

- ◇県の人口 約754万人(4年間で約9.5万人増加)
- ◇新規がん患者数 約4.4万人(4年間で約0.3万人増加)
- ◇名古屋・尾張中部医療圏の人口 約249万人(県人口の3分の1)
 ≪全国平均37万人の約6.7倍≫
- ◇上記以外の2次医療圏の平均人口 約50万人 ≪全国の約1.36倍≫

課題1

- ・都市部に人口が集中している
- ・人口に対し拠点病院が足りない

≪都道府県拠点である「がんセンター中央病院」及び大学病院であるがん診療連携拠点病院の入院患者の受け入れ割合≫



課題2

- ・大学病院が都市部及び近郊に集中している
- ・がんセンター中央病院及び大学病院へ他圏域から高度な医療を求めて患者が流入している

拠点病院の整備指針

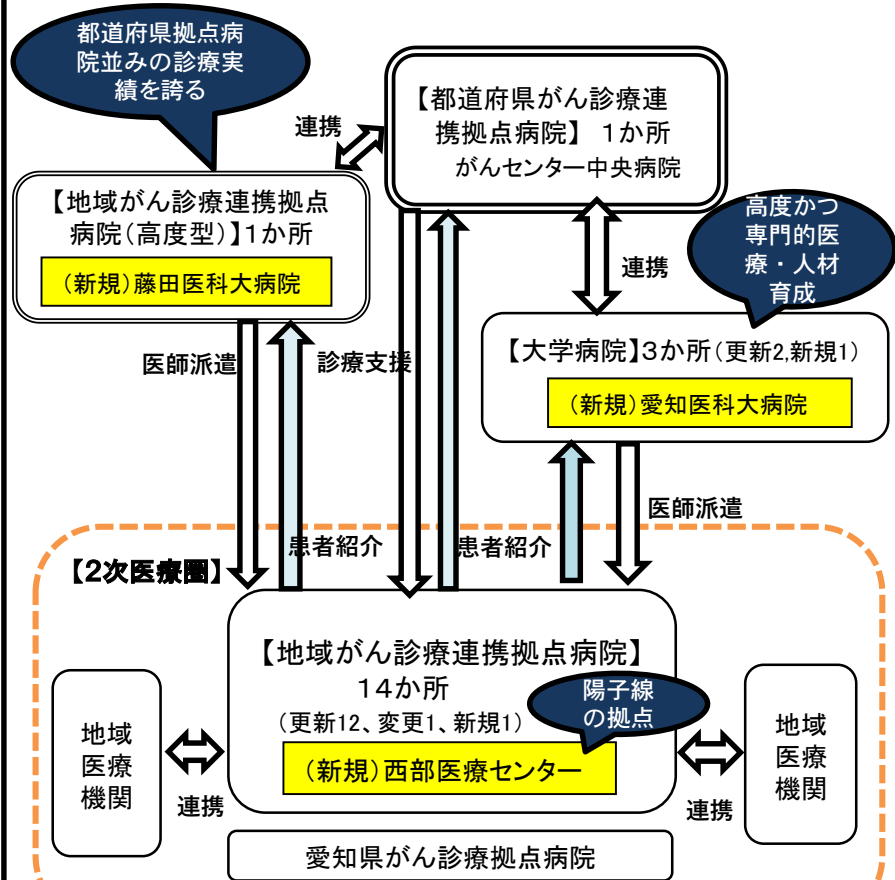
県内どこに住んでいても病状に応じた適切ながん治療や緩和ケアを受けられるがん対策を推進するため、高度な医療を有する都道府県拠点病院と大学病院が地域の拠点病院を支援し、がん医療の均てん化を図る。

- ≪必要拠点病院数≫
- 名古屋・尾張中部医療圏 人口249万人÷37万人=6.7か所
 - 上記以外の2次医療圏 人口505万人÷37万人=13.6か所
- 合計 **20か所**

現在、拠点病院は17か所であるが、さらに質の高いがん医療を提供するためには**20か所必要**

がん拠点病院の役割分担

- 都道府県拠点病院：拠点病院の統括
 - 大学病院：高度かつ専門的な医療の提供
 - その他の拠点病院：地域の患者の生活環境に合わせた医療の提供
- 全県的な拠点**



今回推薦する病院

【推薦手順】

推薦基準等
有識者会議書面審査＋現地調査
(一次審査)有識者の審査委員会
(二次審査)推薦及び
順位決定【更新】16病院(うち高度型新規1病院)
【新規】2病院 【経営統合による変更】1病院

【新規：高度型】藤田医科大学病院

県内トップクラスの診療実績、高度な機器と機能の整備、先進医療の提供、充実したスタッフ

◇尾張東部医療圏で平成22年から地域拠点病院指定

●推薦理由

- 県内トップクラスの診療実績 ⇒院内がん登録数3,026件、手術件数1,825件、薬物療法のべ患者数3,894人、放射線治療のべ患者数 945人
- 低侵襲診断・治療において、内視鏡手術支援ロボット(ダヴィンチ)を使った手術件数は日本トップレベル
- 緩和ケア病棟を有し、緩和ケアセンター、相談支援センターにおける充実した多職種のスタッフを配置

【新規】名古屋市立西部医療センター

東海三県の陽子線治療
の草分け

≪名古屋・尾張中部医療圏≫

◇人口 約249万人 ◇拠点病院数 7か所(都道府県拠点病院1、
大学病院2、地域密着拠点病院4)

●推薦理由

- 不足している地域密着の拠点病院を整備(50万人に1か所整備)
- 東海地域の陽子線治療の拠点
- 近年診療実績が伸び、特に放射線治療のべ患者数は県内トップクラス
⇒放射線治療のべ患者数 951件(うち陽子線430件)
- ハローワークと連携した就労支援の拠点

【新規】愛知医科大学病院

県内4大学病院の一つ
高度な設備と機能でがん医療を提供

≪尾張東部医療圏≫

◇人口 約47万人 ◇拠点病院数 2か所(大学病院1、地域密着拠点病院1)

●推薦理由

- 特定機能病院
- ハイブリッド手術室、ダヴィンチ、トウルービーム等の最新機器と機能を整備し、高度かつ専門的な医療を実施
- 緩和ケアは緩和医療専門医を擁し、多職種による充実したチーム体制で提供 ⇒緩和ケアチームの新規介入患者数 H29 276人 から大幅に増加
⇒ H30 400人以上(11月末現在)
- 日本で初のバイオバンク事業を開始

【変更】岡崎市民病院 ← 【既指定】がんセンター愛知病院

≪西三河南部東医療圏≫ ◇人口 約43万人 ◇拠点病院数 1か所

●推薦理由 がんセンター愛知病院が平成27年4月から指定を受けていたが、平成30年に岡崎市民病院と経営統合し、がん拠点機能を岡崎市民病院に集約

指定の効果

- 高度な医療を有する都道府県拠点病院と大学病院が地域の拠点病院を支援することで、地域の病院から高度かつ専門的な医療機関への紹介機会が増え、県民が均しく質の高い医療が受けられる。
- 地域の拠点病院が増えることにより、拠点病院や連携した周辺の病院で安心して治療が受けられ、働きながら外来診療でがん治療を受けたり、在宅医療において充実した緩和ケアを受けたり、遠くの入院先へ見舞う家族の負担を軽減することができる。

三重県

三重県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点 病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
北勢	1,108.6	840,288	46.9	758.0	42	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0
中勢伊賀	1,399.1	442,063	24.7	316.0	29	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
南勢志摩	2,276.4	440,981	24.6	193.7	19	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
東紀州	990.3	67,516	3.8	68.2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	5,777.4	1,790,848	100.0	310.1	95	0	4	1	5	0	0	0	0	0	0

三重県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

がん患者の受療動向

拠点病院のない空白の医療圏である東紀州医療圏の圏外への流出割合が高くなっています。また、北勢医療圏、中勢伊賀医療圏では、県外への流出割合が高い状況にあります。

流出状況

医療圏名	(入院 (県外分) : 外来 (県外分))
北勢医療圏	(18.2% (10.9%) : 14.4% (9.5%))
中勢伊賀医療圏	(16.5% (9.7%) : 14.7% (8.5%))
南勢志摩医療圏	(7.8% (0.9%) : 5.9% (1.3%))
東紀州医療圏	(44.4% (8.6%) : 33.6% (14.9%))

東紀州医療圏に住むがん患者は、南勢志摩医療圏へ受診するため、おもに③の病院でカバーしている。

- | | |
|---------------|-----------------|
| ①三重大学医学部附属病院★ | (平成27年 4 月 1 日) |
| ②鈴鹿中央総合病院 | (平成27年 4 月 1 日) |
| ③松阪中央総合病院 | (平成27年 4 月 1 日) |
| ④伊勢赤十字病院 | (平成27年 4 月 1 日) |



東紀州医療圏
(空白の医療圏)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター	
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)	
1	中勢伊賀	★	更新	三重大学医学部附属病院	(6026) 6910	(40.1) 44.0	2342	(1631) 1824	(3261) 2443	(527) 620	330	36	575
2	北勢		更新	鈴鹿中央総合病院	(2175) 2297	(23.4) 25.4	1439	(1071) 710	(817) 1057	(207) 200	114	23	1299
3	南勢志摩		更新	松阪中央総合病院	(1644) 1756	(18.0) 19.2	903	(404) 515	(576) 1008	(172) 233	71	14	2033
4	南勢志摩		更新	伊勢赤十字病院	(3738) 3693	(21.8) 21.0	1914	(1192) 1193	(1669) 1732	(321) 345	80	36	3878
5	北勢		新規	市立四日市病院	3190	20.6	1676	1236	1463	233	82	33	2306

地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

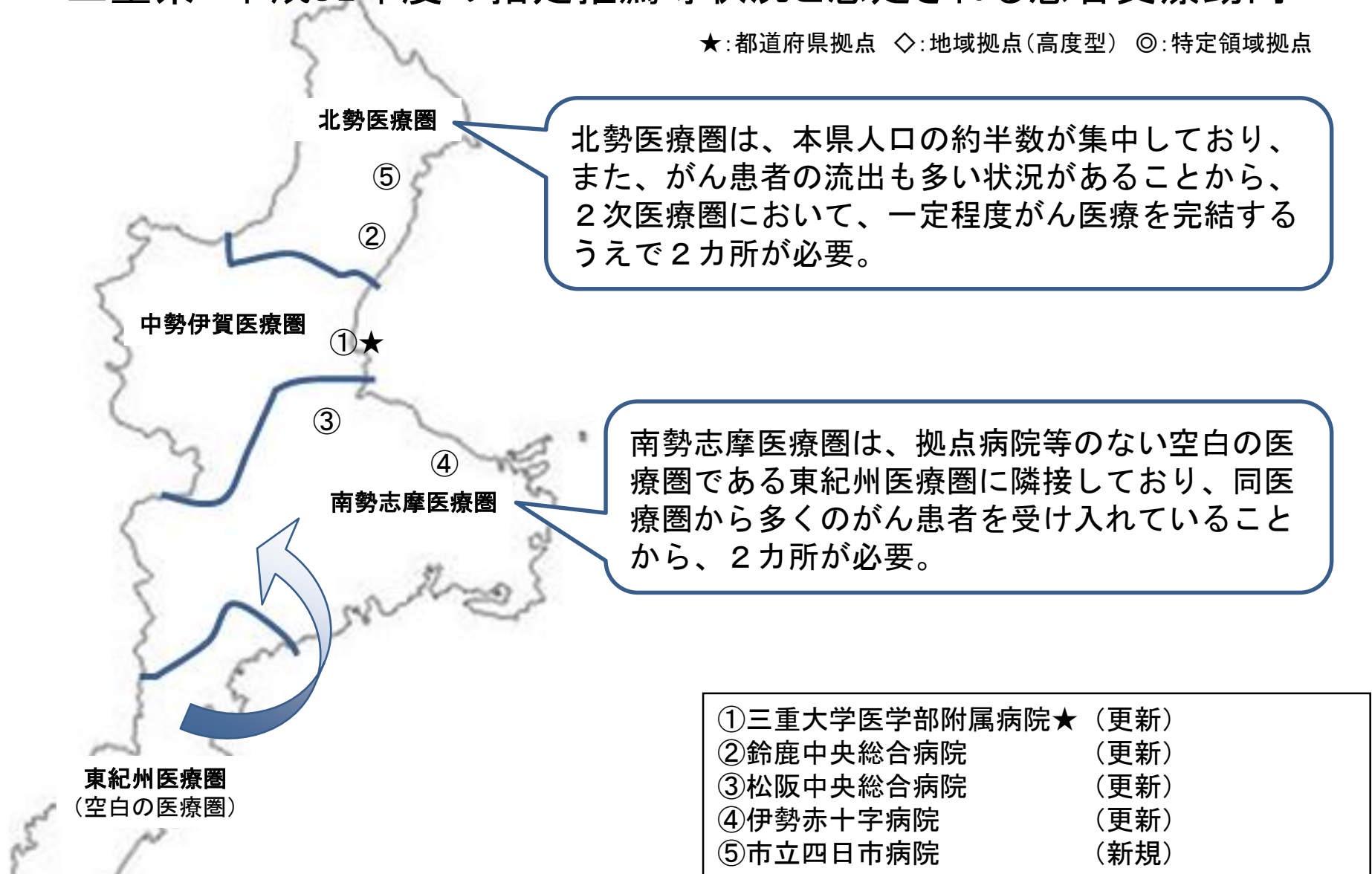
- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
			年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						

該当なし

三重県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



今回の指定推薦等に係る三重県の考え方について

本県では、県内4カ所のがん診療連携拠点病院を中心として各医療機関の連携による医療提供体制の整備・充実に取り組んでいるところですが、新たに1カ所を指定し、5病院とすることにより、すべての県民が身近な地域においてより質の高いがん治療が受けられる体制づくりを推進することを目指します。

1 がん診療連携体制の整備にかかる課題

(1) 地勢上の特性

本県は南北に長い地勢であることに加え、一定規模の人口を擁する都市が長軸方向に点在しており、各地域で一定の生活圏が形成される傾向にあります。

(2) 医療圏ごとの人口割合

北勢医療圏の人口が県内人口の約47%を占める一方、東紀州医療圏の人口割合は約4%と大きな隔たりがあるなど、医療圏ごとに対策を講じることが必要です。

(3) 受療動向

患者流出率は入院で16.4%、外来で13.1%（厚生労働省「NDB」平成27年度）と高い状況にあります。

県民に、居住する地域で質の高いがん医療を提供するため、一定の診療実績を有する医療機関に医療資源を一定程度集約化し、地域の拠点としての役割を担えるよう環境を整えることが必要です。

2 医療圏ごとの体制整備の考え方

これらの状況や課題に鑑み、各医療圏の特性を踏まえて拠点となる医療機関を整備することで、県内全域のがん診療提供体制の強化を図ります。

【北勢医療圏】

本県人口の約47%が居住する人口集中地域で、桑員、三泗、鈴亀それぞれの区域で一定の生活圏が形成されていることから、複数の拠点病院が連携してがん医療を提供することが必要です。

市立四日市病院は主に三泗区域、桑員区域、鈴鹿中央総合病院は主に鈴亀区域のがん医療を担っています。

【中勢伊賀医療圏】

三重大学医学部附属病院が、県がん診療連携拠点病院として、高度の専門を必要とするがん患者の受入など中心的な役割を担っています。

【南勢志摩医療圏】

空白の医療圏である東紀州医療圏に隣接しており、同医療圏から多くのがん患者を受け入れているため、その補完的な役割を担うことが必要です。

松阪中央総合病院は松阪区域に加え東紀州医療圏のがん医療を補完する役割を担い、伊勢赤十字病院は地域に離島や多くの中山間地域を含む伊勢志摩区域において医療を提供する役割を担っています。

【東紀州医療圏】

拠点病院等のない空白の医療圏で、高齢化の進行に伴う医療需要への対応が求められます。当面は隣接する医療圏の松阪中央総合病院などを中心にがん医療を提供するとともに、将来的にはそれらと連携した地域がん診療病院の整備等を検討する必要があります。

滋 賀 県

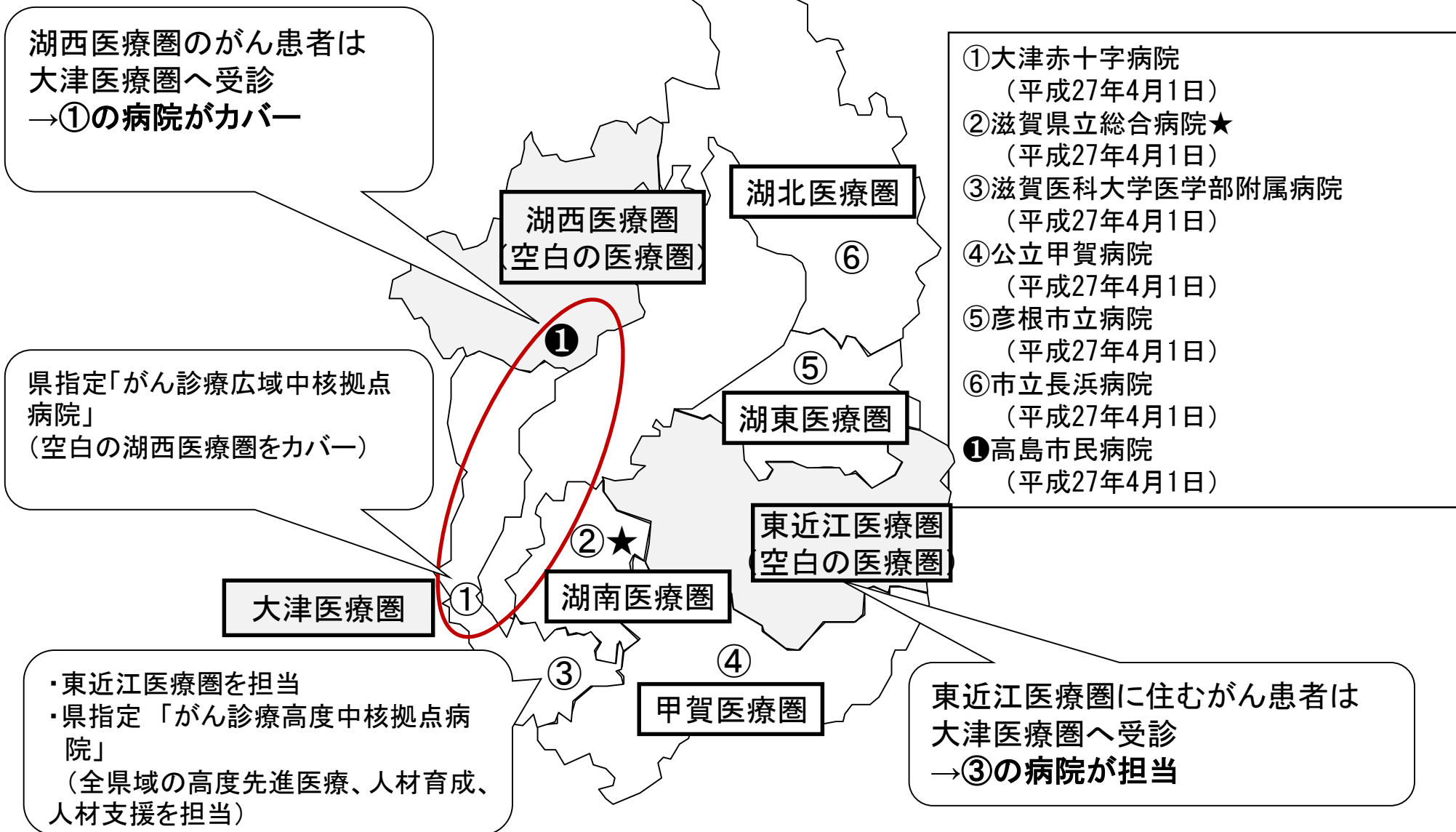
滋賀県 がんの医療圏の概要

平成30年 9 月 1 日現在

2次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん診療連 携拠点病院		地域がん診療病院			
						既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	今回更新 病院数	計	
大津保健医療圏	464.51	341,574	24.2	735.3	15		2	2		0				0
湖南保健医療圏	256.39	341,439	24.2	1331.7	13		1	1		0				0
甲賀保健医療圏	552.02	143,929	10.2	260.7	7		1	1		0				0
東近江保健医療圏	727.97	227,930	16.1	313.1	11			0		0				0
湖東保健医療圏	392.04	156,103	11.0	398.2	4		1	1		0				0
湖北保健医療圏	931.4	153,860	10.9	165.2	4		1	1		0				0
湖西保健医療圏	693.05	47,972	3.4	69.2	3			0		0			1	1
								0		0				0
計	4017.38	1412807	100	3273.4871	57	0	6	6	0	0	0		1	1

滋賀県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
 ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1		更新	大津赤十字病院	(4689) 3186	(31.5) 20.8	1399	(883) 888	(3451) 3871	(446) 427	159	35	758
2	★	更新	滋賀県立総合病院	(2897) 3222	(30.3) 33.0	1560	(935) 1032	(6298) 5281	(485) 558	355	30	2192
3		更新	滋賀医科大学医学部附属病院	(3078) 3161	(22.6) 22.9	1358	(1105) 1471	(5116) 1810	(522) 513	128	15	303
4		更新	公立甲賀病院	(1428) 1502	(20.2) 19.5	762	(352) 286	(275) 273	(134) 123	146	20	828
5		更新	彦根市立病院	(953) 1245	(11.9) 14.1	618	(345) 358	(2684) 480	(108) 114	50	32	336
6		更新	市立長浜病院	(1445) 1445	(16.0) 17.4	691	(382) 413	(754) 904	(269) 269	80	56	1790

地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
			年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
①	更新	高島市民病院	(263) 286	(6.8) 7.4	257	(54) 57	(1270) 295	(0) 0	58	129

滋賀県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

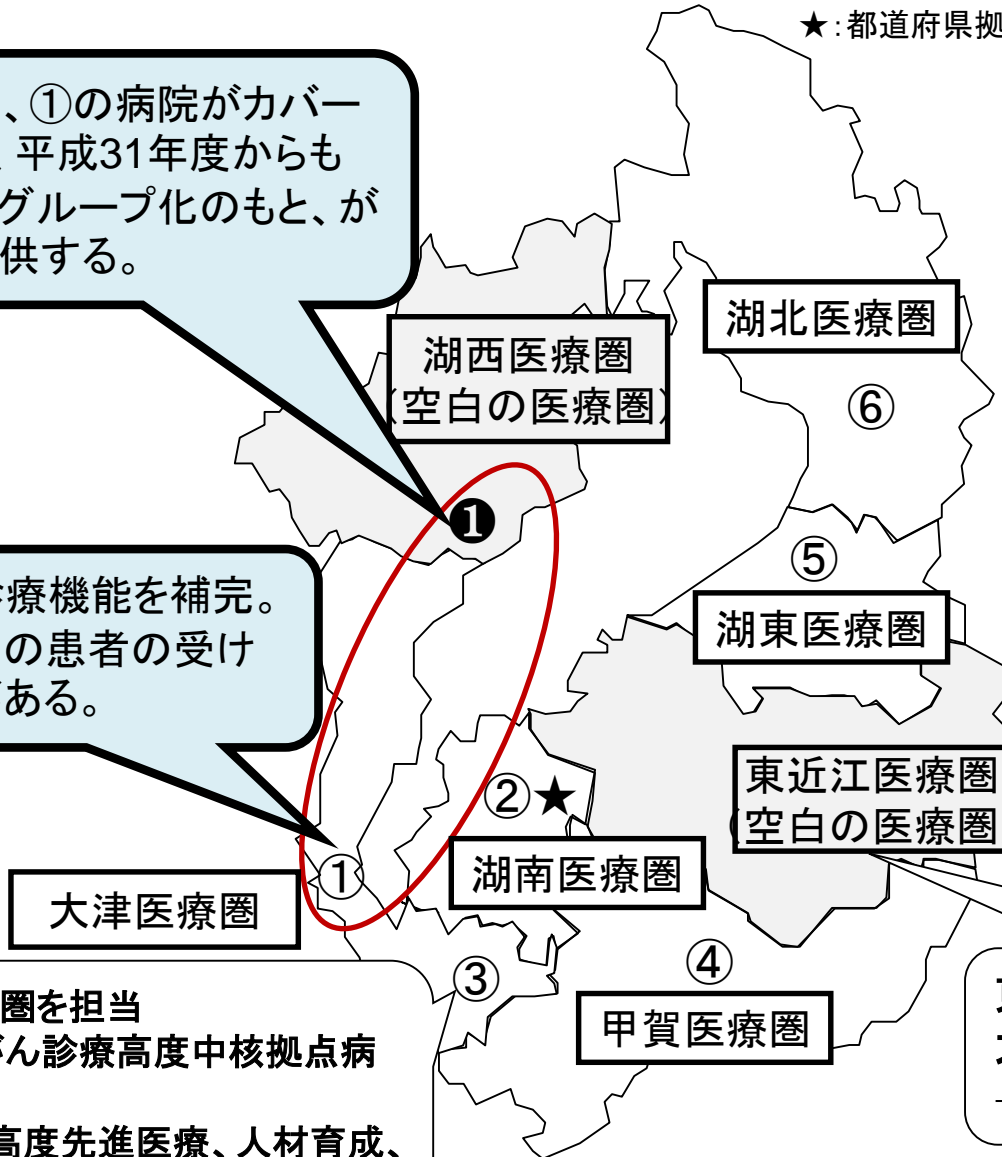
空白のため、①の病院がカバーしていたが、平成31年度からも①が①とのグループ化のもと、がん診療を提供する。

①にない診療機能を補完。湖西医療圏の患者の受け入れ体制がある。

・東近江医療圏を担当
 ・県指定「がん診療高度中核拠点病院」
 (全県域の高度先進医療、人材育成、人材支援を担当)

- ① 大津赤十字病院(更新)
- ② 滋賀県立総合病院★(更新)
- ③ 滋賀医科大学医学部附属病院(更新)
- ④ 公立甲賀病院(更新)
- ⑤ 彦根市立病院(更新)
- ⑥ 市立長浜病院(更新)
- ① 高島市民病院(更新)

東近江医療圏に住むがん患者は
 大津医療圏へ受診
 →③の病院が担当



滋賀県 指定推薦に係る考え方について(1)

1. がんに関する現状

本県において、がんは昭和56年から死因の1位となっており、全死亡の約3割を占め、現在では年間3,600人以上の県民ががんにより亡くなっている。今後、ますます高齢化が進行する中で、がんの罹患数や死亡数は増加することが予測される一方で、がん医療は年々進歩を遂げ、がんは長く付き合う慢性の病気になってきている。

こうしたことから、がんの予防、早期発見、適切な治療、ライフステージに応じた対策、治療と生活の両立支援などの総合的ながん対策は、今後ますます重要となってくる。

2. がん対策における基本理念（第3期滋賀県がん対策推進計画（平成30年3月策定））および目標

<基本理念>

県民一人ひとりが輝ける健やかな滋賀の実現

～県民が、がんを知り、がんを予防し、がんになっても納得した医療・支援が切れ目なく受けられ、自分らしく暮らせる滋賀を目指して～

がん患者を含めた県民全体が、がんの予防およびがんの早期発見を進めるとともに、がんになっても、治療の説明を受けて選択ができ、納得した医療が受けられ、そのために必要な支援が受けられることで、自分らしく暮らせる滋賀を目指すことを基本理念とする。

<全体目標>

- ・科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実
- ・患者本位のがん医療の実現
- ・尊厳をもって安心して暮らせる社会の構築

<取り組みの4つの分野>

- ・がんの予防
- ・がん医療の充実
- ・がんとの共生
- ・これらを支える基盤の整備

滋賀県 指定推薦に係る考え方について(2)

3. がん診療連携拠点病院等の現状、今後の役割

- 滋賀県のがん医療は、国指定のがん診療連携拠点病院（6病院）、地域がん診療病院（1病院）、県指定のがん診療連携支援病院（6病院）を中心に、我が国に多いがん（5大がん）について、集学的治療を提供する体制を整えている。今後も5大がん、その他専門とするがんについて、がん診療連携拠点病院等を中心にがん医療提供体制をさらに整備していく。
- 都道府県がん診療連携拠点病院（県立総合病院）は、地域がん診療連携拠点病院に対する診療支援、医療従事者に対する研修の実施など、県内のがん医療のコーディネーターの役割を担う。また、地域がん診療連携拠点病院（大津赤十字病院他 5病院）は、各医療圏域において、専門的ながん医療の提供を行うとともに、圏域内の医療機関に対する診療支援、医療従事者に対する研修、患者等に対する相談支援、情報提供などを行う。
- がん診療連携拠点病院等が中心となり、また、滋賀県がん診療連携協議会などでがん診療の連携協力体制を構築しながら、滋賀県内のがん医療の質の向上や安全確保のための取り組み、看護の質の向上、医療従事者の資質向上などを図っていく。

4. がん診療連携拠点病院が指定されていない空白の医療圏への対策

- 湖西医療圏
高島市民病院を地域がん診療病院として推薦。隣接する大津医療圏の大津赤十字病院との連携を前提にグループとして指定。高島市民病院は、大津赤十字病院と連携しつつ、湖西医療圏の専門的ながん医療の提供、相談支援や情報提供などの役割を担う。
- 東近江医療圏
空白の解消については現在協議中であり、現状は、大津医療圏に位置する滋賀医科大学医学部附属病院が担当する。

5. 大津医療圏の2つの拠点病院の役割分担

大津赤十字病院

- ・大津医療圏のがん診療ならびに高島市民病院とのグループ元として湖西医療圏のがん診療を行う。

滋賀医科大学医学部附属病院

- ・空白の東近江医療圏を担当し、大津医療圏のがん診療についても積極的に行う。
- ・県全域の高度先進医療を提供する。
- ・県全域の人材育成、人材支援の中核を担う。

京 都 府

京都府 2 次医療圏の概要

平成 3 0 年 9 月 1 日現在

2 次医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点 病院		特定領域がん診療 連携拠点病院		地域がん 診療病院	
						既指定 病院数	今回更新 病院数	既指定 病院数	今回更新 病院数	既指定 病院数	今回更新 病院数
丹後医療圏	844.5	92,571	3.6	109.6	6	0	0	0	0	1	1
中丹医療圏	1241.76	191,150	7.4	153.9	17	1	1	0	0	0	0
南丹医療圏	1144.29	133,421	5.1	116.6	10	0	0	0	0	1	1
京都・ 乙訓医療圏	860.69	1,621,066	62.5	1883.4	108	7	7	0	0	0	0
山城北医療圏	257.58	434,175	16.8	1685.6	23	0	0	0	0	1	0
山城南医療圏	263.37	119,465	4.6	453.6	3	0	0	0	0	1	1
計	4,612.19	2,591,848	100	561.9	167	8	8	0	0	4	3

京都府 平成30年9月1日現在の指定状況と患者受療動向

- ① 京都府立医科大学附属病院★（平成27年4月1日）
- ② 京都大学医学部附属病院★（平成27年4月1日）
- ③ 京都第二赤十字病院（平成27年4月1日）
- ④ 京都市立病院（平成27年4月1日）
- ⑤ 京都第一赤十字病院（平成27年4月1日）
- ⑥ 独立行政法人国立病院機構京都医療センター（平成27年4月1日）
- ⑦ 社会福祉法人京都社会事業財団京都桂病院（平成27年4月1日）
- ⑧ 市立福知山市民病院（平成28年4月1日）
- ① 京都岡本総合病院（平成27年4月1日）※府立医大附属病院とグループ化
- ② 京都山城総合医療センター（平成27年4月1日）※同上
- ③ 京都中部総合医療センター（平成27年4月1日）※同上
- ④ 京都府立医科大学附属北部医療センター（平成27年4月1日）※同上

都道府県がん診療連携拠点病院については、京都府立医大の地域ネットワーク、京大病院の人材育成など優れた点を活かし、協力して地域がん診療連携拠点病院への指導的役割を果たす。

丹後医療圏
(空白の医療圏) ④

中丹医療圏
⑧

南丹医療圏
(空白の医療圏) ③

①★②★
③
④
⑦ ⑤
⑥
京都・乙訓医療圏

山城北医療圏
(空白の医療圏)

② 山城南医療圏
(空白の医療圏)

- ・ 京都・乙訓医療圏は標準的な医療圏の人口を大きく上回り、周辺医療圏もカバーする必要があるため、7つの拠点病院を指定。
- ・ 各拠点病院が地域的・機能的な役割分担に基づき、がん医療水準の均てん化を推進。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
 ※新規申請の京都岡本記念病院は、平成29年実績では化学療法・放射線治療の件数が基準をわずかに満たしていないが、平成30年1～12月実績では、化学療法1,077人、放射線治療208人と基準を満たしている。

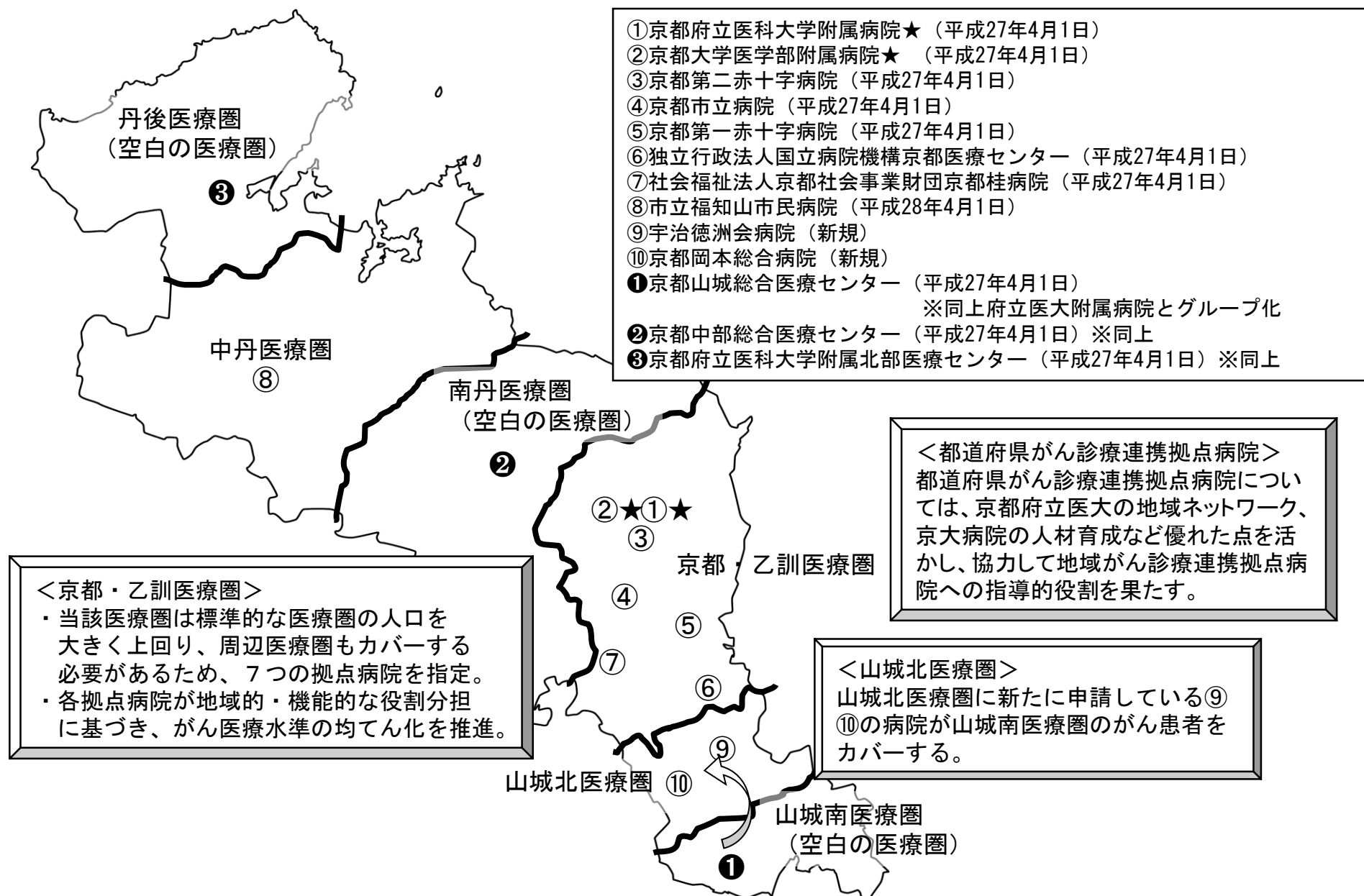
	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る 化学療法 のべ患者数 (年間) 1000人 以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 50人以上	診療の割合 当該2次医療 圏に居住する がん患者の診 療の割合 (20%) 2割程度	相談支援 センター 相談件数
					年間新入院 がん患者 数	年間新入 院患者数 に占める がん患者 の割合 (%)							
1	京都・乙訓	★	更新	京都府立医科大学附属病院	(5,185) 4,999	(31.9) 30.5	2,369	(1,026) 1,124	(8,986) 3,455	(746) 574	316	15	1,972
2	京都・乙訓	★	更新	京都大学医学部附属病院	(9,897) 9,427	(44.1) 43.0	2,611	(3,138) 2,255	(2,388) 6,320	(1,251) 1,197	506	17	3,519
3	京都・乙訓		更新	京都第二赤十字病院	(2,951) 3,034	(18.5) 18.6	1,477	(885) 1,116	(3,321) 1,767	(350) 302	51	8	2,202
4	京都・乙訓		更新	京都市立病院	(3,949) 3,300	(28.3) 23.6	1,777	(851) 853	(1,866) 2,061	(533) 495	85	9	4,782
5	京都・乙訓		更新	京都第一赤十字病院	(3,683) 3,689	(23.3) 22.9	1,542	(1,011) 1,292	(1,843) 2,313	(312) 331	177	8	542
6	京都・乙訓		更新	京都医療センター	(3,735) 3,520	(27.4) 25.0	1,568	(1,216) 1,004	(3,248) 1,932	(1,512) 359	167	9	3,077
7	京都・乙訓		更新	京都桂病院	(3,548) 3,406	(30.0) 28.4	1,427	(1,258) 1,377	(1,330) 2,018	(391) 535	184	9	1,982
8	中丹		更新	福知山市民病院	(1,373) 1,515	(16.3) 18.0	734	(429) 463	(680) 797	(246) 289	74	32	2,455
9	山城北		新規	宇治徳洲会病院	1,519	12.1	902	631	1,052	230	93	49	121
10	山城北		新規	京都岡本記念病院	1,766	22.0	657	596	952 ※	192 ※	142	42	211

地域がん診療病院

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る化学療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
			年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
①	更新	京都山城総合医療センター	(890) 945	(15.7) 16.1	437	(420) 431	(1,362) 739	—	15	167
②	更新	京都府立医科大学 附属北部医療センター	(1,031) 1,112	(13.4) 17.3	400	(418) 475	(1,292) 378	—	13	293
③	更新	京都中部総合医療センター	(1,061) 1,059	(16.8) 14.6	571	(524) 437	(1,618) 772	138	67	60

京都府 平成30年度の指定推薦状況と想定される患者受療動向



京都府におけるがん診療体制の整備方針

区分	推薦病院	特色	機能分担
都道府県拠点病院	京都府立医科大学附属病院	各地域への医師派遣 地域ネットワークの構築 質の高い緩和ケアの推進、陽子線治療	京都府がん医療戦略推進会議の運営 緩和ケア部会・地域連携部会の事務局
	京都大学医学部附属病院	がん医療従事者の養成 臨床研究・医療技術開発 外来化学療法、ゲノム医療	京都府がん医療戦略推進会議の運営 研修部会・外来化学療法部会の事務局
地域拠点病院	京都第二赤十字病院	消化器系がん治療 地域医療支援	肝がん地域連携パスWGの事務局
	京都市立病院	放射線治療 血液がん・小児がん治療	相談支援部会の事務局
	京都第一赤十字病院	救急医療(化学療法の副作用対策など) 消化器系・婦人科がん治療	乳がん地域連携パスWGの事務局
	国立病院機構京都医療センター	緩和ケア 地域・患者への情報提供	院内がん登録部会の事務局
	京都桂病院	肺がん治療,消化器系がん治療 がん患者支援	肺がん地域連携パスWGの事務局
	福知山市民病院	放射線治療 外来化学療法	大腸がん地域連携パスWGの事務局
	宇治徳洲会病院<新規申請>	消化器系がん治療 緩和ケア	胃がん地域連携パスWGの事務局
	京都岡本記念病院<新規申請>	地域医療支援 放射線治療	前立腺がん地域連携パスWGの事務局
地域がん診療病院	京都府立医科大学附属北部医療センター	内視鏡治療	京都府立医科大学附属病院とのグループ指定によりがん診療機能を向上させるとともに、がん診療連携拠点病院との連携を強化し、地域におけるがん診療の中核を果たす。
	京都中部総合医療センター	緩和ケア、 ^{②⑥} リニアック導入	
	京都山城総合医療センター	内視鏡治療	

京都府立医科大学附属病院及び京都大学医学部附属病院を中心として、各地域がん診療連携拠点病院、地域がん診療病院がそれぞれの機能・役割を果たすがん診療ネットワークを構築し、住み慣れた地域で、質の高いがん医療が受けられる環境づくりを推進する。

山城北医療圏の2病院の地域がん拠点病院への新規指定について

<2病院必要な理由>

- 山城北医療圏は人口規模が約44万人規模である
- 山城南医療圏(拠点病院未整備)のがん患者を補完している

山城北医療圏
(約44万人)

宇治徳洲会病院

京都岡本記念病院

山城南医療圏
(約12万人)

【拠点病院指定要件充足】

<宇治徳洲会病院> 全て満たしている

指定要件の診療実績		H29
1	院内がん登録数 500件以上	902件
	悪性腫瘍の手術件数 400件以上	631件
	化学療法のべ患者数 1,000人以上	1,052人
	放射線治療のべ患者数 200人以上	230人
	緩和ケアチームの 新規介入患者数 50人以上	93人
2	当該2次医療圏に居住するがん患者の 2割程度について診療実績があること	42%

<京都岡本記念病院> **H30実績で全て満たしている**

指定要件の診療実績		H29	H30(参考)
1	院内がん登録数 500件以上	657件	—
	悪性腫瘍の手術件数 400件以上	596件	—
	化学療法のべ患者数 1,000人以上	952人	1,077人
	放射線治療のべ患者数 200人以上	192人	208人
	緩和ケアチームの 新規介入患者数 50人以上	142人	—
2	当該2次医療圏に居住するがん患者の 2割程度について診療実績があること	49%	—

【地域の現状】

- 宇治徳洲会病院がH27年度、京都岡本記念病院がH28年度に新築移転し、がん診療機能を強化、今後更なる診療実績の増加が見込まれる。
- 人口規模及び隣接する山城南医療圏の補完機能を果たす等の観点から当該医療圏においては、2病院を新規指定することが必要である。

大 阪 府

大阪府がんの医療圏の概要

資料 1

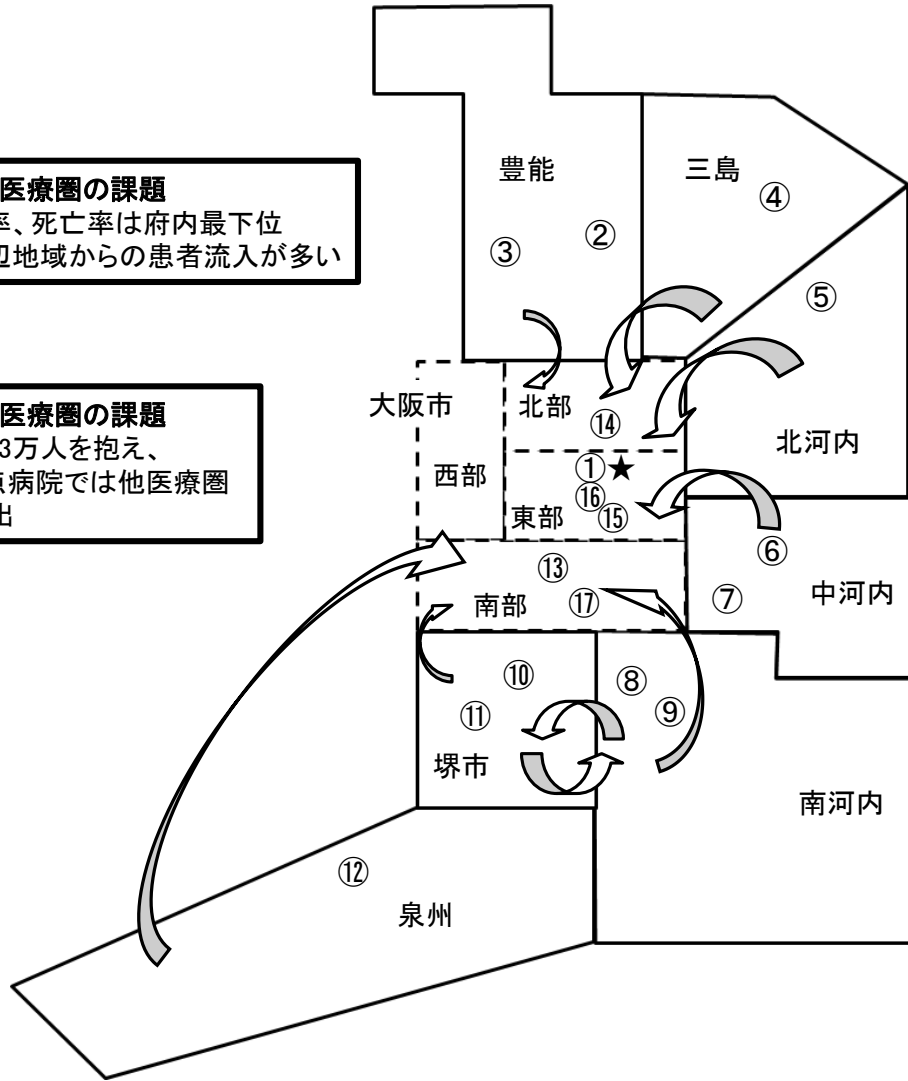
平成30年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数 (高度型)	計
豊能二次医療圏	275.61	1,047,202	11.9%	3,799.6	47	0	2	0	2
三島二次医療圏	213.46	747,560	8.5%	3,502.1	39	0	0	1	1
北河内二次医療圏	177.34	1,147,993	13.0%	6,473.4	61	0	1	0	1
中河内二次医療圏	128.83	832,335	9.4%	6,460.7	38	0	1	1	2
南河内二次医療圏	290.00	601,006	6.8%	2,072.4	38	0	1	1	2
堺市二次医療圏	149.82	831,253	9.4%	5,548.3	44	0	2	0	2
泉州二次医療圏	444.87	893,692	10.1%	2,008.9	76	0	1	0	1
大阪市二次医療圏	225.21	2,724,355	30.9%	12,097.0	180	0	5	1	6
北部基本保健医療圏	48.65	687,846	7.8%	14,138.7	38	0	0	1	1
西部基本保健医療圏	60.64	482,415	5.5%	7,955.4	30	0	0	0	0
東部基本保健医療圏	47.56	740,306	8.4%	15,565.7	63	0	3	0	3
南部基本保健医療圏	68.36	813,788	9.2%	11,904.4	49	0	2	0	2
計	1905.14	8,825,396	100.0%	41,962.4	523	0	13	4	17

大阪府 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

大阪市医療圏の課題
 ・罹患率、死亡率は府内最下位
 ・市周辺地域からの患者流入が多い

中河内医療圏の課題
 ・人口83万人を抱え、
 1拠点病院では他医療圏
 に流出



★: 都道府県拠点

- ①大阪国際がんセンター★ (平成27年4月1日)
- ②大阪大学医学部附属病院 (平成27年4月1日)
- ③市立豊中病院 (平成27年4月1日)
- ④大阪医科大学附属病院 (平成27年4月1日)
- ⑤関西医科大学附属病院 (平成27年4月1日)
- ⑥市立東大阪医療センター (平成27年4月1日)
- ⑦八尾市立病院 (平成27年4月1日)
- ⑧近畿大学医学部附属病院 (平成27年4月1日)
- ⑨大阪南医療センター (平成27年4月1日)
- ⑩大阪労災病院 (平成27年4月1日)
- ⑪堺市立総合医療センター (平成26年8月6日)
- ⑫市立岸和田市民病院 (平成27年4月1日)
- ⑬大阪市立大学医学部附属病院 (平成27年4月1日)
- ⑭大阪市立総合医療センター (平成27年4月1日)
- ⑮大阪赤十字病院 (平成27年4月1日)
- ⑯大阪医療センター (平成27年4月1日)
- ⑰大阪急性期・総合医療センター (平成26年8月6日)

前回申請時に複数指定を必要とした理由

- 各医療圏は全国平均の約3倍の人口規模
- 全国最悪レベルの死亡率

↓

- ① 医療圏毎に拠点病院の複数配置が必要
- ② 大阪国際がんセンターと5大学病院は、府内全域での高度医療の提供、人材育成・派遣や先進医療の提供等先導的な役割を果たす

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数 (年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1,000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
			年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 大阪市	★更新	大阪国際がんセンター	(6,264) 11,721	(31.5) 91.5	4,207	(2,319) 3,689	(8,761) 6,269	(890) 1,791	122	5	9,277
2 豊能	更新	大阪大学医学部附属病院	(6,005) 6,031	(29.0) 28.9	2,466	(1,954) 2,709	(3,570) 3,003	(823) 832	207	15	886
3 豊能	更新	市立豊中病院	(3,654) 3,969	(23.0) 25.8	1,713	(1,414) 1,288	(1,816) 2,487	(286) 342	107	20	3,138
4 三島	◇新規	大阪医科大学附属病院	(9,324) 7,931	(13.6) 37.5	2,400	(2,030) 2,375	(2,436) 3,420	(833) 904	216	31	6,535
5 北河内	更新	関西医科大学附属病院	(6,479) 6,204	(32.2) 30.2	2,639	(2,439) 2,433	(3,510) 5,345	(902) 1,193	754	30	3,430
6 中河内	更新	市立東大阪医療センター	(2,385) 2,130	(29.0) 15.7	1,377	(862) 943	(1,740) 1,002	(222) 220	441	13	2,274
7 中河内	◇新規	八尾市立病院	(2,624) 2,570	(23.0) 23.1	1,099	(795) 924	(2,135) 2,227	(272) 445	87	31	1,149
8 南河内	◇新規	近畿大学医学部附属病院	(6,315) 5,805	(13.6) 25.5	2,731	(3,189) 3,180	(10,661) 14,498	(795) 728	252	16	1,208
9 南河内	更新	大阪南医療センター	(2,188) 2,442	(32.2) 24.6	1,011	(523) 526	(1,101) 2,693	(130) 210	128	17	2,628
10 堺市	更新	大阪労災病院	(2,854) 2,895	(29.0) 13.5	1,650	(1,424) 1,363	(4,544) 1,117	(351) 366	186	20	2,282

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-②

()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

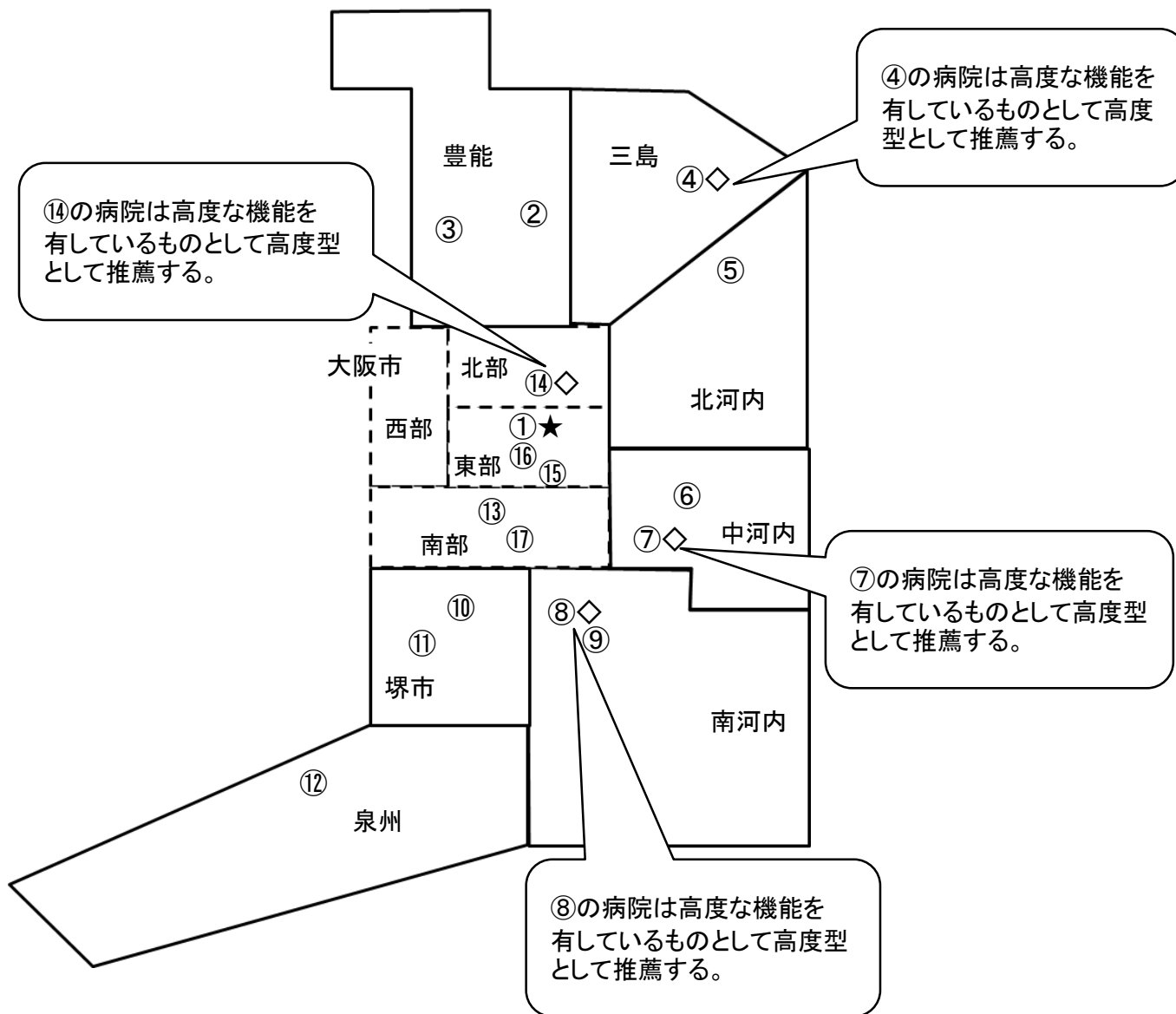
★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
11 堺市		更新	堺市立総合医療センター	(4,688) 4,968	(23.0) 34.2	1,830	(1,140) 1,172	(1,197) 1,833	(303) 395	421	29	2,262
12 泉州		更新	市立岸和田市民病院	(2,480) 2,548	(27.3) 27.1	1,313	(829) 852	(1,104) 1,175	(352) 391	69	17	4,651
13 大阪市		更新	大阪市立大学医学部附属病院	(4,752) 6,416	(31.9) 31.1	2,920	(1,143) 2,024	(9,298) 9,790	(403) 963	116	6	793
14 大阪市	◇	新規	大阪市立総合医療センター	(10,840) 8,096	(91.3) 31.0	2,318	(3,427) 1,786	(25,260) 12,323	(1,442) 1,329	1,180	9	1,668
15 大阪市		更新	大阪赤十字病院	(6,876) 6,720	(30.4) 29.2	2,331	(2,076) 1,861	(11,555) 12,228	(563) 618	321	6	4,881
16 大阪市		更新	大阪医療センター	(6,093) 4,508	(24.5) 28.5	1,189	(2,544) 1,322	(11,884) 2,791	(925) 359	589	8	6,155
17 大阪市		更新	大阪急性期・総合医療センター	(3,408) 3,726	(17.0) 18.3	2,220	(2,397) 1,805	(4,146) 2,504	(509) 547	254	6	1,111

大阪府 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)



- ①大阪国際がんセンター★ (更新)
- ②大阪大学医学部附属病院 (更新)
- ③市立豊中病院 (更新)
- ④大阪医科大学附属病院◇ (新規)
- ⑤関西医科大学附属病院 (更新)
- ⑥市立東大阪医療センター (更新)
- ⑦八尾市立病院◇ (新規)
- ⑧近畿大学医学部附属病院◇ (新規)
- ⑨大阪南医療センター (更新)
- ⑩大阪労災病院 (更新)
- ⑪堺市立総合医療センター (更新)
- ⑫市立岸和田市民病院 (更新)
- ⑬大阪市立大学医学部附属病院 (更新)
- ⑭大阪市立総合医療センター◇ (新規)
- ⑮大阪赤十字病院 (更新)
- ⑯大阪医療センター (更新)
- ⑰大阪急性期・総合医療センター (更新)

地域特性

- 府の人口 約882万人
- がん罹患数 約7万人⇒ 約7%
- 2次医療圏の平均人口 約110万人⇒ 全国平均の約3倍
- 1拠点病院あたりの人口 約52万人⇒ 約2倍
- 1拠点病院あたりの医療機関数 約530機関⇒ 約2倍

死亡率 77.5⇒全国36位
 ※年齢調整死亡率(75歳未満・人口10万人対)

病院機能

■1拠点病院あたりの手術件数 約1,779件

がん医療提供体制

三次医療圏

二次医療圏

一次医療圏

がん専門医療(都道府県拠点・5大学病院)
 都道府県がん診療連携拠点病院(国指定)・地域がん診療連携拠点病院(国指定)
 <地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター(都道府県拠点)>
 ○がん診療の質の向上及び医療機関の連携協力体制の中心的役割 等
 <5大学病院(地域がん診療連携拠点病院(国指定))>
 ○最新治療及び高度先進医療提供 ○がん医療の専門人材の育成 等

最先端治療
 粒子線治療等を行う医療機関

- がんゲノム医療
- 重粒子線治療
- 中性子捕捉療法(BNCT) 等

がん専門医療
 地域がん診療連携拠点病院(国指定)・大阪府がん診療拠点病院(府指定)

- 集学的治療の実施(外来化学療法を含む)
- セカンドオピニオン
- 地域医療連携クリティカルパス
- 緩和ケアの提供
- 相談支援センターの設置
- 病棟連携、病診連携
- がん登録 等

連携

退院時・合併症併発時・再発時の連携 等

症状に応じて紹介

がん検診
 市町村・がん検診を行う医療機関

歯科医療
 歯科医療機関

調剤
 薬局

外来医療
 がん医療を行う医療機関

在宅医療
 在宅医療を行う医療機関

予防対策
 大阪府・市町村・関係機関

- 口腔ケア(術前を含む)
- 口腔リハビリ

- 医薬品の適正使用
- 服薬管理・指導

- フォローアップ
- 緩和ケアの実施 等

- 生活の場の療養支援
- 緩和ケアの実施 等

大阪府においては、2次医療圏を基本としつつ、面で支えるがん医療提供体制の構築が重要

がん診療ネットワーク協議会

2次医療圏毎に国拠点病院が中心となって運営

【メンバー】

圏域内の国・府拠点病院 医師会 保健所
 市町村担当課 大阪国際がんセンター 大阪府

大阪府がん診療連携協議会

各部会

- 豊能
- 三島
- 北河内
- 中河内
- 南河内
- 堺市
- 泉州
- 大阪市

【既指定拠点病院の指定更新】

大阪府は人口が多く、がんによる死亡率も高い等の課題が多い。府内全域での役割分担と連携体制の強化を図り、より一層、がん医療の充実を図る必要があるため、既指定病院の指定更新が必要不可欠。

【地域拠点病院(高度型)の新規指定】

高度型の指定要件を充足していると認められる病院について大阪府がん対策推進委員会で選考した上で推薦を行った。

兵庫県

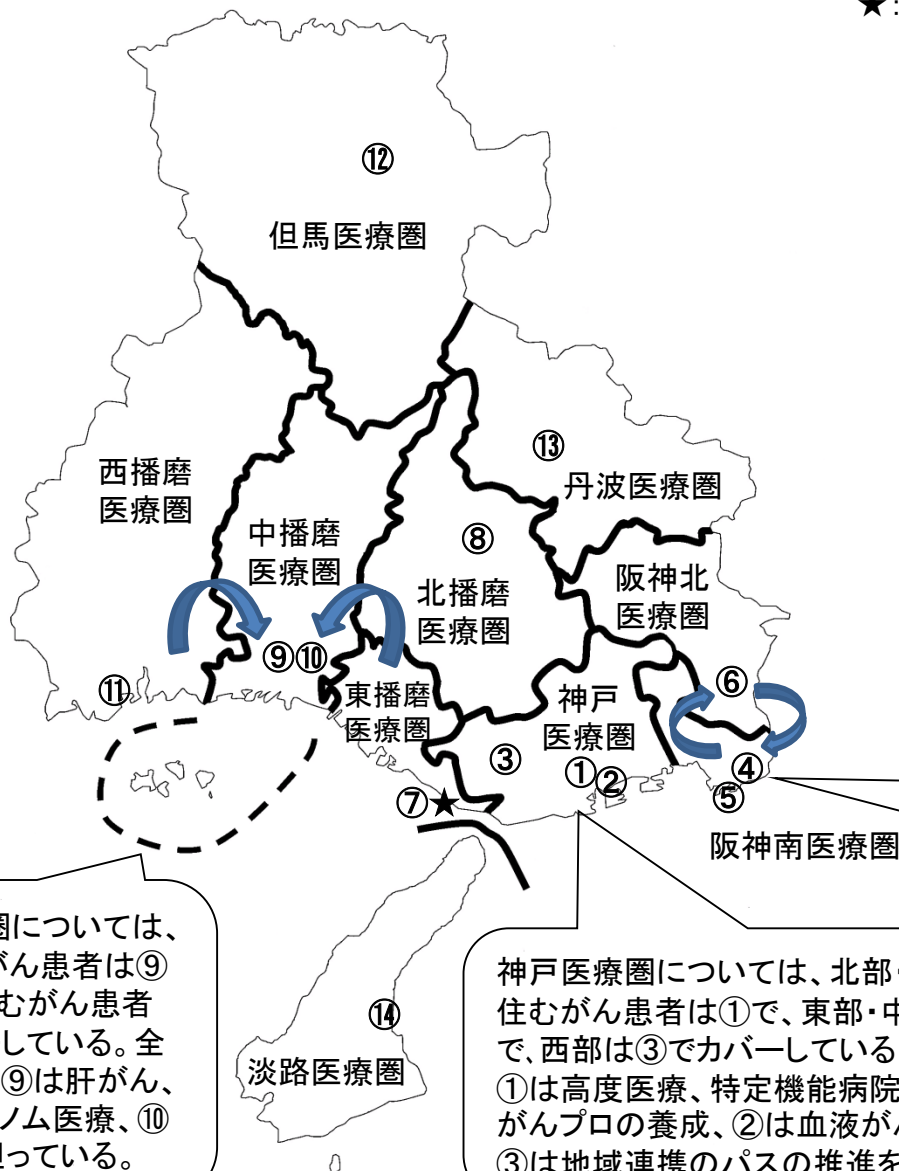
兵庫県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口 密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						既指定 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
神戸医療圏	552.3	1,527,757	27.9%	2,766	100	3	3	0	3	0	0	0	0
阪神南医療圏	168.7	1,034,309	18.9%	6,131	52	2	2	1	3	0	0	0	0
阪神北医療圏	480.8	719,326	13.1%	1,496	37	1	1	1	2	0	0	0	0
東播磨医療圏	266.2	714,828	13.0%	2,685	40	1	1	1	2	0	0	0	0
北播磨医療圏	895.6	267,642	4.9%	299	22	1	1	0	1	0	0	0	0
中播磨医療圏	865.2	573,615	10.5%	663	38	2	2	0	2	0	0	0	0
西播磨医療圏	1567.3	251,906	4.6%	161	24	1	1	0	1	0	0	0	0
但馬医療圏	2133.5	162,971	3.0%	76	11	1	1	0	1	0	0	0	0
丹波医療圏	870.9	102,932	1.9%	118	8	1	1	0	1	0	0	0	0
淡路医療圏	596.0	129,972	2.4%	218	11	1	1	0	1	0	0	0	0
計	8396.5	5,485,258	100%	653	343	14	14	3	17	0	0	0	0

兵庫県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- ①神戸大学医学部附属病院 (平成27年4月1日)
- ②神戸市立医療センター中央市民病院 (平成27年4月1日)
- ③神戸市西神戸医療センター (平成27年4月1日)
- ④独立行政法人労働者健康福祉機構関西労災病院 (平成27年4月1日)
- ⑤兵庫医科大学病院 (平成27年4月1日)
- ⑥公立学校共済組合近畿中央病院 (平成27年4月1日)
- ⑦兵庫県立がんセンター★ (平成27年4月1日)
- ⑧西脇市立西脇病院 (平成27年4月1日)
- ⑨姫路赤十字病院 (平成27年4月1日)
- ⑩独立行政法人国立病院機構姫路医療センター (平成28年4月1日)
- ⑪赤穂市民病院 (平成27年4月1日)
- ⑫公立豊岡病院組合立豊岡病院 (平成27年4月1日)
- ⑬兵庫県立柏原病院 (平成27年4月1日)
- ⑭兵庫県立淡路医療センター (平成28年4月1日)

中播磨医療圏については、西部に住むがん患者は⑨で、東部に住むがん患者は⑩でカバーしている。全県的役割は、⑨は肝がん、血液がん、ゲノム医療、⑩は肺がんを担っている。

神戸医療圏については、北部・中部(西側)に住むがん患者は①で、東部・中部(東側)は②で、西部は③でカバーしている。全県的役割は、①は高度医療、特定機能病院、ゲノム医療、がんプロの養成、②は血液がん、ゲノム医療、③は地域連携のパスの推進を担っている。

阪神南医療圏については、東部に住むがん患者は④で、西部に住むがん患者は⑤でカバーしている。全県的役割は、④は中皮腫、ゲノム医療、⑤血液がん、中皮腫、ゲノム医療、さらにはがんプロの養成も担っている。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療 圏名	類型	申請 区分	病院名	年間入院患者数の 状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る 薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新 入院が ん患者 数	年間新入 院患者数 に占めるが ん患者の 割合(%)	院内がん登録 数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手 術件数(年間) 400件以上	のべ患者数 (年間) 1,000人以上	のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケアチーム に対する新規 診療依頼数 (年間) 50件以上	当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談件数 (年間)
1 神戸		更新	神戸大学 附属病院	(4,785) 5,118	(25.7) 27.4	2,650	(1,927) 1,878	(1,960) 9,706	(742) 701	402	11	796
2 神戸		更新	神戸市立 MC中央 市民病院	(4,439) 5,459	(19.7) 23.5	2,556	(1974) 2,012	(2,790) 4,941	(565) 670	410	14	924
3 神戸		更新	西神戸 MC	(3,063) 3,034	(23.8) 22.7	1,505	(815) 1,423	(1,903) 2,040	(396) 450	291	9	807
4 阪神南		更新	関西労災 病院	(4,124) 3,817	(23.6) 21.6	1,850	(943) 1,676	(1,299) 1,655	(799) 685	133	12	574
5 阪神南	◇	新規	兵庫医科 大学病院	(4,531) 4,325	(19.5) 17.8	2,704	(1,841) 1,984	(3,678) 5,774	(763) 643	224	11	1,680
6 阪神南		新規	県立尼崎 総合MC	4,347	18.9	1,812	1,287	1,744	574	287	17	656
7 阪神北		更新	近畿中央 病院	(1,466) 1,464	(16.8) 16.8	604	(477) 507	(1,025) 1,237	(201) 149	117	8	148
8 阪神北		新規	市立伊丹 病院	1,783	17.3	1,205	508	1,269	255	99	15	143
9 東播磨	★	更新	県立がん C	(6,564) 6,239	(82.4) 80.0	2,968	(2,092) 2,058	(3,684) 5,600	(868) 773	301	19	3,061
10 東播磨		新規	加古川中 央市民病 院	2,386	12.4	1,778	472	5,309	250	89	15	293

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-2

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

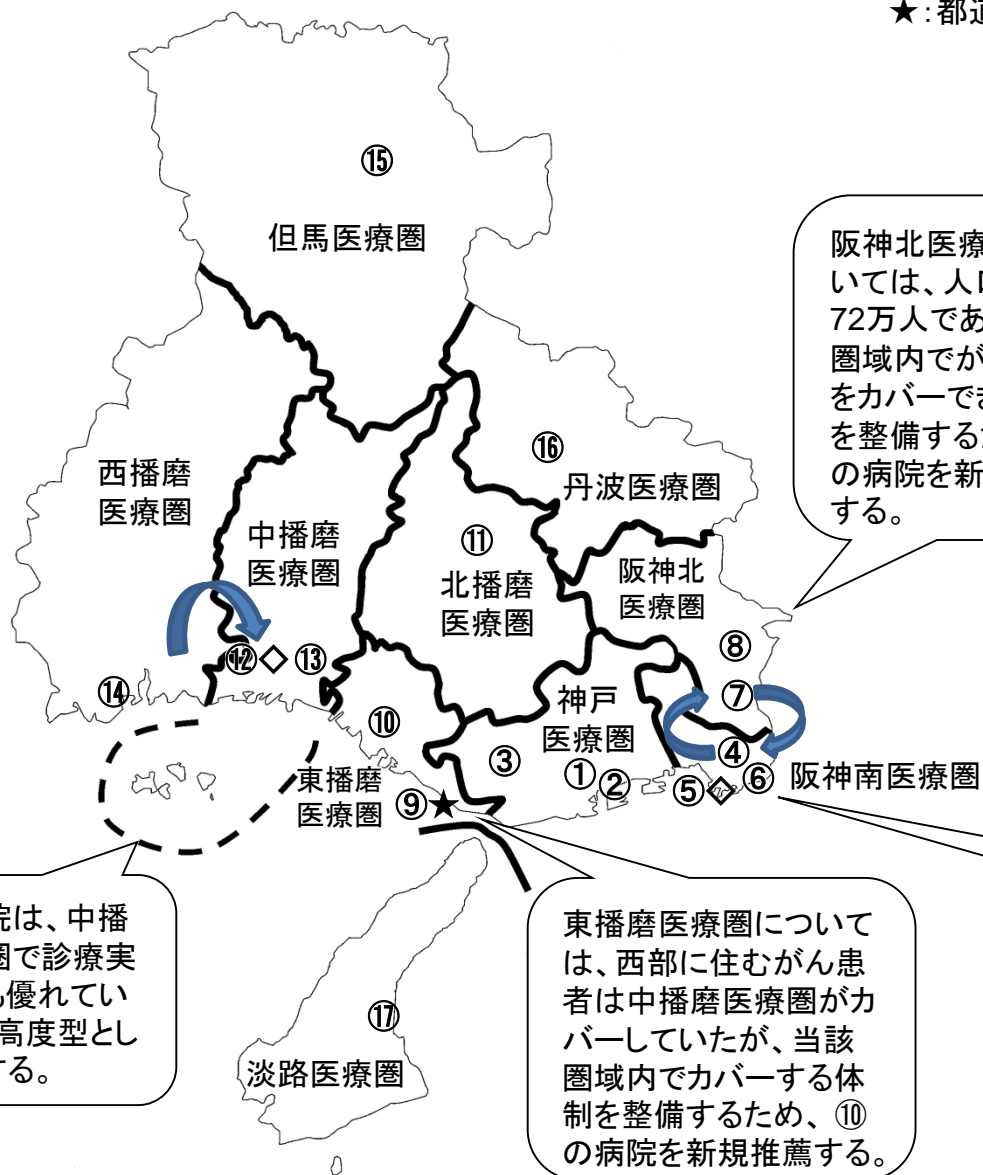
・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1,000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
11北播磨		更新	市立西脇病院	(938) 1,029	(13.9) 16.0	456	(196) 192	(350) 328	(120) 113	27	25	402
12中播磨	◇	新規	姫路赤十字病院	(5,179) 5,123	(29.6) 29.0	2,050	(1,649) 1,564	(1,432) 2,111	(442) 384	68	28	1,746
13中播磨		更新	姫路MC	(4,369) 4,289	(47.3) 45.9	1,518	(1,797) 1,225	(1,941) 1,439	(350) 446	110	25	481
14西播磨		更新	赤穂市民病院	(1,222) 1,156	(18.5) 17.7	391	(403) 380	(390) 788	(119) 100	37	23	729
15但馬		更新	公立豊岡病院	(2,043) 1,773	(19.9) 17.2	968	(705) 696	(682) 3,936	(154) 136	5	65	162
16丹波		更新	県立柏原病院	(673) 649	(14.9) 14.6	337	(346) 285	(161) 239	(54) 77	69	25	1,961
17淡路		更新	県立淡路MC	(1,134) 954	(17.3) 13.9	1,034	(437) 986	(1,082) 1,686	(211) 195	97	39	1,020

兵庫県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- ①神戸大学医学部附属病院 (更新)
- ②神戸市立医療センター中央市民病院 (更新)
- ③神戸市西神戸医療センター (更新)
- ④独立行政法人労働者健康福祉機構 関西労災病院 (更新)
- ⑤兵庫医科大学病院◇ (新規)
- ⑥兵庫県立尼崎総合医療センター (新規)
- ⑦公立学校共済組合近畿中央病院 (更新)
- ⑧市立伊丹病院 (新規)
- ⑨兵庫県立がんセンター★ (更新)
- ⑩加古川中央市民病院 (新規)
- ⑪西脇市立西脇病院 (更新)
- ⑫姫路赤十字病院◇ (新規)
- ⑬独立行政法人国立病院機構姫路医療センター (更新)
- ⑭赤穂市民病院 (更新)
- ⑮公立豊岡病院組合立豊岡病院 (更新)
- ⑯兵庫県立柏原病院 (更新)
- ⑰兵庫県立淡路医療センター (更新)

阪神北医療圏については、人口が約72万人であり、当該圏域内でがん患者をカバーできる体制を整備するため、⑧の病院を新規推薦する。

⑫の病院は、中播磨医療圏で診療実績が最も優れているため、高度型として推薦する。

東播磨医療圏については、西部に住むがん患者は中播磨医療圏がカバーしていたが、当該圏域内でカバーする体制を整備するため、⑩の病院を新規推薦する。

阪神南医療圏については、人口が増加を続けており、約103万人となっている。当該圏域内でがん患者をカバーできる体制を整備するため、⑥の病院を新規推薦する。また、④の病院は診療実績が当該圏域で最も優れているため、高度型として推薦する。

拠点病院の整備に関する基本的な考え方

- ・ 県内すべてののがんの医療圏に「がん診療連携拠点病院」を原則1か所整備
- ・ 医療圏の人口規模、患者の通院圏及び拠点病院間の診療機能、役割分担等を考慮し、必要な場合は複数か所を整備

がん対策推進計画上の重点がん種

- ・ 肺がん
 - ・ 肝がん
- 75歳未満年齢調整死亡率(人口10万対)が全国値を上回る

肺・肝がんの罹患(H26)、死亡(H29)状況

	年齢調整罹患率: 人口10万対(罹患数)	
	肺がん	肝がん
全国	40.8	14.7
兵庫県	44.8 (5,479)	18.2 (2,264)

※罹患は、地域がん登録全国推計値を利用

	75歳未満年齢調整死亡率: 人口10万対	
	肺がん	肝がん
全国	13.1	4.6
兵庫県	13.3 (全国34位)	4.8 (全国27位)

県立がんセンターを中心に対応

「肺がん」診療の核となる病院

<医療機関名>	<役割・特徴>
○独)姫路医療センター	中播磨、西播磨医療圏の肺がん手術の大半をカバー
○神戸大学医学部附属病院 ○神戸市立医療センター 中央市民病院 ○西神戸医療センター	神戸医療圏(人口153万人)は、3地域(東部・中部・西部)で対応
○独)関西労災病院 ○兵庫医科大学病院 ○県立尼崎総合医療センター	阪神南、阪神北医療圏のアスベスト疾患に対応

「肝がん」診療の核となる病院

<医療機関名>	<役割・特徴>
○姫路赤十字病院	中播磨、西播磨医療圏の肝がん手術の大半をカバー
○神戸大学医学部附属病院	先進医療(経皮的肝灌流、生体肝移植等)により高度進行肝がんに対応
○兵庫医科大学病院	肝疾患診療連携拠点病院

新規指定推薦を行うがんの医療圏の特徴

- ・圏域内及び県内拠点病院を受療する患者の割合が低い。

平成30年9月1日現在の
患者の受療行動

がん患者が居住する医療圏	人口(万人)	がん患者の入院医療機関の割合(%)	
		当該圏域の拠点病院	県内の拠点病院
神戸	153	33.4%	39.5%
阪神南	103	23.2%	28.4%
阪神北	72	5.4%	18.3%
東播磨	71	18.9%	25.6%
北播磨	27	14.9%	35.3%
中播磨	57	53.7%	57.2%
西播磨	25	18.2%	56.6%
但馬	16	43.1%	48.4%
丹波	10	24.5%	35.0%
淡路	13	39.0%	61.0%
平均	55	27.4%	40.5%

新規指定推薦病院が承認された場合(H30.9.1現在)

がん患者が居住する医療圏	がん患者の入院医療機関の割合(%)	
	当該圏域の拠点病院	県内の拠点病院
神戸	33.4%	39.7%
阪神南	39.8%	45.4%
阪神北	16.1%	31.2%
東播磨	33.4%	40.1%
北播磨	14.9%	35.9%
中播磨	53.7%	57.7%
西播磨	18.2%	56.6%
但馬	43.1%	48.5%
丹波	24.5%	35.0%
淡路	39.0%	61.0%
平均	31.6%	45.1%

新規指定推薦病院の特徴

阪神南医療圏

平成27(2015)年7月開設、病床数730床

兵庫県立尼崎総合医療センター

- ・隣接する阪神北医療圏の患者もカバーしている。
- ・既指定病院との連携により、圏域内で包括的かつ完結的ながん医療を提供可能となる見込み。
- ・悪性胸膜中皮腫の症例が多い。(全国で5番目)
- ・動体追尾式高精度放射線治療装置を導入している。
- ・病理検査室のISO015189拡大認定取得予定など、ゲノム医療への対応を進めている。

阪神北医療圏

昭和58(1983)年5月開設、病床数414床

市立伊丹病院

- ・指定により、当該圏域から阪神南医療圏等への患者の流出の減少が期待される。
- ・圏域内での医療連携の推進役となると期待される。
- ・開放病床を5床有し、地域医療機関と連携し、急性期から慢性期・在宅医療までシームレスながん治療を提供。
- ・3テスラMRI画像診断導入、強度変調放射線治療、脳腫瘍への定位放射線治療など、放射線治療が充実している。

東播磨医療圏

平成28(2016)年7月開設、病床数600床

加古川中央市民病院

- ・指定により、当該圏域から中播磨医療圏等への患者の流出の減少が期待される。
- ・がん治療に高度に特化した県立がんセンターとの連携により、圏域内で完結したがん医療が提供可能となる見込み。
- ・がん集学的治療センターを設置している。
- ・動体追尾式高精度放射線治療装置を導入している。
- ・当該圏域の新規血液がん患者の80%以上を受入れている。

奈良県

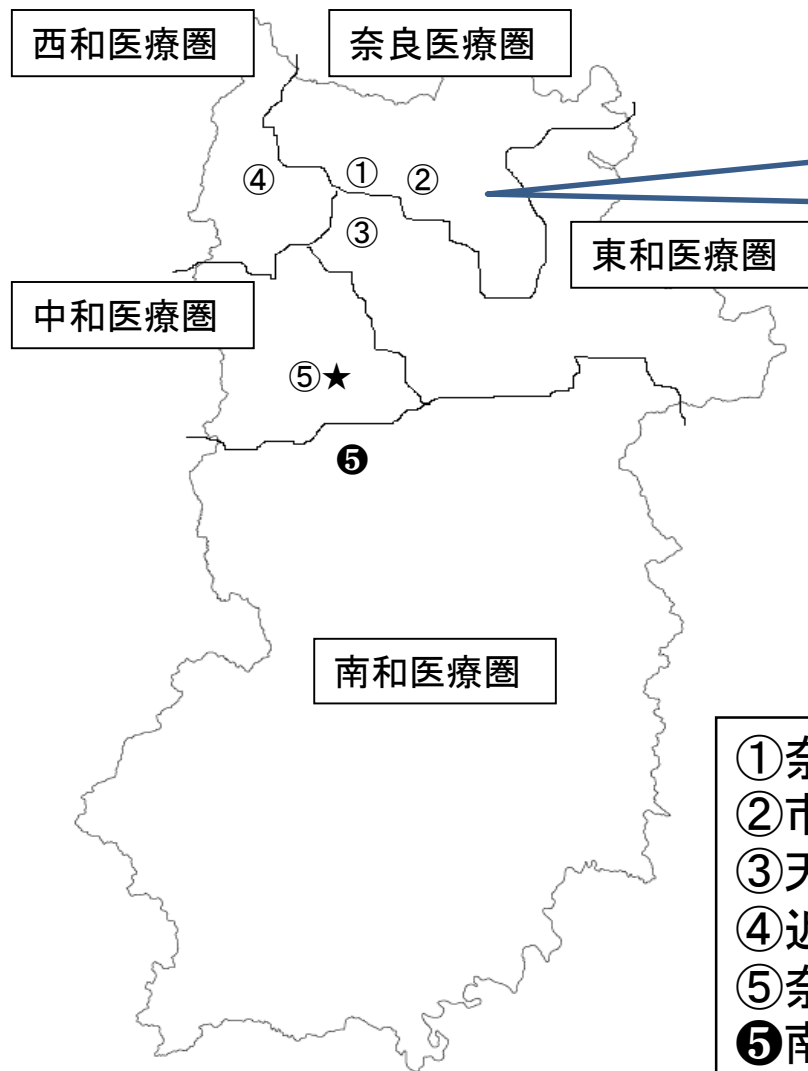
奈良県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

2次医療圏名	面積(km ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告病院数	今回更新病院数	新規申請病院数	計	現況報告病院数	今回更新病院数	新規申請病院数	現況報告病院数	今回更新病院数	新規申請病院数
奈良医療圏	276.94	355,489	26.52	1283.6	23	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
東和医療圏	657.77	203,569	15.18	309.5	12	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
西和医療圏	168.49	342,024	25.51	2029.9	18	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
中和医療圏	240.79	371,884	27.74	1544.4	21	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
南和医療圏	2346.92	67,703	5.05	28.8	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
計	3690.91	1,340,669	100	363.2	79	0	5	0	5	0	0	0	0	1	0

奈良県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



複数配置の医療圏(奈良医療圏)

①の病院は主に奈良医療圏西部のがん患者を、②の病院は奈良医療圏東部のがん患者をそれぞれ受け持つ。

- | | |
|----------------|-------------|
| ①奈良県総合医療センター | (平成27年4月1日) |
| ②市立奈良病院 | (平成28年4月1日) |
| ③天理よろづ相談所病院 | (平成27年4月1日) |
| ④近畿大学医学部奈良病院 | (平成27年4月1日) |
| ⑤奈良県立医科大学附属病院★ | (平成27年4月1日) |
| ⑥南奈良総合医療センター | (平成29年4月1日) |

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 奈良		更新	奈良県総合医療センター	(2,311) 2,332	(22.9) 21.5	1,341	(763) 971	(1,245) 2,714	(258) 258	310	38	1,276
2 奈良		更新	市立奈良病院	(1,715) 2,080	(18.0) 22.3	1,198	(895) 919	(527) 1,597	(218) 211	96	30	883
3 東和		更新	天理よろづ相談所病院	(4,642) 4,363	(27.6) 26.4	2,222	(1,348) 1,320	(1,830) 2,035	(377) 397	63	41	461
4 西和		更新	近畿大学医学部奈良病院	(2,961) 2,598	(31.2) 27.0	1,463	(824) 1,585	(4,872) 5,199	(347) 369	111	54	1,542
5 中和	★	更新	奈良県立医科大学附属病院	(4,390) 4,241	(23.4) 22.2	2,681	(2,295) 1,441	(3,351) 3,464	(627) 804	168	34	598

地域がん診療病院の診療実績等

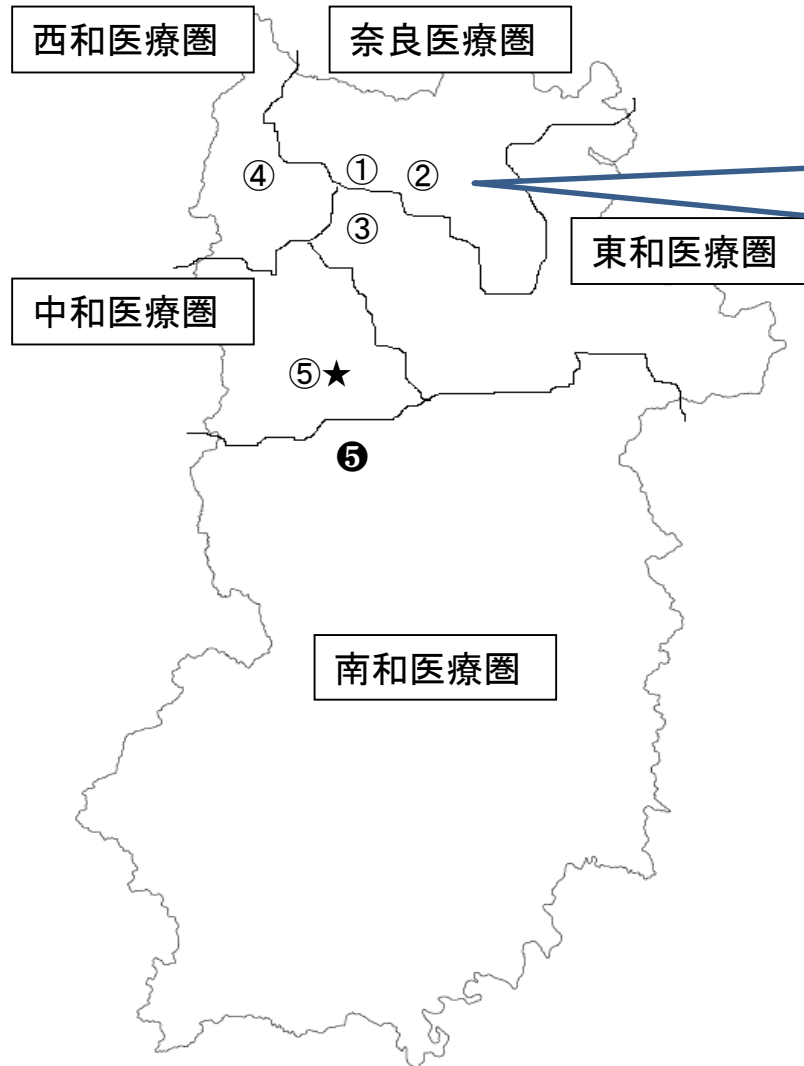
資料 3 - 2

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
⑤	南和	更新	南奈良総合医療センター	(507) 566	(13.4) 10.2	468	(137) 258	(43) 555	実施なし	56	274

奈良県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



複数配置の医療圏(奈良医療圏)

①の病院は主に奈良医療圏西部のがん患者を、②の病院は奈良医療圏東部のがん患者をそれぞれ受け持つ。

- | | |
|----------------|------|
| ①奈良県総合医療センター | (更新) |
| ②市立奈良病院 | (更新) |
| ③天理よろづ相談所病院 | (更新) |
| ④近畿大学医学部奈良病院 | (更新) |
| ⑤奈良県立医科大学附属病院★ | (更新) |
| ⑥南奈良総合医療センター | (更新) |

◆今回の更新に係る奈良県の考え方について

●第3期奈良県がん対策推進計画（平成31年3月策定）におけるがん診療連携拠点病院の位置づけ

都道府県がん診療連携拠点病院〔奈良県立医科大学附属病院〕

- ・ 県のがん診療体制の中核的な存在として、質の高い専門的ながん医療を提供
- ・ 「奈良県がん診療連携協議会」を運営し、地域がん診療連携拠点病院等と連携して、県全体におけるがん診療の水準の向上とがん診療の連携体制の充実に向けて中心的な役割を担う

地域がん診療連携拠点病院〔奈良県総合医療センター、市立奈良病院、天理よろづ相談所病院、近畿大学医学部奈良病院〕

- ・ 地域のがん診療体制の中核的な存在として、質の高い専門的ながん医療を提供
- ・ 都道府県がん診療連携拠点病院と連携して、その属する二次医療圏内のがん診療の連携体制の充実に向けて中心的な役割を担う

地域がん診療病院〔南奈良総合医療センター〕

- ・ 地域のがん診療体制の中核的な存在として、がん診療連携拠点病院とのグループ指定により専門的ながん医療を提供

すべての医療圏に
拠点病院を整備



県内で、安全かつ安心
な質の高いがん医療
の提供を！！

●本県のがん診療連携拠点病院の現状

医療圏	奈良医療圏	東和医療圏	西和医療圏	中和医療圏	南和医療圏
対象市町村数	1（奈良市のみ）	9	9	8	12
がん診療連携拠点病院	奈良県総合医療センター 市立奈良病院	天理よろづ相談所病院	近畿大学医学部奈良病院	奈良県立医科大学附属病院	南奈良総合医療センター
人口割合（％）	26.52	15.18	25.51	27.74	5.05

●同一医療圏で重複するがん診療連携拠点病院の役割（奈良医療圏）

<奈良医療圏の特徴>

- ・ 奈良医療圏は奈良市のみで、市部では面積が最も大きく、県総面積の7.5%を占め、東西長32.02kmと東西に長い。
- ・ 奈良県の人口の4分の1以上を占める。

<奈良医療圏におけるがん診療の状況>

奈良県総合医療センター	相互協力により質の高い がん医療を提供！	市立奈良病院
主に奈良医療圏の西部のがん患者を受け持つ		主に奈良医療圏の東部のがん患者を受け持つ
治療：高度な治療や手術支援ロボットの導入の先進的な療法の実施 緩和ケア：緩和ケアチームの強化		治療：主に大腸がんの内視鏡手術や乳がん手術を多く実施 緩和ケア：緩和ケア病床の設置
へき地医療拠点病院としてへき地へ医師を派遣 へき地における住民の医療を確保・支援し、がん予防や早期発見の機能を担うなど地域医療を補完		

和歌山県

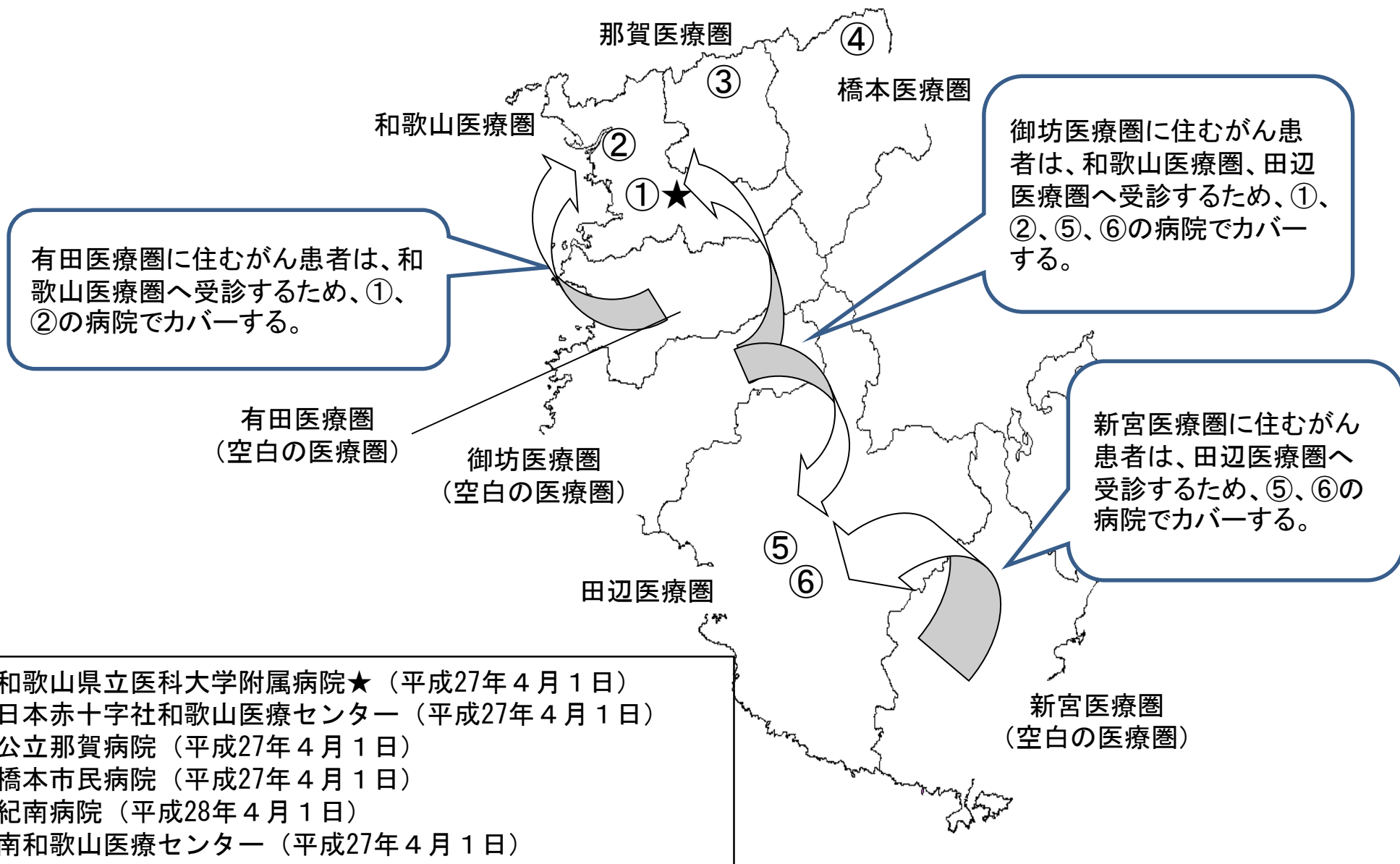
和歌山県のがんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
和歌山	438	416,301	44.5%	949.9	43	0	1	1	2	0	0	0	0	0	0
那賀	267	113,576	12.1%	425.8	8	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
橋本	463	85,151	9.1%	183.7	5	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
有田	475	71,212	7.6%	150.0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
御坊	579	61,210	6.5%	105.7	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
田辺	1,580	123,550	13.2%	78.2	9	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0
新宮	922	64,018	6.8%	69.4	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4,725	935,018	100%	197.9	83	0	5	1	6	0	0	0	0	0	0

和歌山県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

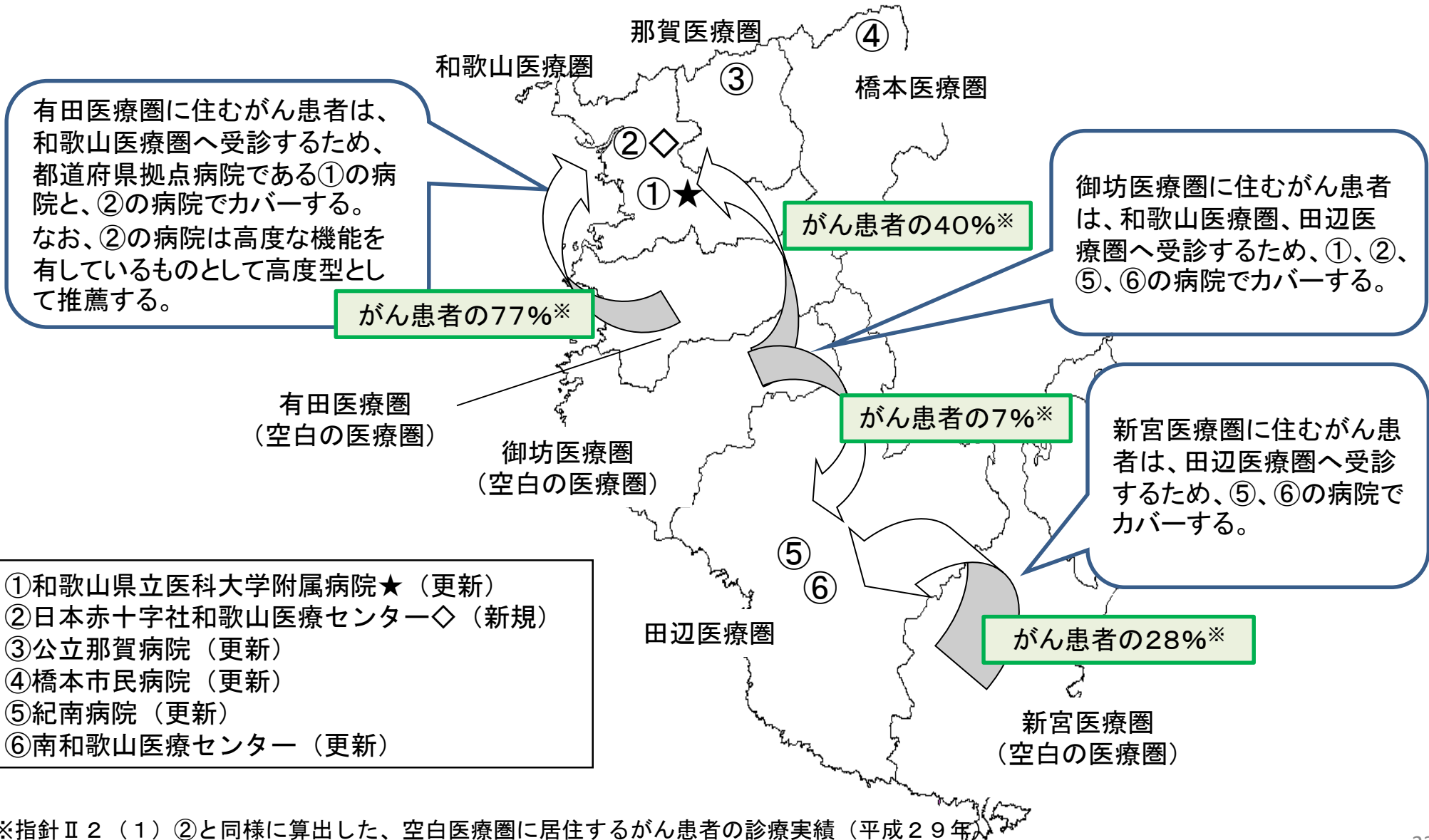
- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 和歌山	★	更新	和歌山県立医科大学 大学附属病院	(5,055) 5,195	(30.2) 30.3	2,912	(2,668) 2,760	(7,602) 8,134	(435) 522	340	28	6,209
2 和歌山	◇	新規	日本赤十字社和歌山 医療センター	(4,156) 5,950	(21.4) 29.9	2,383	(1,453) 1,466	(4,845) 2,023	(541) 468	258	45	1,596
3 那賀		更新	公立那賀病院	(798) 827	(15.9) 16.1	426	(500) 412	(1,011) 1,348	(24) 77	80	57	1,225
4 橋本		更新	橋本市民病院	(812) 765	(12.5) 12.1	421	(334) 375	(1,323) 518	(289) 107	177	55	856
5 田辺		更新	紀南病院	(1,064) 1,153	(13.0) 13.8	672	(444) 457	(1,726) 1,049	(132) 125	132	39	838
6 田辺		更新	南和歌山医療センター	(1,339) 1,257	(22.4) 21.3	740	(508) 468	(1,173) 1,235	(164) 206	160	43	2,525

和歌山県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



今回の指定推薦に係る和歌山県の考え方

今回の指定推薦にあたっては、7つの二次医療圏の内4医療圏で計6施設の指定更新（うち1施設は高度型として新規）を推薦したい。

県がん診療連携拠点病院

和歌山県立医科大学附属病院（和歌山医療圏）

県内全域をカバー

- ◆和歌山県がん診療連携協議会の運営（地域連携・相談支援、がん登録、緩和ケア・研修教育、化学療法 の各部会）
- ◆地域がん診療連携拠点病院への支援
- ◆がん診療に携わる医療従事者の養成 等

北部（和歌山、那賀、橋本、有田）

地域がん診療連携拠点病院

南部（御坊、田辺、新宮）

日本赤十字社和歌山医療センター（和歌山医療圏）

- ◆最も人口の多い和歌山医療圏で、県立医科大学と連携して高度な医療を提供
- ◆患者数が最も多く、隣接する有田医療圏や大阪府南部からも患者受け入れ

紀南病院（田辺医療圏）

- ◆県南部で南和歌山医療センターと共に中心的な病院
- ◆隣接する御坊、新宮医療圏からの患者受け入れ、新宮医療圏での診療支援
- ◆地域の医療機関との連携も強い

公立那賀病院（那賀医療圏）

- ◆圏域内で中心的な病院であり、隣接する医療圏からも患者は多い
- ◆在宅緩和ケアなど地域との連携に積極的に取り組んでいる

協力・連携

橋本市民病院（橋本医療圏）

- ◆県北東部で中心的な病院であり、隣接する奈良県南西部からも患者は多い
- ◆伊都医療圏で唯一の放射線治療が可能な病院

南和歌山医療センター（田辺医療圏）

- ◆県南部で紀南病院と共に中心的な病院
- ◆隣接する御坊、新宮医療圏からの患者受け入れ、新宮医療圏での診療支援
- ◆緩和ケア病棟を備え、患者の病状に応じた医療体制を提供

未充足項目に関する考え方

●診療従事者要件【公立那賀病院、橋本市民病院、紀南病院】

⇒ 医師確保等の調整中であり、次期更新申請では要件を充足する予定。

●診療実績要件【紀南病院】

⇒ 放射線治療患者数のみ未充足。他の県内拠点病院との比較や、院内がん登録数から見ると妥当な実績。

- ・同規模の他の地域拠点病院である公立那賀病院や橋本市民病院より多い。
- ・県内の拠点病院全体のがん登録件数に対する放射線治療患者数の割合から県全体の放射線治療に対する需要を考慮しても、当該患者数は妥当。
- ・放射線治療機器の入替を行い、治療に携わる医療従事者の体制を検討し、実績の確保に努めていく。

同一医療圏での複数設置について

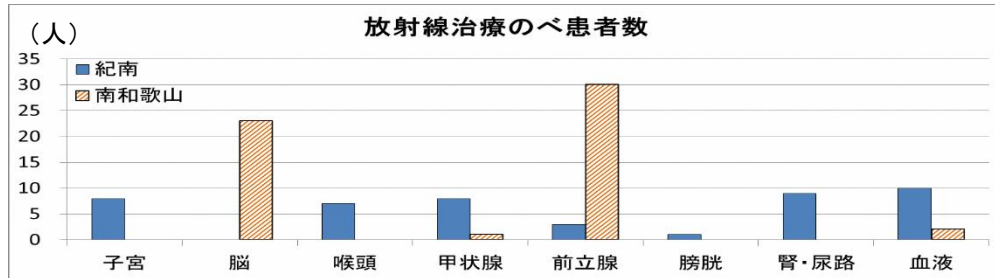
和歌山医療圏 県内の人口の約43%が集まる医療圏であり、県全体のがん診療の中心的な役割を担う和歌山県立医科大学附属病院と、診療実績も多い日本赤十字社和歌山医療センターで、当該医療圏と隣接する空白医療圏の有田医療圏のがん患者もカバーする必要があることから、複数設置が必要

田辺医療圏 隣接空白医療圏の御坊、新宮両医療圏の患者を連携・協力のもとカバーしており、医師数の少ない当該医療圏ではどちらか一方の施設だけでは困難であるため、複数設置は必要。将来的に、両隣の空白医療圏内の基幹病院が「地域がん診療病院」の指定を目指すためのグループ連携を行っていく上でも、両施設の協力・連携が必要。地域医療構想においても病院機能の分化・連携を進めているところであり、がん治療においても病院医師の専門性に基づき治療対象のがん種の棲み分けなどに取り組んでいる。

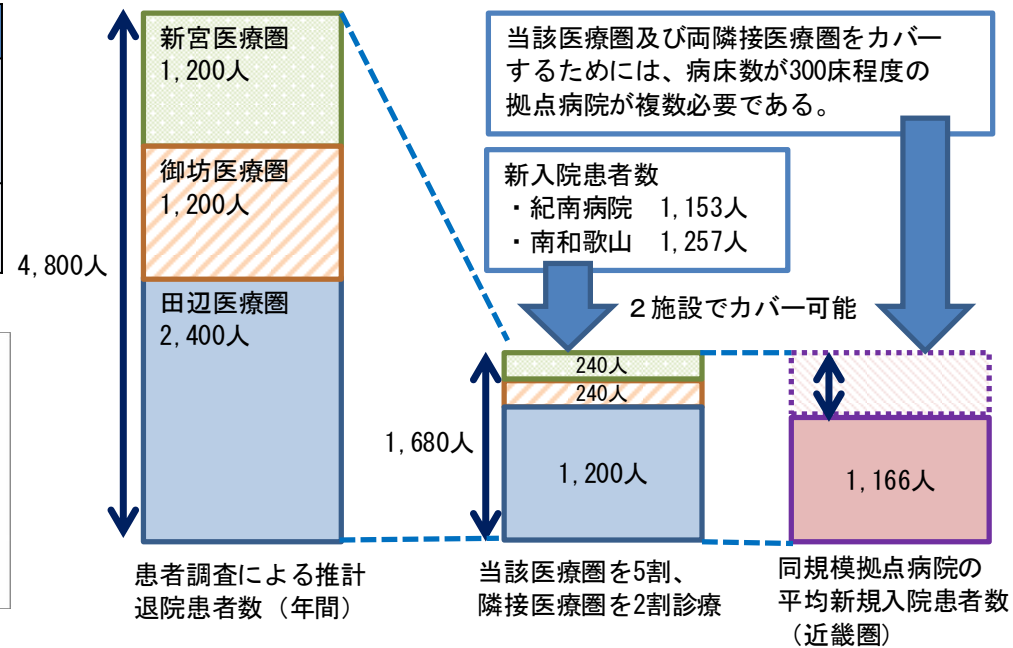
○田辺医療圏における地域拠点病院のそれぞれの役割（強み）

	紀南病院	南和歌山医療センター
がん種 (我が国に多いがんを除く)	頭頸部、子宮、泌尿器、血液腫瘍	脳腫瘍
診療機能	ロボット支援下内視鏡手術	強度変調放射線治療、緩和ケア病棟

○田辺医療圏における放射線治療の状況



○田辺医療圏及び隣接医療圏の診療について



空白医療圏に関する考え方

本県では空白医療圏が3圏域存在するが、それぞれ隣接医療圏等でカバーする。また、御坊医療圏、新宮医療圏は、県が独自に指定する「県がん診療推進病院」を設置し、一定のがん診療機能の均てん化を図っている。

有田医療圏	和歌山医療圏に隣接。交通アクセスも良いことから和歌山県立医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センターでカバー
御坊医療圏	田辺医療圏に隣接。国保日高総合病院（県指定）を中心に、田辺医療圏（紀南病院、南和歌山医療センター）や和歌山医療圏（和歌山県立医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センター）でカバー
新宮医療圏	田辺医療圏に隣接。新宮市立医療センター（県指定）を中心に、田辺医療圏（紀南病院、南和歌山医療センター）でカバー

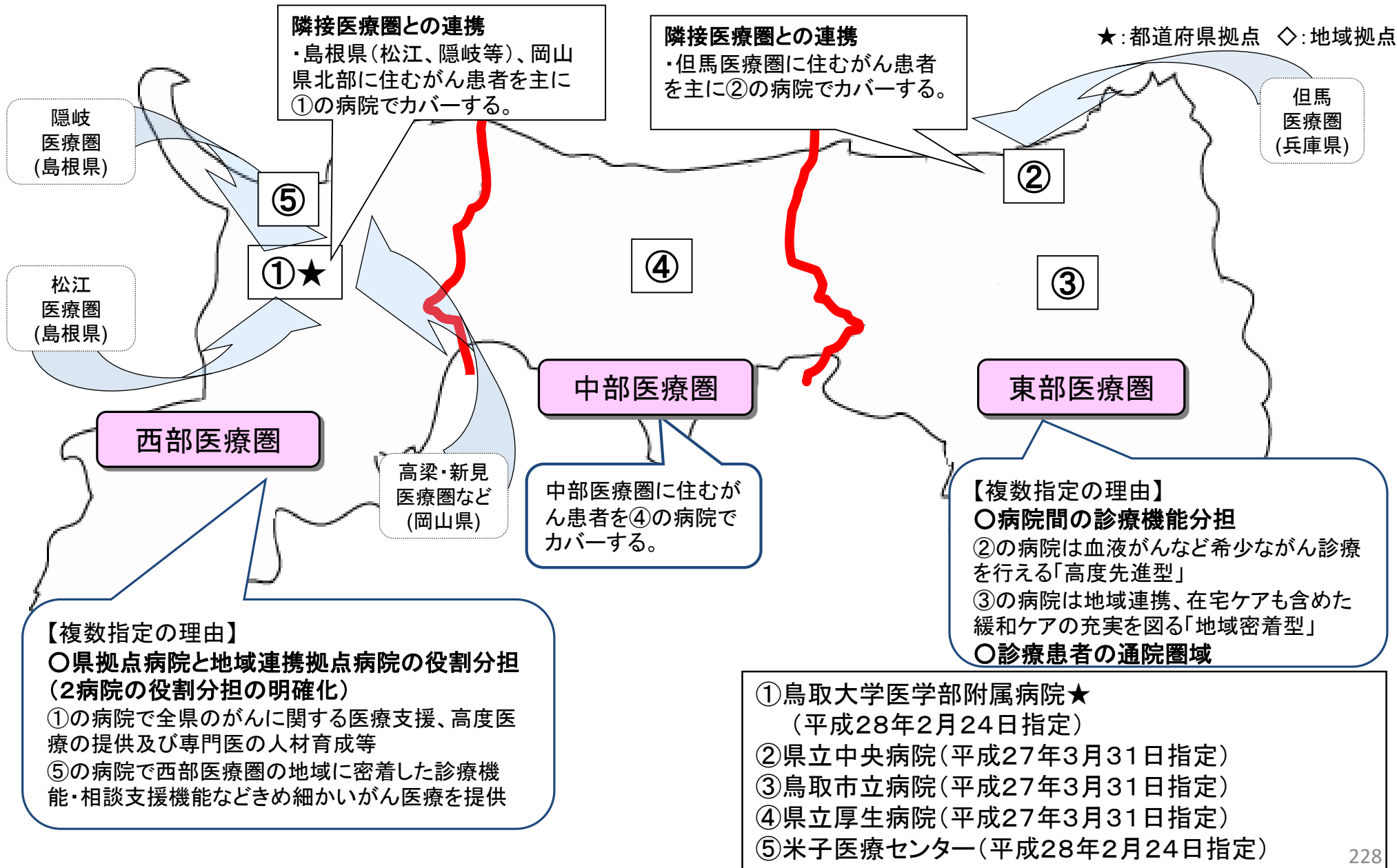
鳥 取 県

鳥取県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏域名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診療連携拠点病院				地域がん診療病院				
						現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	現況 報告 病院数	今回 更新 病院数	新規 申請 病院数	計	
東部医療圏	1518.67	227,302	40.6%	149.7	14	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中部医療圏	780.63	101,067	18.0%	129.5	10	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
西部医療圏	1207.98	232,217	41.4%	192.2	20	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	3507.28	560,586	100.0%	159.8	44	0	5	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0

鳥取県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

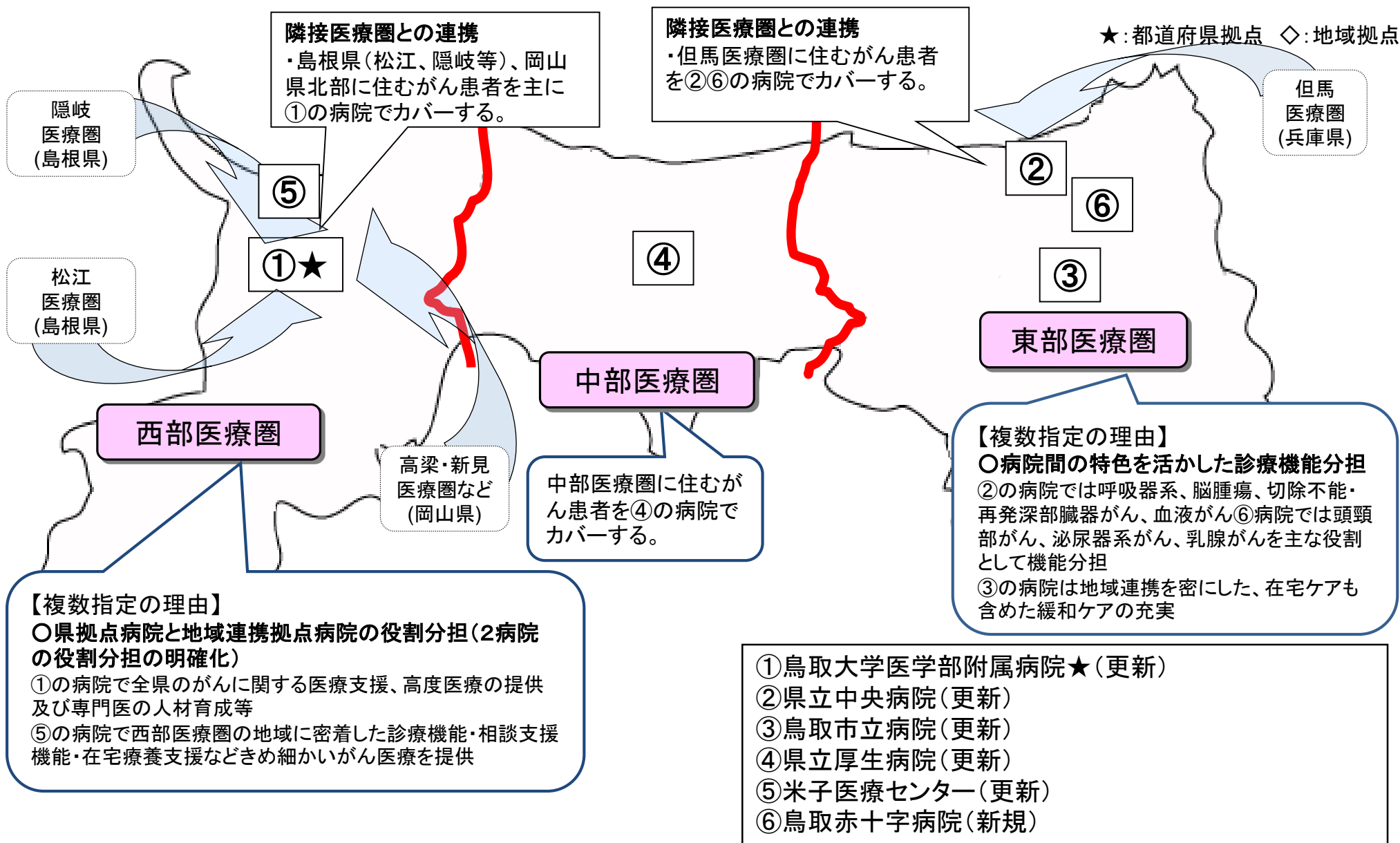
資料3-1-①

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診療 依頼数(年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住するがん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 西部医療圏	★	更新	鳥取大学医学部附属病院	(4924) 5008	(31.4) 31.3	1662	(1110) 1349	(2189) 2338	(468) 416	68	52	183
2 東部医療圏		更新	県立中央病院	(4789) 4360	(48.1) 45.3	995	(789) 592	(943) 1056	(172) 165	85	38	6521
3 東部医療圏		更新	鳥取市立病院	(804) 1016	(11.5) 15.5	565	(618) 413	(283) 453	(115) 125	53	20	1031
4 中部医療圏		更新	県立厚生病院	(1349) 1338	(22.6) 22.4	571	(407) 465	(246) 264	(115) 107	149	46	3130
5 西部医療圏		更新	米子医療センター	(1359) 1837	(26.0) 36.6	546	(501) 526	(555) 1315	(197) 181	61	27	1351
6 東部医療圏		新規	鳥取赤十字病院	1607	20.8	739	567	611	128	76	25	0

★:都道府県拠点

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

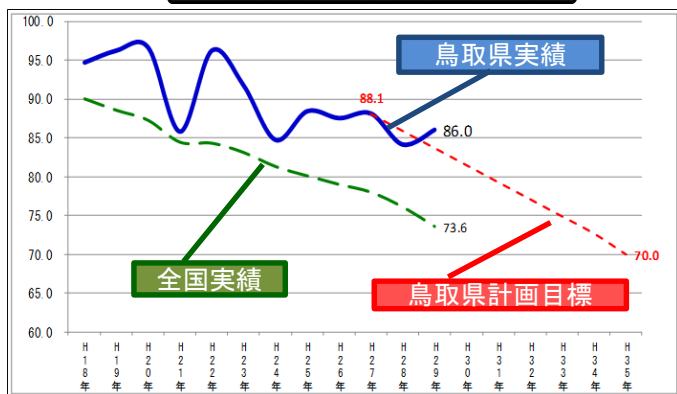
鳥取県 平成31年度の指定推薦状況と想定される患者受療動向



- がんは昭和57年以降死因の第1位となり、死亡要因の約3割を占めている。
- がんの75歳未満年齢調整死亡率は高く、平成29年は全国ワースト2位(人口10万人対86.0)
(平成25～27年:全国ワースト3位、平成28年:全国ワースト4位)
- 「全国がん登録」のデータを基に公表された平成28年のがんの年齢調整罹患率は全国ワースト7位

緊急事態

75歳未満がん年利調整死亡率



都道府県別75歳未満がん年利調整死亡率の年次推移

部位	性別	順位	2013		2014		2015		2016		2017	
			都道府県	値	都道府県	値	都道府県	値	都道府県	値	都道府県	値
全部位	男女計	40	高知県	85.1	大阪府	83.8	長崎県	81.4	栃木県	80.7	長崎県	79.0
全部位	男女計	41	佐賀県	85.9	福岡県	83.9	福岡県	82.7	岩手県	81.3	佐賀県	79.8
全部位	男女計	42	大阪府	86.3	長崎県	85.3	茨城県	83.1	大阪府	81.4	福岡県	80.3
全部位	男女計	43	長崎県	88.0	佐賀県	85.9	大阪府	84.4	高知県	81.8	岩手県	81.3
全部位	男女計	44	秋田県	88.2	秋田県	86.5	北海道	87.7	鳥取県	84.1	秋田県	83.8
全部位	男女計	45	鳥取県	88.4	鳥取県	87.5	鳥取県	88.1	北海道	85.6	北海道	84.1
全部位	男女計	46	北海道	88.5	北海道	88.2	秋田県	91.2	秋田県	87.4	鳥取県	86.0
全部位	男女計	47	青森県	99.6	青森県	98.0	青森県	96.9	青森県	93.3	青森県	88.9

第3次鳥取県がん対策推進計画

全体目標: 1 がんによる死亡者の減少

75歳未満年齢調整死亡率(人口10万人対)を70.0未満とする。(男性:90.0未満、女性50.0未満)

2 がんになっても自分らしく生きる7ことのできるがんとの共生社会を実現する。

がん診療連携拠点病院の整備方針

- 都道府県がん診療連携拠点病院を1病院、地域がん診療連携拠点病院を二次医療圏(東部・中部・西部)において、概ね1箇所程度整備するが、必要に応じて複数を整備する。
- 都道府県がん診療連携拠点病院を核に、地域性・専門性等を踏まえ各医療圏に指定された地域がん診療連携拠点病院と共に行う、県全域及び隣接県(島根県、岡山県及び兵庫県)医療圏域の住民に対するがん医療の提供。
- 県民が身近な地域(各医療圏)で、安心して質の高いがん医療が受けられる診療体制の構築。
- がん診療連携拠点病院を中心とした地域医療との連携、がん医療の均てん化を実現する体制の推進。

1 病院間の診療機能分担

県立中央病院

+

鳥取赤十字病院

- 隣接医療圏の一部も視野に入れた、幅広い高度の急性期がん医療を提供
- 平成30年5月28日鳥取赤十字病院 新病院オープン
- 平成30年12月16日県立中央病院 新病院オープン
(PET-CT、IMRTの導入、緩和ケア体制の強化等によるがん医療の更なる充実)
- 鳥取赤十字病院との間の「**がん診療の共同拠点化に関する覚書**」締結(平成30年3月)
 - ・がん疾患別・病態別の主な役割分担
 - 県立中央病院:呼吸器系がん、脳腫瘍、切除不能・再発深部臓器がん、血液がん
 - 鳥取赤十字病院:頭頸部がん、泌尿器系がん、乳腺がん
 - ・適応患者の相互紹介による高機能医療機器の効率的活用
 - ・共同カンサーボードの設置による医療従事者のスキルアップ

鳥取市立病院

- 検診から看取りまで切れ目のない医療の提供
- 「ひとと地域をケアで包む鳥取市立病院」をビジョンに掲げ、地域包括ケア病棟の開設による圏域の医療機関と連携した在宅、訪問を含めた医療体制の拡充
- IVRを実施する放射線科医の相互応援協定を3病院(県立中央病院、鳥取市立病院、鳥取赤十字病院)で結ぶなど3病院での連携を推進
「**鳥取県東部の救急医療における画像下治療診療に関する覚書**」締結(平成30年10月)

県立中央病院 新病院(H30..12.16オープン)



鳥取県立病院ビジョン

ひとと地域をケアで包む
鳥取市立病院

2 複数指定されることの効果

- 圏域全体において、身近な地域で高度な質の高い医療の提供が図られる。
- 隣接医療圏の実質的な地域がん拠点病院機能の一部を果たす。
- 3病院の特性を活かした機能分担、連携による、がん医療の均てん化。
- 医療機器の共同利用などにより、早期診断を図っており、診療の連携協力体制の整備がより一層図られる。

3 東部医療圏において複数推薦する理由

- 人口最少県である鳥取県において、診療の述べ患者数の要件を全て満たすことは地域事情として厳しいが、本県のがんを取り巻く厳しい状況に鑑み、県民が身近な地域で安心して質の高いがん医療が受けられる診療体制を構築するためにも複数の病院指定が必要である。
- 推薦病院は全て東部医療圏に居住するがん患者の2割以上の診療実績があり、東部医療圏のがん診療に不可欠な中核的病院である。
- 推薦病院のがん診療における特色を活かした機能分担、連携強化により、医療の均てん化が図られ、がん診療の質的向上が期待される。

島根県

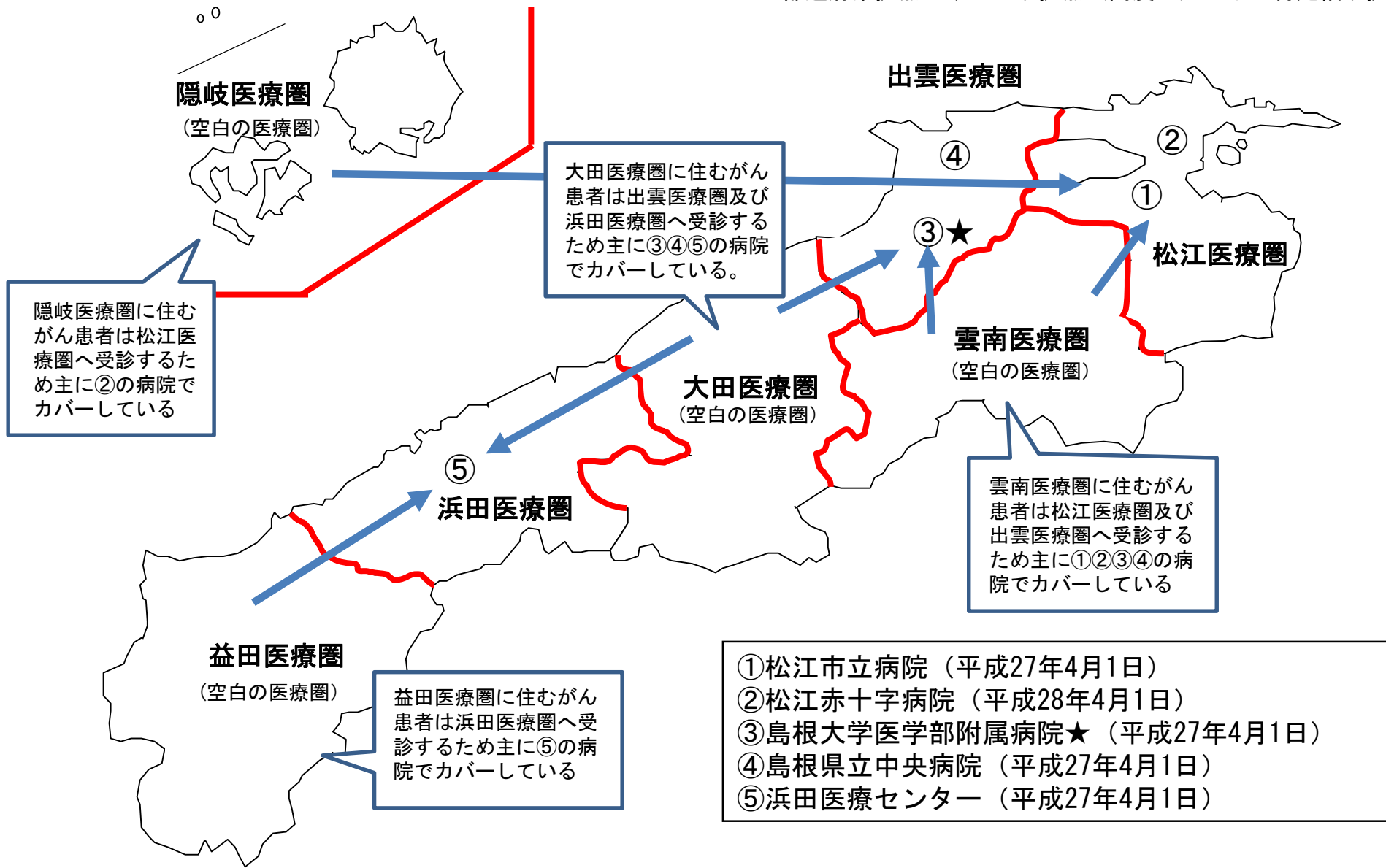
島根県 がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
松江	993.92	242,566	35.7	244.1	14		1	1	2						
雲南	1164.07	54,042	8.0	46.4	5				0						
出雲	624.36	172,849	25.4	276.8	11		2		2						
県央	1244.35	51,761	7.6	41.6	4				0						
浜田	958.90	79,388	11.7	82.8	8		1		1						
益田	1376.72	59,332	8.7	43.1	5				0						
隠岐	345.92	19,969	2.9	57.7	2				0						
計	6708.24	679,907	100	792.54	49	0	4	1	5	0	0	0	0	0	0

島根県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

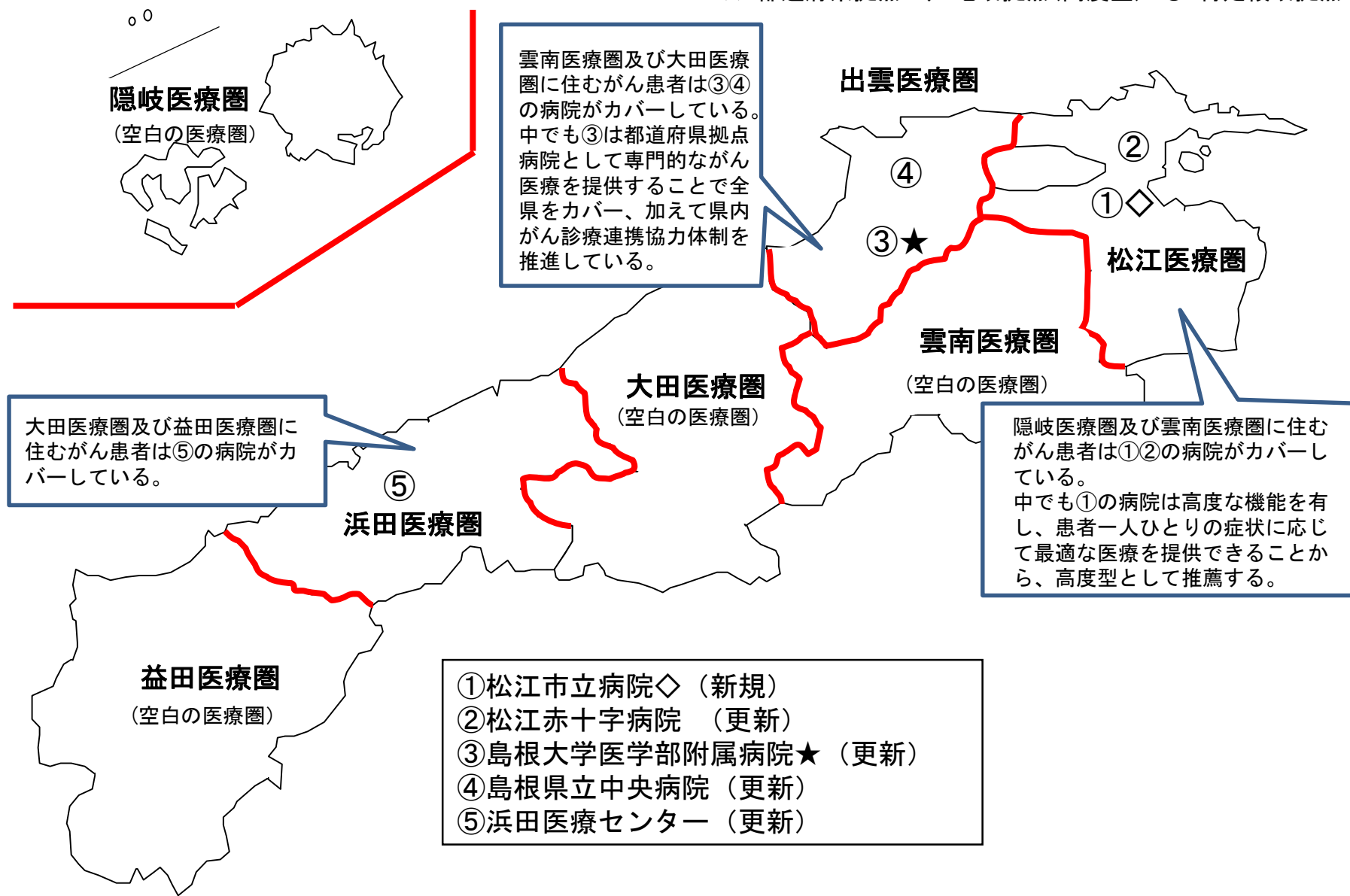
- ・ () 内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・ 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 松江	◇	新規	松江市立病院	(1,800) 1,873	(21.3) 21.5	660	(427) 484	(2,991) 2,728	(191) 206	254	29	2,279
2 松江		更新	松江赤十字病院	(2,716) 3,197	(19.3) 22.5	1,114	(684) 907	(1,234) 1,425	(137) 202	52	44	377
3 出雲	★	更新	島根大学医学部附属病院	(3,644) 3,722	(27.1) 27.0	1,433	(1,055) 1,029	(1,098) 1,218	(378) 360	118	35	2,095
4 出雲		更新	島根県立中央病院	(2,136) 2,102	(17.0) 16.8	937	(815) 723	(1,069) 1,071	(213) 253	82	29	1,114
5 浜田		更新	浜田医療センター	(1,977) 1,912	(28.9) 27.8	750	(761) 691	(1,846) 1,742	(131) 138	180	74	263

島根県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



新規及び指定更新推薦に係る島根県の考え方

1. 基本的な考え方

「患者本位で将来にわたって持続可能なしまねらしいがん医療の実現」

東西に長く離島や中山間地域からなる本県特有の地理的要因に関わらず、県内どこに住んでいても安心してがん医療が受けられ、患者や家族の痛みやつらさが緩和され、生活の質が向上している状態を目指す。

3. 推薦の概要

目指すべき姿の実現のため、都道府県拠点病院及び地域拠点病院について、引き続き推薦を行う。ただし、地域拠点病院のうち松江市立病院については、敷地内にがんセンターを併設、緩和ケア病床もあることなどから高度型として推薦を行う。

2. がん医療体制の目指すべき姿

- ①拠点病院体制の維持とがん医療機能の向上
- ②拠点病院と地域の病院の連携・機能分担の促進
- ③都道府県拠点病院を中心に集約化されている医療等へのアクセスの推進

4. 指定により期待される効果

拠点病院と空白の医療圏及び拠点病院のある医療圏にある地域の病院等との連携・機能分担を促進させることにより、「できる治療は患者に身近な病院・場所を実施する仕組み」を実現する。

岡山県

岡山県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん診療 連携拠点病院		地域がん診療病院	
						既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
県南東部	1,906.50	917,172	48.3	481.1	78	0	4	4	0	0	0	0
県南西部	1,124.39	702,236	36.9	624.6	53	0	2	2	0	0	0	0
高梁・新見	1,340.28	59,398	3.1	44.3	8	0	0	0	0	0	1	1
真庭	895.64	44,884	2.4	50.1	7	0	0	0	0	0	1	1
津山・英田	1,847.66	176,310	9.3	95.4	17	0	1	1	0	0	0	0
計	7114.47	1,900,000	100	267.1	163	0	7	7	0	0	2	2

岡山県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。

川崎医科大学附属病院は、高梁・新見医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

倉敷中央病院は、圏域内を広範囲にカバーするとともに、地域医療連携について中心的役割を担う。

医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。岡山大学病院は県拠点病院として、他の拠点病院等を牽引。

岡山済生会総合病院は、緩和ケアの全県的な普及について中心的役割を担う。

岡山赤十字病院は、相談支援について中心的役割を担う。

岡山医療センターは、真庭医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

- ①岡山大学病院★
(平成27年4月1日)
- ②岡山済生会総合病院
(平成27年4月1日)
- ③岡山赤十字病院
(平成27年4月1日)
- ④岡山医療センター
(平成28年4月1日)
- ⑤川崎医科大学附属病院
(平成27年4月1日)
- ⑥倉敷中央病院
(平成27年4月1日)
- ⑦津山中央病院
(平成27年4月1日)
- ④金田病院
(平成27年4月1日)
※④を中心に⑦ともグループ指定
- ⑤高梁中央病院
(平成27年4月1日)
※⑤を中心に①ともグループ指定

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	県南東部	★	更新	岡山大学病院	(6,396) 6,521	(32.1) 31.9	2,658	(1,694) 1,791	(9,632) 5,048	(749) 764	158	20	1,911
2	県南東部		更新	岡山済生会総合病院	(2,992) 2,878	(22.7) 21.6	1,090	(922) 936	(967) 1,290	(204) 219	158	13	1,337
3	県南東部		更新	岡山赤十字病院	(3,002) 2,960	(23.1) 22.9	1,202	(696) 668	(699) 1,288	(207) 230	272	15	1,122
4	県南東部		更新	岡山医療センター	(2,726) 2,729	(18.6) 17.7	901	(724) 564	(3,798) 1,026	(763) 234	207	10	1,452
5	県南西部		更新	川崎医科大学附属病院	(3,578) 3,469	(22.6) 21.4	1,371	(943) 896	(4,502) 1,001	(438) 373	140	13	1,592
6	県南西部		更新	倉敷中央病院	(6,285) 6,273	(19.8) 20.1	2,976	(1,809) 2,415	(2,390) 3,159	(881) 917	237	37	1,732
7	津山英田		更新	津山中央病院	(1,581) 1,701	(13.6) 14.5	1,077	(711) 736	(901) 952	(272) 311	57	40	1,454

地域がん診療病院の診療実績等

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
④	真庭	更新	金田病院	(198) 162	(10.4) 9.5	206	(35) 31	(595) 1,761	実施なし	6	755
⑤	高梁・新見	更新	高梁中央病院	(113) 97	(7.0) 6.1	159	(22) 28	(23) 22	実施なし	43	431

岡山県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

高梁・新見医療圏及び真庭医療圏に、引き続き地域がん診療病院を指定することにより、患者が自らの医療圏において基本的ながん診療を受けることが可能となる。

なお、高度ながん医療が必要な場合には、グループ先の拠点病院において提供できる体制を構築する。

医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。

⑤の病院は、高梁新見医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。

⑥の病院は、圏域内を広範囲にカバーするとともに、地域医療連携について中心的役割を担う。

県南の医療圏においては、各拠点病院が自らの医療圏に居住する患者へがん診療を提供する。また、グループを形成する拠点病院(主に④、⑤等)が、地域がん診療病院をサポートする。

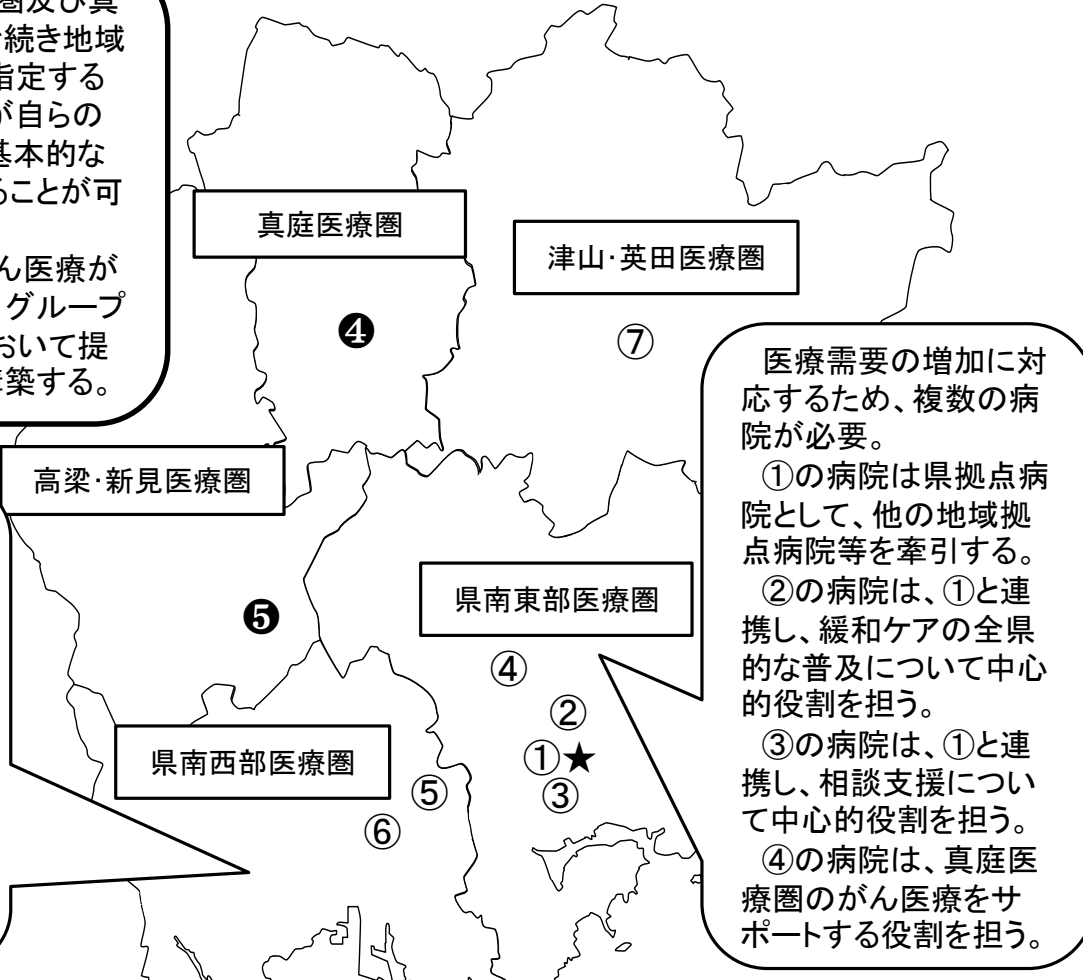
医療需要の増加に対応するため、複数の病院が必要。

①の病院は県拠点病院として、他の地域拠点病院等を牽引する。

②の病院は、①と連携し、緩和ケアの全県的な普及について中心的役割を担う。

③の病院は、①と連携し、相談支援について中心的役割を担う。

④の病院は、真庭医療圏のがん医療をサポートする役割を担う。



- ①岡山大学病院★ (更新)
(平成27年4月1日)
- ②岡山済生会総合病院 (更新)
(平成27年4月1日)
- ③岡山赤十字病院 (更新)
(平成27年4月1日)
- ④岡山医療センター (更新)
(平成28年4月1日)
- ⑤川崎医科大学附属病院 (更新)
(平成27年4月1日)
- ⑥倉敷中央病院 (更新)
(平成27年4月1日)
- ⑦津山中央病院 (更新)
(平成27年4月1日)
- ④金田病院 (更新)
(平成27年4月1日)
※④を中心に⑦ともグループ指定
- ⑤高梁中央病院 (更新)
(平成27年4月1日)
※⑤を中心に①ともグループ指定

第3次岡山県がん対策推進計画

がん患者がどこに住んでいても標準的な専門治療が受けられるよう、がん医療の均てん化を図る

県南東部二次医療圏

- 人口約92万人
- 他の医療圏からも患者流入
- 高齢者人口の増加に伴い、今後がん医療需要が増大

岡山大学病院★(855床・更新)

- ・ 県拠点病院として、地域拠点病院・地域がん診療病院を牽引
- ・ 大学病院の特徴を活かし、がん専門医療人材を育成

岡山済生会総合病院(473床・更新)

- ・ 緩和ケア推進の中心的役割
- ・ 岡山市中心域からのアクセスが良好
- ・ 地域の医療機関との医療連携を積極的に推進

岡山赤十字病院(500床・更新)

- ・ がんに特化した相談支援センターを設け、がん相談に注力
- ・ 独立型緩和ケア病棟20床を開設
- ・ 圏域南部からのアクセスが良好

岡山医療センター(609床・更新)

- ・ グループ指定を受ける金田病院が属する真庭医療圏との連携強化
- ・ 血液悪性腫瘍に対応する無菌室23床を設置
- ・ 圏域北部及び圏域外からのアクセスが良好

県南西部二次医療圏

- 人口約70万人
- 他の医療圏からも患者流入
- 高齢者人口の増加に伴い、今後がん医療需要が増大

川崎医科大学附属病院(1,182床・更新)

- ・ 最新の機器を用いての高精度放射線治療や先進医療を实践
- ・ 大学病院の特徴を活かし、がん専門医療人材を育成
- ・ 緩和ケア病床25床を設置
- ・ グループ指定を受ける高梁中央病院が属する高梁・新見医療圏との連携強化

倉敷中央病院(1,166床・更新)

- ・ 年間外来患者延べ69万人、うちがん患者が約14万人
- ・ 病床数、職員数、標榜診療科数等、日本でも最大規模
- ・ 5大がん地域連携クリティカルパスを積極的に運用し、県内最大の活用実績
- ・ がん医療に係るさまざまなセンターを設け、設備を充実
- ・ 緩和ケア病床14床を設置、緩和ケア研修会を年間複数回開催

相互に連携、協力

高梁・新見二次医療圏

- 人口約6万人
- 地域がん診療連携拠点病院との密接な連携により、圏域内でのがん医療を提供

真庭二次医療圏

- 人口約4万人

地域がん診療病院

高梁中央病院(192床・更新)

- ・ 地域の中核病院として、救急医療等に尽力
- ・ グループ指定先の拠点病院との連携強化
- ・ 高梁市の中心部に位置し、交通アクセス良好

金田病院(172床・更新)

- ・ 地域の中核病院として、外来薬物療法室を設置
- ・ グループ指定先の拠点病院との連携強化
- ・ 医療圏内の主要な地域から通院が容易

津山・英田二次医療圏

- 人口約18万人

津山中央病院(515床・更新)

- ・ 県北の中核病院であり、医療圏のほぼ中央に位置している
- ・ 県北で唯一、放射線治療に対応
- ・ がん陽子線治療センターを整備(岡山大学との共同運用)
- ・ プライバシーに配慮した薬物療法室を設置

○本県の指定推薦の考え方

本県では、「第3次岡山県がん対策推進計画」に基づき、各種施策を推進しているが、がん患者がどこに住んでいても標準的な専門治療が受けられるよう、がん医療の均てん化を図ることを目標の一つとしている。

このため、現在のがん医療提供体制を維持し、県拠点病院を中核として、地域拠点病院や地域診療病院等がそれぞれの特徴を活かし、相互に連携、協力することにより、がん医療の均てん化と医療水準の向上を図っていく必要がある。

○二次医療圏における指定推薦の考え方

【県南東部医療圏】

県南東部医療圏は、面積が広大で、県内で最多の人口を擁する医療圏であり、交通網も発達し、高度ながん医療の提供が可能な病院も多く存在しており、今後がん医療需要の増大が見込まれるため、複数の地域拠点病院が必要である。岡山大学病院は、県拠点病院として地域拠点病院や地域診療病院を牽引するとともに、各地域拠点病院はそれぞれの特徴を活かして、県全体のがん医療水準の向上を図る。また、岡山医療センターは、金田病院のグループ指定先として真庭医療圏との連携強化を図り、同圏域のがん医療をサポートする。

【県南西部医療圏】

県南西部医療圏は、多数の人口を擁し、人口密度が県内で最も高く、交通の利便性もあることから、今後がん医療需要の増大が見込まれ、複数の地域拠点病院が必要である。各地域拠点病院は、それぞれの特徴を活かして、県全体のがん医療水準の向上を図る。また、川崎医科大学附属病院は、高梁中央病院のグループ指定先として高梁・新見医療圏との連携強化を図り、同圏域のがん医療をサポートする。

【高梁・新見医療圏】

高梁中央病院を引き続き、地域診療病院に指定することにより、県南西部医療圏等に流出していたがん患者の受け入れ施設としての役割を担うとともに、グループ指定先の拠点病院との連携強化により、医療水準の向上、がん医療の均てん化を図る。

【真庭医療圏】

金田病院を引き続き、地域診療病院に指定することにより、県南東部医療圏等に流出していたがん患者の受け入れ施設としての役割を担うとともに、グループ指定先の拠点病院との連携強化により、医療水準の向上、がん医療の均てん化を図る。

【津山・英田医療圏】

津山中央病院を引き続き、地域拠点病院に指定することにより、県北におけるがん医療の中核的な役割を担い、医療水準の向上、がん医療の均てん化を図る。

広島県

広島県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
広島	2,506.19	1,368,692	48	546.1	98		5		5						
広島西	568.14	142,181	5	250.2	13		1		1						
呉	453.52	243,513	9	536.9	30		1		1						
広島中央	796.50	227,123	8	285.1	20		1		1						
尾三	1,034.76	242,274	9	234.1	24		1		1						
福山・府中	1,095.87	509,950	18	465.3	46		1		1						
備北	2,024.63	86,605	3	42.7	10		1		1						
計	8,479.61	2,820,338	100	332.6	241	0	11	0	11	0	0	0	0	0	0

広島県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

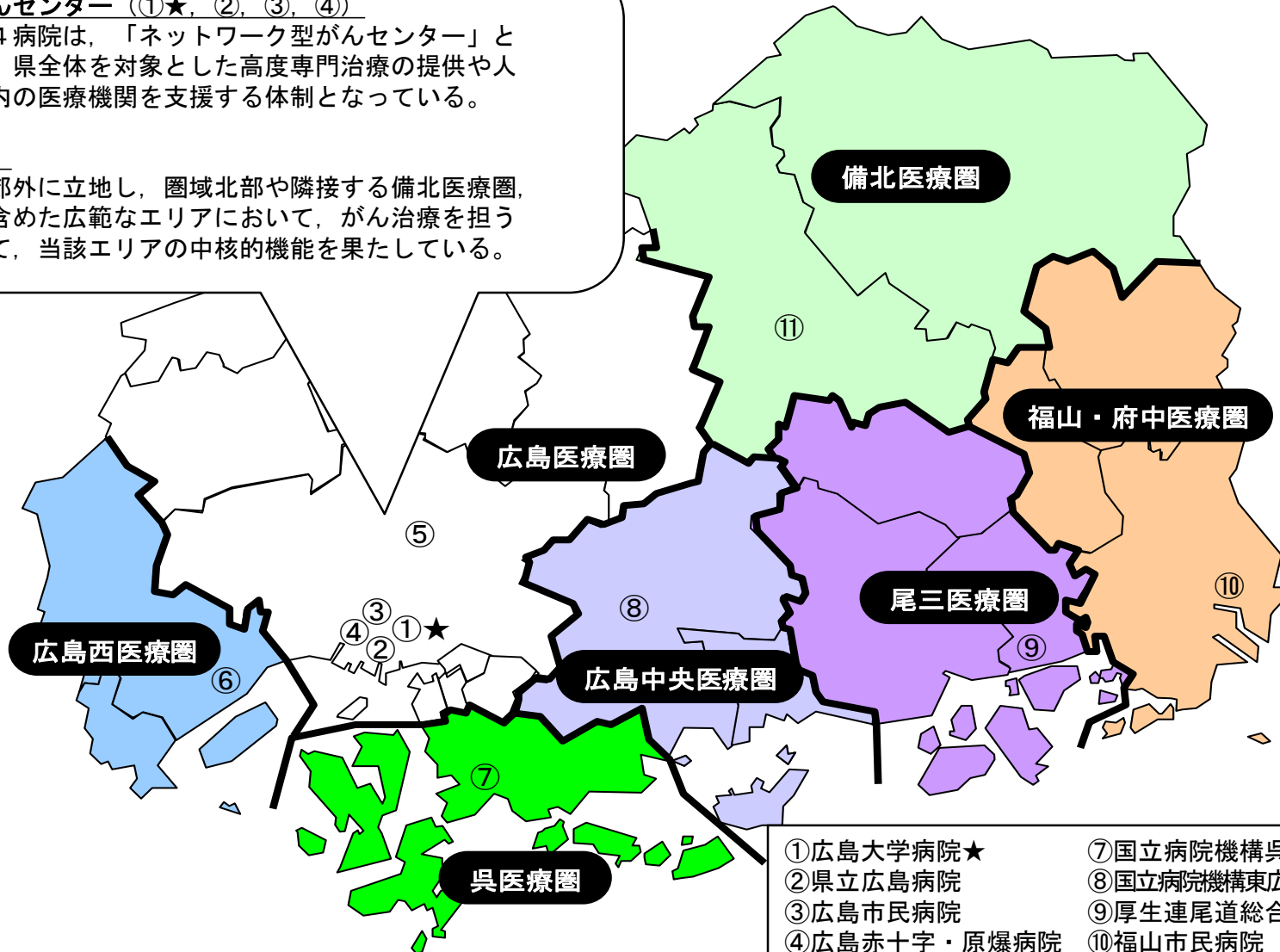
★:都道府県拠点

ネットワーク型がんセンター (①★, ②, ③, ④)

- 広島医療圏の4病院は、「ネットワーク型がんセンター」として機能分担し、県全体を対象とした高度専門治療の提供や人材育成等で、県内の医療機関を支援する体制となっている。

安佐市民病院 (⑤)

- 広島市北部の郊外に立地し、圏域北部や隣接する備北医療圏、島根県の一部も含めた広範なエリアにおいて、がん治療を担う地域型病院として、当該エリアの中核的機能を果たしている。



- | | |
|-------------|------------------|
| ①広島大学病院★ | ⑦国立病院機構呉医療センター |
| ②県立広島病院 | ⑧国立病院機構東広島医療センター |
| ③広島市民病院 | ⑨厚生連尾道総合病院 |
| ④広島赤十字・原爆病院 | ⑩福山市民病院 |
| ⑤安佐市民病院 | ⑪市立三次中央病院 |
| ⑥厚生連広島総合病院 | (すべて平成27年4月1日) |

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①-1

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	広島	★	更新	広島大学病院	(7,068) 7,287	(38.4) 39.3	2,518	(3,493) 3,182	(2,491) 2,831	(611) 563	272	17	2,215
2	広島		更新	県立広島病院	(4,710) 4,769	(28.7) 27.9	1,555	(1,040) 819	(1,133) 1,151	(490) 440	234	15	866
3	広島		更新	広島市民病院	(5,220) 5,108	(23.9) 24.7	2,888	(1,980) 2,167	(3,166) 3,588	(719) 812	190	16	1,809
4	広島		更新	広島赤十字病院	(4,500) 4,511	(34.8) 32.9	1,257	(966) 568	(3,127) 3,322	(372) 367	35	13	777
5	広島		更新	安佐市民病院	(3,829) 3,774	(26.3) 25.3	2,445	(1,186) 1,574	(1,465) 2,199	(380) 384	233	13	1,348
6	広島西		更新	広島総合病院	(2,676) 2,738	(20.0) 20.0	1,567	(938) 994	(1,019) 1,028	(260) 269	169	44	539
7	呉		更新	呉医療センター	(4,194) 4,401	(29.6) 30.6	1,572	(1,065) 1,080	(2,505) 1,141	(338) 343	255	45	3,043
8	広島中央		更新	東広島医療センター	(1,786) 1,883	(21.4) 20.5	1,072	(592) 460	(1,191) 1,460	(274) 344	73	72	660
9	尾三		更新	尾道総合病院	(2,774) 2,591	(24.4) 23.0	1,234	(957) 1,475	(806) 841	(255) 226	137	30	654
10	福山府中		更新	福山市民病院	(3,882) 4,087	(31.4) 30.8	1,803	(1,324) 1,384	(1,332) 1,413	(425) 453	146	27	2,035

広島県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

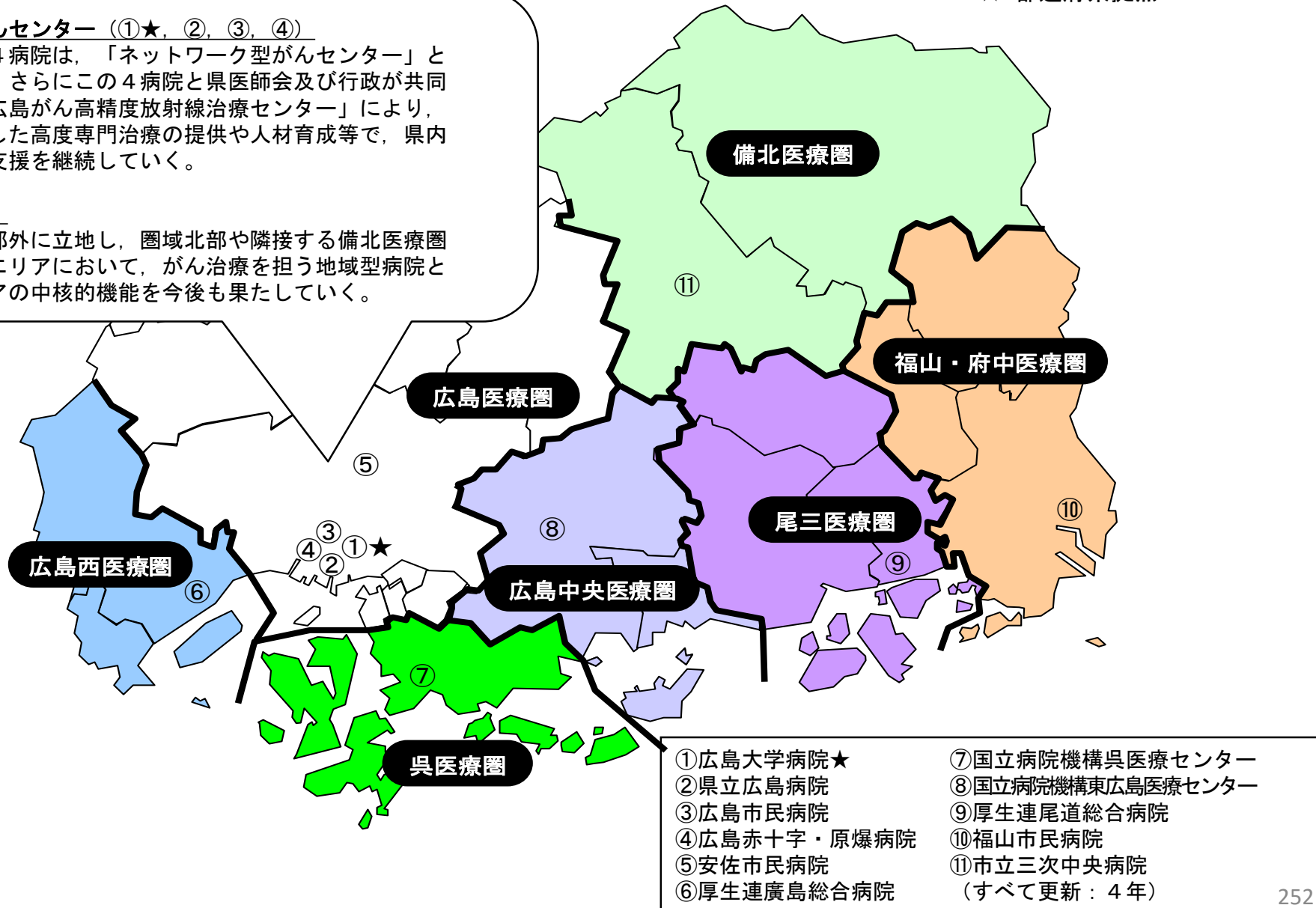
★：都道府県拠点

ネットワーク型がんセンター (①★, ②, ③, ④)

- ・ 広島医療圏の4病院は、「ネットワーク型がんセンター」として機能分担し、さらにこの4病院と県医師会及び行政が共同運営している「広島がん高精度放射線治療センター」により、県全体を対象とした高度専門治療の提供や人材育成等で、県内の医療機関への支援を継続していく。

安佐市民病院 (⑤)

- ・ 広島市北部の郊外に立地し、圏域北部や隣接する備北医療圏も含めた広範なエリアにおいて、がん治療を担う地域型病院として、当該エリアの中核的機能を今後も果たしていく。



指定更新に係る広島県の推薦方針

ネットワークで構築する広島のがん医療提供体制

- 広島県では、5大がんについて「がん医療ネットワーク」を構築し、がん診療連携拠点病院との連携による、医療機能の充実及び提供体制の強化を推進している。
- とりわけ、広島医療圏の広島大学病院、県立広島病院、広島市立広島市民病院、広島赤十字・原爆病院の4病院については、「ネットワーク型がんセンター」としてそれぞれの特徴を組み合わせ、連携した高度な専門医療機能や人材育成など、県全体のがん対策推進に貢献している。

【高度専門医療機能】

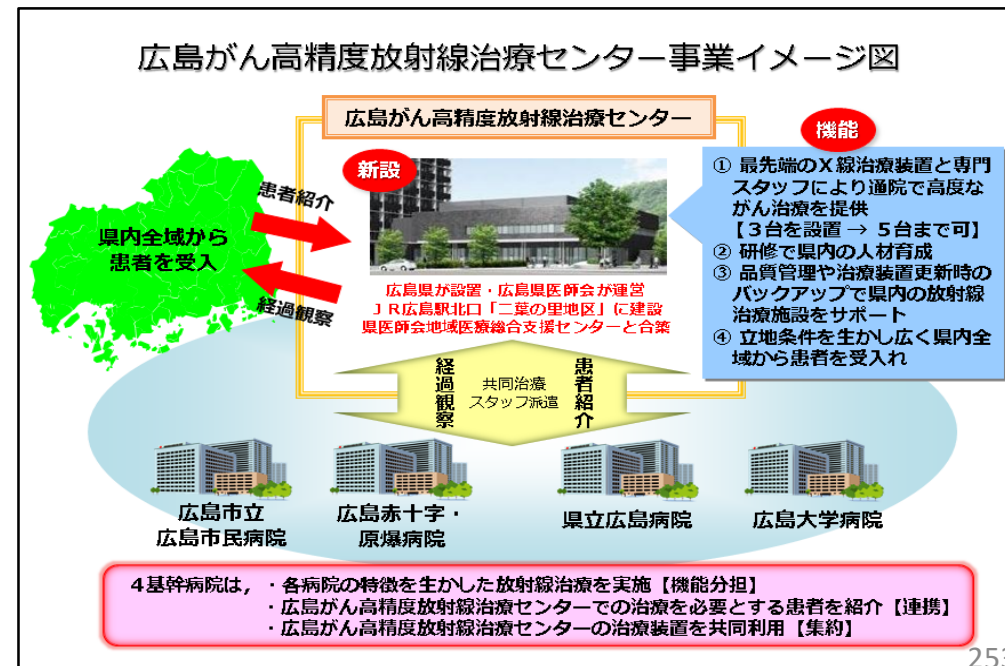
高度専門がん医療の中核拠点として、施設完結型ではなく4病院連携による“ネットワーク型”がんセンター機能により、更なる連携強化を推進

【具体的な成果】

4病院と県医師会、行政の共同運営により、高精度放射線治療が提供可能な「広島がん高精度放射線治療センター」を整備

- また、中核4病院は、県全体における高度専門医療を担い、広島市立安佐市民病院は、広島圏域北部など広範なエリアを対象とした一般的ながん治療を提供するという役割を担うことで、それぞれがより効率的な治療を提供することができる。

- 広島医療圏を除く6つの医療圏については、それぞれ1施設ずつ地域拠点病院を配置し、更なる機能強化を推進する。



山口県

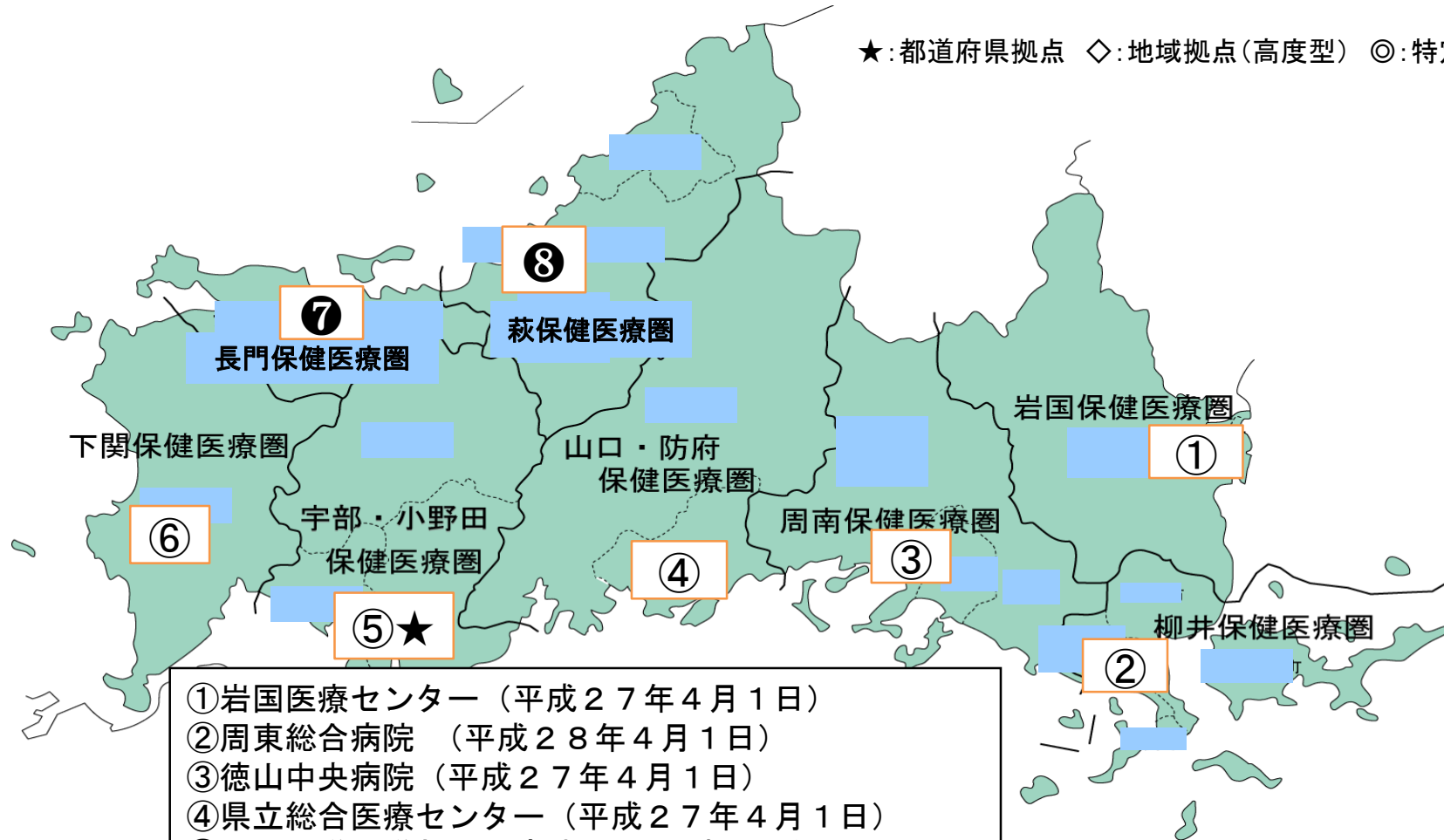
山口県 がんの医療圏の概要

平成30年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん診療 連携拠点病院		地域がん診療病院	
						既指定 病院数	今回更新 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
岩国医療圏	884.30	138,481	10.1%	156.6	17	0	1	1	0	0	0	0
柳井医療圏	397.84	77,105	5.6%	193.8	9	0	1	1	0	0	0	0
周南医療圏	837.77	247,918	18.1%	295.9	24	0	1	1	0	0	0	0
山口・防府 医療圏	1,212.60	310,201	22.7%	255.8	27	0	1	1	0	0	0	0
宇部・小野 田医療圏	892.38	251,575	18.4%	281.9	30	0	1	1	0	0	0	0
下関医療圏	716.10	259,855	19.0%	362.9	27	0	1	1	0	0	0	0
長門医療圏	357.31	33,570	2.5%	94.0	6	0	0	0	0	0	1	1
萩医療圏	814.26	49,790	3.6%	61.1	7	0	0	0	0	0	1	1
計	6,112.53	1,368,495	100.0%	223.9	147	0	6	6	0	0	2	2

山口県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点



- ① 岩国医療センター (平成 27 年 4 月 1 日)
- ② 周東総合病院 (平成 28 年 4 月 1 日)
- ③ 徳山中央病院 (平成 27 年 4 月 1 日)
- ④ 県立総合医療センター (平成 27 年 4 月 1 日)
- ⑤ 山口大学医学部附属病院★ (平成 27 年 4 月 1 日)
- ⑥ 済生会下関総合病院 (平成 27 年 4 月 1 日)
- ⑦ 長門総合病院 (平成 27 年 4 月 1 日)
- ⑧ 都志見病院 (平成 27 年 4 月 1 日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 岩国		更新	岩国医療センター	(2,809) 2,930	(25.7) 25.6	1,104	(754) 726	(2,891) 1,282	(237) 214	157	81	703
2 柳井		更新	周東総合病院	(1,235) 1,192	(18.4) 18.3	493	(366) 336	(1,549) 581	(78) 78	64	50	1,965
3 周南		更新	徳山中央病院	(2,505) 2,654	(20.9) 20.6	1,260	(1,068) 807	(1,196) 1,838	(351) 212	88	55	2,591
4 山口・防府		更新	県立総合医療センター	(1,890) 1,943	(17.2) 17.7	1,008	(500) 597	(748) 1,317	(256) 223	60	27	1,337
5 宇部・小野田	★	更新	山口大学医学部附属病院	(4,163) 4,250	(27.0) 27.4	1,637	(1,239) 1,323	(8,091) 8,151	(463) 475	162	59	973
6 下関		更新	済生会下関総合病院	(2,203) 1,966	(20.7) 19.4	960	(725) 724	(2,304) 2,140	(207) 212	53	33	564

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院(●●がんについて)

資料3-1-②

特定領域とするがん種の診療実績について、記載してください。

- ・診療実績は、H29年1月1日～12月31日の実績を記載のこと。 ★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-②-1】、【資料3-1-②-2】...としてください)

医療 圏名	類型	申請区分	病院名	新規がん患者数 (年間)	手術件数 (年間)	薬物療法のべ患者数 (年間)	放射線療法のべ患者数 (年間)
	◎	更新	●●病院	545	420	1080	256
1	★	申請	○○病院	270	150	205	86
2		申請	△△病院	320	75		
3		更新	□□病院				
4		更新	◇◇病院				
5							
6							
該当なし							

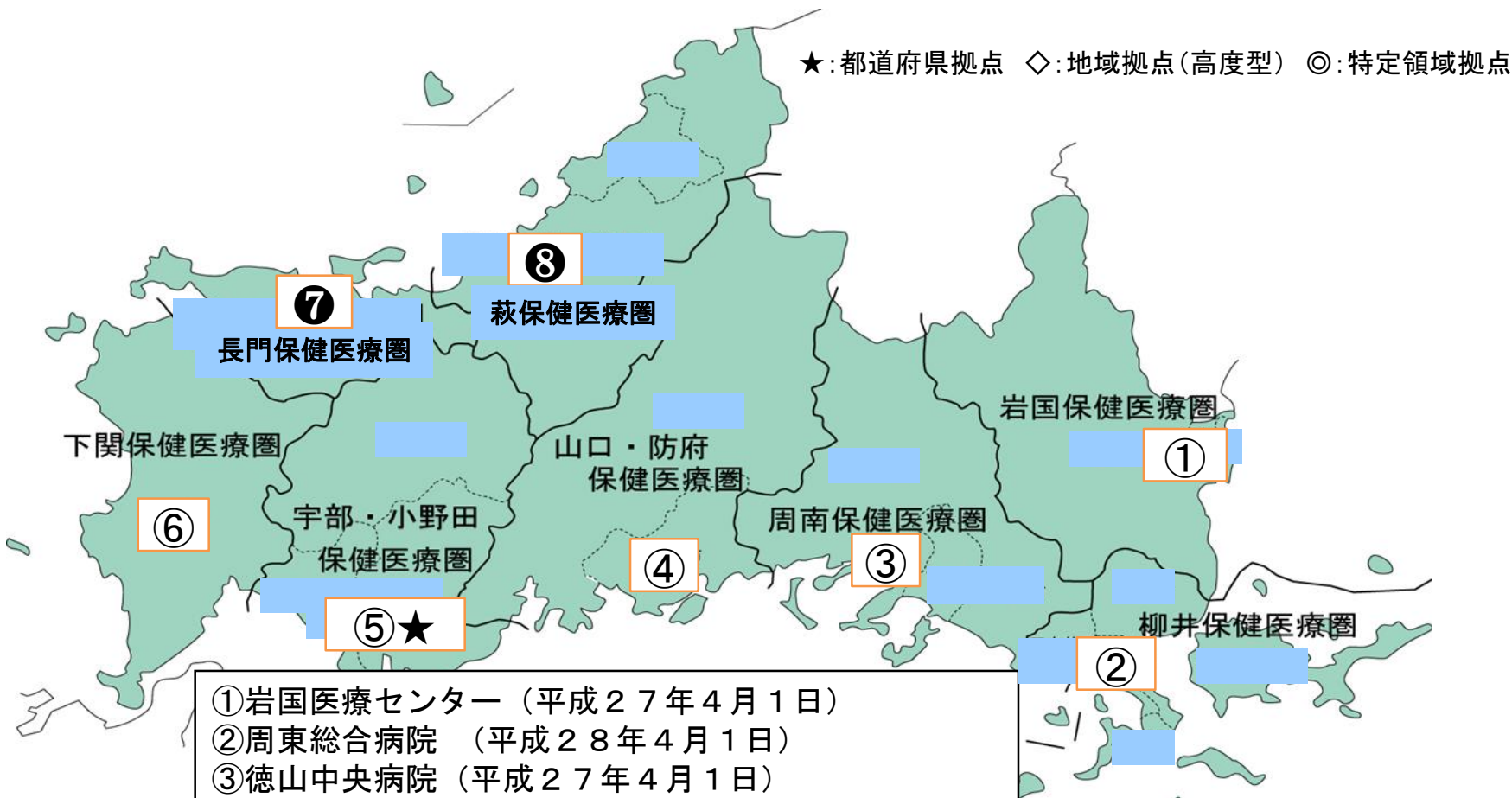
地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
⑦	長門	更新	長門総合病院	(684) 968	(16.3) 22.7	386	(153) 230	(250) 502	(57) 76	7	236
⑧	萩	更新	都志見病院	(556) 516	(24.1) 23.1	201	(140) 139	(37) 69	実施なし	83	139

山口県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型) ◎: 特定領域拠点

- ①岩国医療センター (平成27年4月1日)
- ②周東総合病院 (平成28年4月1日)
- ③徳山中央病院 (平成27年4月1日)
- ④県立総合医療センター (平成27年4月1日)
- ⑤山口大学医学部附属病院★ (平成27年4月1日)
- ⑥済生会下関総合病院 (平成27年4月1日)
- ⑦長門総合病院 (平成27年4月1日)
- ⑧都志見病院 (平成27年4月1日)

今回の指定推薦等に係る本県の考え方について

○がんは昭和56年以来、本県の死亡原因の1位であり、年間約5千人の県民ががんにより亡くなっている。これまで、がん予防や検診に関する普及啓発、がん登録事業、緩和ケア病棟の整備等、各段階に応じたがん対策を講じてきたが、がんによる死亡は今なお増加しており、がん対策は本県の保健・医療施策の中で非常に重要な課題となっている。

○こうしたことから、県では、地域のがん医療の中核を担うがん診療連携拠点病院の整備を推進してきたところであり、平成30年3月に策定した「第3期山口県がん対策推進計画」に基づき、がん医療水準の更なる向上を目指して、診療機能の充実等を図ることとしている。

なお、本県においてがんの医療圏（以下「医療圏」という。）と2次医療圏は一致している。

○がん診療連携拠点病院については、各地域において等しく質の高いがん医療を提供するため、医療圏に1箇所の整備を基本とするとともに、その指定要件を充たす病院が医療圏内にない場合には、地理的に隣接する医療圏において、当該医療圏からの患者受入が多いがん診療連携拠点病院とのグループ指定により、地域がん診療病院を整備することで、圏域全体をカバーできるようにすることとしている。

○本県では、8つの医療圏のうち6医療圏においてがん診療連携拠点病院の指定を受けており、そのうち、宇部・小野田医療圏の山口大学医学部附属病院は、都道府県がん診療連携拠点病院として本県がん診療連携の中核的役割を担っている。

また、がん診療連携拠点病院のない2医療圏については地域がん診療病院を整備し、がん診療連携拠点病院と連携して専門的ながん医療の提供等を行っている。

○今回、6医療圏においてがん診療連携拠点病院、2医療圏において地域がん診療病院の指定更新推薦を行う。

徳 島 県

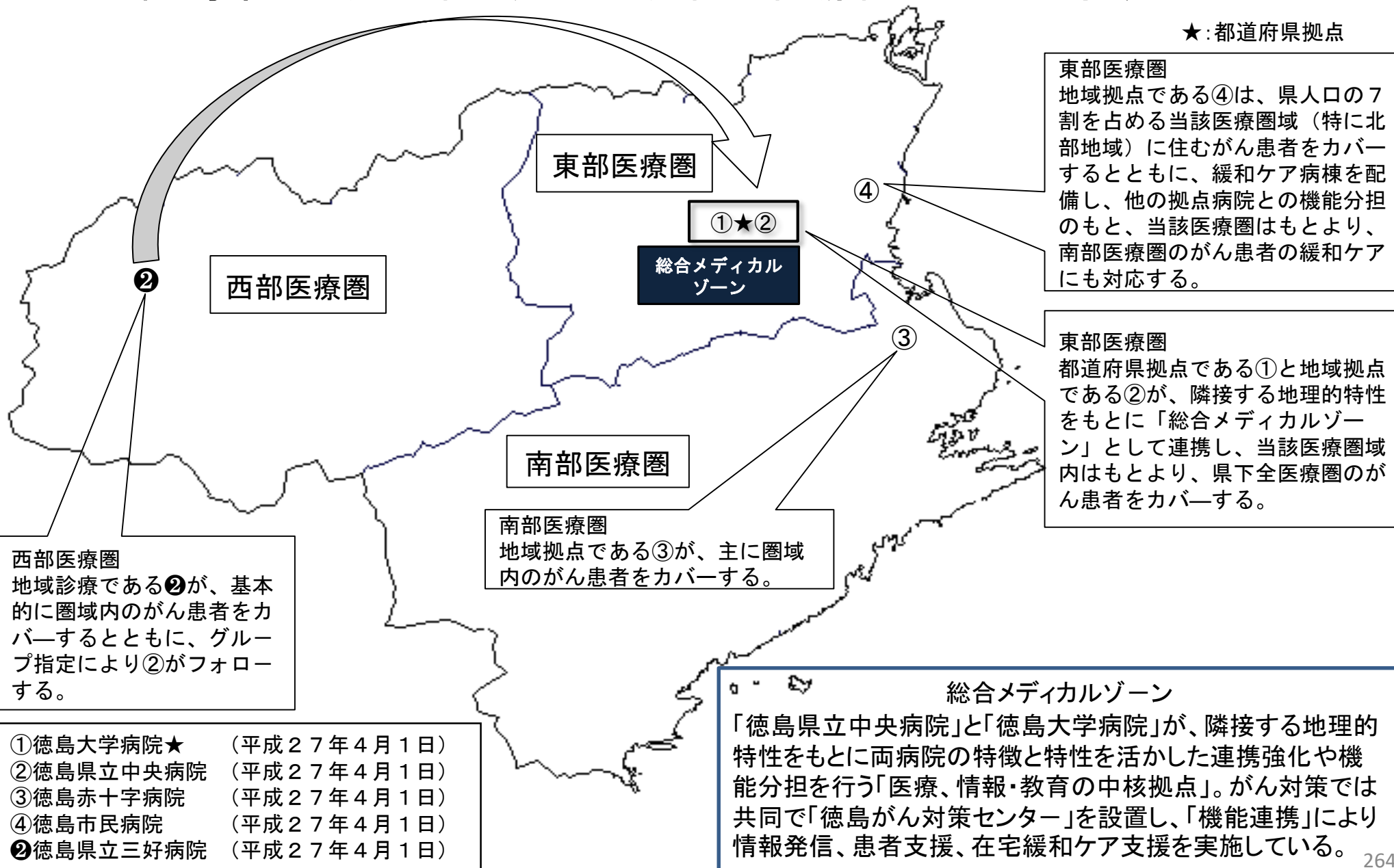
徳島県 がんの医療圏の概要

平成30年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
東部医療圏	1,016.79	519,125	70.4	510.6	75	0	2	1	3	0	0	0	0	0	0
南部医療圏	1,724.13	141,598	19.2	82.1	20	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
西部医療圏	1,405.88	76,238	10.4	54.2	17	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
計	4,146.80	736,961	100	646.9	112	0	3	1	4	0	0	0	0	1	0

徳島県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 (年間) 500件以上	手術件数 (年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 (年間) 1000人以上	放射線治療 (年間) 200人以上	緩和ケア (年間) 50件以上	診療の割合 (年間) 2割程度	相談支援センター (年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 東部	★	更新	徳島大学病院	(4544) 4737	(32.4) 32.8	1994	(967) 1186	(8343) 9132	(668) 672	136	35	2733
2 東部	◇	更新	徳島県立中央病院	(2289) 2539	(19.7) 22.2	1032	(1101) 1014	(966) 1230	(221) 257	141	22	757
3 南部		更新	徳島赤十字病院	(2022) 2011	(13.4) 13.1	1257	(665) 905	(1115) 1355	(314) 214	50	37	604
4 東部		更新	徳島市民病院	(1768) 1841	(22.7) 24.0	757	(622) 541	(1058) 1573	(192) 176	105	19	887

地域がん診療病院の診療実績等

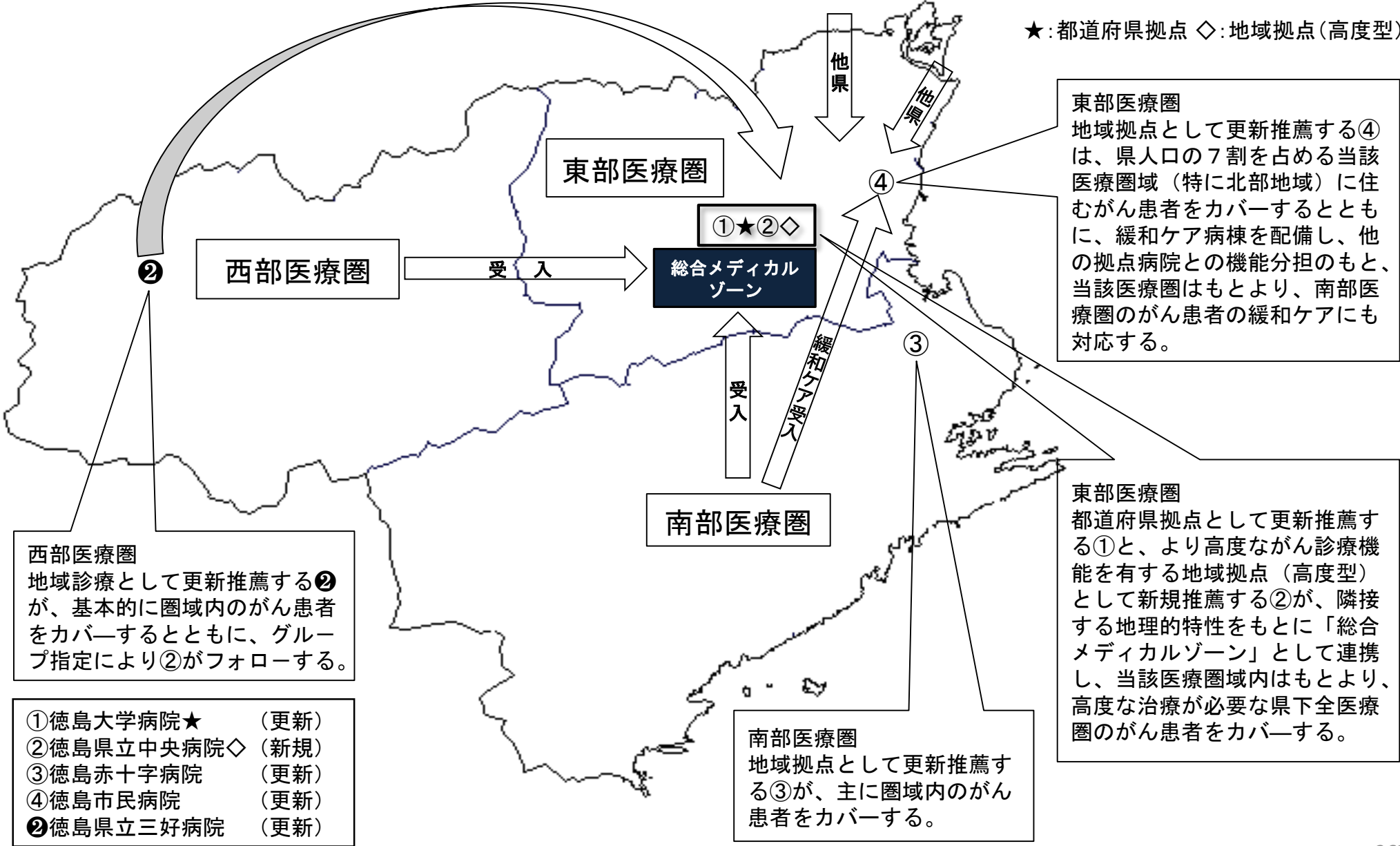
資料 3 - 2

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
②	西部	更新	徳島県立三好病院	(487) 476	(14.8) 13.9	329	(178) 86	(769) 1472	(42) 49	78	271

徳島県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点 ◇: 地域拠点(高度型)



- ①徳島大学病院★ (更新)
- ②徳島県立中央病院◇ (新規)
- ③徳島赤十字病院 (更新)
- ④徳島市民病院 (更新)
- ②徳島県立三好病院 (更新)

1. がん診療連携拠点病院等によるがん医療提供体制について

①東部医療圏（県人口の7割）

○都道府県拠点として更新推薦する徳島大学病院と、より高度ながん診療機能を有する地域拠点（高度型）として新規推薦する徳島県立中央病院は、隣接する地理的特性をもとに「総合メディカルゾーン（県内医療の中核拠点）」として当該医療圏はもとより、高度な治療が必要な県下全医療圏のがん患者をカバーする。

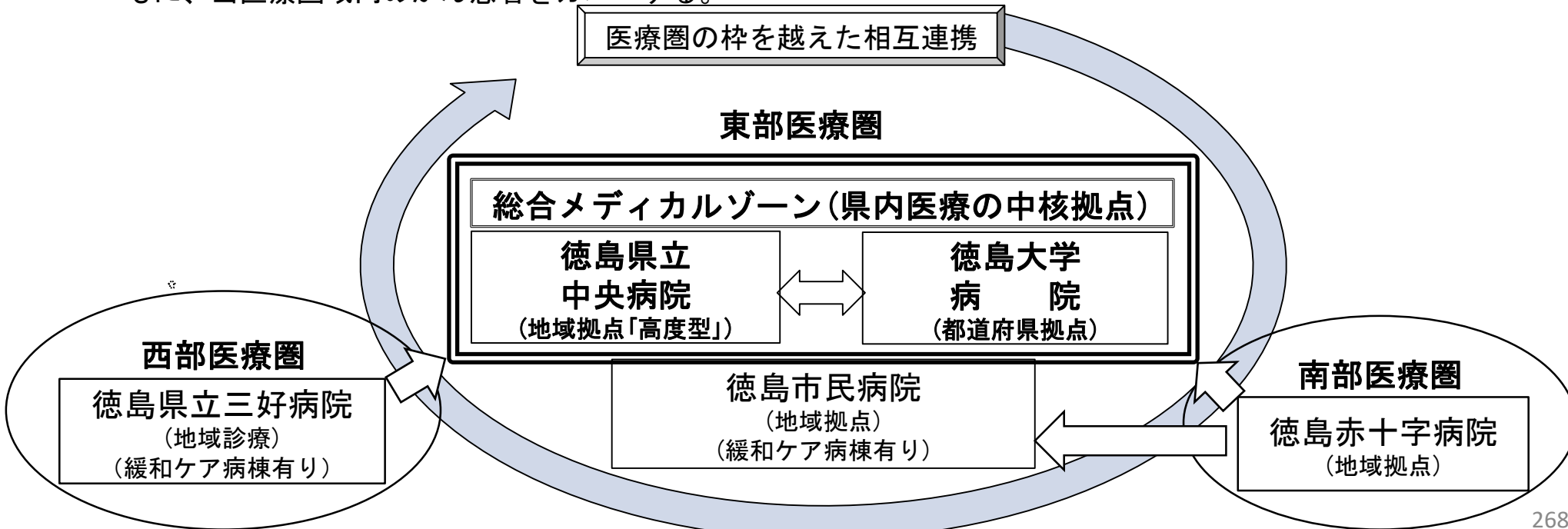
○地域拠点として更新推薦する徳島市民病院は、人口が集中する当該医療圏（特に北部地域）のがん患者をカバーするとともに、緩和ケア病棟を配備し、当該医療圏はもとより南部医療圏のがん患者の緩和ケアにも対応する。

②南部医療圏（県人口の2割）

地域拠点として更新推薦する徳島赤十字病院が、当該医圏域内のがん患者をカバーする。

③西部医療圏（県人口の1割）

地域診療として更新推薦する徳島県立三好病院は、緩和ケア病棟を有し、連携する徳島県立中央病院とともに、当医療圏域内のがん患者をカバーする。



2. 地域がん診療連携拠点病院(高度型)の推薦(徳島県立中央病院)

- 高度型の指定要件を満たす(右表のとおり)とともに、ロボット支援手術機器「ダヴィンチS i」を導入するなど、手術後の患者の生活の質の向上も重視した高度ながん医療提供体制を整備
- 徳島大学病院とともに、県内医療の中核拠点である「総合メディカルゾーン」として高度な治療が必要な全医療圏のがん患者をカバー
- 徳島大学病院とともに「徳島がん対策センター」を設置し、「機能連携」により在宅緩和ケア支援を実施

- ①「望ましい」要件を遵守している(33項目)
- ②診療実績が同一医療圏で最も優れている
- ③高度な放射線治療を提供している
- ④緩和ケアセンターに準じた体制を整備している
- ⑤相談支援センターの相談支援体制を強化している(医師等13名を配置)
- ⑥医療安全管理体制について第三者評価並びに、外部委員のみの監査を受けている

高度ながん診療機能により本県がん医療のさらなる強化

3. 東部医療圏における複数の拠点病院の指定(徳島市民病院)

- 人口の7割を占める東部医療圏内のがん患者にがん医療を提供
- 平成30年の診療実績は、指定基準をクリア(右表のとおり)
- 本県の拠点病院では唯一「緩和ケア病棟」を有し、他の拠点病院との機能分担のもと緩和医療を推進
 - ・H29 腫瘍精神科の医師を専任として配置、院外からの受け入れを開始
 - ・H30 緩和ケア内科の専門医を増員
- 緩和ケア病棟の利用実績

H30診療実績(H31.2.20時点)

放射線治療	224人(12月末)
院内がん登録	631件(10月末)
手術療法	536件(12月末)
薬物療法	1,053人(10月末)
緩和ケア	133人(12月末)

	H29	H30
○利用者数	102人	204人
○他の医療圏からの利用者割合	3.0%	11.8%
○他の拠点病院等からの紹介利用者割合	41.6%	44.1%

拡大するニーズに
適切に対応

全人的な緩和ケアの提供により患者本位のがん医療の実現

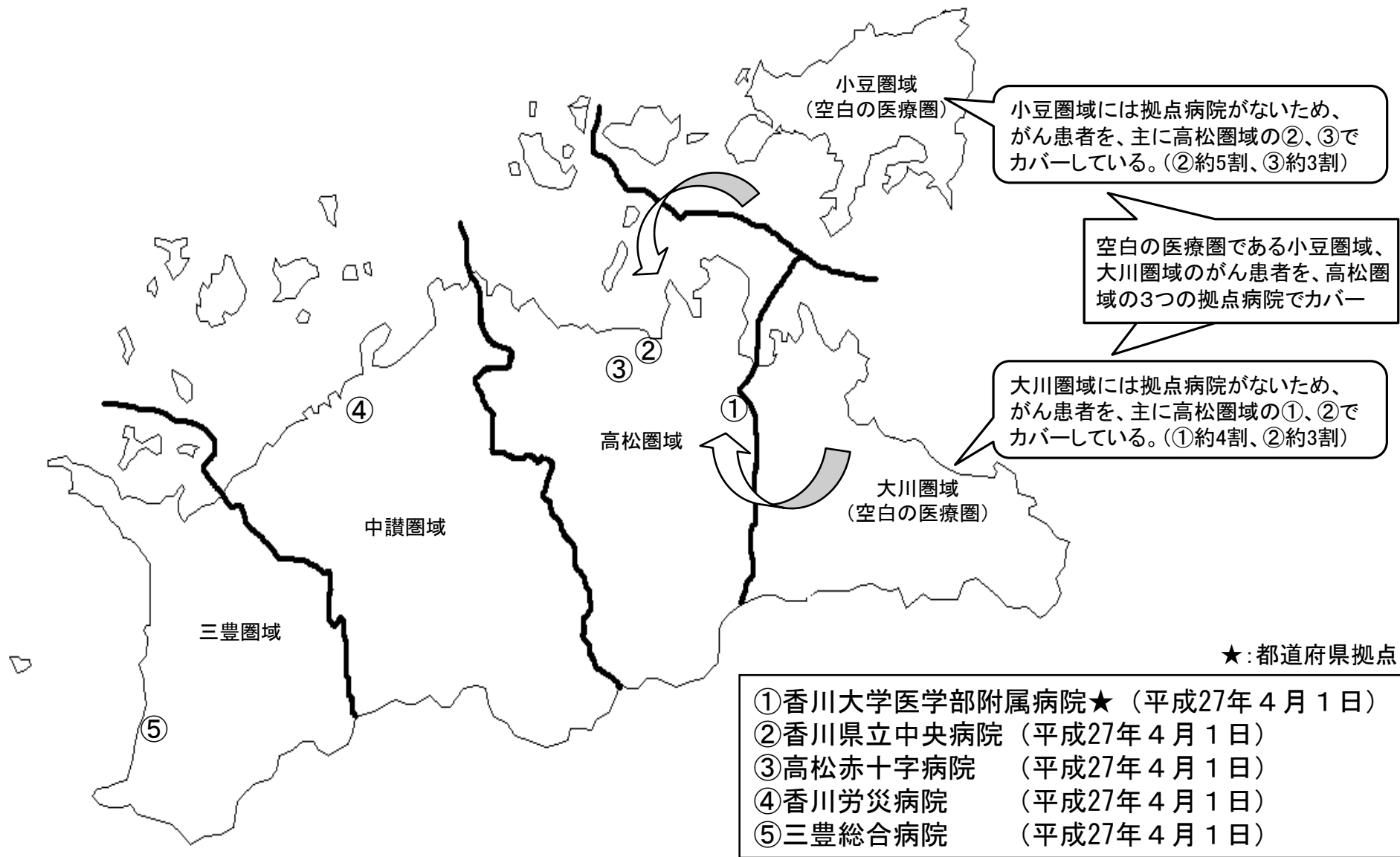
香川県

香川県 がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密 度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域がん診 療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						既指定 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	既指定 病院数	計	既指定 病院数	計
大川圏域	311	78,862	8.1%	253.2	5	0	0	0	0		0		0
小豆圏域	170	27,931	2.9%	164.3	3	0	0	0	0		0		0
高松圏域	465	451,199	46.6%	969.5	38	0	1	2	3		0		0
中讃圏域	589	287,067	29.7%	487.1	31	0	1	0	1		0		0
三豊圏域	341	122,581	12.7%	359.9	12	0	1	0	1		0		0
計	1,877	967,640	100.0%	515.6	89	0	3	2	5	0	0	0	0

香川県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況



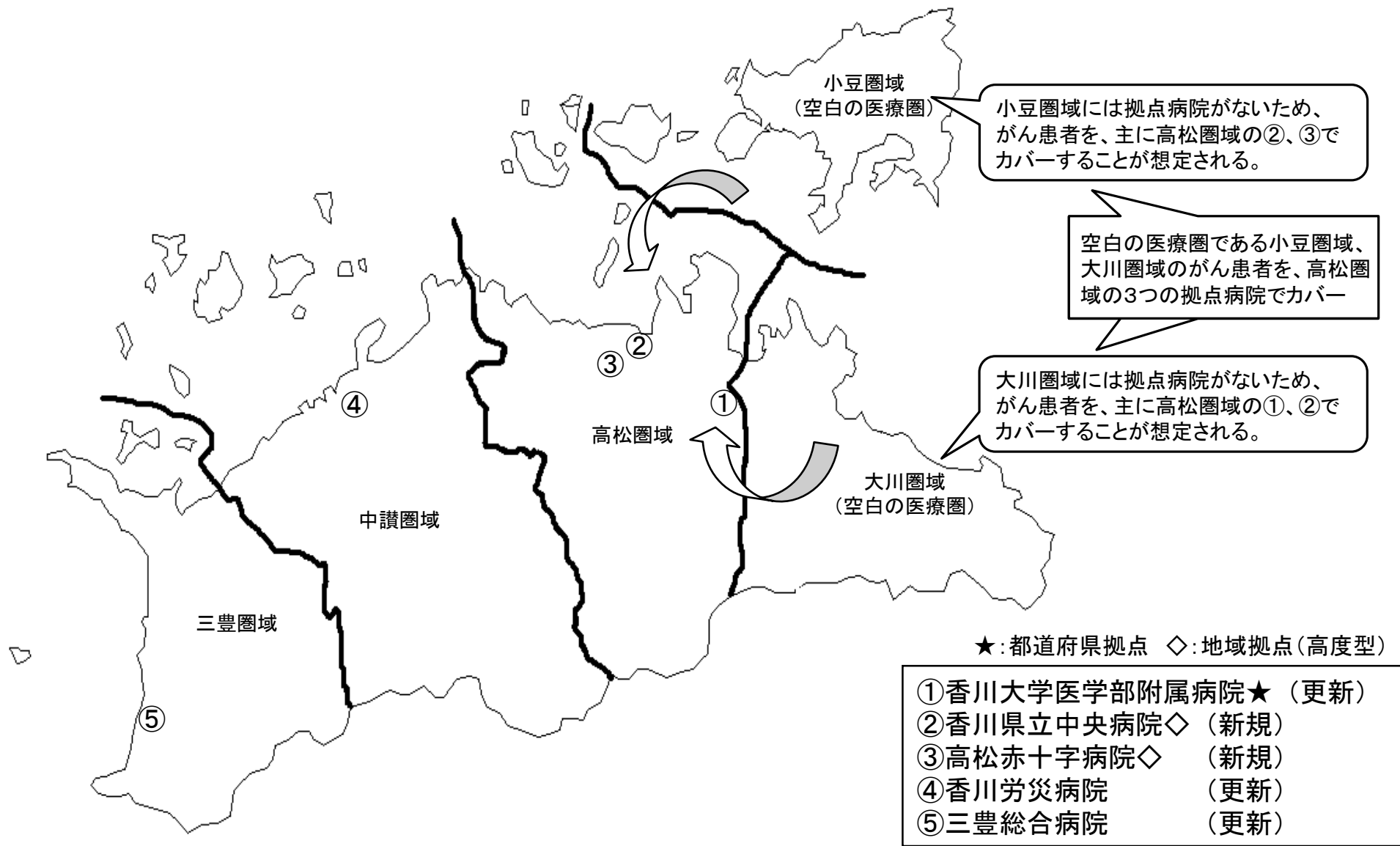
がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型)

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数(年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数(年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数(年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1 高松	★	更新	香川大学医学部附属病院	(2,738) 2,826	(24.7) 24.6	1,300	(1,172) 1,652	(1,853) 1,946	(416) 439	79	17	1,988
2 高松	◇	新規	香川県立中央病院	(3,469) 3,309	(26.4) 25.1	1,457	(856) 1,205	(1,711) 2,403	(444) 424	228	23	2,377
3 高松	◇	新規	高松赤十字病院	(2,152) 2,284	(17.7) 18.7	1,215	(777) 851	(1,066) 1,424	(214) 220	175	18	3,017
4 中讃		更新	香川労災病院	(2,246) 2,292	(23.6) 22.9	1,057	(746) 757	(1,019) 1,827	(267) 276	258	32	1,308
5 三豊		更新	三豊総合病院	(1,712) 1,724	(17.3) 17.6	812	(503) 598	(726) 819	(152) 155	71	53	185

香川県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



1. 本県のがんの状況

- 昭和52年以来、がんは死亡原因の第1位
(平成29年は24.9%ががんで死亡し、他要因を大きく上回る)
- 高齢化が全国平均を上回って進行
(平成29年の高齢化率は31.1%。全国平均より10年以上早いペース)

がんは、県民の生命と健康にとって
重要な課題

2. がん診療連携拠点病院の整備の考え方

- 県内の5つのがんの医療圏に対し、5つの拠点病院を整備
- 空白医療圏となっている2医療圏(小豆圏域、大川圏域)を、隣接する医療圏(高松圏域)の3つの拠点病院でカバー

※第七次香川県保健医療計画(計画期間:2018年4月1日～2024年3月31日)で、二次医療圏を従来の5医療圏から3医療圏に見直したが、当該計画の期間中における5疾病・5事業及び在宅医療の圏域は、医療提供体制の継続性や激変緩和の観点からそれぞれ設定。第3次香川県がん対策推進計画においても、この圏域に基づいて、地域に根差したがん医療を行うこととしている。

がんの医療圏	拠点病院
大川	(高松圏域にある3病院でカバー)
小豆	(高松圏域にある3病院でカバー)
高松	香川大学医学部附属病院★ 香川県立中央病院◇ 高松赤十字病院◇
中讃	香川労災病院
西讃	三豊総合病院

★:都道府県拠点
◇:地域拠点(高度型)

○拠点病院では、専門的ながん医療を提供するとともに、緩和ケアなどがん医療に関する研修や合同カンファレンスの開催、地域連携クリティカルパスの運用などにより、地域のがん診療を行っている医療機関との連携協力・支援体制を強化。

3. 各医療機関における指定要件の充足状況について

(1) 都道府県拠点病院

香川大学医学部 附属病院 (高松圏域)	要件を充足 〔都道府県拠点病院として、病院への研修や診療支援を実施。がんプロ養成コンソーシアムにより、がん診療に携わる専門人材を育成。希少疾患治療や未承認薬による治験・臨床試験に取り組むなど、本県におけるがん医療をリード。〕
---------------------------	---

(2) 地域拠点病院(高度型)

香川県立中央病院 (高松圏域)	要件を充足 〔地域の中核的な医療機関として、がん診療を実施。高松圏域の地域拠点病院で最も診療実績に優れている。強度変調放射線治療(IMRT)、画像誘導放射線治療(IGRT)などの高度な放射線治療を提供。緩和ケアセンターを設置し緩和ケアの充実に努める。〕
高松赤十字病院 (高松圏域)	要件を充足※ 〔地域の中核的な医療機関として、がん診療を実施。クリーンエリアを設置し、造血器腫瘍などの化学療法や造血幹細胞移植に際し、安全で質の高い治療を実施。緩和ケアセンターを設置し緩和ケアの充実に努める。〕 ※同一医療圏の複数の地域拠点病院がある場合に、診療実績が当該医療圏において最も優れているという要件のみ満たしていないが、従前より、高松圏域の拠点病院については、空白医療圏となっている大川圏域、小豆圏域も含めた3圏域をカバーするという整理において3つの病院が指定。 地域拠点病院(高度型)についても、同様の整理により、地域拠点病院(高度型)として適切であると考ええる。

(3) 地域拠点病院

香川労災病院 (中讃圏域)	要件を充足※〔地域の中核的な医療機関として、がん診療を実施〕 ※経過措置期間中に、「専従の薬物療法に携わる専門的な知識および技能を有する常勤の医師の配置」及び「緩和ケアチームへの、精神症状の緩和に携わる専門的な知識及び技能を有する常勤の医師の配置」を予定。
三豊総合病院 (三豊圏域)	要件を充足〔地域の中核的な医療機関として、がん診療を実施〕

➡ 都道府県拠点病院である香川大学医学部附属病院、地域拠点病院である香川労災病院、三豊総合病院が県内のがん医療等に果たす役割は大きく、引き続き推薦。

高度な診療機能等を有する香川県立中央病院、高松赤十字病院を、地域拠点病院(高度型)として推薦。

愛媛県

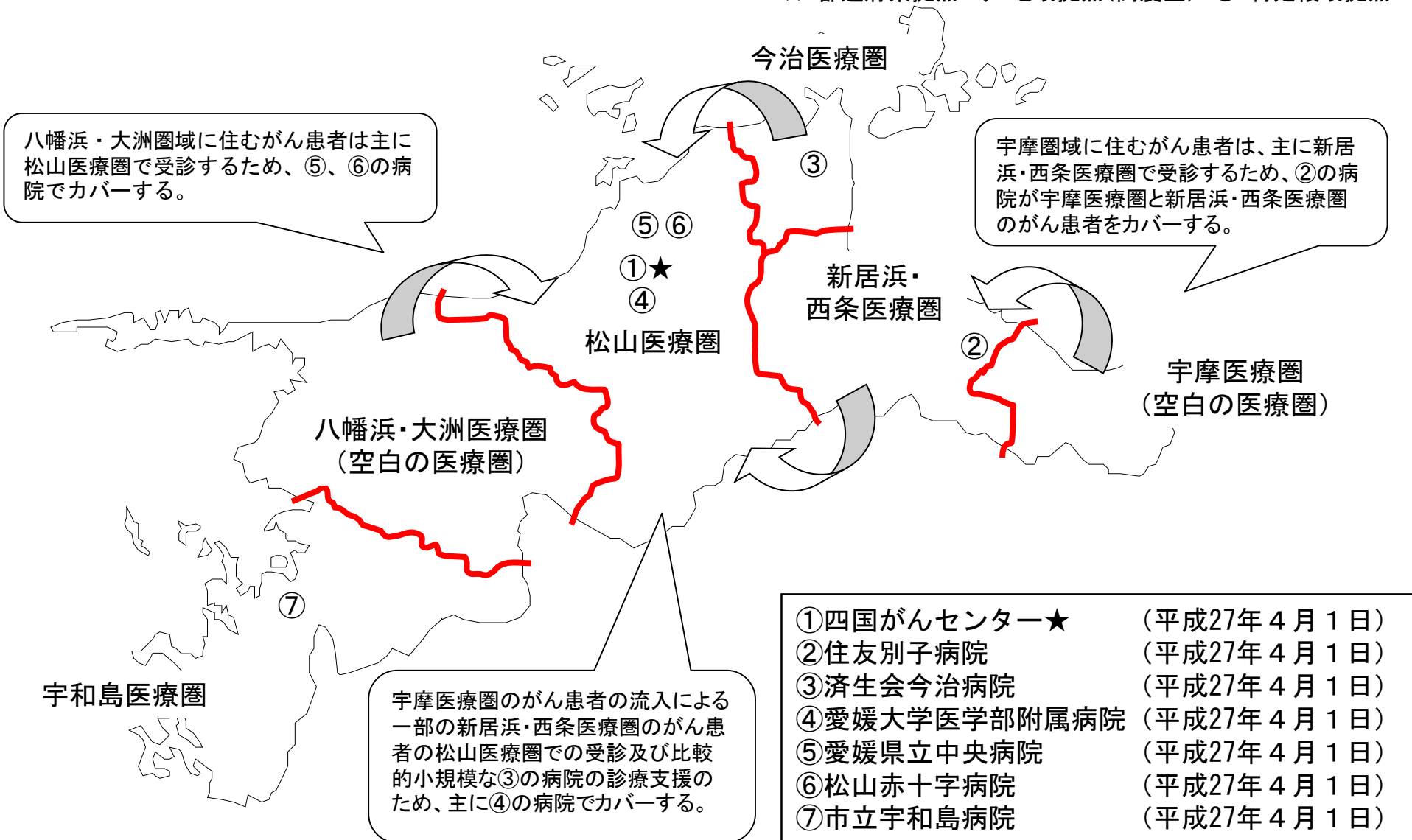
愛媛県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
宇摩	421.24	84,842	6.3%	201.41	9				0							
新居浜・ 西条	744.48	223,271	16.5%	299.90	22		1		1							
今治	449.52	160,675	11.9%	357.44	30		1		1							
松山	1540.83	639,938	47.3%	415.32	52		4		4							
八幡浜・ 大洲	1472.65	136,236	10.1%	92.51	16				0							
宇和島	1047.51	107,328	7.9%	102.46	12		1		1							
計	5676.23	1,352,290	100%	238.24	141	0	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0

愛媛県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

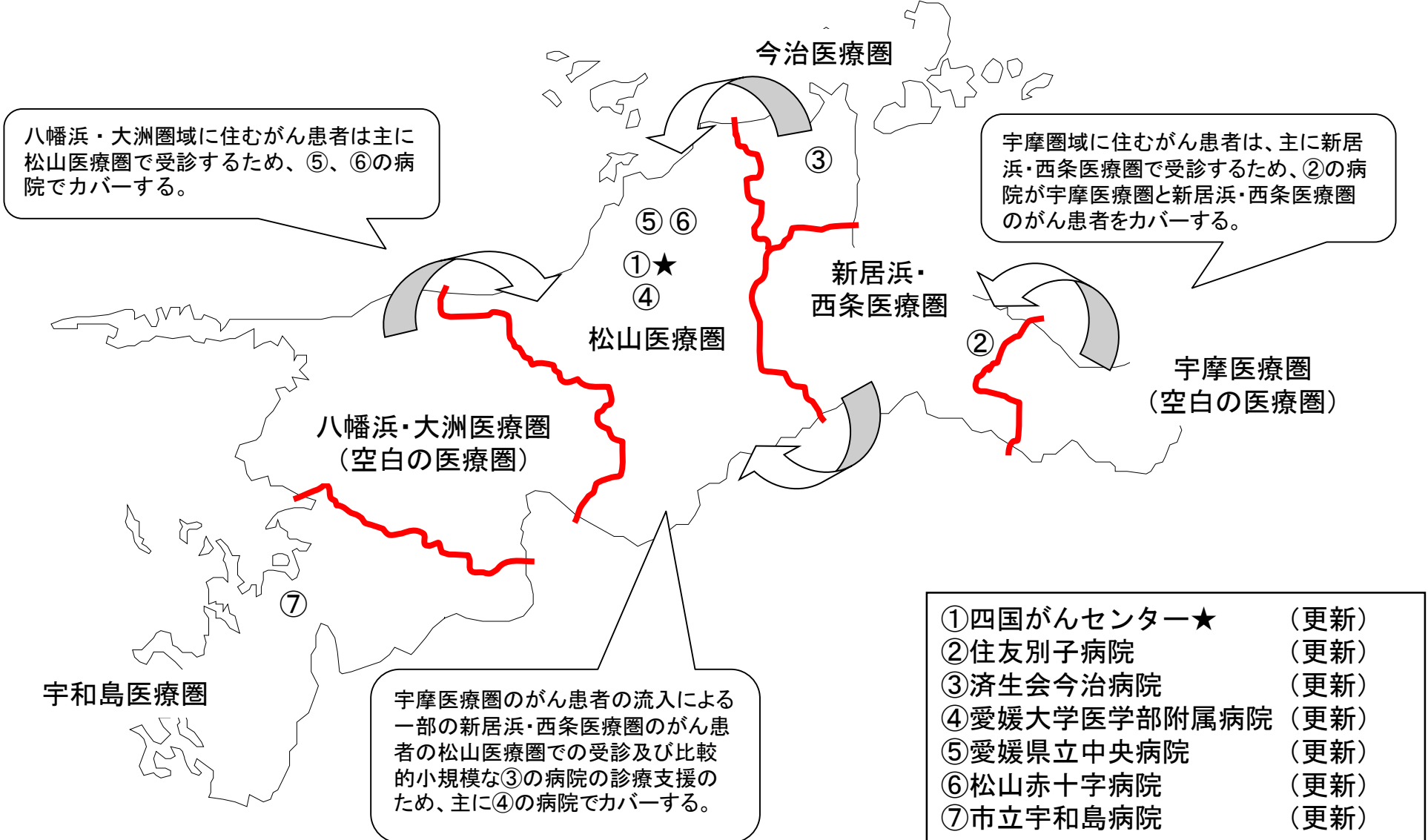
・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 松山	★	更新	四国がんセンター	(6965) 6641	(92.2) 90.3	1886	(1804) 1688	(13727) 13477	(937) 819	342	24	9437
2 新居浜・西条		更新	住友別子病院	(1071) 1168	(16.2) 16.7	493	(370) 381	(285) 472	(71) 112	78	27	661
3 今治		更新	済生会今治病院	(1199) 1139	(28.5) 26.8	501	(455) 596	(1064) 445	(298) 256	86	42	1992
4 松山		更新	愛媛大学医学部附属病院	(5152) 4837	(41.2) 37.3	1852	(1404) 1248	(3756) 4463	(8580) 393	109	21	1360
5 松山		更新	愛媛県立中央病院	(4301) 4370	(22.4) 23.0	2180	(1371) 1356	(1459) 2319	(590) 595	240	30	4142
6 松山		更新	松山赤十字病院	(2953) 2804	(16.8) 16.0	1376	(939) 1064	(1085) 1219	(241) 215	294	21	1196
7 宇和島		更新	市立宇和島病院	(1932) 1977	(19.3) 19.3	1020	(829) 718	(689) 1443	(200) 230	102	68	2651

愛媛県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



○愛媛県におけるがん診療体制について

本県の6つの二次医療圏のうち、宇摩圏域及び八幡浜・大洲圏域については、がん診療連携拠点病院としての要件を満たす医療機関がないため、がん診療については、地理的条件や交通事情、医療機能の集積状況等を踏まえ、それぞれ隣接する新居浜・西条圏域、松山圏域と一体的な診療体制を整備することにより、県内を4圏域に区分した上で、各圏域に拠点病院を配置することにより、県内全域をカバーできる体制を整備している。

○二次医療圏の数を上回る拠点病院を整備する理由

本県では、松山圏域に、県拠点病院を含め4拠点病院を整備することに伴い、県全体の拠点病院数は、二次医療圏の数である6を上回る7病院となるが、その理由は次のとおり。

1 患者の受療動向

県内のがんによる入院患者(病院の入院患者。以下同じ。)の約63%が松山圏域に集中し、松山圏域に所在する病院の入院患者の35%は他の圏域からの流入患者であり、県内の入院患者の49%、松山圏域に所在する病院の入院患者の84%を当該4病院で受け入れている。

2 他の二次医療圏との関係

宇摩圏域の患者は、3割が隣接の新居浜・西条圏域、4割が松山圏域に流出し、新居浜・西条圏域の患者の4割近くも松山圏域に流入しているほか、八幡浜・大洲圏域の患者の5割強は、隣接する松山圏域に流出していることから、松山圏域の拠点病院の診療支援は不可欠である。

また、今治圏域は、離島が多い等の地理的条件を考慮し拠点病院を整備するが、より高度な医療を行うには、松山圏域の拠点病院との連携が必要である。

3 拠点病院間の機能分担等

次項「医療機関の機能・役割」のとおり。

以上のことから、医療機関相互の機能や役割分担のもと、本県のがん診療の質的向上を図るための効率・効果的な体制を構築し、県内のがん医療の均てん化を推進する観点から、他の医療圏を支援する体制を構築するため、がん専門病院である四国がんセンターを都道府県拠点病院とするとともに、高度な診療機能を有し、従来から緊密な連携関係にある県立中央病院、愛媛大学医学部附属病院、松山赤十字病院の3病院が主導的役割を果たしていくことが不可欠である。

【県内のがん診療連携拠点病院の機能・役割分担（総括）】

◆都道府県拠点病院（1病院）

医療機関名	医療機関の機能・役割
四国がんセンター	<p>○全国がん(成人病)センター協議会の加盟施設としての機能を発揮し、最新技術の本県への導入の拠点とする。</p> <p>○都道府県拠点病院として、県がん診療連携協議会を主宰する。</p> <p>○がん専門病院として、全県の医療機関に対する支援を行う。</p>

◆地域拠点病院（6病院）

がん診療の医療圏	医療機関名 (所在圏域)	対象とする2次医療圏 (支援医療圏)	医療機関の機能・役割
東予	住友別子病院 (新居浜・西条圏域)	宇摩圏域 新居浜・西条圏域	○隣接する「宇摩圏域」を含め、東予地域において、高度ながん診療を行う。
今治	済生会今治病院 (今治圏域)	今治圏域	<p>○中予地域の医療機関と連携しつつ、今治地域において高度ながん診療を行う。</p> <p>○特に、離島の住民の診療、圏域内の中小医療機関の支援を重点的に行う。</p>
中予	愛媛大学医学部 附属病院 (松山圏域)	松山圏域 八幡浜・大洲圏域 (新居浜・西条 圏域、今治圏域)	<p>○特定機能病院及び大学病院として、高度ながん診療はもとより、次の機能を発揮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・症例の少ないがんの診療を行う。 ・がん診療のプロフェッショナルの育成等、専門職の養成を図る。 ・県内医師に対し、大学の教育機能を活かした研修を行う。 ・医療機関人の医師派遣を通じて、県内の医療技術の向上を図る。 <p>○特に、「新居浜・西条圏域」、「今治圏域」のがん患者診療と医療機関の診療支援を行う。</p>
	県立中央病院 (松山圏域)	松山圏域 八幡浜・大洲圏域 (八幡浜・大洲圏域)	<p>○中予地域の拠点病院であるとともに、本県の基幹病院として、高度な医療を行う。</p> <p>○県内4圏域にある県立4病院の拠点として、遠隔医療システムや医師派遣等を通じて各県立病院の診療支援を行う。</p> <p>○造血細胞移植療法、ガンマナイフ治療等を特徴とする。</p> <p>○PET-CTセンターを稼働させ、県内全域の病院・診療所の検査機関として機能している。</p> <p>○特に、「八幡浜・大洲圏域」のがん患者の診療と医療機関の診療支援を行う。</p>
	松山赤十字病院 (松山圏域)	松山圏域 八幡浜・大洲圏域 (八幡浜・大洲圏域)	<p>○中予地域において、高度ながん診療を行うとともに、松山圏域の地域医療支援病院として圏域内の医療機関と緊密な連携体制を築いている。</p> <p>○がんの分野においても、かかりつけ医を交えたカンファレンス等を積極的に行っているほか、地域のかかりつけ医やホスピス病院と共同して、緩和ケアも含めた在宅医療の充実を推進しており、がんにおける有病連携・病診連携、がんの在宅医療推進の先駆的役割を果している。</p> <p>○大腸がん、肝がん等の診療体制が充実している。</p> <p>○特に、「八幡浜・大洲圏域」のがん患者の診療と医療機関の診療支援を行う。</p>
南予	市立宇和島病院 (宇和島圏域)	宇和島圏域	○南予地域において、高度ながん診療を行うことにより、圏域内完結のがん診療体制を構築する。

高知県

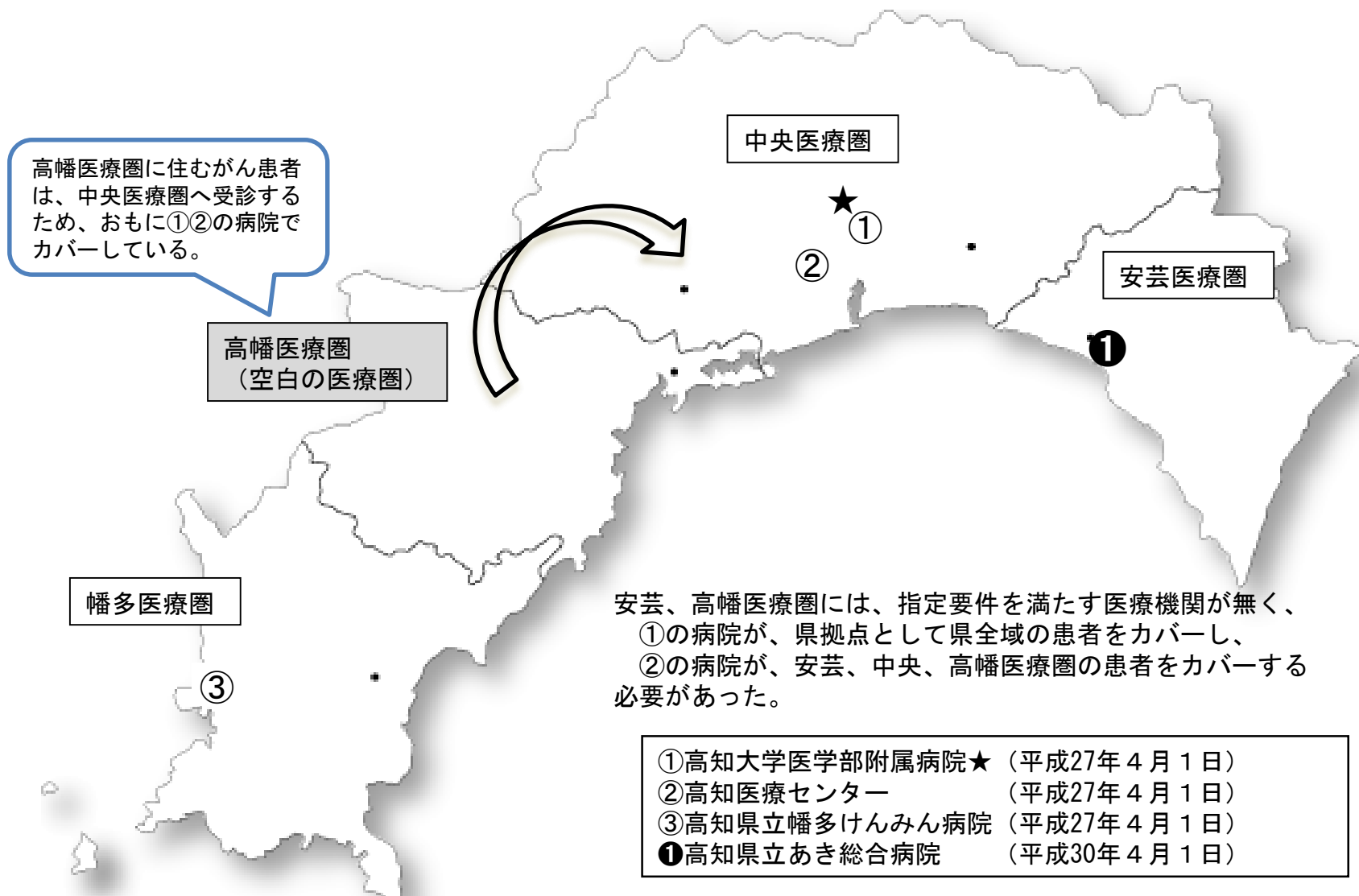
高知県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院			
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	
安芸医療圏	1128.92	45,478	6.5	40.3	6				0						1	
中央医療圏	3008.75	524,736	74.3	174.4	94			2	2							
高幡医療圏	1405.44	53,300	7.5	37.9	8				0							
幡多医療圏	1561.9	82,663	11.7	52.9	18			1	1							
計	7105.01	706,177	100	305.5	126	0	3	0	3	0	0	0	0	0	1	0

高知県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・ ()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値 ★：都道府県拠点 ◇：地域拠点（高度型） ◎：特定領域拠点
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・ 1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。（右上の資料番号は【資料3-1-①-1】，【資料3-1-①-2】...としてください）

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 中央	★	更新	高知大学医学部附属病院	(3563) 3548	(33.0) 31.8	1421	(1075) 1223	(1570) 1417	(474) 638	121	23	1006
2 中央		更新	高知医療センター	(4688) 4742	(34.0) 33.9	1979	(1082) 915	(1874) 1682	(296) 314	360	35	1011
3 幡多		更新	高知県立幡多けんみん病院	(921) 901	(16.1) 15.7	423	(237) 365	(458) 508	(96) 59	92	36	591

地域がん診療病院の診療実績等

- ・ 上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・ 申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合 (%)						
①	安芸	更新	高知県立あき総合病院	(269) 231	(8.4) 7.1	282	(53) 68	(703) 103	(-) -	49	2

高知県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

空白の医療であったため、高幡医療圏に住むがん患者は、中央医療圏へ受診するため、おもに①②の病院がカバーする体制が整備されている。



①の病院が、県拠点として県全域の患者をカバーし、
②の病院が、安芸、中央、高幡医療圏の患者をカバーする。

- ①高知大学医学部附属病院★ (更新)
- ②高知医療センター (更新)
- ③幡多けんみん病院 (更新)
- ①あき総合病院 (更新)

指定推薦に係る高知県の考え方（1）

（1）拠点病院の位置づけ

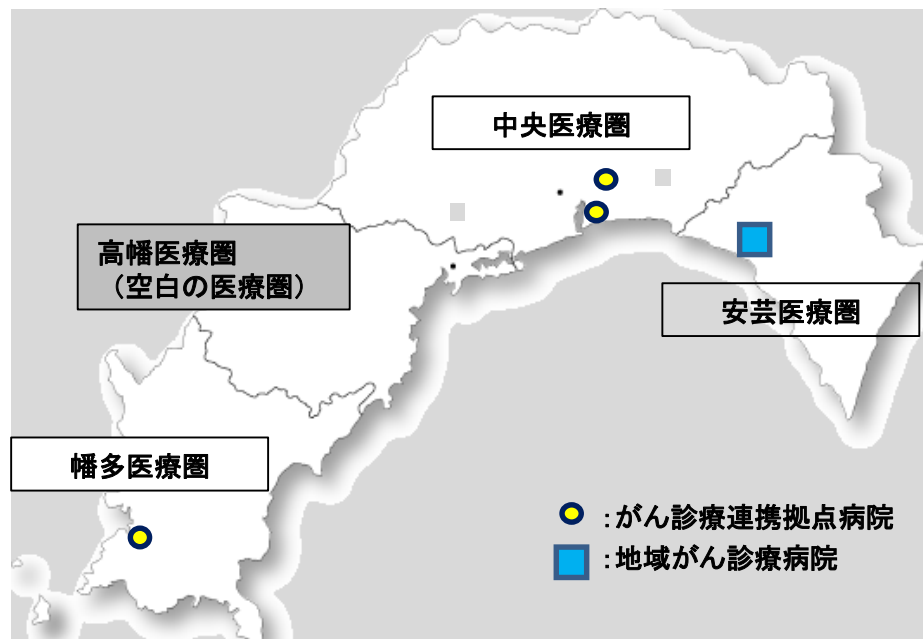
本県では、保健医療計画において4つの二次医療圏（安芸・中央・高幡・幡多）を設定しているが、がん医療提供体制については、次のような医療機能の集積状況やがん患者の医療圏間移動、地理的条件等を踏まえ、県全体として高度医療の確保と患者の利便性の双方を確保できるよう、中央医療圏の拠点病院が中央医療圏に加え安芸・高幡医療圏の患者支援を、幡多医療圏の拠点病院が幡多医療圏の患者支援の患者支援を主に行っている。

- ①本県では、安芸及び高幡医療圏では、単独で集学的治療を実施できる医療機関がないことから、その役割を中央医療圏の医療機関が担っている。また、幡多医療圏内で集学的治療ができる医療機関は1か所のみとなっている。
- ②がんの入院患者についても、中央医療圏への流出が多い。

2次医療圏名	入院	
	自圏内	中央医療圏への流出
安芸医療圏	50.8% (21.2%)	49.2% (76.5%)
中央医療圏	99.5% (99.8%)	—
高幡医療圏	36.8% (41.7%)	63.2% (57.5%)
幡多医療圏	71.0% (70.5%)	28.2% (26.5%)

※平成28年度高知県患者動態調査結果による
() 内は平成23年度調査結果

- ③本県は、東西に長い地形に加えて、中山間部では過疎化が進行するなど地理的条件が厳しい。
- ④幡多医療圏については、中央圏域から地理的に離れた圏域であり、一部患者が中央医療圏や県外に流出しているものの、概ね自圏域内で医療が完結している。



指定推薦に係る高知県の考え方（2）

（2）がん診療連携拠点病院等の整備方針及び地域連携体制

○がん診療連携拠点病院等の整備方針について

・都道府県がん診療連携拠点病院として、高知大学医学部附属病院を整備している。

・地域がん診療連携拠点病院としては、高知医療センターが高知大学医学部附属病院とともに、安芸・中央・高幡医療圏をカバーし、高知県立幡多けんみん病院が幡多医療圏をカバーするよう整備している。

・地域がん診療病院として、高知大学医学部附属病院とのグループ指定により、高知県立あき総合病院が安芸医療圏をカバーするよう整備している。

【本県のがん診療体制を整備するうえでの必要性】

がん診療については、最新の医療を本県でも提供しうる体制づくりを目標とし、医療従事者の育成、診療の相互支援、がんに係る情報の収集・提供等を行うこととしている。その推進体制としては、特定機能病院及び大学病院である高知大学医学部附属病院が、都道府県がん診療連携拠点病院として県全体のがん治療水準の向上と人材の育成、治療連携体制を構築している。

また、安芸・高幡医療圏にがん診療連携拠点病院としての要件を満たす病院が無いことから、高知医療センターと高知大学医学部附属病院が安芸医療圏・中央医療圏・高幡医療圏を、高知県立幡多けんみん病院が幡多圏域の基幹病院として幡多医療圏をカバーしている。

さらに、高知県立あき総合病院が安芸圏域の基幹病院として高知大学医学部附属病院とのグループ指定により安芸医療圏をカバーすることで、中央医療圏まで診療・治療に行っていた患者を安芸医療圏で一定の診療が完結できる体制を構築する方針である。

圏域	医療機関名	各医療機関の機能等
全域	高知大学医学部附属病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成18年度に都道府県拠点病院として指定を受けた国立大学法人の附属病院。 ◆特定機能病院及び大学病院として、県内全域を対象に、高度ながん診療のみならず、次の機能も発揮する。 <ul style="list-style-type: none"> ・症例の少ないがんの診療。 ・県内医師に対し、大学の教育機能を活かした研修。 ・県内医療機関への医師派遣。 ◆県内医療機関の拠点として、遠隔画像システム等を通じて、診療支援を行う。
安芸	高知県立あき総合病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆平成30年度に地域がん診療病院として指定。 ◆都道府県拠点病院である高知大学医学部附属病院とのグループ指定により、集学的治療等を提供する。
安芸中央高幡	高知医療センター	<ul style="list-style-type: none"> ◆高知大学とともに、安芸・中央・高幡医療圏の患者の診療と、これら医療圏の医療機関の診療支援を行う。 ◆救命救急センター・総合周産期母子医療センター・がんセンター・循環器病センター・地域医療センターといった高度医療機能を備え、県全体の基幹病院と位置付けられている。
幡多	高知県立幡多けんみん病院	<ul style="list-style-type: none"> ◆幡多医療圏に平成24年度に地域拠点病院として整備。 ◆幡多圏域の基幹病院として、高度ながん診療を行うとともに、地域の関係機関との連携のもとに、地域でほぼ完結できる医療の提供を行っている。

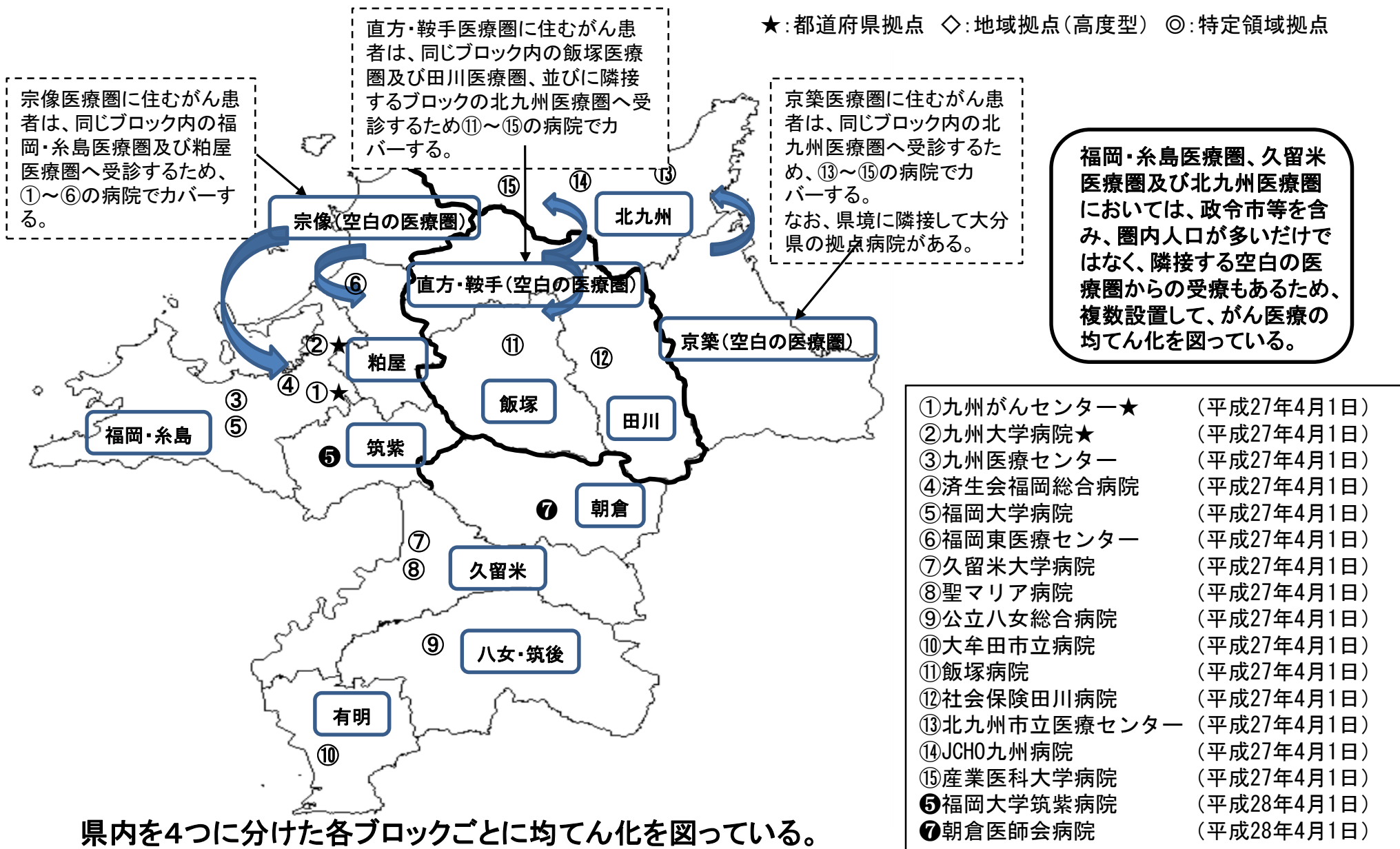
福岡県

福岡県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²) (H28. 10. 1)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
福岡・糸島	559.09	1,676,738	32.8	2999.05	123		5	1	6						
粕屋	206.71	289,427	5.7	1400.16	26		1		1						
宗像	172.67	160,012	3.1	926.69	14				0						
筑紫	233.32	436,652	8.5	1871.47	27				0					1	
朝倉	365.78	81,945	1.6	224.03	8				0					1	
久留米	467.83	453,726	8.9	969.85	49		2		2						
八女・筑後	562.16	130,621	2.6	232.36	13		1		1						
有明	263.81	215,668	4.2	817.51	34		1		1						
飯塚	369.32	177,437	3.5	480.44	22		1		1						
直方・鞍手	251.53	106,349	2.1	422.81	12				0						
田川	363.73	121,230	2.4	333.30	16		1		1						
北九州	601.31	1,078,415	21.1	1793.44	103		3	1	4						
京築	569.14	183,553	3.6	322.51	14				0						
計	4986.4	5,111,773	100	12793.62	461	0	15	2	17	0	0	0	0	2	0

福岡県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1	福岡・糸島	★	更新	九州がんセンター	(8,082) 8,601	(99.1) 99.3	2,623	(1,326) 1,332	(7,861) 9,048	(962) 1,105	361	17	7,196
2	福岡・糸島	★	更新	九州大学病院	(11,149) 14,343	(44.7) 55.8	3,010	(2,076) 3,959	(22,066) 24,559	(1,710) 1,213	367	40	1,658
3	福岡・糸島		更新	九州医療センター	(5,838) 5,953	(34.8) 35.3	2,451	(1,292) 1,445	(2,438) 2,327	(466) 443	50	11	127
4	福岡・糸島		更新	済生会福岡総合病院	(2,178) 2,033	(19.0) 17.2	1,109	(782) 709	(830) 1,175	(222) 236	461	6	920
5	福岡・糸島		更新	福岡大学病院	(3,738) 3,519	(19.9) 17.9	1,562	(1,009) 1,067	(1,587) 2,387	(487) 417	210	10	2,809
6	粕屋		更新	福岡東医療センター	(2,048) 2,579	(21.5) 26.1	812	(426) 686	(642) 1,135	(225) 215	198	17	685
7	久留米		更新	久留米大学病院	(5,260) 6,128	(28.2) 31.6	2,393	(1,702) 2,167	(2,387) 2,495	(738) 766	175	24	895
8	久留米		更新	聖マリア病院	(2,285) 2,713	(13.8) 18.0	1,255	(720) 584	(1,001) 1,118	(187) 219	220	21	535
9	八女・筑後		更新	公立八女総合病院	(1,299) 1,179	(21.1) 17.6	476	(366) 251	(320) 302	(249) 228	325	43	512
10	有明		更新	大牟田市立病院	(1,998) 1,900	(25.5) 24.6	645	(369) 549	(443) 676	(160) 160	67	31	667 295

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
11	飯塚		更新	飯塚病院	(4,895) 5,330	(24.4) 24.4	1,840	(2,167) 2,102	(1,480) 9,827	(331) 374	540	62	384
12	田川		更新	社会保険田川病院	(876) 1,011	(17.2) 19.8	492	(342) 313	(350) 388	(116) 119	58	28	337
13	北九州		更新	北九州市立医療センター	(5,107) 5,003	(46.8) 47.0	2,391	(1,395) 1,524	(9,661) 3,998	(578) 511	101	14	2,279
14	北九州		更新	JCHO九州病院	(4,431) 4,725	(31.4) 33.6	1,809	(1,648) 1,267	(1,038) 1,588	(419) 405	208	14	2,578
15	北九州		更新	産業医科大学病院	(4,861) 4,939	(30.4) 30.8	1,748	(1,723) 1,716	(9,948) 3,115	(913) 829	172	17	725
16	福岡・糸島		新規	浜の町病院	4,512	36.0	1,317	732	1,152	316	153	9	601
17	北九州		新規	戸畑共立病院	1,660	28.1	555	449	1,051	675	621	6	1,352

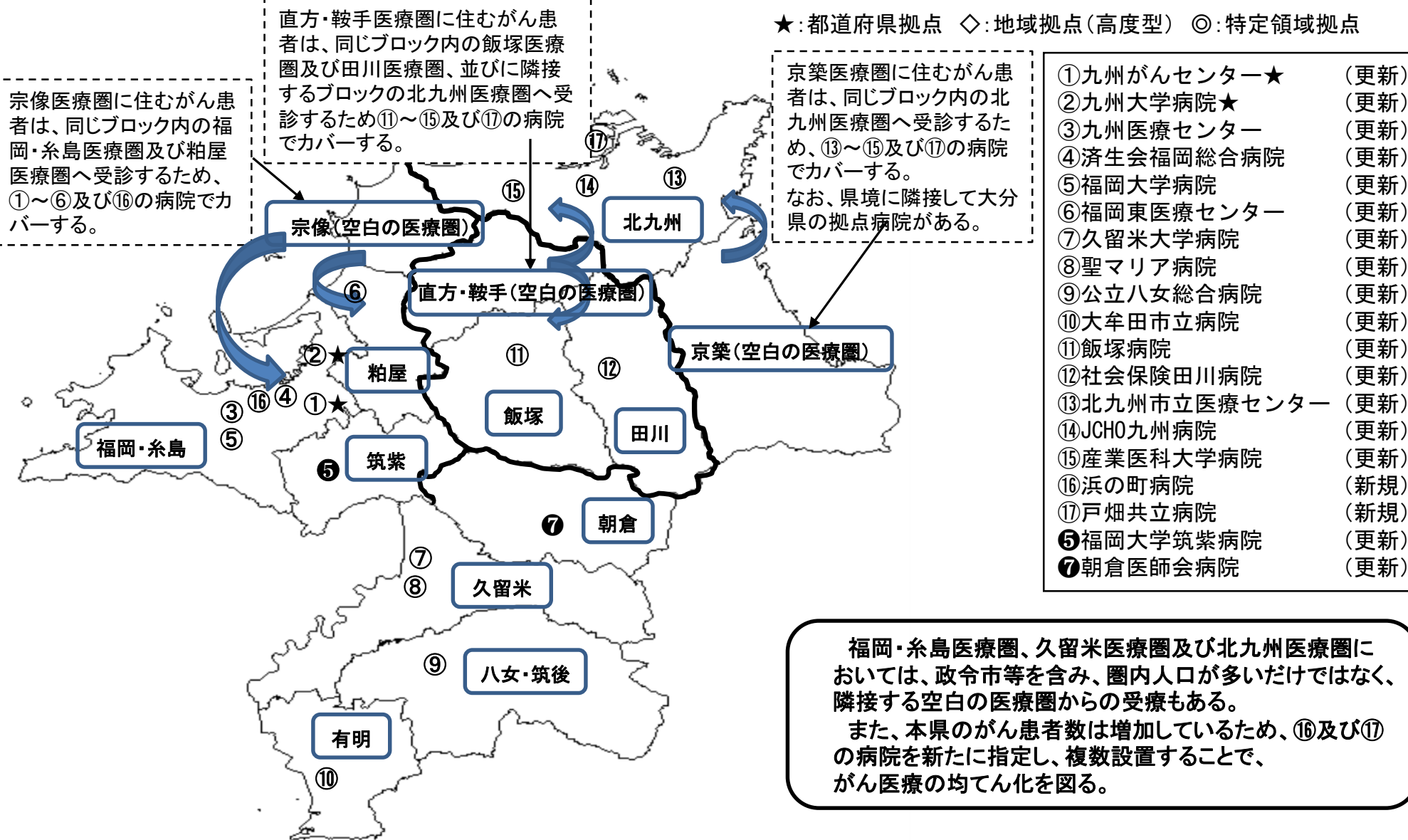
地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間)	放射線治療 (実施していれば) のべ患者数 (年間)	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数 (年間)	がん相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
⑤	筑紫	更新	福岡大学筑紫病院	(1,194) 1,274	(13.7) 14.3	687	(274) 329	(342) 357	実施なし	103	590
⑦	朝倉	更新	朝倉医師会病院	(1,404) 811	(29.6) 16.5	508	(176) 131	(924) 1,084	実施なし	75	594

福岡県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向



県内を4つに分けた各ブロックごとに均てん化を図っている。

福岡県のがん診療連携拠点病院等整備の考え方

1 本県の状況

(1) がん患者等

- ① 平成28年のがんと診断された人は、41,197人、年齢調整罹患率は420.4であり、全国平均402.0を上回っている。本県のがん患者数は8.7千人(平成23年)から10.1千人(平成26年)に増加し、伸び率116.1%は、全国で最も高い。
- ② 昭和52年から、本県における死亡原因の第1位である、がんは、死因の30%を占め、その割合は全国で2番目に高い。
- ③ 平成29年のがんによる死亡数は、15,740人、75歳未満の年齢調整死亡率は、全国平均73.6を上回る80.3である。

(2) 医療圏等

- ① 100万人を超える2次医療圏(福岡・糸島、北九州)を有している一方で、指定要件を満たす医療機関がない2次医療圏(宗像、直方・鞍手、京築)が存在している。
- ② 県内の推計入院患者の動向は、ほとんどが当該2次医療圏の所在する、県内の4ブロック(福岡、筑後、筑豊、北九州)内で、流入・流出している。また、他県からの流入患者が、8%から20%超の2次医療圏が存在している。
- ③ 平成27年の地域がん登録において、総届出件数に占める拠点病院等以外の病院の届出割合は38.5%と、多くの病院で、がん診療が行われている。

2 整備方針

(1) 都道府県がん診療連携拠点病院(以下「県拠点病院」という。)

がんの診療及び連携体制の強力かつ効果的に推進するため、これまで同様に、九州がんセンターと九州大学病院の2か所を推薦する。

- ① 両病院とも、県拠点病院としての要件を充分満たしており、地域連携の推進や相談支援機能の強化において、がん診療施設情報ネットワークシステム等を利用し、優れた情報の収集・発信機能を持つ九州がんセンターと、高度で専門的ながん医療の提供や専門医療従事者の育成等に充分にその役割を果たしている九州大学病院とが、互いに連携することで、福岡県のがん医療の統括及び指導的役割を果たすことができる。
- ② 県内のがん医療を牽引し、医療機関間の連携体制を構築するためには、九州がんセンターと九州大学病院が互いに連携・協力し、先駆的・指導的役割を果たしていくことが必要不可欠である。

(2) 地域がん診療連携拠点病院(以下「地域拠点病院」という。)

県内13の2次医療圏を基準としながら、県内の医療等の状況を踏まえ、引き続き、県内4ブロック単位で整備するという考え方を基本とする。

なお、①他県からの流入が県全体で約7%、特に、筑後ブロックが38.2%、福岡ブロックが13.8%、北九州ブロックが7.6%と多くなっていること。②がん患者数の平成26年と23年の比較では、福岡ブロックが、25.7%、北九州ブロックが7.7%、筑後ブロックが12.5%増加していること。③診療体制が整備され、診療実績がある病院が多く存在していることを勘案し、整備を図っていく。

推薦にあたっては、指定要件を満たしている又は、平成31年3月末までに指定要件を満たすことが確実な医療機関（※）を推薦することとし、既指定の13医療機関を指定更新推薦、2医療機関（浜の町病院、戸畑共立病院）を新規指定推薦する。

※平成31年1月に実地調査を行い、書面等により指定要件を満たすことを確認済。

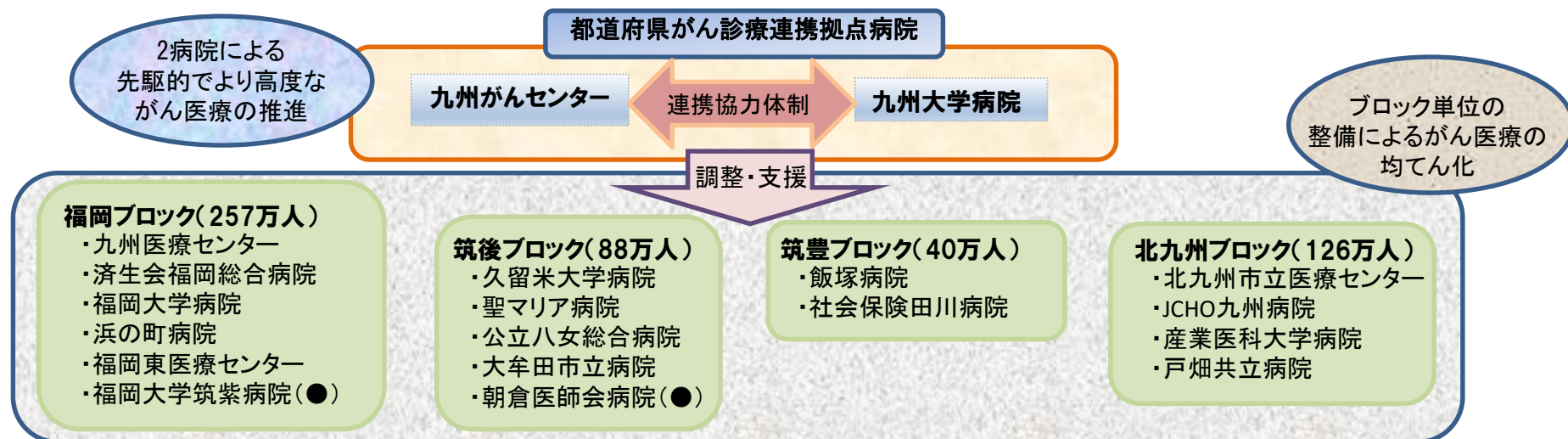
なお、新規指定推薦の2医療機関は、福岡県指定がん診療拠点病院（指定要件は国の指針と同様）として、平成22年4月1日からがん診療連携拠点病院等とともに質の高いがん医療を提供し、福岡県がん診療連携協議会、各専門部会及び研修会等に参画しながら、福岡県のがん医療の均てん化に貢献してきたところである。

（3）地域がん診療病院

福岡県では、平成26年1月10日に定められた「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」に基づき、空白の2次医療圏を解消し、がん医療の均てん化を推進すべく、2医療機関（福岡大学筑紫病院、朝倉医師会病院）を整備してきたところである。今回、指定要件を満たしている既指定の2医療機関を指定更新推薦する。

3 総括

本県のがんにかかる状況を踏まえ、「第3期福岡県がん対策推進計画」において、「がんによる死亡率（75歳未満調整死亡率）を6年間で10%減少させること」を数値目標に掲げている。この達成のためには、全ての県民が県内どこに居ても質の高いがん医療を等しく受けられるがん医療の均てん化が必要不可欠である。今後とも、県、がん診療連携協議会、拠点病院等との連携・協力体制を強化し、これを推進していく。



佐賀県

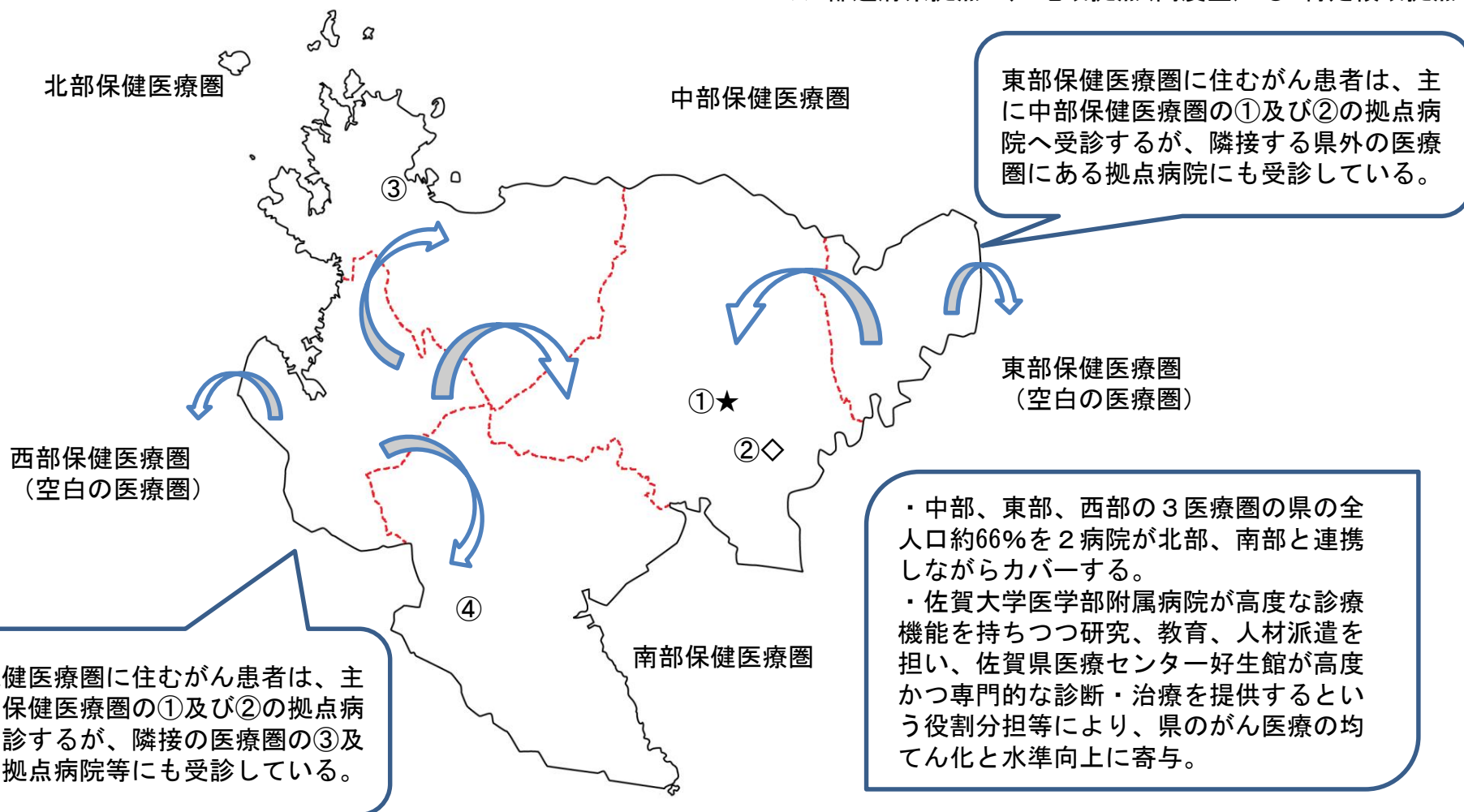
佐賀県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
中部保健医療圏	793.73	344,547	42.05	434.1	39		1	1	2						
東部保健医療圏	158.59	126,086	15.39	795.0	13				0						
北部保健医療圏	523.50	124,802	15.23	238.4	18		1		1						
西部保健医療圏	321.10	73,579	8.98	229.1	11				0						
南部保健医療圏	643.78	150,298	18.34	233.5	23		1		1						
計	2440.7	819,312	100	335.7	104	0	3	1	4	0	0	0	0	0	0

佐賀県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- ①佐賀大学医学部附属病院★ (平成27年 4 月 1 日)
 ②佐賀県医療センター好生館◇ (平成27年 4 月 1 日)
 ③唐津赤十字病院 (平成27年 4 月 1 日)
 ④嬉野医療センター (平成27年 4 月 1 日)

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

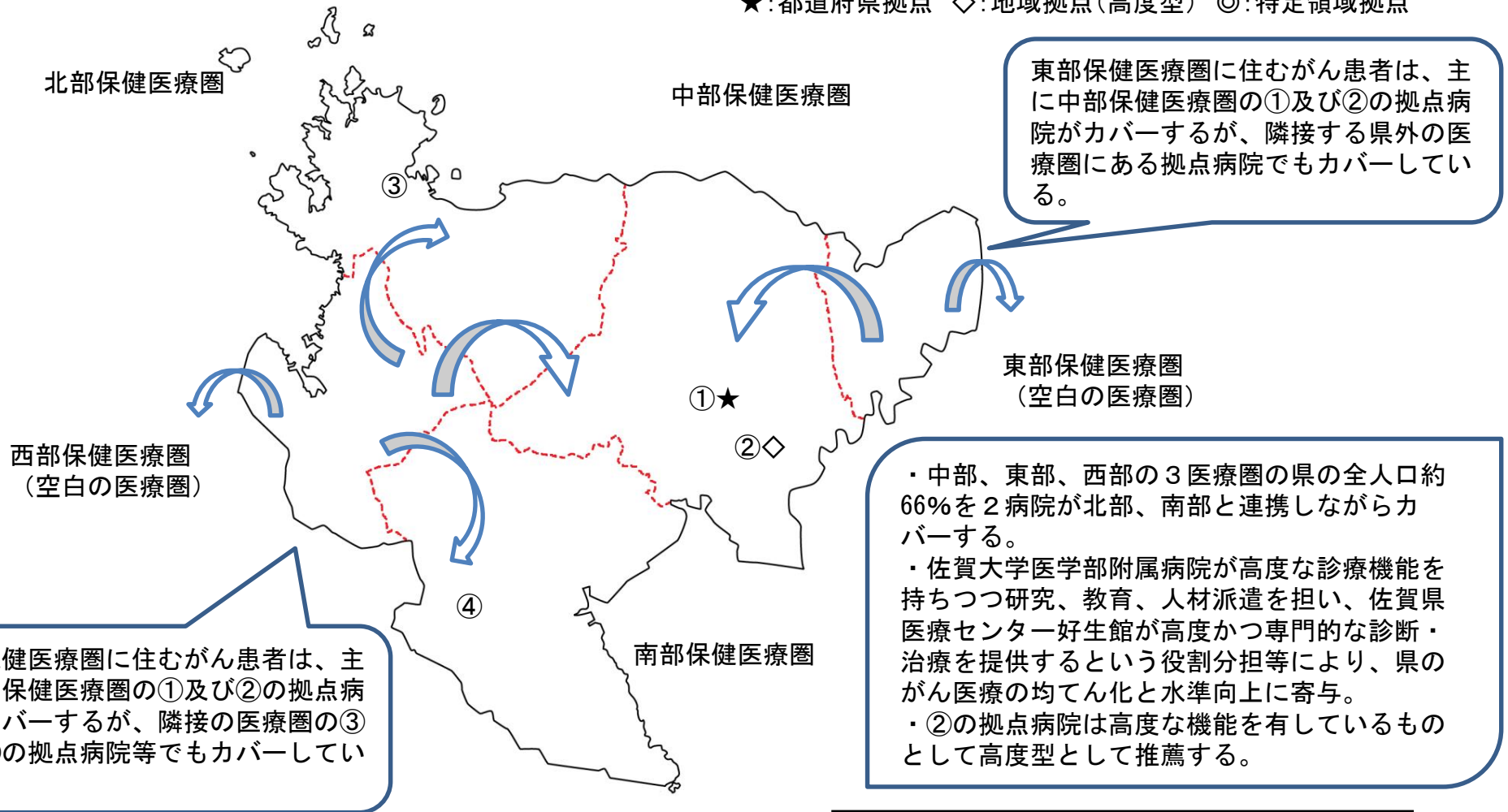
★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に 居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新 入院が ん患者 数	年間新入院 患者数に占 めるがん患 者の割合 (%)							
1 中部保健医療圏	★	更新	佐賀大学医学部附属病院	(2719) 2982	(22.0) 22.6	1633	(1013) 937	(1395) 1521	(391) 309	244	27	2383
2 中部保健医療圏	◇	新規	佐賀県医療センター好生館	(3195) 3106	(24.1) 24.2	1291	(1063) 921	(1929) 1756	(291) 388	284	32	6845
3 北部保健医療圏		更新	唐津赤十字病院	(852) 1619	(13.3) 23.6	643	(420) 415	(478) 833	(70) 183	102	38	399
4 南部保健医療圏		更新	嬉野医療センター	(1530) 1376	(16.3) 15.2	622	(525) 458	(1999) 1996	(219) 250	287	28	1017

佐賀県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



- ①佐賀大学医学部附属病院★ (更新)
 ②佐賀県医療センター好生館◇ (新規)
 ③唐津赤十字病院 (更新)
 ④嬉野医療センター (更新)

今回の推薦等に係る佐賀県の考え方について

佐賀県の現状

- ・ がんによる死亡率（75歳未満年齢調整死亡率）は全国と比較すると高い水準にある。
- ・ がん医療に関し、拠点病院を地域診療の核として、かかりつけ医を支援しながら、県民に等しく質の高いがん医療を提供する。

拠点病院の整備

- ・ 5医療圏に対し、4病院を推薦。
- ・ 人口、医療資源が中部保健医療圏に集中しており、空白の医療圏である西部、東部には指定要件を満たす病院がない。

空白の医療圏への対応が課題

中部、東部、西部の3医療圏で県の全人口の約66%となるが、中部の2病院が北部、南部と連携しながら空白の医療圏のがん患者をカバーする。
⇒ 空白の医療圏である東部・西部保健医療圏については地域がん診療病院設置の検討を行う。

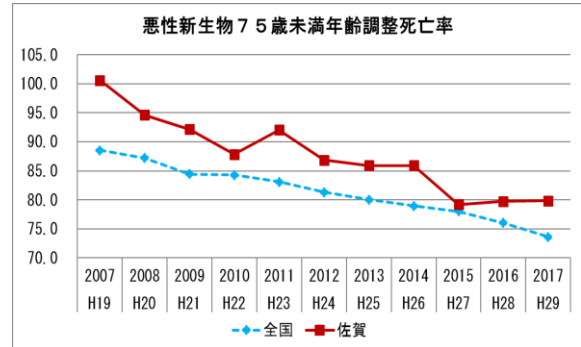
佐賀大学医学部附属病院

高度な診療機能を持ちつつ、研究、教育、県全体のメディカルスタッフの研修及び県内医療機関への人材派遣等の調整

佐賀県医療センター好生館

確立された医療技術に基づいた高度かつ専門的な診断・治療を提供し、地域のかかりつけ医を支援

両院の特色を活かし、協力、連携することで、県のがん医療の均てん化と水準向上に寄与することができる。



医療圏	人口	人口割合(%)	病院数
中部	344,547	42.05	39
西部	73,579	8.98	11
東部	126,086	15.39	13
南部	150,298	18.34	23
北部	124,802	15.23	18
計	819,312	100	104

長崎県

長崎県 がんの医療圏の概要

平成30年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
長崎医療圏	697.07	515,652	38.5	739.74	53		3		3						
佐世保県央医療圏	824.20	316,100	23.6	383.52	35		1		1						
県央医療圏	626.12	265,997	19.9	424.83	32		1		1						
県南医療圏	467.35	130,263	9.7	278.73	17		1		1						
五島医療圏	420.04	35,486	2.7	84.48	4				0						
上五島医療圏	239.47	20,859	1.6	87.1	1				0						
壱岐医療圏	139.42	25,885	1.9	185.66	5				0						
対馬医療圏	708.63	29,938	2.2	42.25	2				0						
計	4,122.30	1,340,180	100.0	2226.3	149	0	6	0	6	0	0	0	0	0	0

長崎県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

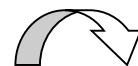
★: 都道府県拠点

- ①長崎大学病院 ★
(平成27年4月1日)
- ②長崎みなとメディカルセンター
(平成27年4月1日)
- ③日本赤十字社 長崎原爆病院
(平成27年4月1日)
- ④佐世保市総合医療センター
(平成27年4月1日)
- ⑤長崎医療センター
(平成27年4月1日)
- ⑥長崎県島原病院
(平成27年4月1日)

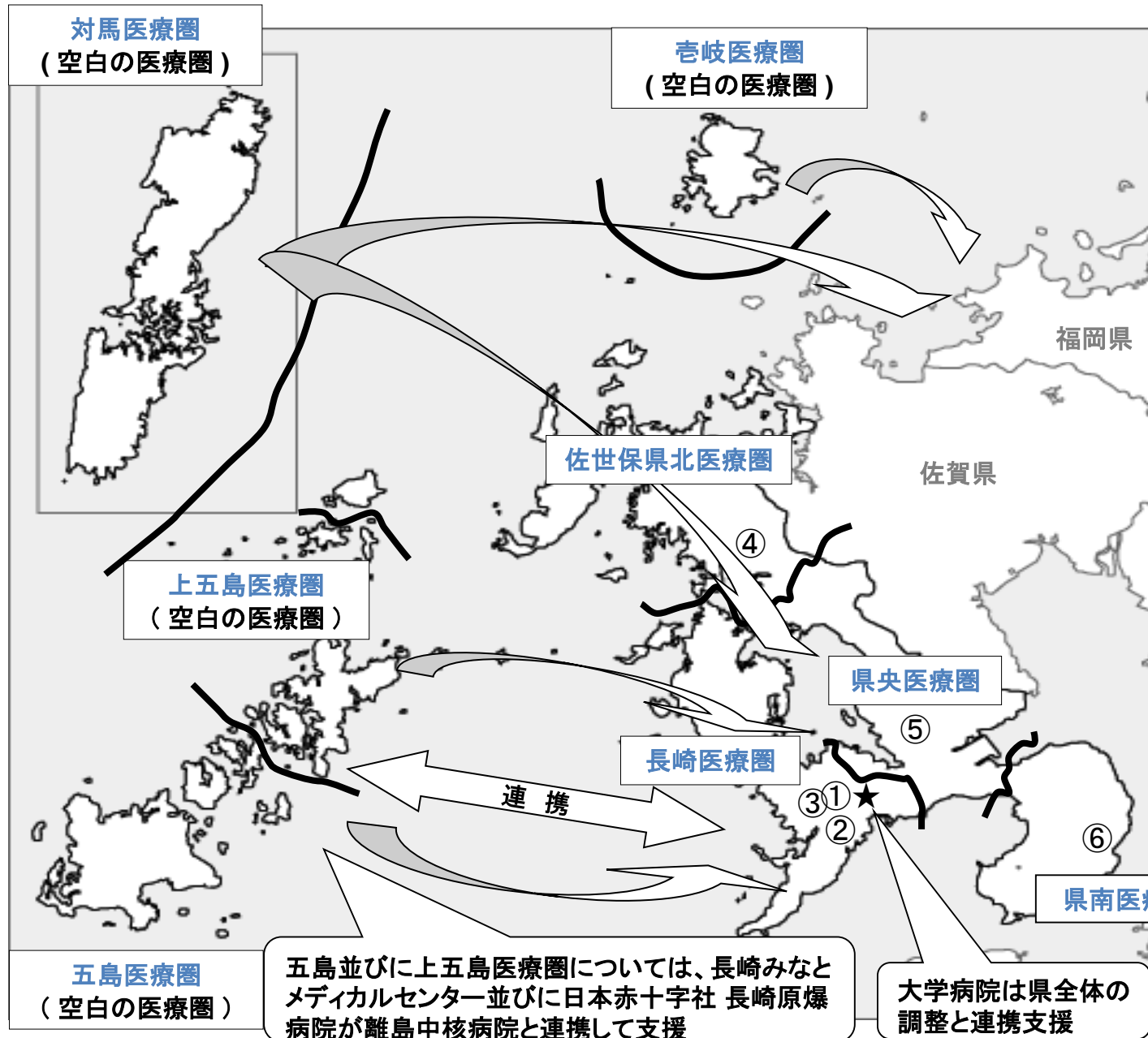
【長崎医療圏複数指定の理由】

- 長崎大学病院 都道府県拠点病院
- 長崎みなとメディカルセンター
「がん診療離島中核病院(長崎県五島中央病院)」中心に五島医療圏と連携
- 日本赤十字社 長崎原爆病院
「がん診療離島中核病院(長崎県上五島病院)」を中心に上五島医療圏と連携

医療圏数	8ヶ所
拠点病院数	6
更新	6
新規	なし



患者の流れ



五島並びに上五島医療圏については、長崎みなとメディカルセンター並びに日本赤十字社 長崎原爆病院が離島中核病院と連携して支援

大学病院は県全体の調整と連携支援

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
 ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) <u>500件以上</u>	手術件数 悪性腫瘍の手術 件数(年間) <u>400件以上</u>	がんに係る薬物 療法 のべ患者数 (年間) <u>1000人以上</u>	放射線治療 のべ患者数 (年間) <u>200人以上</u>	緩和ケア 緩和ケアチーム に対する新規診 療依頼数 (年間) <u>50件以上</u>	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) <u>2割程度</u>	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間新 入院が ん患者 数	年間新入 院患者数 に占める がん患者 の割合 (%)							
1 長崎医療圏	★	更新	長崎大学病院	(5,730) 5,943	(31.2) 31.1	(2,165) 2,315	(1,778) 1,937	(1,375) 2,776	(618) 685	(353) 382	(55) 35	(110) 662
2 長崎医療圏		更新	長崎みなとメディカルセンター	(2,235) 2,674	(20.9) 22.5	(1,054) 1,088	(799) 776	(744) 955	(539) 320	(111) 130	(17) 19	(368) 1,705
3 長崎医療圏		更新	日本赤十字社長崎原爆病院	(2,767) 2,602	(35.2) 34.1	(1,094) 1,087	(867) 761	(972) 1,082	(337) 382	(90) 61	(21) 22	(200) 985
4 佐世保県北医療圏		更新	佐世保市総合医療センター	(4,250) 4,021	(32.7) 31.5	(1,605) 1,615	(995) 1,371	(1,830) 3,302	(506) 428	(162) 273	(44) 41	(243) 1,621
5 県中央医療圏		更新	長崎医療センター	(1,373) 4,231	(26.8) 27.6	(1,614) 1,625	(919) 897	(1,333) 1,390	(410) 490	(222) 153	(38) 49	(172) 908
6 県南医療圏		更新	長崎県島原病院	(1,293) 1,512	(28.5) 30.8	(380) 654	(146) 410	(1,092) 677	(109) 149	(273) 329	(53) 62	(227) 1,129

長崎県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

対馬医療圏
(空白の医療圏)

吉岐医療圏
(空白の医療圏)

★: 都道府県拠点

空白の医療圏である4つの離島医療圏は、各地域に第1期県がん対策推進計画において位置づけたがん診療離島中核病院と本土地区の地域がん診療病院が連携し、がん医療の均てん化を図っている。

但し、吉岐・対馬医療圏については、経済圏の関係から、一部の患者は、福岡県の医療機関での受療している。

【長崎医療圏複数指定の理由】

- 長崎大学病院 都道府県拠点病院
- 長崎みなとメディカルセンター
「がん診療離島中核病院(長崎県五島中央病院)」
を中心に五島医療圏と連携
- 日本赤十字社 長崎原爆病院
「がん診療離島中核病院(長崎県上五島病院)」を
中心に上五島医療圏と連携

県南医療圏

- ①長崎大学病院 ★ (更新)
- ②長崎みなとメディカルセンター (更新)
- ③長崎原爆病院 (更新)
- ④佐世保市総合医療センター (更新)
- ⑤長崎医療センター (更新)
- ⑥長崎県島原病院 (更新)

上五島医療圏
(空白の医療圏)

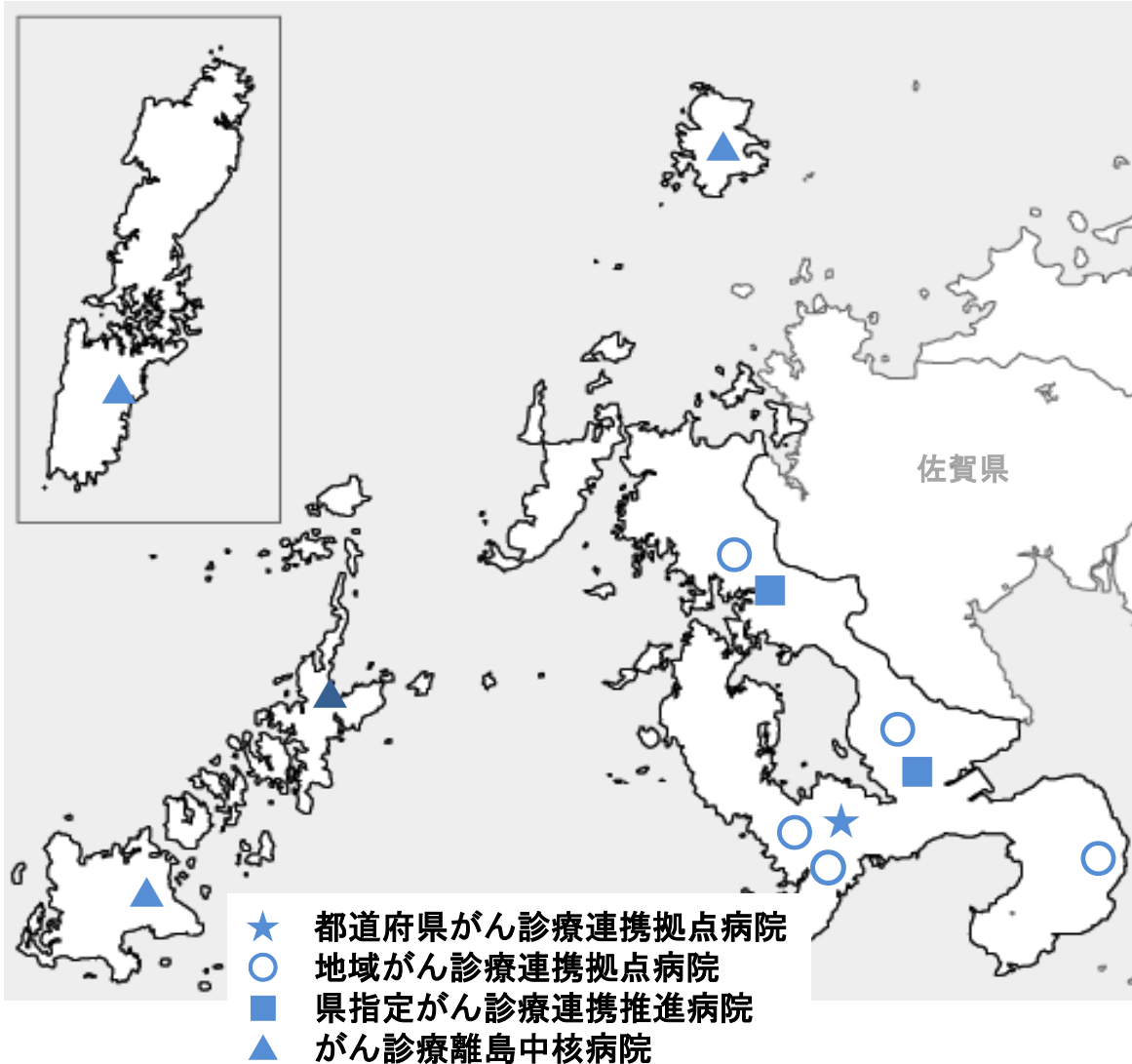
県央医療圏

長崎医療圏

五島医療圏
(空白の医療圏)

今回の指定推薦等に係る都道府県の考え方

長崎県のがん医療提供体制



人口 約134万人
医療圏 8か所（本土4か所 離島4か所）

本県のがん医療は、以下の病院の連携により提供
【国指定】

- ・ 都道府県がん診療連携拠点病院
長崎大学病院（長崎医療圏）
- ・ 地域がん診療連携拠点病院
長崎みなとメディカルセンター（長崎医療圏）
日本赤十字社 長崎原爆病院（長崎医療圏）
佐世保市総合医療センター（佐世保県北医療圏）
長崎医療センター（県央医療圏）
長崎県島原病院（県南医療圏）

【県指定】

※国の地域がん診療連携拠点病院の指定要件をほぼ充足

- ・ がん診療推進病院
諫早総合病院（県央医療圏）
佐世保中央病院（佐世保県北医療圏）

【県がん対策推進計画で位置づけ】

- ・ がん診療離島中核病院
長崎県五島中央病院
長崎県上五島病院
長崎県壱岐病院
長崎県対馬病院

■長崎医療圏の複数指定の理由

- ・長崎みなとメディカルセンター
五島医療圏との連携及び長崎医療圏（主に南部）の中核病院としての実績とともに、サイバーナイフ導入等先進治療の一翼を担う。
- ・日本赤十字社 長崎原爆病院
被爆県である本県の特殊性から、被爆者（・二世）に対するがん診療の実績が多い。上五島医療圏との連携及び長崎医療圏（主に北部）の中核病院としての役割を担う。
- ・長崎大学病院
県内全域（一部佐賀県等を含む）のがん診療の質の向上に貢献。特に、合併症、小児、妊婦、多重がん等、特殊な治療を担うとともに、県拠点病院として県内のがん診療医療従事者に対する研修の支援等人材育成の中核を担う。

【長崎県が目指すがん医療連携体制】

■現状

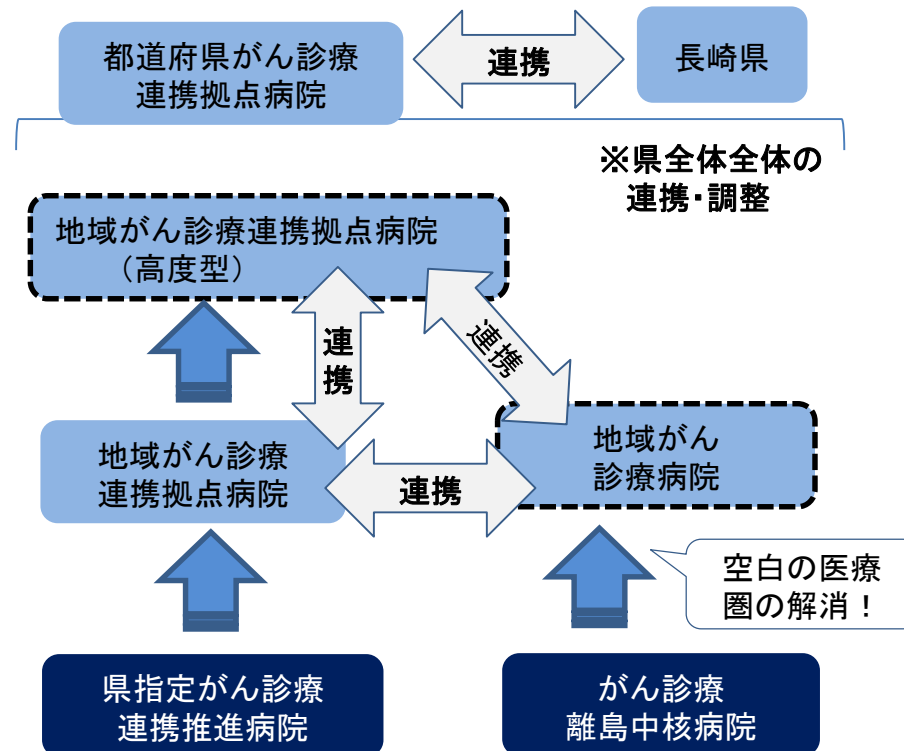
医療圏の半数は、国指定の医療機関がない空白の医療圏
県指定がん診療連携推進病院は、ほぼ地域がん診療連携拠点病院の要件を充足しているが、同一医療圏に地域がん診療連携拠点病院があり、指定は困難な状況。

当該医療圏には、医療提供体制の更なる充実で、高度型の指定要件を満たし、かつ、高度型指定を希望している医療機関あり

■今後の整備方針

施設規模や人員配置等、要件を充足するには数年を要する見込みではあるが、全てのがん診療離島中核病院が「地域がん診療病院」の順次指定を受けられるよう優先する病院の選定を急いでいる。

また、空白の医療圏との連携は、離島ということもあり、1拠点病院の支援では限界もあることから、数年内に地域がん診療連携拠点病院の整備指針を充足する県指定がん診療連携推進病院を国指定の拠点病院に推薦し、複数の医療機関による離島の医療圏の支援体制を構築したい。



熊本県

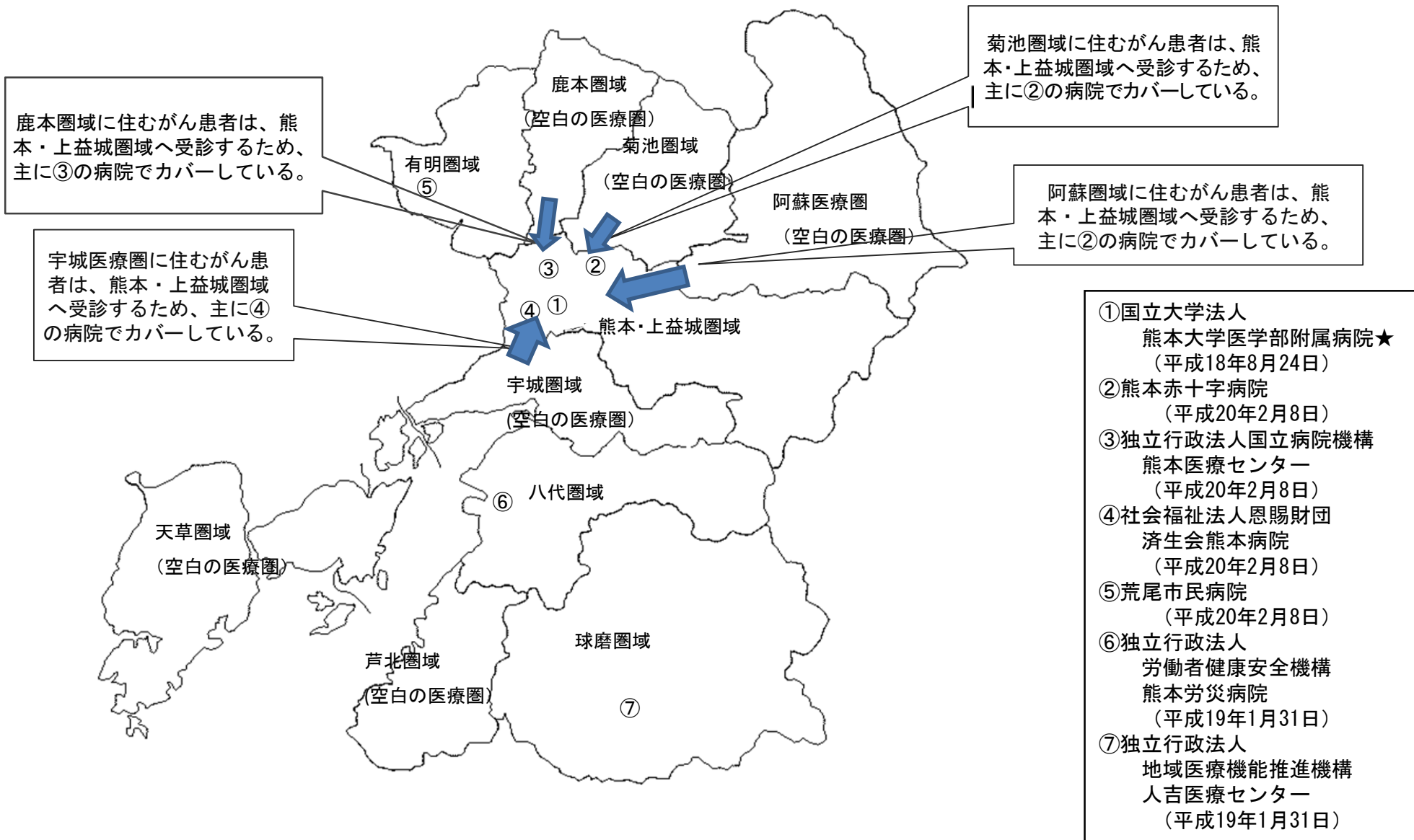
熊本県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

2次医療圏名	面積(km ²)	人口	人口割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院			特定領域がん診療連携拠点病院		地域がん診療病院	
						今回更新病院数	新規申請病院数	計	既指定病院数	計	既指定病院数	計
熊本上益城	1,174.3	822,747	46.6%	700.6	108	4	0	4	0	0	0	0
宇城	406.9	105,006	5.9%	258.1	12	0	0	0	0	0	0	0
有明	421.4	158,346	9.0%	375.8	11	1	0	1	0	0	0	0
鹿本	299.7	51,237	2.9%	171.0	6	0	0	0	0	0	0	0
菊池	466.6	183,447	10.4%	393.2	16	0	0	0	0	0	0	0
阿蘇	1,079.6	61,827	3.5%	57.3	6	0	0	0	0	0	0	0
八代	714.7	137,589	7.8%	192.5	12	1	0	1	0	0	0	0
芦北	431.4	46,124	2.6%	106.9	11	0	0	0	0	0	0	0
球磨	1,536.6	86,261	4.9%	56.1	13	1	0	1	0	0	0	0
天草	878.4	112,934	6.4%	128.6	18	0	0	0	0	0	0	0
計	7,409.6	1,765,518.0	100.0%	238.3	213	7	0	7	0	0	0	0

熊本県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

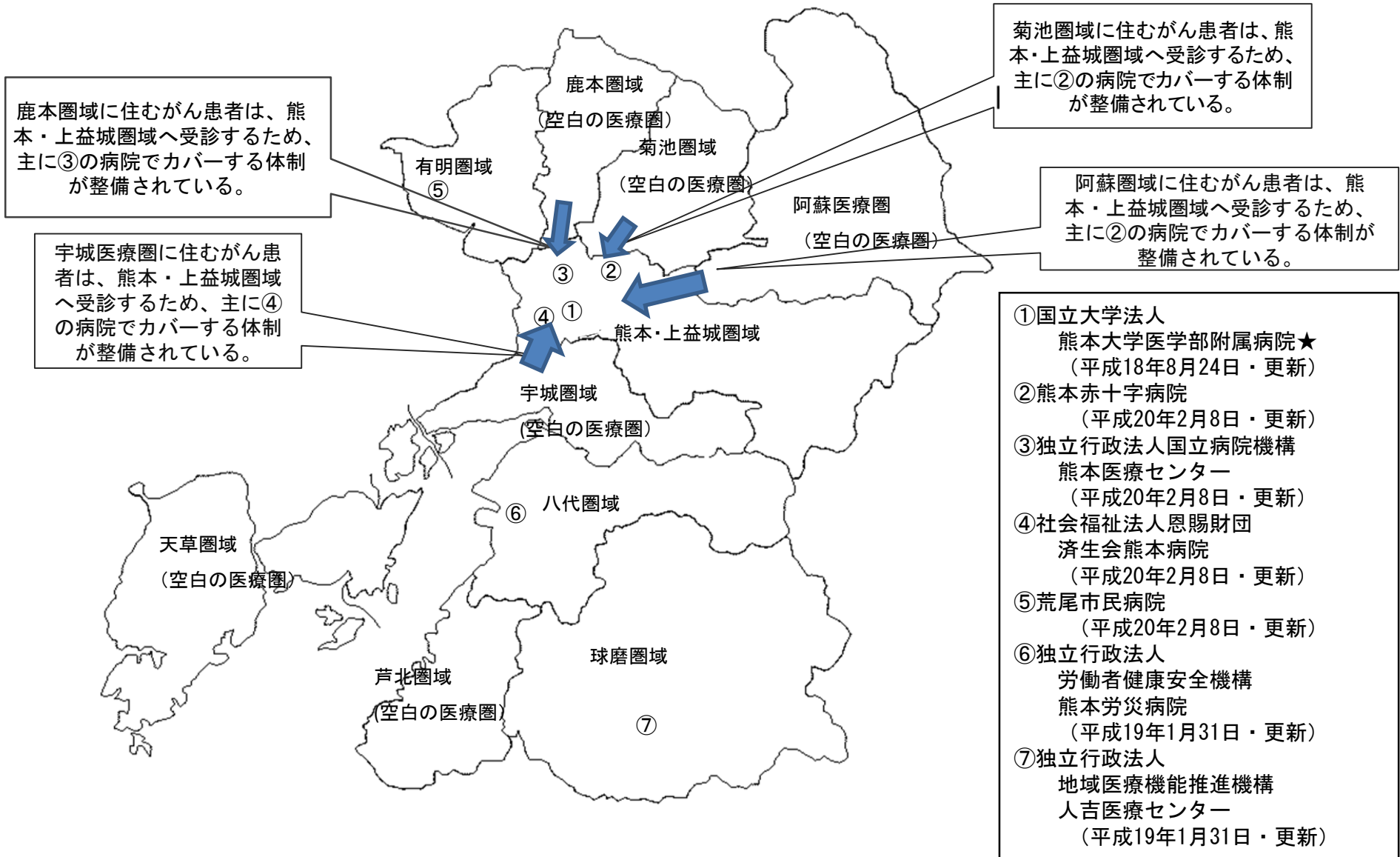
・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★: 都道府県拠点

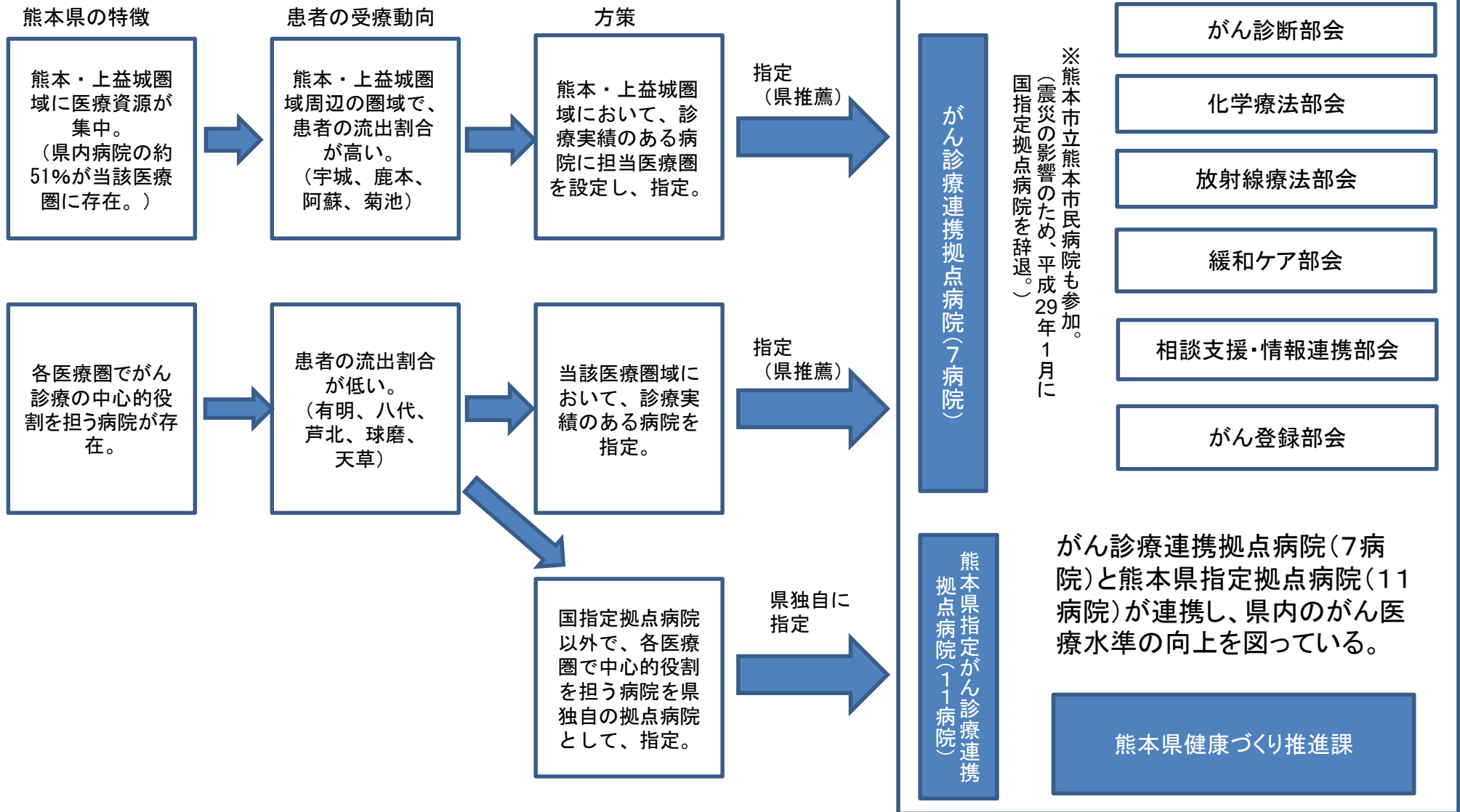
医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録 院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の 手術件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数 (年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数 (年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新 規診療依頼数 (年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏 に居住する がん患者の診療 の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数 (年間)
				年間 新入院がん 患者数	年間 新入院患者 数に占めるがん 患者の割合(%)							
1 熊本・上 益城	★	更新	熊本大学 医学部附 属病院	(4,329) 3,425	(25.3) 18.8	3,121	(3,173) 3,386	(1,955) 1,914	(647) 617	556	13	2,107
2 熊本・上 益城		更新	熊本赤十 字病院	(2,843) 2,796	(15.9) 15.7	1,426	(1,077) 1,099	(1,150) 1,574	(508) 513	148	10	645
3 熊本・上 益城		更新	熊本医療 センター	(3,087) 3,007	(21.4) 20.5	1,358	(867) 946	(1,136) 1,134	(406) 373	79	15	525
4 熊本・上 益城		更新	済生会熊 本病院	(2,427) 2,468	(16.7) 17.0	1,472	(930) 1,200	(1,012) 1,402	(390) 326	244	11	1,306
5 有明		更新	荒尾市民 病院	(794) 556	(20.3) 14.2	447	(235) 189	(366) 332	(151) 143	128	46	337
6 八代		更新	熊本労災 病院	(1,438) 1,534	(16.0) 16.6	673	(406) 401	(642) 455	(144) 112	36	47	2,286
7 球磨		更新	人吉医療 センター	(1,101) 1,098	(17.7) 16.2	561	(313) 354	(343) 665	(91) 117	39	70	1,083

熊本県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★：都道府県拠点



熊本県におけるがん診療体制について



大分県

大分県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
東部医療圏	803.83	207,314	18.0	257.91	34		1		1						
中部医療圏	1192.39	567,064	49.2	475.57	62		3		3						
南部医療圏	903.11	70,107	6.1	77.63	8		0		0						
豊肥医療圏	1080.67	56,854	4.9	52.61	7		0		0						
西部医療圏	1223.91	89,475	7.8	73.11	20		1		1						
北部医療圏	1136.82	161,039	14.0	141.66	24		1		1						
計	6340.73	1,151,853	100	181.65937	155	0	6	0	6	0	0	0	0	0	0

大分県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況



- | | |
|------------------------|--------------|
| ①独立行政法人国立病院機構 別府医療センター | (平成27年3月31日) |
| ②大分大学医学部附属病院★ | (平成28年2月24日) |
| ③大分県立病院 | (平成27年3月31日) |
| ④大分赤十字病院 | (平成28年2月24日) |
| ⑤大分県済生会日田病院 | (平成28年2月24日) |
| ⑥中津市立中津市民病院 | (平成27年3月31日) |

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

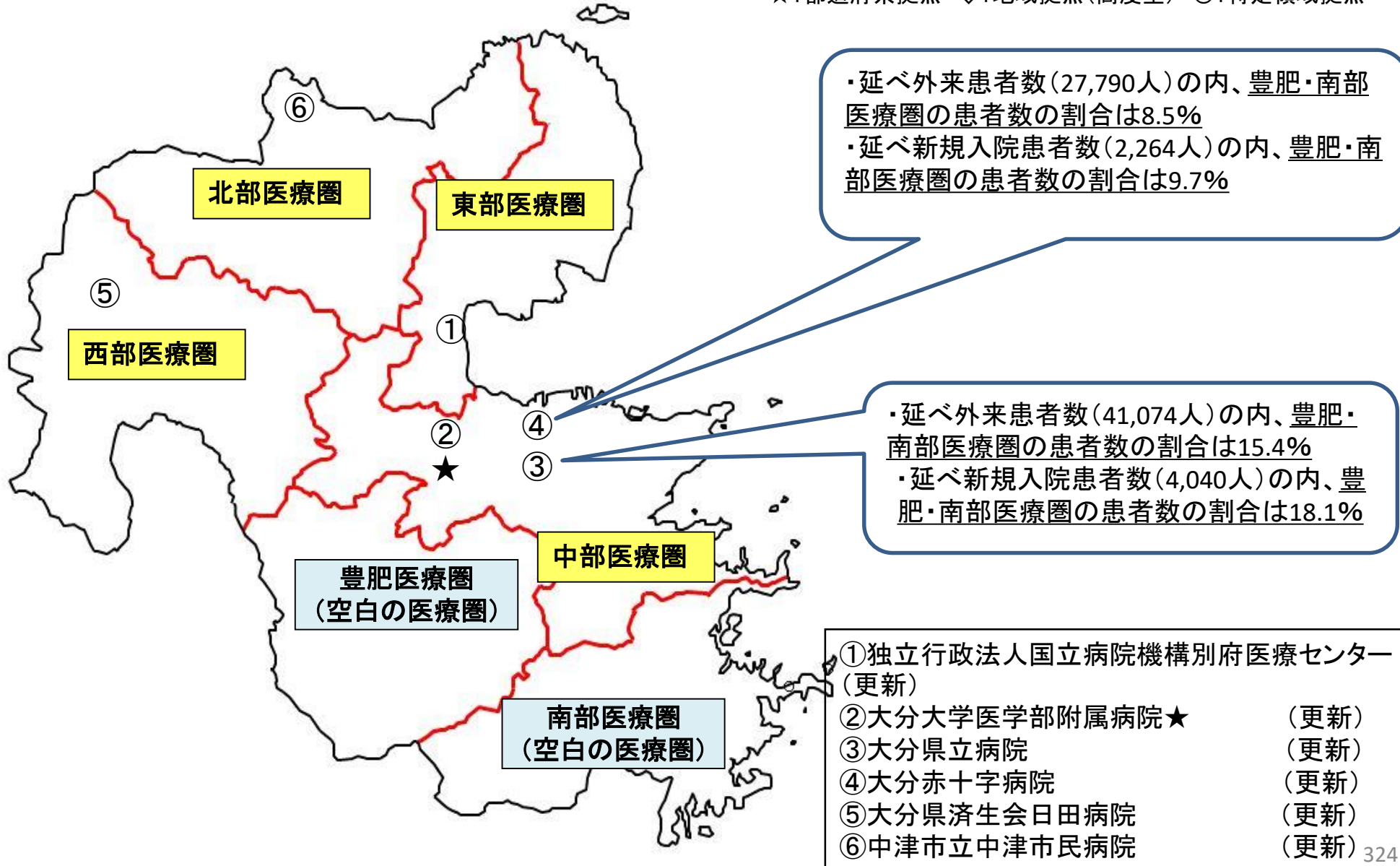
★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと
- ・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) 500件以上	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	のべ患者数(年間) 1000人以上	のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談件数(年間)
1 東部		更新	別府医療センター	(1,639) 2,105	(19.4) 23.3	762	(731) 436	(1,029) 1,026	(185) 181	74	37	3,455
2 中部	★	更新	大分大学附属病院	(3,436) 4,726	(31.0) 41.2	1,750	(1,361) 1,196	(1,720) 1,784	(411) 266	323	21	214
3 中部		更新	大分県立病院	(3,944) 4,040	(31.7) 32.5	1,403	(1,000) 849	(1,429) 2,160	(423) 424	129	28	704
4 中部		更新	赤十字病院	(2,075) 2,264	(25.2) 27.7	961	(592) 649	(1,843) 1,939	(204) 190	178	17	457
5 西部		更新	済生会日田病院	(702) 761	(24.7) 25.2	233	(159) 86	(993) 5	(117) 108	95	56	190
6 北部		更新	中津市民病院	(1,849) 1,850	(25.4) 25.4	576	(365) 398	(1,412) 1,401	(212) 210	35	37	557

大分県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点



今回の指定推薦の考え方(1)

現状

- 本県では、平成20年3月に「大分県がん対策推進計画」を策定し、「がんによる死亡者の減少」と「すべてのがん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上」を全体目標として、がん診療連携拠点病院の整備など、がん対策を推進してきた。
- 今回指定更新の6つのがん診療連携拠点病院については、県内におけるがん対策の拠点として、県全体のがん医療水準の向上、均てん化に大きな役割を果たしてきた。
- 平成30年3月に策定した「大分県がん対策推進計画(第3期)」では、「がん予防」と「がん医療の充実」を新たに目標に加え、さらなるがん対策に取り組むこととしており、その達成に向けて、現在の1県拠点病院・6県域5地域拠点病院体制は必要不可欠のものとなっている。

今回の指定推薦の考え方

○都道府県がん診療連携拠点病院について

大分大学医学部附属病院は、平成20年に「都道府県がん診療連携拠点病院」に指定されて以来、「地域がん診療連携拠点病院」間の連携を図り、「都道府県がん診療連携協議会」の幹事として連携協力体制や医師派遣などの診療派遣、情報の共有化に積極的に努めているほか、「地域がん診療連携拠点病院」に対する積極的な研修の開催等、高度のがん医療の均てん化に大きく寄与しており、その役割を十分に果たしているため推薦するもの。

○地域がん診療連携拠点病院について

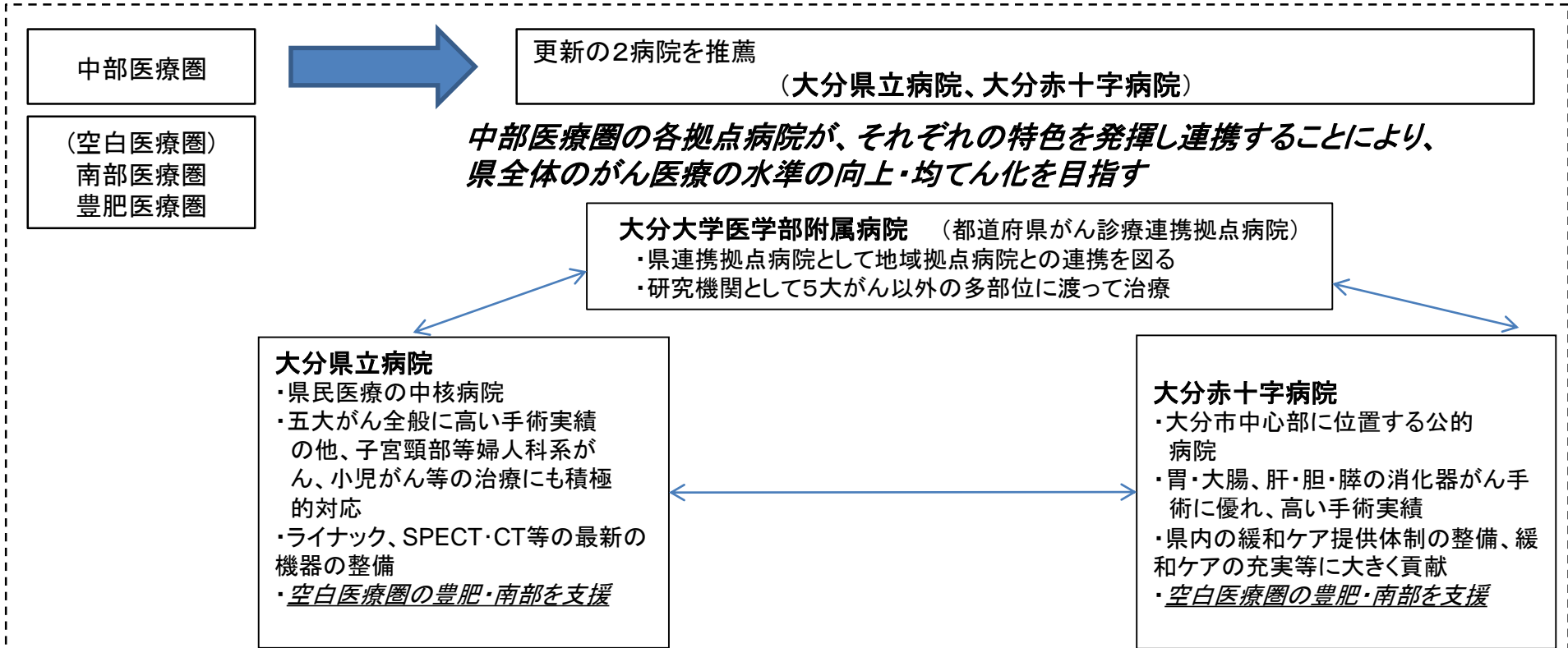
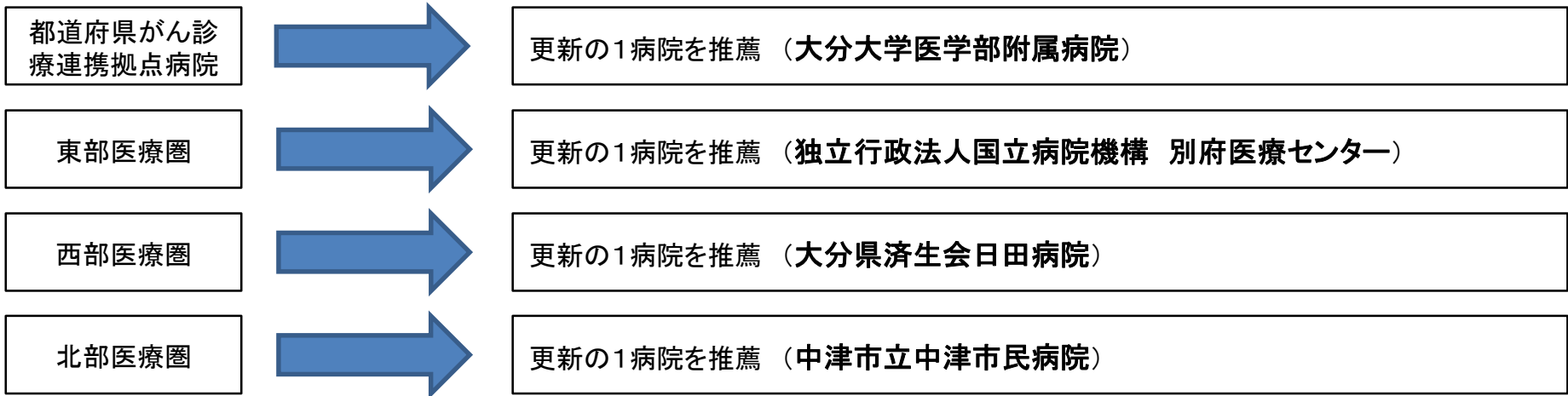
本県の医療圏は「東部」、「中部」、「南部」、「豊肥」、「西部」、「北部」の6医療圏で構成され、「南部」、「豊肥」の2医療圏は拠点病院のない空白医療圏となっている。

本県の病院・診療所の数、医師等の人数等は、概ね全国水準を上回っているものの、東部、中部医療圏に約半数が集中しており、医療資源の集中化が見られる。特に、中部医療圏内の人口は、約56万7千人で本県人口(約115万人)の約半数を占めている。さらに高速道路網等の道路整備により、中部医療圏内の病院での受療の増加が見られるため、中部医療圏の拠点病院の整備はさらに充実・強化が必要であると考えている。

今回も、南部、豊肥の各医療圏とも指定要件を充たす病院がなく、両医療圏とも高速道路等の整備促進により、中部医療圏の医療機関での受療動向が高くなっている。

以上のことから、中部医療圏の「地域がん診療連携拠点病院」については、今回も3つの拠点病院を推薦し、本県のがん医療に対する体制を維持・強化していきたいと考えている。また、「東部」、「西部」、「北部」の医療圏についても、これまでの実績及び他に指定要件を充足する病院が無いことから更新の病院を推薦している。

今回の指定推薦の考え方(2)



宮 崎 県

宮崎県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
県央がん医療圏	2,023	523,445	48.5%	258.7	51		2		2						
(宮崎東諸県)	869	424,864	39.3%	488.6	41		2		2						
(西都児湯)	1,154	98,581	9.1%	85.4	10				0						
県南がん医療圏	831	69,594	6.4%	83.7	12				0						
(日南串間)	831	69,594	6.4%	83.7	12				0						
県北がん医療圏	3,186	227,854	21.1%	71.5	33				0						
(延岡西臼杵)	1,555	140,354	13.0%	90.3	20				0						
(日向入郷)	1,631	87,500	8.1%	53.6	13				0						
県西がん医療圏	1,695	259,327	24.0%	153.0	44		1		1						
(都城北諸県)	763	187,369	17.3%	245.4	28		1		1						
(西諸)	931	71,958	6.7%	77.3	16				0						
計	7,735	1,080,220	100%	139.6	140	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0

宮崎県 平成30年 9 月 1 日現在の医療圏の状況と指定状況

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ①宮崎県立宮崎病院（平成27年4月1日）
- ②宮崎大学医学部附属病院★（平成27年4月1日）
- ③国立病院機構都城医療センター（平成27年4月1日）

○県央がん医療圏拠点病院の役割分担

病院名	機能分担
①宮崎県立宮崎病院	県央がん医療圏の医療連携の中心
②宮崎大学医学部附属病院★	県内がん医療の中核、県内医療機関の連携の中心



県北がん医療圏、県南がん医療圏に住むがん患者は、各医療圏で県が指定する「がん診療指定病院」及び県央がん医療圏の①、②の病院で、カバーしている。

がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録数 (年間) 500件以上	手術件数 悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上	がんに係る薬物療法 のべ患者数(年間) 1000人以上	放射線治療 のべ患者数(年間) 200人以上	緩和ケア 緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上	診療の割合 当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度	相談支援センター 相談件数(年間)
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)							
1	県央		更新	宮崎県立宮崎病院	(2,001) 2,136	(18.5) 20.1	1,128	(952) 960	(1,043) 1,124	(332) 262	165	22	241
2	県央	★	更新	宮崎大学医学部附属病院	(3,410) 3,381	(30.5) 28.2	1,178	(2,266) 1,504	(1,022) 1,367	(371) 509	182	23	2,668
3	県西		更新	都城医療センター	(1,981) 1,303	(31.2) 19.6	1,035	(428) 455	(1,592) 4,848	(193) 196	103	21	3,716

地域がん診療病院の診療実績等

資料 3 - 2

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

該当ありません

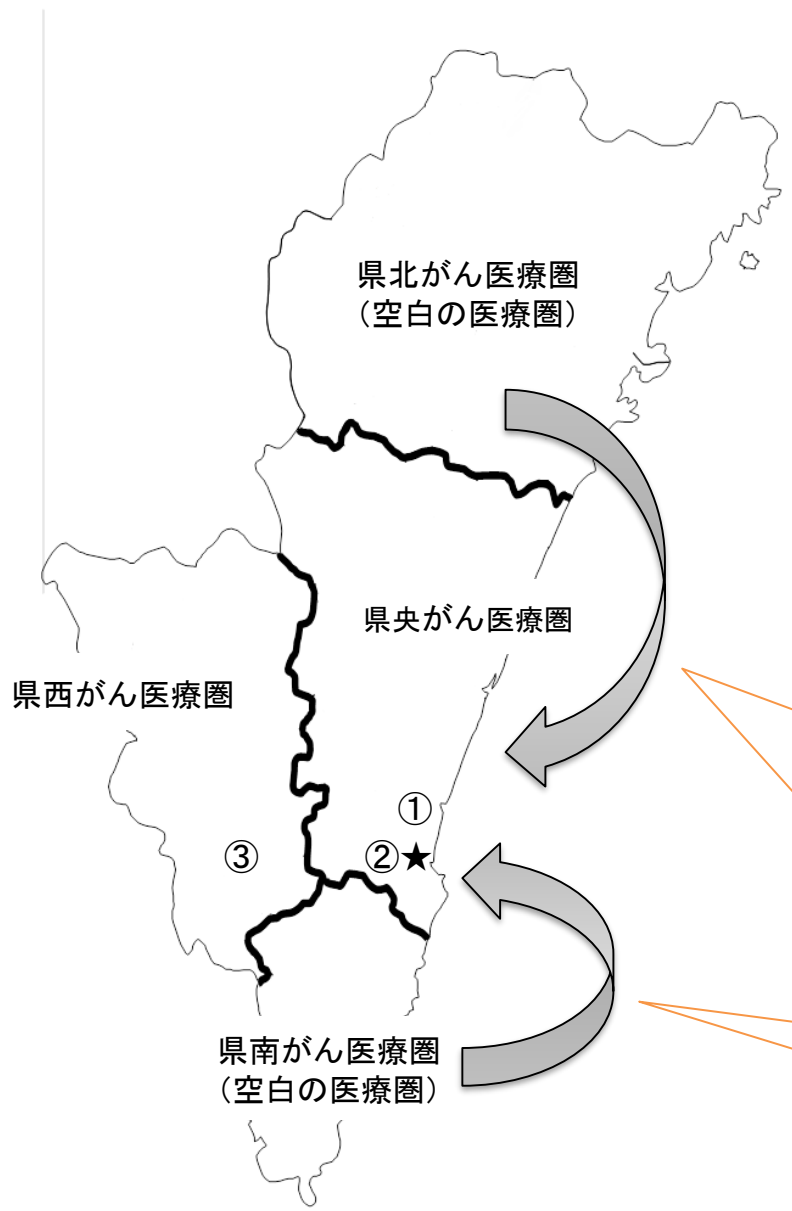
宮崎県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

- ①宮崎県立宮崎病院 (更新)
- ②宮崎大学医学部附属病院★ (更新)
- ③国立病院機構都城医療センター (更新)

○県央がん医療圏拠点病院の役割分担

病院名	機能分担
①宮崎県立宮崎病院	県央がん医療圏の医療連携の中心
②宮崎大学医学部附属病院★	県内がん医療の中核、県内医療機関の連携の中心



県北がん医療圏、県南がん医療圏に住むがん患者は、引き続き、各医療圏で県が指定する「がん診療指定病院」及び県央がん医療圏の①、②の病院でカバーする。

今回の指定推薦等に係る本県の考え方

宮崎県の地域特性

- 地理的制約 . . . 県土が南北に長く、公共交通網も未発達
- 脆弱な医療体制 . . . 7つの二次医療圏を4つのがん医療圏として再編しても、空白の医療圏が2つ残る
- 医療従事者の不足 . . . がん専門の医療従事者の不足

指定推薦等に係る考え方

- 地域特性を踏まえ、現在の拠点病院を中心とした連携体制を維持し、県内がん医療の均てん化を図る。

宮崎大学医学部附属病院（★都道府県がん診療連携拠点病院）

- ・ 県内の医療連携の中心
- ・ 県内唯一の特定機能病院

宮崎県立宮崎病院

（地域がん診療連携拠点病院：県央がん医療圏）

- ・ 県央がん医療圏の医療連携の中心
- ・ 空白のがん医療圏の患者の受入も多い

国立病院機構都城医療センター

（地域がん診療連携拠点病院：県西がん医療圏）

- ・ 県西がん医療圏の医療連携の中心
- ・ 政策医療の中でもがん医療に注力

空白のがん医療圏（県北がん医療圏・県南がん医療圏）

がん診療指定病院（宮崎県指定）である県立延岡病院、県立日南病院で標準的ながん医療を実施

鹿児島県

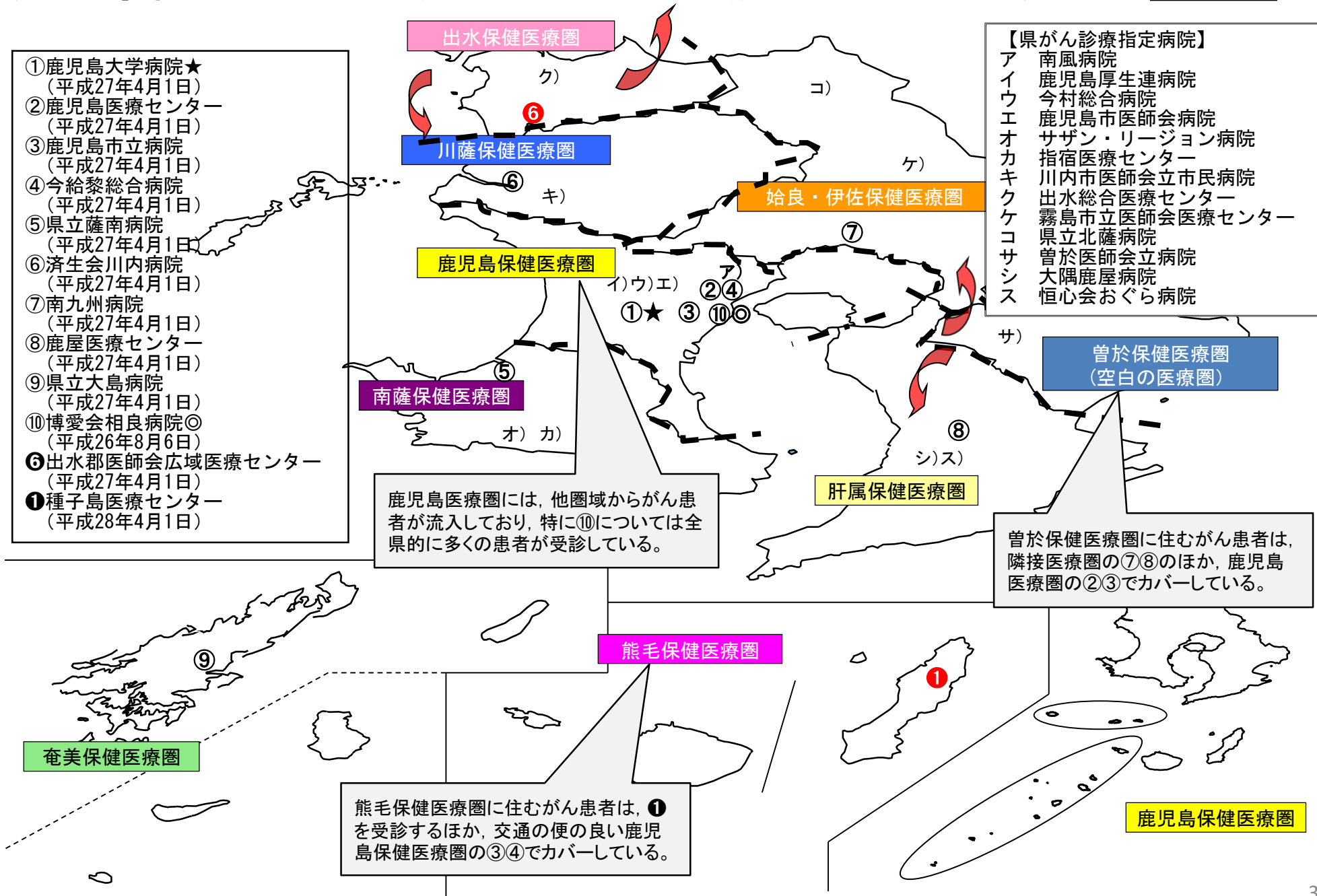
鹿児島県がんの医療圏の概要

平成30年9月1日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合 (%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
鹿児島医療圏	1044.9	674,366	41.8	645.4	105		4		4		1				
南薩医療圏	865.2	129,287	8.0	149.4	31		1		1						
川薩医療圏	986.9	114,991	7.1	116.5	16		1		1						
出水医療圏	680.6	82,390	5.1	121.1	8				0					1	
始良・伊佐 医療圏	1371.7	236,171	14.6	172.2	32		1		1						
曾於医療圏	781.2	77,277	4.8	98.9	9				0						
肝属医療圏	1323	152,170	9.4	115.0	21		1		1						
熊毛医療圏	995	40,909	2.5	41.1	4				0					1	
奄美医療圏	1240.3	105,878	6.6	85.4	15		1		1						
計	9288.8	1,613,439	100.0	173.7	241	0	9	0	9	0	1	0	0	2	0

鹿児島県 平成30年9月1日現在の医療圏の状況と指定状況

資料2



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
 ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

No.	医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
					年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)	院内がん登録数(年間) <u>500件以上</u>	悪性腫瘍の手術件数(年間) <u>400件以上</u>	のべ患者数(年間) <u>1000人以上</u>	のべ患者数(年間) <u>200人以上</u>	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) <u>50件以上</u>	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) <u>2割程度</u>	相談件数(年間)
1	鹿児島	★	更新	鹿児島大学病院	(4855) 5331	(35.7) 36.4	1590	(1321) 1413	(8959) 2700	(484) 526	354	32	5711
2	鹿児島		更新	鹿児島医療センター	(2223) 2236	(26.9) 27.1	1137	(695) 732	(2037) 6197	(201) 219	69	10	8571
3	鹿児島		更新	鹿児島市立病院	(2490) 2816	(18.4) 19.6	1203	(610) 1882	(6027) 7042	(368) 328	111	16	1153
4	鹿児島		更新	今給黎総合病院	(1518) 1470	(18.5) 16.9	557	(468) 491	(1705) 1722	(209) 171	268	8	606
5	南薩		更新	県立薩南病院	(873) 752	(37.7) 33.5	165	(179) 98	(876) 1137	(46) 31	29	31	1481
6	北薩		更新	済生会川内病院	(1219) 1390	(24.1) 27.4	506	(328) 271	(1370) 643	(191) 195	53	51	2071
7	始良伊佐		更新	南九州病院	(370) 286	(31.8) 10.5	382	(222) 160	(214) 227	(108) 153	74	12	1970
8	肝属		更新	鹿屋医療センター	(868) 760	(24.8) 21.1	253	(143) 90	(1870) 289	(175) 147	126	25	606
9	奄美		更新	県立大島病院	(852) 1134	(13.4) 17.1	272	(161) 144	(214) 433	(100) 65	118	94	388
10	鹿児島	◎	更新	相良病院	(1872) 2024	(90.2) 98.2	696	(728) 767	(1331) 1291	(469) 440	65	8	1263

地域がん診療病院の診療実績等

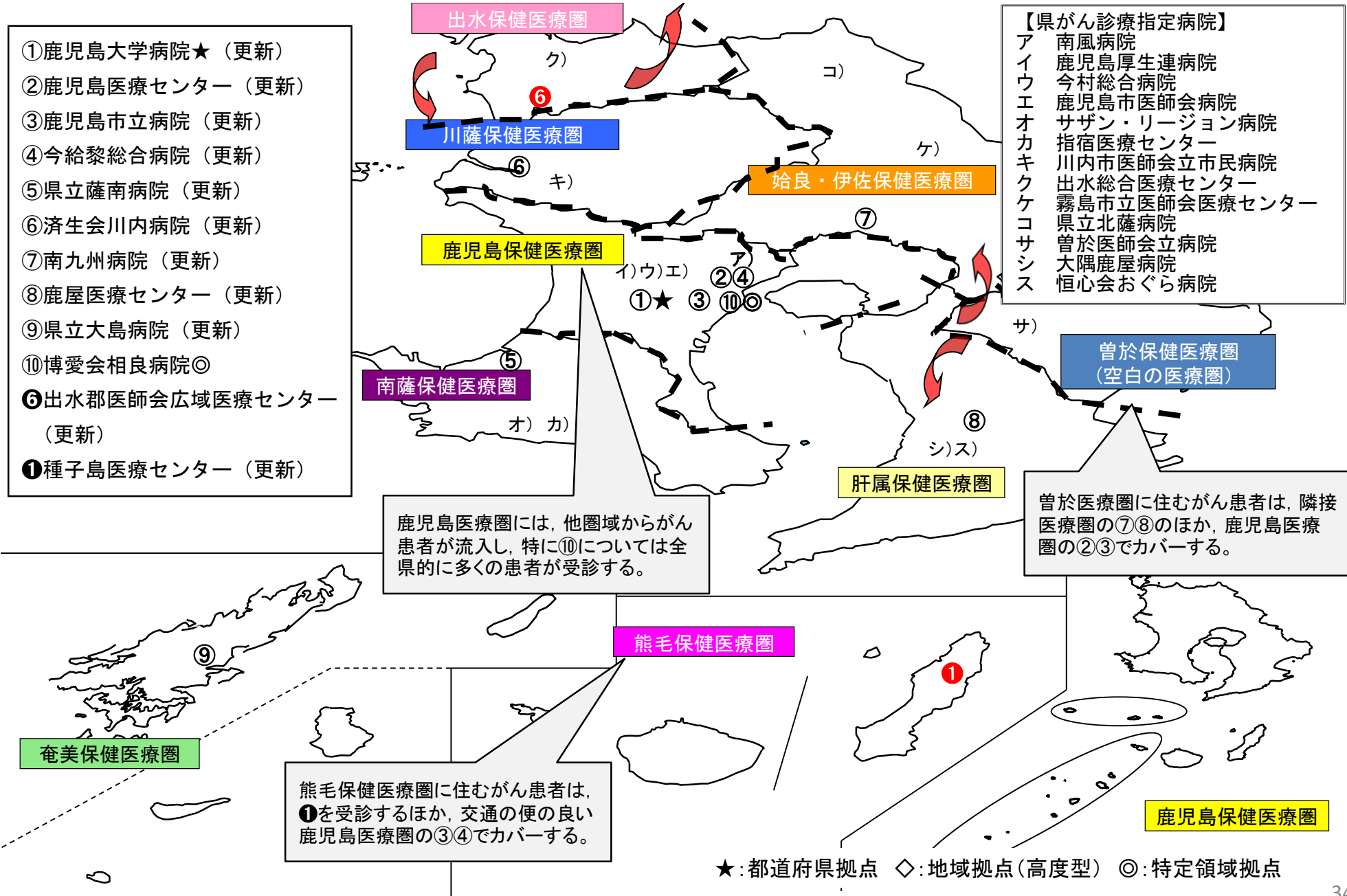
資料 3 - 2

- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%)						
⑥	出水	更新	出水郡医師会広域医療センター	(517) 549	(13.1) 13.9	194	(154) 144	(658) 177	(実施なし) 実施なし	106	1053
①	熊毛	更新	種子島医療センター	(365) 404	(11.4) 12.5	154	(28) 55	(274) 48	(実施なし) 実施なし	56	93

鹿児島県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

資料 4



鹿児島県におけるがん診療連携拠点病院等の指定推薦の考え方

【現状】

- 9保健医療圏中8保健医療圏に12医療機関(都道府県:1, 地域がん連携:8, 特定:1, 地域がん:2)が指定されている。
- 本県独自の「県がん診療指定病院」を13医療機関指定している。

【指定推薦の考え方】

① 県がん診療連携拠点病院及び地域がん診療連携拠点病院の指定更新について

- 当県には、県がん診療連携拠点病院として鹿児島大学病院が指定を受け、地域がん診療連携拠点病院として、鹿児島保健医療圏に国立病院機構鹿児島医療センター、鹿児島市立病院、今給黎総合病院、南薩保健医療圏に県立薩南病院、川薩保健医療圏に済生会川内病院、始良・伊佐保健医療圏に国立病院機構南九州病院、肝属保健医療圏に鹿屋医療センター、奄美保健医療圏に県立大島病院が指定を受けている。

鹿児島大学病院、鹿児島市立病院及び済生会川内病院以外の6つの医療機関において指定要件を充足していない項目があるが、未充足解消のための対策等が明確になっており、引き続き患者の住んでいる二次保健医療圏における質の高いがん医療提供体制を確保するため、9医療機関全ての指定更新を推薦する。

鹿児島県におけるがん診療連携拠点病院等の指定推薦の考え方

② 特定領域がん診療連携拠点病院の指定更新について

○ 博愛会相良病院は、平成26年8月6日に特定領域がん診療連携拠点病院として指定され、乳がんの専門的ながん医療・相談支援体制を県民に広く提供している。引き続き、同病院が特定領域がん診療連携拠点病院として指定されることにより、県内の乳がんに関するより充実した集学的治療等の県民への提供が図られるとともに、乳がんに関する高い診療技術や知識の共有化についても、他の病院との連携の中で図られることが期待でき、県内のがん診療の質の向上が図られることから、相良病院を特定領域がん診療連携拠点病院として指定更新を推薦する。

③ 地域がん診療病院の指定更新について

○ 出水郡医師会広域医療センターは、出水保健医療圏の中核的な病院であり、平成27年4月1日より、隣接の川薩保健医療圏にある済生会川内病院とのグループ指定により、地域がん診療病院に指定されている。引き続き、同センターを地域がん診療病院に指定することにより、地域のがん患者に対して充実した医療を提供でき、出水保健医療圏のがん治療の均てん化に資するため、指定更新を推薦する。

○ 種子島医療センターは、熊毛保健医療圏の中核的な病院であり、平成28年4月1日より、鹿児島医療圏にある鹿児島大学病院とのグループ指定により、地域がん診療病院に指定されている。引き続き、同センターを地域がん診療病院に指定することにより、地域のがん患者に対して充実した医療を提供でき、熊毛保健医療圏のがん治療の均てん化に資するため、指定更新を推薦する。

沖 縄 県

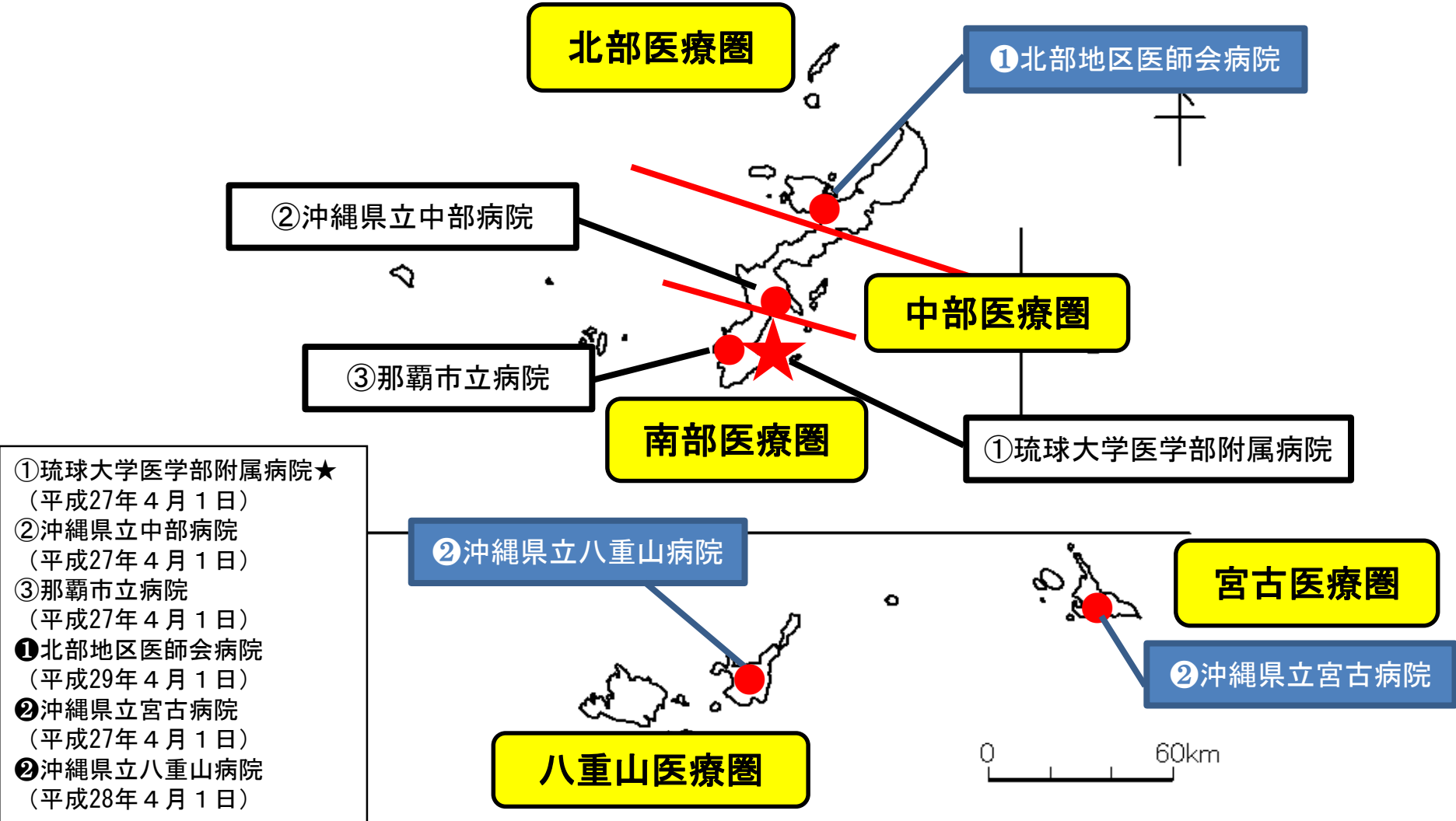
沖縄県 がんの医療圏の概要

平成30年 9 月 1 日現在

医療圏名	面積 (km ²)	人口	人口 割合(%)	人口密度	病院数	がん診療連携拠点病院				特定領域 がん診療連携拠点病院			地域がん診療病院		
						現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	計	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数	現況報告 病院数	今回更新 病院数	新規申請 病院数
北部医療圏	705	100,998	7	143	10				0					1	
中部医療圏	368	505,963	35	1,375	29		1		1						
南部医療圏	389	734,592	51	1,890	48		2		2						
宮古医療圏	226	52,456	4	232	4				0					1	
八重山医療圏	593	54,092	4	91	3				0					1	
計	2,281	1,448,101	100	3,731	94	0	3	0	3	0	0	0	0	3	0

沖縄県 平成30年 9月 1日現在の医療圏の状況と指定状況

★: 都道府県拠点



がん診療連携拠点病院及び特定領域がん診療連携拠点病院

資料3-1-①

・()内は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値

★:都道府県拠点 ◇:地域拠点(高度型) ◎:特定領域拠点

・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

・1枚につき10病院を超える場合には、複数枚にわたって表を作成してください。(右上の資料番号は【資料3-1-①-1】、【資料3-1-①-2】...としてください)

医療圏名	類型	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療	緩和ケア	診療の割合	相談支援センター
				年間新入院がん患者数 ※様4全335 ※H29.1.1 ~12.31	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%) ※様4全336	院内がん登録数(年間) 500件以上 ※様4機285 ※H29.1.1 ~12.31	悪性腫瘍の手術件数(年間) 400件以上 ※様4機287 ※H29.1.1 ~12.31	のべ患者数(年間) 1000人以上 ※様4機289 ※H29.1.1 ~12.31	のべ患者数(年間) 200人以上 ※様4機291 ※H29.1.1 ~12.31	緩和ケアチームに対する新規診療依頼数(年間) 50件以上 ※様4機293 ※H29.1.1 ~12.31	当該2次医療圏に居住するがん患者の診療の割合(%) 2割程度 ※様4機295	相談件数(年間) ※別紙14 ※H29.1.1 ~12.31
1 南部医療圏	★	更新	琉球大学医学部附属病院	(4,827) 4,736	(37.2) 35.7	1,200	(746) 622	(1,717) 1,766	(675) 583	147	32	531
2 中部医療圏		更新	沖縄県立中部病院	(1,571) 1,823	(11.2) 12.6	858	(471) 554	(826) 1,342	(463) 283	122	26	946
3 南部医療圏		更新	那覇市立病院	(1,561) 1,164	(13.1) 9.3	983	(583) 826	(2,048) 2,199	(262) 286	139	10	1,215

地域がん診療病院の診療実績等

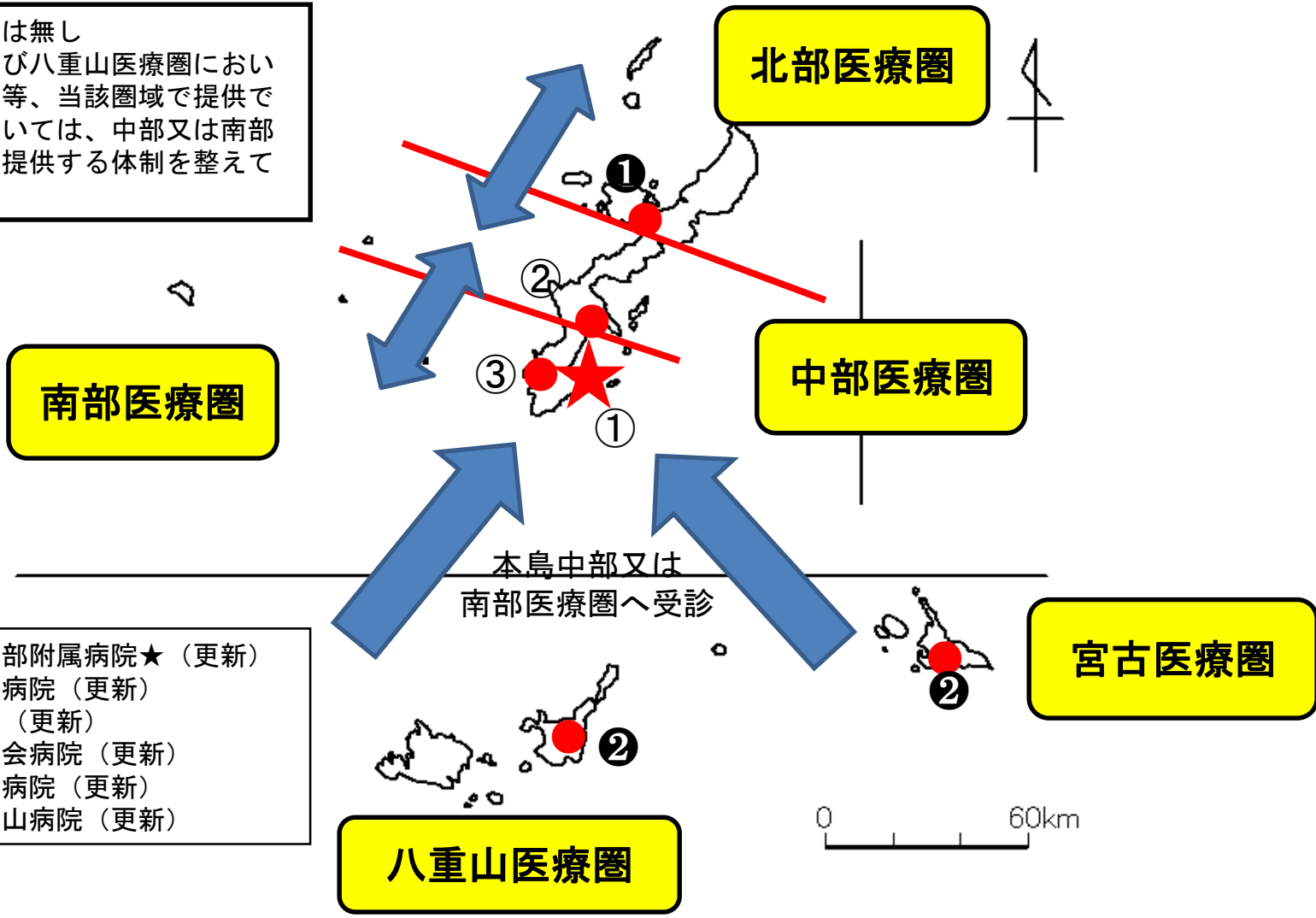
- ・上段は平成29年11月提出の数値、下段は平成30年12月提出の数値
- ・申請区分は資料4の作成要領を参照のこと

	医療圏名	申請区分	病院名	年間入院患者数の状況		院内がん登録	手術件数	がんに係る薬物療法	放射線治療 (実施していれば)	緩和ケア	がん相談支援センター
				年間新入院がん患者数 ※様4全335 ※H29.1.1～12.31	年間新入院患者数に占めるがん患者の割合(%) ※様4全336						
②	宮古医療圏	更新	沖縄県立宮古病院	(175) 172	(3.2) 3.0	233	(112) 102	(927) 741	実施なし	30	27
②	八重山医療圏	更新	沖縄県立八重山病院	(469) 408	(8.7) 7.6	160	(80) 81	(869) 1,060	実施なし	17	899
①	北部医療圏	更新	北部地区医師会病院	(429) 547	(10.7) 13.3	256	(147) 160	(1,024) 1,195	実施なし	72	160

沖縄県 平成31年度の指定推薦等状況と想定される患者受療動向

★: 都道府県拠点

・空白の医療圏は無し
 ・北部、宮古及び八重山医療圏において、放射線治療等、当該圏域で提供できない医療については、中部又は南部医療圏において提供する体制を整えている。



本島中部又は南部医療圏へ受診

- ① 琉球大学医学部附属病院★ (更新)
- ② 沖縄県立中部病院 (更新)
- ③ 那覇市立病院 (更新)
- ① 北部地区医師会病院 (更新)
- ② 沖縄県立宮古病院 (更新)
- ② 沖縄県立八重山病院 (更新)

今回の指定更新に係る沖縄県の考え方

第3次沖縄県がん対策推進計画（2018-2023）

- 分野目標：適切な医療連携に基づく医療を受けられている
- 施策：がん診療提供体制の充実・強化を図る
 県は、整備指針に基づき、拠点病院又は地域がん診療病院について、地域の医療状況等を勘案し、適正な整備を図る。

都道府県がん診療連携拠点病院	
①	琉球大学医学部附属病院
地域がん診療連携拠点病院	
②	中部医療圏 沖縄県立中部病院
③	南部医療圏 那覇市立病院
地域がん診療病院	
①	北部医療圏 北部地区医師会病院 ※①とのグループ指定
②	宮古医療圏 沖縄県立宮古病院 ※②とのグループ指定
②	八重山医療圏 沖縄県立八重山病院 ※②とのグループ指定

都道府県がん診療連携拠点病院及び、5つの医療圏全てに地域がん診療連携拠点病院又は地域がん診療病院を整備し、がん診療提供体制を維持することで、県民が適切な医療連携に基づく医療を受けられる体制を整える

今回の指定更新に係る沖縄県の考え方

がん診療連携体制

